

# 令和2事業年度 業務実績報告書

第18期（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

令和3年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会



# 目 次

## 令和2事業年度業務実績報告書

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	15
(1) 伝統芸能の公開	28
(2) 現代舞台芸術の公演	86
(3) 青少年等を対象とした公演	99
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等	108
(5) 快適な観劇環境の形成	120
(6) 広報・営業活動の充実	131
(7) 劇場施設の使用効率の向上等	147
(8) 日本博の運営・実施	150
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	155
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	160
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	173
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	180
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	188
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	204
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	213
III 予算、収支計画及び資金計画	222
IV その他業務運営に関する重要事項	231

## 令和2事業年度評価報告書

はじめに

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
<1> 伝統芸能の公開	2
<2> 現代舞台芸術の公演	5
<3> 日本博の運営・実施	8
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	8
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	9
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	10
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	11
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	12
III 予算、収支計画及び資金計画	12
IV その他業務運営に関する重要事項	13
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会委員名簿	15
独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則	16
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項	17





# 令和2事業年度業務実績報告書

第18期（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

令和3年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会



# I 国民に対して提供するサービスその他の業務の 質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

## 1 文化芸術活動に対する援助

1 文化芸術活動に対する援助	p.1
(1) 助成金の交付	p.5
(2) 助成に関する情報等の収集及び提供	p.13
(3) 芸術文化振興基金の管理運用	p.13
(4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)	p.14



---

# 1 文化芸術活動に対する援助

## 《中期計画の概要》

---

### 1 文化芸術活動に対する援助

#### (1) 助成金の交付

##### ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

##### イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

##### ウ 資金運用収入予測を踏まえ、芸術文化振興基金及び同基金を原資とした助成事業の将来構想の検討

##### エ アーツカウンシルとしての機能強化及び地域版アーツカウンシル・文化庁等との連携推進

##### オ 助成事業によって得られた成果等の活用に関する検討

#### (2) 助成に関する情報等の収集及び提供

##### 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

#### (3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用

#### (4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)

##### 新型コロナウイルス感染症の拡大等により影響を受けた文化芸術団体等に対する支援

---

## 《年度計画の概要》

---

### 1 文化芸術活動に対する援助

#### (1) 助成金の交付

##### ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

##### イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査基準の策定及び事前公表
- ② 専門委員・専門調査員・PD・PO による助成の成果等に対する調査・評価・次年度のための審査への活用、舞台芸術創造活動活性化事業の公演等調査及び評価の実施方法について一部見直しの実施
- ③ 職員・PD・PO による助成対象活動の実施状況等の調査及び意見交換の実施  
会計調査:90 件以上(団体数) 公演等調査:540 件以上(助成対象件数)
- ④ PD・PO の体制強化及び調査研究の実施
- ⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力
- ⑥ 手続の合理化のため、応募書類の電子データ受付を先行導入、システム更改に向けた設計・構築作業

##### ウ 基金及び基金助成事業の将来の在り方について令和 2 年度中に方針を固め、令和 4 年度分から新制度

- による芸術文化振興基金助成対象活動を募集できるよう準備
- エ 文化庁連携による PD・PO を活用した審査・評価の仕組みの検討及び地域版アーツカウンシル等との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」の活用
- オ 助成事業成果等の振興会の他事業への活用
- (2) 助成に関する情報等の収集及び提供
- ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供
- イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・配布・ホームページ掲載
- ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター配布等
- エ 応募相談会の開催
- 応募相談会実施件数:300 件以上(団体数)
- (3) 芸術文化振興基金の管理運用
- (4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により活動自粛を余儀なくされた文化芸術団体等に対し、感染対策を行いつつ、直面する課題を克服し、活動の再開・継続に向けた積極的取組等に必要な経費を支援

《中期目標の指標・関連指標》

1-1 効果的な助成が行われたか。 (評議員会の評価を踏まえ判断)	
1-2 助成金の交付状況	P. 5 に掲載
1-3 公演等調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	292 件 (H25-29 実績平均: 488.4 件)
1-4 会計調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	10 件 (H25-29 実績平均: 96.4 件)
1-5 プログラムディレクター・プログラムオフィサーと芸術団体等との意見交換会及び応募相談会の実施件数 (前中期目標期間実績以上)	意見交換会: 148 件(H28-29 実績平均: 136.5 件) 応募相談会: 228 件(H28-29 実績平均: 270.0 件)
1-6 文化芸術活動に対する援助について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	
1-A 芸術文化振興基金の運用状況や資金の受入状況	P. 13 に掲載

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術創造活動活性化事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で事業運営が困難になった助成団体のうち、希望する全ての団体を対象として、早期の概算払いを実施した。また、国際芸術交流支援事業については、文化庁と協議し、概算払いを実施した。</li> <li>・劇場・音楽堂等機能強化推進事業においては、複数年の支援を行う総合支援事業で、最終年度評価を初めて実施し、対面及びオンラインにより、PD・POから対象団体に対して、評価の伝達、意見交換を行った。また、令和3年度の募集では総合支援事業の新規募集を行い、書面審査に加えて、申請団体とオンラインによる面接審査を実施し、合議審査において採択団体を選定した。</li> <li>・全ての助成事業において、助成対象活動を中止した団体に対しては、中止までの活動実施に要した助成対象経費のほか、中止により発生した助成対象経費に係るキャンセル料等も対象とした。また、活動を実施するにあたり必要となる新型コロナウイルス感染症対策に係る経費及びインターネット配信等を行う場合の経費を交付決定している助成金の額の範囲内で、助成対象経費として計上することを可能とした。なお、令和3年度の募集にあたっては、感染症対策経費や配信経費を助成対象経費として要望できることとした。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度の助成対象活動を令和3年度に延期して実施する活動については繰越しを行うこととした。特に、文化庁補助事業については、文化庁を通じて財務省協議を申請し、繰越しが承認された。</li> <li>・舞台芸術創造活動活性化事業並びに劇場・音楽堂等機能強化推進事業において、助成対象活動や団体の運営に対する助言や、より具体的な状況把握を目的とした対面による意見交換会を例年実施している。当年度は、感染症対策を十全に取りながら対面による意見交換会を実施したが、首都圏以外の団体を中心にオンライン会議も活用して、評価対象の全ての団体と意見交換会を実施した。</li> <li>・舞台芸術創造活動活性化事業については、令和2年度助成分から助成制度の大幅見直し(複数年支援、ステップアップ枠の創設)を行ったため、事後評価の根拠となる公演等調査の調査項目の見直しを行った。</li> <li>・令和元年度中に成果を取りまとめた「我が国のマンガ・アニメーション分野における自主制作活動等に関する実態調査」や「メディア芸術分野実態調査」について、内容を精査した上、報告書を振興会ホームページで公表した。令和元年度から実施していた「オーストラリアにおける文化芸術活動に対する助成システムに関する実態調査」について、調査結果を報告書にまとめ、振興会ホームページで公表した。また、海外での新型コロナウイルス感染症の対応状況として、イングランド・スコットランド、オーストラリア、カナダにおいて政府や助成機関が実施した政策や活動等の情報を収集するとともに、被助成団体でもある芸術団体の状況等も調査し、報告書にまとめ、振興会ホームページで公表した。</li> <li>・助成金交付事務手続の合理化を図るため、応募書類の電子データ受付を先行して導入し、芸術文化振興基金をはじめ郵送により応募を受け付けていた助成事業については、令和3年度助成対象活動の申込受付より、インターネットを通じた電子申請方式に変更した。また、助成システム全体の更改に向けた、設計・構築作業を行った。</li> <li>・金利低迷により、芸術文化振興基金の運用益収入の見込みが減少傾向にあることを踏まえた上で、効果的・効率的な助成制度とするため、助成金の定額化、助成対象経費の選択制について、芸術文化振興基金運営委員会において検討を行い、令和4年度募集から新制度による助成を行うことが決定された。</li> <li>・全国に所在するアーツカウンシル機能(専門家による助言、審査、評価、調査研究等に関する機能)を有する組織と振興会が相互の連携強化を図ることを目的に設置した「アーツカウンシル・ネットワーク」について、令和2年度の活</li> </ul>

	<p>動をどのように進めるか等の幹事団体との打合せを、オンラインにより実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域におけるアーツカウンシル機能を有する組織との連携を推進し、機関相互の情報交換やノウハウ等の共有を図るため、インターネット上に情報プラットフォームを立ち上げ、運用を開始したほか、基金部を事務局、アーツカウンシル新潟等3機関を幹事として、令和2年度は、オンラインにより全体会議を2回、分科会を3回実施した。新型コロナウイルス感染症による影響や助成団体への対応状況のほか、「文化行政と地域アーツカウンシルとの関係」、「持続可能な地域アーツカウンシルのあり方」、「文化以外の行政分野との連携のあり方」をテーマに意見交換を行った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面による応募相談を避け、オンライン会議やメールフォーム等を活用して助成金応募予定者からの相談を広く受け付けた。</li> <li>・6月国会で第2次補正予算が承認され、補正予算で措置された活動継続・技能向上等支援事業費補助金に関して、文化庁に交付申請を行い、振興会が補助事業者として交付決定されたことを受けて、基金部に活動継続・技能向上等支援事業運営事務局を設置し、「文化芸術活動の継続支援事業」として4回の募集を行い、79,711件の交付決定を行った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術団体等を支援することを目的に、令和2年5月、文化芸術復興創造基金を創設し、寄附金の募集を開始した。令和3年3月31日現在、277件7,875,830円。</li> </ul>
<p><b>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</b></p>	<p>会計調査の実施状況：10件/90件以上（11.1%）          公演等調査の実施状況：292件/540件以上（54.1%）          応募相談会実施件数：228件/団体数300件以上（76.0%）</p>
<p><b>主要な業務実績</b></p>	<p><b>(1) 助成金の交付</b>          基金による助成金：交付件数443件、助成金交付額705,957千円          補助金による助成金：交付件数441件、助成金交付額5,226,614千円</p> <p><b>(2) 助成に関する情報等の収集及び提供</b>          令和2年度アクセス件数：359,656件（うち芸術文化振興基金HP341,460件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業HP：18,196件）</p> <p><b>(3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用</b>          基金運用益：1,122,928千円（利回り1.61%）          芸術文化振興基金への寄附：8件、600,724,000円          （元年度実績7件、600,540,000円、184,000円の増）</p> <p><b>(4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)</b>          交付件数79,711件、422億7,269万4千円</p>
<p><b>課題と対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外における公的助成システムの実態調査を行うなど、文化芸術に対する支援策等をより有効に機能させる上で必要となる調査研究を引き続き実施する。</li> <li>・会計調査、応募相談会、意見交換会等の実施件数が新型コロナウイルス感染症の影響で当初目標を下回ったが、新型コロナウイルス感染症対応が求められる中、目標とする実施件数を達成するため、令和3年度においても対面を要するものについては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら実施し、要望が多いオンラインでの各種相談にも柔軟に対応する。</li> </ul>



## (1) 助成金の交付

### ア 助成金の交付

#### ① 令和2年度助成金の交付実績

##### (a) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付予定額 (千円)	交付件数 (件)	助成金交付額 (千円)
芸術 創造 普及 活動	現代舞台芸術創造普及活動	456	263	518,598	211	376,991
	音楽	96	57	160,637	48	113,507
	舞踊	66	34	60,403	19	27,464
	演劇	294	172	297,558	144	236,020
	伝統芸能の公開活動	49	28	49,052	22	33,120
	美術の創造普及活動	29	7	11,655	5	9,862
	多分野共同芸術創造活動	41	16	18,243	11	12,107
小計		575	314	597,548	249	432,080
創映 造像 活芸 動術	国内映画祭等の活動	54	38	79,254	36	77,950
	国内映画祭等	39	28	73,410	27	72,682
	日本映画上映活動	15	10	5,844	9	5,268
	小計	54	38	79,254	36	77,950
地域 文化 振興 活動	地域文化施設公演・展示活動	256	150	227,409	104	149,709
	文化会館	138	89	108,949	54	59,544
	美術館等展示	118	61	118,460	50	90,135
	歴史的集落・町並み、 文化的景観保存活用活動	9	7	5,878	4	3,738
	民俗文化財の保存活用活動	21	17	11,571	5	3,134
	小計	286	174	244,858	113	156,581
普及 文化 振興 活動	アマチュア等の文化団体活動	160	84	77,227	38	30,482
	伝統工芸技術・文化財保存技 術の保存伝承等活動	13	9	14,594	7	8,864
	小計	173	93	91,821	45	39,346
合計		1,088	619	1,013,481	443	705,957

##### (b) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金 交付予定額 (千円)	交付件数 (件)	助成金 交付額 (千円)
活動 活性化 事業	音楽	155	66	1,796,720	53	1,634,150
	舞踊	64	29	621,827	27	509,743
	演劇	153	74	678,688	73	618,324
	伝統芸能	37	28	86,613	27	44,753
	大衆芸能	23	15	121,985	14	91,690
	小計	432	212	3,305,833	194	2,898,660
事業 交流 支援	海外公演	43	22	330,728	7	70,381
	国際共同制作公演(海外公演)	3	1	19,047	0	0
	国際共同制作公演(国内公演)	12	7	40,919	5	22,813
	国際フェスティバル	7	5	227,169	4	201,957
	小計	65	35	617,863	16	295,151
機能 強化 推進 事業	劇場・音楽堂等機能強化 総合支援事業	16	16	788,261	16	659,697
	地域の中核劇場・音楽堂等 活性化事業	262	174	1,203,635	163	871,806
	共同制作支援事業	2	2	102,508	2	67,405
	劇場・音楽堂等間 ネットワーク強化事業	48	31	252,635	16	76,035
	小計	328	223	2,347,039	197	1,674,943

への支援 映画製作	劇映画	70	23	295,000	21	261,850
	記録映画	34	14	66,160	9	50,010
	アニメーション映画	13	7	70,300	4	46,000
	小 計	117	44	431,460	34	357,860
合 計		942	514	6,702,195	441	5,226,614

## ② 令和3年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

### (a) 審査の実施

運営委員会、4部会及び14専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

#### 《審査の経過》

9月11日	<b>第54回運営委員会</b> 令和2年度の助成対象活動募集案内の内容等を了承。
11月2日～20日	<b>令和3年度助成事業 応募受付期間（国際関連は12月7日～23日）</b>
12月上旬～下旬	<b>専門委員会</b> 書面及び合議審査に先立ち、審査の方法等について審議・決定。
12月下旬～2月上旬	各専門委員による応募活動1件ごとの書面審査。
1月29日	<b>第55回運営委員会(書面審議)</b> 応募状況についての報告、助成金の分野別配分予算案について決定。
1月下旬～3月上旬	<b>専門委員会</b> 書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
3月上旬～中旬	<b>部会</b> 助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3月16日	<b>第56回運営委員会</b> 助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

#### ■運営委員会

第54回：9月11日、第55回：1月29日（書面審議）、第56回：3月16日

#### ■舞台芸術・美術等部会（2回開催・1月書面審議、3月）

- ・音楽専門委員会（2回開催・12月、3月）
- ・舞踊専門委員会（2回開催・12月、3月）
- ・演劇専門委員会（3回開催・12月、2月（第1分科会1回、第2分科会1回））
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会（3回開催・12月、2月（伝統芸能分科会1回、大衆芸能分科会1回））
- ・美術専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・多分野共同等専門委員会（2回開催・12月書面審議、3月）

#### ■映像芸術部会（3回開催・9月、1月書面審議、3月）

- ・劇映画専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・記録映画専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・アニメーション映画専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・映画祭等専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）

#### ■地域文化活動部会（2回開催・1月書面審議、3月）

- ・文化施設公演活動等専門委員会（3回開催・12月、2月（第1分科会1回、第2分科会1回））
- ・文化施設展示活動専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・文化団体活動専門委員会（2回開催・12月、2月）

#### ■文化財部会（2回開催・1月書面審議、3月）

- ・文化財保存活用専門委員会（2回開催・12月、2月）

## ③ 令和3年度助成対象活動及び助成金交付予定額等の公表

- ・令和3年度の基金及び補助金による助成対象活動及び助成金交付予定額等について、審査に当たった委員の氏名及び審査の方法等と併せ、ホームページ等において令和3年3月31日付けで公表。助成対象分野別の応募件数、採択件数及び助成金交付予定額については以下のとおり。

## (a) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額 (千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	529	251	479,938
	音楽	(100)	(54)	(146,064)
	舞踊	(82)	(34)	(56,306)
	演劇	(347)	(163)	(277,568)
	伝統芸能の公開活動	49	26	44,602
	美術の創造普及活動	29	7	10,598
	多分野共同等芸術創造活動	48	16	16,588
小計		655	300	551,726
創映像芸術活動	国内映画祭等の活動	29	20	39,635
	国内映画祭等	21	16	36,903
	日本映画上映活動	8	4	2,732
	小計	29	20	39,635
地域活性化	地域文化施設公演・展示活動	240	127	199,698
	文化会館	(116)	(62)	(89,205)
	美術館等展示	(124)	(65)	(110,493)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	12	10	5,346
	民俗文化財の保存活用活動	26	18	11,384
小計		278	155	216,428
団体文化活動	アマチュア等の文化団体活動	151	74	70,221
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	8	6	11,100
	小計	159	80	81,321
合計		1,121	555	889,110

※国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

## (b) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金 交付予定額 (千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業	複数年計画支援	42	26	1,861,385
	公演事業支援 [一般枠]	301	179	1,359,746
	公演事業支援 [ステップアップ枠]	24	13	73,653
	小計	367	218	3,294,784
国際芸術交流 支援事業	海外公演	13	8	79,831
	国際共同制作公演(海外公演)	1	1	2,238
	国際共同制作公演(国内公演)	9	2	14,948
	国際フェスティバル	7	3	127,029
	小計	30	14	224,046
劇場・音楽堂等 機能強化 推進事業	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	19	16	832,127
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	275	146	1,203,635
	共同制作支援事業	2	2	61,539
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	47	28	246,228
	小計	343	192	2,343,529
映画製作 への支援	劇映画	39	10	133,370
	記録映画	16	6	27,770
	アニメーション映画	1	0	0
	小計	56	16	161,140
合計		796	440	6,023,499

※国際芸術交流支援事業の海外公演と国際共同制作公演(海外公演、国内公演)、映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。

## イ 助成金交付事務の効率化等

### ①審査基準の策定及び事前公表

- ・ 応募受付(11/2～20、12/7～12/23)に先駆け、募集案内をホームページに掲載するとともに審査基準の公表を行った。

### ②専門委員・専門調査員、PD・POによる助成の成果等に対する調査・事後評価・次年度の審査への活用、舞台芸術創造活動活性化事業の公演等調査及び評価の実施方法について一部見直しの実施

#### ■舞台芸術創造活動活性化事業

- ・ 本事業の事後評価については、令和元年度に一部実施方法の見直しを行い、助成対象団体からも概ね良好な反応を得た。令和2年度は、同様の方法により、5月～7月にかけて音楽はじめ5分野について、各専門委員会で書面評価・合議評価を行い、8月～9月にかけてオンライン会議も活用しながらの助成対象団体との意見交換を通じて、評価結果を伝達した。
- ・ 令和2年度事業分の全ての助成対象活動を対象に、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員により、公演等調査を行った。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により一部調査は中止を余儀なくされた。

#### ■国際芸術交流支援事業

- ・ 本事業の事後評価については、令和元年度に部会で決定した方針に従って、日本国内で実施された活動(国際共同制作公演・国内公演、国際フェスティバル)については、公演調査報告書等に基づいて、舞台芸術創造活動活性化事業同様に各専門委員会において書面評価・合議評価を行い、助成対象団体との意見交換会を通じて評価結果を伝達した。
- ・ 令和2年度事業分の助成対象活動については、日本国内で実施する活動に限り、公演等調査を実施した。

#### ■劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- ・ 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(3年採択の4団体)においては「最終年度評価」を行い、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業及び共同制作支援事業においては「事後評価」を行った。評価は、専門委員、PD・POが公演等調査(活動調査、ヒアリング調査)を行い作成した公演等調査報告書、取得したエビデンス、劇場等から提出された自己点検(成果)報告書及び実績報告書に基づき行うこととし、その評価の方法及び評価基準については、7月に開催した文化施設公演活動等専門委員会第一分科会において承認された。その後、8月にかけて同第一分科会で書面審査、合議審査を行った。最終年度評価「事業評価」では、評価コメントを作成するとともに、採択審査時の評点を基礎として増減を行い評点の評価を行った。
- ・ 令和2年度事業分の助成対象活動については、専門委員、専門調査員、PD・POにより公演等調査を行った。公演等調査は劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業及び、共同制作支援事業については全助成対象活動を調査対象としたが、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業については、一部抽出で調査を行っていたこともあり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、調査は行わなかった。

#### 《「舞台芸術創造活動活性化事業」事後評価の経過》

6月下旬～7月上旬	<b>専門委員会</b> 事後評価の方法及び評価基準等について審議・決定。 PD・POが評価コメント素案を作成。
7月上旬～7月中旬	各専門委員による評価コメントの素案等により書面審査を実施。
7月上旬～7月中旬	<b>専門委員会</b> 評価コメントの素案を基に合議により評価を実施。
8月5日	<b>舞台芸術・美術等部会</b> 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月11日	<b>第54回運営委員会</b> 事後評価の結果を報告。

《「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」評価の経過》

6月中旬～7月中旬	PD・PO 及び事務方が評価コメント素案を作成。
7月9日	令和2年度第3回専門委員会 評価の方法及び評価基準等について審議・決定。
7月10日～28日	各専門委員が評価コメント素案、評点により書面審査を実施
8月7日	令和2年度第4回専門委員会 評価コメント素案、評点を基に合議により評価を実施。
8月24日	令和2年度第3回地域文化活動部会 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月11日	第54回運営委員会 評価の結果を報告

③職員・PD・POによる助成対象活動の実施状況等の調査及び意見交換の実施

- ・助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため基金部事務職員による会計調査を実施。

区分		実績	不採択その他の 活動の調査含む	年度計画	達成率
会計調査	団体数	10件	10件	90件以上	11.1%
	助成対象活動数	34活動	—	—	—

- ・助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員による公演等調査を実施。「舞台芸術創造活動活性化事業」については令和2年度の全ての助成対象活動を対象として調査を実施し、「国際芸術交流支援事業」については、国内で開催される事業に限り、実施。

「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」については、助成対象活動を視察して個々の活動状況を確認する「活動調査」と、劇場・音楽堂等の担当者へ聞き取りを行い、その実態と成果の確認を行う「ヒアリング調査」を実施。

ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部調査等は中止を余儀なくされた。

区分		実績	不採択その他の 活動の調査含む	年度計画	達成率
公演等調査	助成対象件数	292件	—	540件以上	54.1%
	延べ調査回数	657回	—	—	—
	(内訳)				
	舞台芸術創造活動活性化事業				
	助成対象件数	199件	204件	—	—
	延べ調査回数	503回	—	—	—
	劇場・音楽堂等機能強化推進事業				
	助成対象件数	17件	—	—	—
	活動調査	45回	—	—	—
	ヒアリング調査	0回	—	—	—
	国際芸術交流支援事業				
	助成対象件数	7件	—	—	—
	活動調査	27回	—	—	—
	基金による助成(創造普及65、地域文化4)				
助成対象件数	69件	70件	—	—	
延べ調査回数	82回	—	—	—	

- ・舞台芸術創造活動活性化事業及び国際芸術交流支援事業について、8/5の舞台芸術・美術等部会で評価を決定し、8/17～10/7まで、意見交換会(事後評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。対象団体152件、実施件数148件。

		音楽	舞踊	演劇	伝統芸能	大衆芸能	計
意見交換	団体数	44件	25件	50件	22件	7件	148件
	助成対象活動数	112件	42件	97件	35件	12件	298件

- ・ 劇場・音楽堂等機能強化推進事業について、8/24の地域文化活動部会で評価を決定し、9/3～10/28まで、意見交換会(評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。対象団体26件。

事業別	評価の種別	団体数	助成対象活動数(事業数)
劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	最終年度評価	4*1	4(156)
地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	事後評価	20	49(242)
共同制作支援事業	事後評価	2	2(2)
計		26	55(400)

- \*1 「総合支援」の評価に関しては、助成団体16団体のうち、3年採択の4団体について最終年度評価を実施した。5年採択の4団体については、今回、評価を実施しない(令和4年度に最終年度評価を実施する予定)。ただし、評価とは別に意見交換を行った。

#### ④PD・POの体制強化及び調査研究

##### (a) PD・POの体制強化

- ・ 令和2年10月1日付で、演劇PO1名を採用。
- ・ 令和3年3月末日現在、PD・POの配置は以下のとおり。

分野	PD	PO	計
音楽	1	7	8
舞踊	1	4	5
演劇	1	7	8
伝統芸能・大衆芸能	1	5	6
調査研究	1	-	1
(劇場・音楽堂等担当※1)	(4)	(12)	(16)
メディア芸術※2	-	1	1
計	5	24	29

※1 劇場・音楽堂等担当は、各分野担当と兼務

※2 メディア芸術担当1名は令和2年3月末の時限を1年延長して配置

##### (b) 調査研究

調査研究分野では、年度当初に、次の取り組むべき課題を設定した。

- ・ 振興会の助成事業における効果の検証
- ・ 振興会の助成事業における評価方法の確立
- ・ 諸外国の文化芸術活動に対する助成システム等の実態把握

その課題に基づき、以下の調査研究を実施・企画した。

#### ■運営費交付金による調査研究

- ・ 舞台芸術創造活動活性化事業について、実績報告書等から得られた定量データの分析に加え、要望書の記載内容、助成対象団体の受賞歴、ウェブサイトなどのメディアからの評価、定性データ等を読み込み、それぞれから成果を検討した。
- ・ 助成対象団体において外部からの評価指標となる受賞歴について、継続的かつ体系的に収集するため、4分野のPD・POからの意見をもとに作成した賞・コンクールの一覧を引き続き更新した。
- ・ 「文化芸術活動への波及効果に関する調査研究」にて得られた、助成による効果の検証手法を参考に、文化施設・芸術団体アンケート調査結果を整理・分析の上で、報告書を取りまとめ振興会ホームページで公表した。
- ・ 日本における今後のアーツカウンシルの在り方の検討に向け、現在アーツカウンシルを設置している団

体に対し、地域版アーツカウンシルの実態について、アンケートによる調査を行い、結果をまとめ分析を行った。

- ・評価の在り方を調査する準備として、国内外の事業評価や政策評価に関する手法などに関する報告書、学術文献や書籍を収集し、検討を行った。
- ・海外(イングランド・スコットランド、オーストラリア、カナダ)における新型コロナウイルス感染症の対応状況として、政府や助成機関が実施した政策や活動等の情報を収集するとともに、被助成団体でもある芸術団体の状況等も調査し、報告書にまとめ、振興会ホームページで公表した。

#### ■寄附金による調査研究

- ・令和元年度中に成果を取りまとめた「我が国のマンガ・アニメーション分野における自主制作活動等に関する実態調査」や「メディア芸術分野実態調査」について、内容を精査した上、報告書を振興会ホームページで公表した。
- ・令和元年度から実施していた「オーストラリアにおける文化芸術活動に対する助成システムに関する実態調査」について、調査結果を報告書にまとめ、発刊するとともに振興会ホームページで公表した。
- ・「フランスにおける映画振興に対する助成システム等に関する実態調査」について、新型コロナウイルス感染症の影響により現地調査ができなかったため、文献資料の収集、分析を行うとともに、電子メール等での調査を行い、得られた調査結果等の整理、まとめを行った。
- ・「アーツカウンシル・イングランドにおける『Strategy 2020-2030 Arts Council England』及び関連資料の翻訳」について、令和2年8月に翻訳会社と契約を締結し、翻訳を行うほか、翻訳の関連資料等について、資料の専門的な質を上げるよう精査を行った。

#### ⑤地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力

- ・電子申請システムの導入に伴い、都道府県・政令指定都市による応募の取りまとめは行わず、団体から直接応募に変更したが、地域に密着し、かつ広く応募を求めたいため、都道府県・政令指定都市には、引き続き広報協力を依頼し、募集開始等に係る情報提供をおこなった。チラシ・パンフレット・ポスターを送付し、配架掲出を依頼するとともに、メールによる周知を行った。

#### ⑥手続の合理化のための応募書類の電子データ受付の先行導入、システム更改に向けた設計・構築作業

- ・芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業を除く)による令和3年度助成対象活動の募集を、11月2日から20日まで(国際芸術交流支援事業は12月7日から23日まで)の期間に、初の電子申請方式で実施した。従来は提出された書類の情報を職員が助成業務システムに入力しチェックする作業をしていたが、データでの申請になったことにより、その業務を大幅に減らすことができた。
- ・助成に関する調査研究を効果的に行うためのデータベース構築等に対応することを目的に、助成業務システム(令和3年5月更新予定)の設計・構築を行った。なお、劇場・音楽堂等機能強化推進事業では、業務委託先と連携し、別途電子申請方式を導入している。

#### ⑦その他

- ・舞台芸術創造活動活性化事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で事業運営が困難になった助成団体のうち、希望する全ての団体を対象として、早期の概算払いを実施した。また、国際芸術交流支援事業については、文化庁と協議し、概算払いを実施した。
- ・全ての助成事業において、助成対象活動を中止した団体に対しては、中止までの活動実施に要した助成対象経費のほか、中止により発生した助成対象経費に係るキャンセル料等も対象とした。また、活動を実施するにあたり必要となる新型コロナウイルス感染症対策に係る経費、及びインターネット配信等を行う場合の経費を交付決定している助成金の額の範囲内で、助成対象経費として計上することを可能とした。なお、令和3年度の募集にあたっては、感染症対策経費や配信経費を助成対象経費として要望できることとした。

※令和2年度の基金及び補助金による助成対象活動のうち、中止や内容変更は565件。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度の助成対象活動を令和3年度に延期して実施する活動については繰越しを行うこととした。特に、文化庁補助事業については、文化庁を通じて財務省協議を申請し、繰越しが承認された。

※基金及び補助金による助成対象活動のうち、令和3年度への繰越しは65件。

## ウ 基金及び基金助成事業の将来の在り方について

- ・昨今の金利低迷により、芸術文化振興基金の運用益収入の見込みが減少傾向にあることを踏まえた上で、効果的・効率的な助成制度とするため、助成金の定額化、助成対象経費の選択制について、芸術文化振興基金運営委員会及び部会、専門委員会において検討を行い、令和4年度募集から新制度による助成を行うことが決定された。

## エ 文化庁連携による PD・PO を活用した審査・評価の仕組みの検討及び地域版アーツカウンシル等との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」の活用

### ■地域版アーツカウンシル等との連携推進

- ・10月16日においては、各地域での新型コロナウイルス感染症の影響や対応状況について、令和3年1月8日においては、本ネットワークのテーマについて、全体会議をオンラインで実施した。1月下旬から2月上旬にかけては、「文化行政と地域アーツカウンシルの関係」、「持続可能な地域アーツカウンシルのあり方」、「文化以外の行政分野との連携のあり方」等、3つの分科会をオンラインで実施した。
- ・アーツカウンシル・ネットワーク加盟団体間の情報共有を図る目的で、インターネット上に情報プラットフォームを構築し、運用を開始した。

### ■舞台芸術創造活動活性化事業

- ・本事業の事後評価については、令和元年度に一部実施方法の見直しを行い、助成対象団体からも概ね良好な反応を得た。令和2年度は、同様の方法により、5月～7月にかけて音楽はじめ5分野について、各専門委員会で書面評価・合議評価を行い、8月～9月にかけてオンライン会議も活用しながらの助成対象団体との意見交換を通じて、評価結果を伝達した。
- ・令和2年度事業分の全ての助成対象活動を対象に、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員により、公演等調査を行った。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により一部調査は中止を余儀なくされた。

### ■国際芸術交流支援事業

- ・本事業の事後評価については、令和元年度に部会で決定した方針に従って、日本国内で実施された活動（国際共同制作公演・国内公演、国際フェスティバル）については、公演調査報告書等に基づいて、舞台芸術創造活動活性化事業同様に各専門委員会において書面評価・合議評価を行い、助成対象団体との意見交換会を通じて評価結果を伝達した。
- ・令和2年度事業分の助成対象活動については、日本国内で実施する活動に限り、公演等調査を実施した。

### ■劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- ・劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(3年採択の4団体)においては「最終年度評価」を行い、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業及び共同制作支援事業においては「事後評価」を行った。評価は、専門委員、PD・POが公演等調査(活動調査、ヒアリング調査)を行い作成した公演等調査報告書、取得したエビデンス、劇場等から提出された自己点検(成果)報告書及び実績報告書に基づき行うこととし、その評価の方法及び評価基準については、7月に開催した文化施設公演活動等専門委員会第一分科会において承認された。その後、8月にかけて同第一分科会で書面審査、合議審査を行った。「最終年度評価」「事後評価」では、評価コメントを作成するとともに、採択審査時の評点を基礎として増減を行い評点の評価を行った。
- ・令和2年度事業分の助成対象活動については、専門委員、専門調査員、PD・POにより公演等調査を行った。公演等調査は劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業及び、共同制作支援事業については全助成対象活動を調査対象としたが、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業については、一部抽出で調査を行っていたこともあり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、調査は行わなかった。

## オ 助成事業成果等の振興会の他事業への活用

- ・助成対象団体から実績報告の際に届く公演プログラムについて、伝統芸能関連で保存期間が満了したものを資料担当部署に送付し、活用することとした。
- ・関西地域の芸術文化振興基金助成対象団体と国立文楽劇場とが相互に連携して情報発信を強化するこ



とが可能となるよう、引き続き基金部が仲介者として協力を行った。

## (2) 助成に関する情報等の収集及び提供

### ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

- ・官民の文化芸術活動への支援に関する情報を引き続き収集し、最新のデータに更新した。

### イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・配布・掲載

#### ① ホームページ上の情報の充実

- ・基金事業関連ホームページのアクセス件数 令和2年度 359,656件(うち芸術文化振興基金ホームページ 341,460件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業ホームページ：18,196件)
- ・令和3年度助成事業の募集開始前に、令和元年度の助成事業を紹介する事例集を作成し、PDF版を振興会ホームページに掲載。
- ・助成事業の内容等が分かりやすく伝わるよう、ホームページの記述内容について随時見直しを実施。

#### ② 事例集の作成・配布・掲載

- ・令和3年度助成事業の募集開始前に、令和元年度の助成事業を紹介する事例集を作成し、PDF版を振興会ホームページに掲載。
- ・「日本芸術文化振興会ニュース」に基金の概要、助成対象活動の募集の案内及び助成対象活動の事例等、広く助成事業に関する情報を掲載した(毎月)。

### ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター配布等

#### ① 募集情報のホームページへの掲載

- ・振興会ホームページに令和3年度助成事業の募集に関する特設サイト(ランディングページ)を作成し、9月30日に募集案内をホームページに掲載するとともに審査基準の公表を実施。
- ・8月31日に公開した募集に関する特設サイトへリンクするバナーを、10月1日から約1か月間、振興会外の3つのウェブサイト(ぶらあぼ、コリッチ舞台芸術、東京アートビート)に設置し、募集に関する周知を図った。

#### ② ポスター配布等

- ・広報用ポスター(4,200枚)、チラシ(20,000枚)、地域力×文化力パンフレット(67,000枚)を配布
- ・令和3年度助成対象活動の募集に関するチラシ及びポスターを都道府県、政令指定都市、地域文化施設(文化会館、美術館、博物館等)等3,214か所に送付し、広報協力を依頼。
- ・地域の文化振興等の活動に対する助成について、関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を行うとともに、都道府県、政令指定都市及びその他の市町村にもチラシと地域力×文化力パンフレットを送付し、募集開始の情報提供を行った。
- ・基金の概要を紹介したパンフレットを配布した。
- ・芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレットを配布した。
- ・文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に関するリーフレットを配布した。
- ・「日本芸術文化振興会ニュース」に基金の概要、助成対象活動の募集の案内及び助成対象活動の事例等、広く助成事業に関する情報を掲載した(毎月)。

### エ 応募相談会等の開催

- ・新型コロナウイルス感染症の感染対策として、例年行っていた国内各地で助成金応募予定者向けの対面による応募相談会を、原則としてオンラインによる応募相談に切り替えた。
- ・10月16日にオンラインで開催した第1回ネットワーク・ミーティングにおいて、出席した日本各地のアーツカウンシル機能を有する組織に対し、令和3年度の「地域の文化活動を目的として行う活動」について説明を行い、質問を受けた。

実績	年度計画	達成率
228件	300件以上(団体数)	76%

## (3) 基金の管理運用

### ア 基金の管理運用

運用益 1,122,928千円(利回り1.61%)

- ・基金の管理運用については、安全性に留意するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可

能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努めた。

- ・芸術文化振興基金運用計画に基づき、金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

## イ 資金の受入拡充

### ① 寄附先への感謝状の贈呈並びにホームページ等での広報

- ・芸術文化振興基金への寄附：8件、600,724,000円  
(元年度実績 7件、600,540,000円、184,000円の増)
- ・承諾を得た寄附者(団体)については、寄附者(団体)名をホームページで広報するなどの顕彰により、寄附金の増額に向けて取り組んだ。

### ② 「芸術文化振興基金賛助会制度」「社会貢献信託制度」による寄附受入

- ・「芸術文化振興基金賛助会員制度」の周知を図るとともに、寄附受入に向け広報活動を行った。

## (4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)

- ・6月12日に国会にて第2次補正予算成立。第2次補正予算で措置された活動継続・技能向上等支援事業費補助金に関して、文化庁に交付申請を行い、16日付けで文化庁が振興会に対し交付決定。25日から基金部に運営事務局を設立して担当職員を配置し、当該補助事業の準備を開始した。
- ・ホームページによる広報、ウェブ申請、申請手続きが不備であっても後日修正の受付等により、迅速に多数の申請を受理できた。
- ・審査に当たっては、文化庁から推薦された全国的な職能組織(当該事業の事前確認を行う統括団体)71団体から、35,000件を超える申請者に対して事前確認の協力を受けた。また、運営事務局に「活動継続・技能向上等支援事業費補助金に関する協力者会議」(14分野・計55名)を設置し、統括団体からの事前確認番号のない者からの申請(約32,000件)に対して、活動実績や申請事業の実現可能性等について審査等を行った。

第1次募集 7月10日～7月31日

第2次募集 8月8日～8月28日

第3次募集 9月12日～9月30日

新規募集 11月25日～12月11日

	交付申請件数	交付決定件数	助成金交付額(千円)
第1次募集	11,240件	9,576件	5,378,559
第2次募集	11,063件	9,816件	5,261,971
第3次募集	31,938件	23,023件	9,509,518
新規募集	42,088件	37,296件	22,122,646
合計	96,329件	79,711件	42,272,694

## 【特記事項】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術団体等の事業活動の継続を支援するため、文化芸術団体等が行う舞台芸術活動等に対して助成を行うための文化芸術復興創造基金を創設し、5月25日から寄附金を募集した。(令和2年度実績：277件7,875,830円)
- ・これまで支援していただいた企業に周知する他、文化芸術団体に対し文化芸術復興創造基金ホームページにアクセスできるバナー掲載の依頼を行った。

## 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演



## 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一部の公演を中止したが、それ以外の公演については、概ね計画どおり実施した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染症対策を講じた上で公演を実施した。また、劇場施設の利用者に対しても感染症対策への協力を要請した。</li> <li>・政府・自治体の要請等により上演時間や販売座席数を制限した。入場者数の増加を図るため、上演時間を短縮した公演は1日の公演回数を追加した。</li> <li>・歌舞伎、文楽、舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等、大衆芸能、能楽、組踊等沖縄伝統芸能の6分野の入場者数達成率平均は115.5%。(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)</li> <li>・本館11月歌舞伎公演において、片岡仁左衛門が「彦山権現誓助剣」毛谷村六助の演技により第28回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞。</li> <li>・オペラ、バレエ、現代舞踊、演劇の4分野の入場者数達成率平均は75.4%。(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)</li> <li>・一部の公演では、国内及び海外向けに動画配信を実施し、鑑賞機会を提供した。</li> <li>・オペラ公演では、新型コロナウイルス感染症による入国制限のため入国できなくなった海外招聘歌手に代わり、実力ある日本人歌手を重要な役で起用し、高い評価を得た。</li> <li>・演劇公演「リチャード二世」は、第28回読売演劇大賞最優秀作品賞を受賞するなど高い評価を受けた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大と東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会延期の影響の中、日本博事業の運営・実施・プロモーション業務を、多くの事業実施団体、他の国立文化施設、民間団体、企業等とともに連携して推進した。</li> <li>・特に、新たな環境に対応したデジタルコンテンツ等を用いた国内外への幅広い広報、プロモーションについて、様々な試行・実施を行い、今後につながるノウハウの蓄積等の成果を挙げていると考えられる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中止・延期・実施方法変更など事業の見直しを迅速・的確に行うとともに、ライブ配信を含む動画の収録とオンライン配信、テレビ放送、VR映像の公開等、新たな手法による成果の積極的な発信を行った。</li> <li>・イノベーション型プロジェクト(公募助成型)についても新たに日本博事務局において公募・執行し、日本博の運営等を円滑に実現する上で成果を挙げていると考える。</li> <li>・日本博の駅広告「日本博 JAPAN CULTURAL EXPO」(令和2年3月東京駅)がジェイアール東日本企画主催「交通広告グランプリ2020」駅メディア部門の優秀作品賞を受賞。</li> </ul>
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表1、2記載) 《公演実績》表 参照</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>〈1〉 伝統芸能分野 〈2〉 現代舞台芸術分野 〈3〉 日本博の運営・実施 各表参照</p>
<p>課題と対応</p>	<p>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響が大きく、公演中に緊急事態宣言が発出された場合もあり、多くの公演で入場者数が目標を下回った。感染症収束の見通しは不透明だが、今後も感染症予防の取組を徹底し、安全・安心を確保しつつ、演目や出演者に関する情報を観客によりアピールする工夫</p>

をはじめ、それぞれの公演の特色や魅力をより多角的に紹介するなど、広報宣伝等の効果的な施策を検討していきたい。企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行い、より魅力ある番組作りに努めるとともに、動画を利用するなど、効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、工夫を重ねていく。

- 近隣施設や地域、学校関係者等との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。
- 歌舞伎分野では、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、歌舞伎俳優の出演ローテーションの確定が例年以上に遅れ、それに付随して演目決定も遅れる事態となった。未だ新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たない中、公演制作の面でも不確実な情勢が続くことが予想されるが、制作・舞台・営業等の各部門がより一層連携し、全館を挙げて柔軟に対応することが引き続き求められる。
- 日本博については、当年度の成果を活かしつつ、本番年として位置づけられる令和3年度事業の一層の充実とコロナ後の新たな環境を見据えた国内観光需要の一層の喚起とインバウンド需要の回復に資する映像コンテンツの発信等を推進する。

〈1〉 伝統芸能分野

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一部公演を中止。</li> <li>・ガイドライン・実施要領に基づき、感染症対策を講じた上で、夏以降段階的に公演を再開。</li> <li>・新型コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う緊急事態宣言の発出により、座席数を大幅に制限して販売したため、目標入場者数を達成することはできなかったが、感染拡大防止対策を講じた上での最大限の努力の結果、入場者数は、販売座席を制限した割合を当初計画の目標入場者数に乗じた数を上回ることができた。</li> </ul> <p>(本館)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、歌舞伎鑑賞教室2公演(6月、7月)、文楽2公演(5月、8月)、舞踊・邦楽1公演(4月)、邦楽1公演(6月)、雅楽1公演(6月)、特別企画4公演(5月、8月、9月、10月)、民俗芸能2公演(9月、1月)、声明1公演(2月)、琉球芸能1公演(2月)が中止となった。</li> <li>・公演再開に当たり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、販売座席数を制限し、公演回数を増加し、上演時間を短縮して実施した。</li> <li>・青少年を対象にした鑑賞教室、外国人向けの入門企画を引き続き実施した。(12月文楽鑑賞教室、12月文楽鑑賞教室 Discover BUNRAKU)</li> <li>・本館11月歌舞伎公演において、片岡仁左衛門が「彦山権現誓助剣」毛谷村六助の演技により第28回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞。</li> <li>・劇場施設の使用効率を向上させるため、積極的な情報提供を行い、施設の活用に努めた。</li> <li>・日本博皇居外苑特別公演に際して、各館の職員が協力して屋外公演を実施した。</li> </ul> <p>(演芸場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、定席公演7公演(4月～7月)、花形演芸会4公演(4月～7月)、国立名人会7公演(4月～10月)、特別企画公演4公演(4月～7月)が中止となった。</li> <li>・公演再開に当たり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、8月～10月は各月上席・中席とも午前・午後の2部制とし、上演時間を短縮して実施した。</li> <li>・4公演が中止となった「若手新人公演」では、計画外に3回の追加公演をおこない、例年どおり花形演芸大賞受賞者を選出することができた。</li> <li>・公演再開後7月から10月まで「国立名人会」の予定を企画変更し、テーマを絞り短時間ながら充実した公演を4回実施した。</li> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が延期となったため「日本博寄席2020」として実施した8月の公演は、所属団体の異なる名人上手の落語家の競演となり、国立演芸場ならではの企画として観客にたっぷり楽しんでいただくことができた。</li> <li>・8月に予定していた普段寄席ではみられない様々な芸能を上演する特別企画公演を3月に延期して開催し、あわせて演芸をより身近に体験できる「演芸レクチャーデモンストレーション」を感染症対策に留意しつつ2日間10コース実施した。</li> </ul> <p>(能楽堂)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、能楽14公演が中止となった。</li> <li>・能楽堂では、充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催したほとんどの公演において極めて高い入場率を達成した。</li> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催1年前の7・8・9月に、能・狂言をコンパクトな内容で上演する「国立能楽堂ショーケース」を実施した。各公演ともほぼ満席で高い関心が示された。</li> <li>・東日本大震災から10年の節目となる3月には、5年前に国立能楽堂で復曲初</li> </ul>

	<p>演された東北・名取の地が舞台の能「名取ノ老女」を上演し、震災からの復興と文化の力について考える機会とした。</p> <p>(文楽劇場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、文楽公演(4月、夏休み特別)2公演、文楽鑑賞教室1公演、特別企画公演(5月舞踊・邦楽、2月特別企画)2公演、大衆芸能(5月～7月)4公演が中止となった。</li> <li>・公演再開に当たり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、販売座席数を制限し、公演回数を増加し、上演時間を短縮して実施した。</li> <li>・快適な観劇環境の形成、広報・営業活動の充実といった点では、ガイドラインに基づき、新型コロナウイルスの感染症の拡大防止対策を講じた上で、演目に応じ、様々な工夫を凝らした。</li> </ul> <p>(国立劇場おきなわ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立劇場おきなわは、日本博事業の一環として、組踊をより多くの方に知っていただくため、オーディオガイド等を活用し、初めての方や外国の方にも理解を促進し、組踊を国内外にアピールする組踊公演を5公演計画し、4公演上演した。(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、8月の1公演は中止)</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、当初計画どおりの実施が困難な公演については少人数で比較的慣れた演目に変更し、アジア・太平洋地域の芸能公演では海外からの招へいから国内で活躍する実演家で実施するなど工夫をして公演制作に取り組んだ。なお中止となった沖縄芝居公演の映像を配信した。</li> </ul>
<p><b>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</b></p>	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表1記載) 《公演実績》表 参照</p>
<p><b>主要な業務実績</b></p>	<p><b>(1) 伝統芸能の公開</b> <b>ア 主催公演の実施</b></p> <p><b>① 歌舞伎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、観客の劇場滞在時間を短く想定したコンパクトな上演時間による2部制公演の実施(10・11・12月)。</li> <li>・物語の流れを分かりやすく整理した通し狂言の上演(1月「四天王御江戸鑑」)。</li> <li>・新作歌舞伎の上演(10月「幸希芝居遊」)。</li> <li>・上演頻度が高い名場面に至るまでの筋を整理して補綴(11月「平家女護島」)。</li> <li>・当代の第一人者による優れた実演(10月「ひらかな盛衰記-源太勘当-」「新血屋舗月雨暈-魚屋宗五郎-」、11月「平家女護島」「彦山権現誓助剣」、12月「三人吉三巴白浪」「天衣紛上野初花-河内山-」)</li> <li>・解説付きの入門公演による新規客層の開拓(3月「入門 歌舞伎の“明智光秀”」)</li> <li>・次世代の俳優を積極的に登用することによる芸の継承の実現(10月「太刀盗人」、11月「文売り」「三社祭」、12月「鶴亀」「雪の石橋」、3月「時今也桔梗旗揚」)。</li> </ul> <p><b>② 文楽</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立劇場の公演制作の基本である「通し上演」の実施で、物語をより分かりやすくするとともに、技芸の継承に努めた。 本館5月通し狂言「義経千本桜」(※新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを低減するため公演中止となり、実現せず。)</li> <li>・数多くのすぐれた作曲、脚色作品を残し、戦後文楽のレパトリーの拡大に大きく貢献した野澤松之輔の没後三十五年祭に当たり、代表作である「曾根崎心中」を上演しその業績を偲ぶ企画とした(7月文楽劇場、8月本館)。(※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止となり、実現せず。9月本館にて同氏の脚色、作曲による「鑑の権三重帷子」を上演)</li> <li>・本館では9月文楽公演から、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点より販売座席数を制限し、上演時間に工夫が求められる状況に鑑み3部制、4部制の実施で、新しい生活様式に即した公演形態を模索した。</li> <li>・文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症の影響下で再開する錦秋文楽公演から、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点より販売座席数を制限し、振興会ガイドラインに従い消毒・換気を徹底、上演時間を工夫した作品を並べた</li> </ul>



3部制を実施した。

### ③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

- ・本館では、日本舞踊独自の上演様式である素踊りに焦点を当てる新シリーズ他の舞踊公演、邦楽の二大ジャンルといえる長唄と三曲の名手がつどう邦楽公演、平安貴族による「遊び」との関わりから構成した雅楽公演、プロジェクションマッピングを利用して伝統芸能の主要なジャンルの魅力を楽しめるものや、詩歌を中世と現代という切り口で取り上げ、復曲や現代曲の上演や新作を委嘱した特別企画公演等、企画性の高い公演を実施した。
- ・文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症の影響下での再開にあたり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から販売座席数を制限し、振興会ガイドラインに従い消毒・換気を徹底、また上演時間も工夫して8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」、10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」を実施した。

### ④大衆芸能

- ・演芸場では4月から7月下旬までほぼ4か月主催公演が実施できなかったが、再開後、定席公演や計画外の追加公演などにより年度計画の90%以上の回数の公演を行った。
- ・「若手新人公演」では、4月から7月まで4公演を中止したが、9、11、2月に追加公演を企画して花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する17組のレギュラーを中心に公演を実施し、計画どおり花形演芸大賞・金賞・銀賞受賞者を選出することができた。
- ・「特別企画公演」では、国立名人会を企画変更した「国立演芸特選会」を7月から10月まで実施し、上方落語や人間国宝による講談、上演機会の少ない作品を取り上げた企画が好評を得た。また東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が延期となったため「日本博寄席2020」として実施した8月の公演は、所属団体の異なる名人上手の落語家の競演となり、国立演芸場ならではの企画として観客にたっぷり楽しんでいただくことができた。
- ・8月開催を予定していた日本演芸家連合の制作協力による特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」は、3月に延期して実施した。昨年に引き続き日本演芸家連合の協力を得て別会場で「演芸レクチャーデモンストラーション楽しもう演芸の世界」を感染症対策に留意しつつ公演直前の日程で開催し、一般公募による参加者に様々な演芸に親しむ機会を提供した。
- ・職員・委託業者が検温・消毒・体調管理に努め、観客・出演者の協力も得て、再開後は企画変更・上演時間の短縮・販売座席制限を行って、公演を継続することができた。
- ・文楽劇場の上方演芸特選会は、新型コロナウイルス感染症の影響下で再開する上方演芸特選会を、上方演芸4団体との協力し振興会ガイドラインに沿い販売座席数・上演時間を制限して実施した。(9月、11月、1月、3月)

### ⑤能楽

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、極めて高い入場率を達成した。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催1年前の7・8・9月に、能・狂言をコンパクトな内容で上演する「国立能楽堂ショーケース」を実施した。各公演ともほぼ満席で高い関心が示された。
- ・12月の〈月間特集・所縁の能・狂言〉、2月の〈月間特集・絵画と能・狂言〉と、効果的に「月間特集」を組むことで公演の連続性や関連性を持たせ、観客の注目を集めた。
- ・東日本大震災から10年の節目となる3月には、5年前に国立能楽堂で復曲初演された東北・名取の地が舞台の能「名取ノ老女」を上演し、震災からの復興と文化の力について考える機会とした。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を継続実施した。

### ⑥組踊等沖縄伝統芸能

- ・新作の上演(新作組踊「塩売」、創作舞踊「若衆鯉」「春夜の梅」「籬内」「初

はじち」、琉球講談マジムン怪談「オーナチマヤー」「片足ピンザ」「遺念火」、喜劇「うるま西遊記」)

- ・創作舞踊の再演(「新南島風土記 ニライの島」)
- ・日本博主催・共催事業として、普及公演「組踊鑑賞教室『執心鐘入』」、普及公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『二童敵討』」、組踊公演「伊祖の子」、組踊公演「手水の縁」を実施。普及公演「親子のための組踊鑑賞教室『万歳敵討』」は新型コロナウイルス感染症の影響で公演中止。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、公演中止となった9月普及公演「沖縄芝居鑑賞教室」を無観客で上演、撮影し、同映像を期間限定・無料で配信。
- ・沖縄県の委託を受け、10月、11月の普及公演を撮影し、同映像を期間限定・無料で配信。

### イ 演目の拡充

- ・新作歌舞伎の上演(10月「幸希芝居遊」)。
- ・国立劇場の歌舞伎公演で過去に復活した通し狂言の台本・演出の見直し(1月「四天王御江戸鎗」)や、名場面に至るまでの筋の整理(11月「平家女護島」)により、レパートリーの定着・拡充を実現。
- ・「国立劇場歌舞伎脚本募集」事業による新たな才能の発掘。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催時期に合わせて8月に本館での文楽公演を企画した。本館8月夏休み文楽特別公演は、文楽劇場の夏休み文楽特別公演と同一演目同一配役とし、第一部に「親子劇場」を開催。「舌切雀」「瓜子姫とあまんじゃく」といったこれまで本館では上演されなかった演目を採り上げ、親子で楽しめる新作文楽の可能性を東京でもアピールできるように企画した。(※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止となり、実現せず。)
- ・演芸場では、大衆芸能脚本募集浪曲部門奨励賞受賞作品を、文化庁芸術祭主催「国立名人会」で上演した。
- ・文楽劇場では、4月公演通し狂言「義経千本桜」で、大序仙洞御所の段、すしやの段で、近年の上演とは異なる古格に則った上演台本を作成、人形も特殊演出をふんだんに取り入れた公演内容を企画した。(※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止となり、実現せず。)
- ・国立劇場おきなわでは、復曲の上演・再演(組踊公演「伊祖の子」)、新作の上演(新作組踊「塩売」、創作舞踊「若衆鯉」「春夜の梅」「籬内」「初はじち」、喜劇「うるま西遊記」、創作舞踊の再演(「新南島風土記 ニライの島」)を実施。
- ・上演機会が少ない優れた演目の上演(組踊「賢母三遷の巻」)、新作の上演
- ・再演(琉狂言「ちんなんちんなん」「武富秀才」)※公演中止。

### (3) 青少年等を対象とした公演

- ・中高生を主な対象とした「歌舞伎鑑賞教室」の実施。
  - ・社会人を対象とした「社会人のための歌舞伎教室」の実施。
  - ・夏休み中の親子観劇を想定した「親子のための歌舞伎教室」の実施。
  - ・外国人を対象とした歌舞伎入門公演「Discover KABUKI」の実施。
- (6・7月の「歌舞伎鑑賞教室」は、学校単位での団体観劇が多いことに鑑み、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止し、合わせて上記全ての歌舞伎入門公演を中止した。代わりに、インターネット動画配信用の歌舞伎入門コンテンツを製作し、有料配信した。また、一般客を主な対象とした歌舞伎入門公演を3月に実施した。)
- ・外国人を対象とした公演(本館12月「Discover BUNRAKU」)・入門企画(本館12月文楽鑑賞教室)を計画どおり実施。

### (4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

- ・受託による公演を1公演実施。(本館：10/1 芸術祭オープニング公演)
- ・国際文化交流公演等を1公演実施。(本館：12月 Discover BUNRAKU)

### (5) 快適な観劇環境の形成

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立劇場のマスコットキャラクター「くろごちゃん」を活用したポスターの掲示等による注意喚起、消毒液の設置、職員等のマスク着用など、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を実施。</li> <li>・観客用設備の適切な維持管理・改善を実施。</li> <li>・四季を感じられるロビー飾り等を実施。</li> <li>・外国人利用者への対応として、外国語によるチラシ・リーフレット等の作成及び字幕表示等の多言語対応を実施。</li> <li>・快適な観劇環境を促進するためのマナーチラシ(日本語・英語)をロビーに配架。</li> <li>・文楽劇場では夏休み文楽特別公演(親子劇場)が新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために公演中止となったことを受け、今後の観客層の拡大に繋げるため特別に「親子で楽しむ舞台裏方体験」を企画、実施した。</li> </ul> <p><b>(6) 広報・営業活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Twitter、Instagramに加え、TripAdvisor に写真を掲載するなど、SNS を利用した広報活動を実施。</li> <li>・公演周知等において、旅行代理店・ホテル・日本学生支援機構・外部団体との連携を一層強化。</li> <li>・公演周知等において、千代田区観光協会・劇場近隣の店舗など地元地域や旅行代理店・ホテル・日本学生支援機構・外部団体との連携を一層強化。</li> <li>・団体観劇を促進するため、過去に利用した団体への公演情報提供や公演内容に応じた営業活動を実施。</li> <li>・大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービスを提供。</li> <li>・文楽公演において、芸員のインタビュー動画や、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画をHPに公開。</li> <li>・文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施。</li> <li>・(おきなわ)団体観劇を促進するため、団体鑑賞予約申込書と一体になった団体鑑賞のご案内リーフレットを制作し、県内自治体に送付する等の営業を実施。また、ホームページのトップページに「団体鑑賞のご案内」のメニューを表示し、団体鑑賞に関する広報を充実させた。</li> <li>・国立劇場おきなわ公式 Facebook に加え、Instagram アカウントを開設し、SNS を利用した広報活動を実施。</li> <li>・インバウンド誘客に繋げるため、国立劇場おきなわホームページに英語による公演情報掲載ページを新設した。</li> </ul> <p><b>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・DM・専門誌等で随時発信。</li> <li>・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策について、事前に協議を行うなど利用者に協力を要請した。</li> <li>・サービス向上のため、利用者へのアンケートを実施。</li> </ul>
<p><b>課題と対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響が大きく、公演中に緊急事態宣言が発出された場合もあり、多くの公演で入場者数が目標を下回った。感染症収束の見通しは不透明だが、今後も感染症予防の取組を徹底し、安全・安心を確保しつつ、演目や出演者に関する情報を観客によりアピールする工夫をはじめ、それぞれの公演の特色や魅力をより多角的に紹介するなど、広報宣伝等の効果的な施策を検討していきたい。企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行い、より魅力ある番組作りに努めるとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、工夫を重ねていく。</li> <li>・歌舞伎分野では、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、歌舞伎俳優の出演ローテーションの確定が例年以上に遅れ、それに付随して演目決定も遅れる事態となった。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための政府・自治体からの要請に従い、客席数を半数以下に設定し、10・11・12月について</li> </ul>

は公演形態を従来と異なる二部制とするなど、その都度臨機応変に対応した。未だ新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たない中、公演制作の面でも不確実な情勢が続くことが予想されるが、制作・舞台・営業等の各部門がより一層連携し、全館を挙げて柔軟に対応することが引き続き求められる。

- 例年6・7月に実施する歌舞伎鑑賞教室は、学校単位での団体観劇が多いことに鑑み、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止を余儀なくされた。初心者向け公演の代替企画として、インターネット動画配信用の歌舞伎入門コンテンツ「松本幸四郎の歌舞伎を知ろう」全3編を製作し、有料配信した。また、3月歌舞伎公演も「歌舞伎名作入門」と銘打ち、本編上演の前に解説を付けた入門公演とした。
- 近隣施設や地域、学校関係者等との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。

〈2〉 現代舞台芸術分野

<p>自己評定</p>	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p>
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオペラ23回、バレエ17回、現代舞踊5回、演劇51回が中止となったが、それ以外の公演については感染症対策を講じながら概ね計画どおり公演を実施した。</li> <li>・分野毎の入場者数においては、新型コロナウイルス感染症拡大及びそれに伴うイベント開催制限の影響で、目標値を達成することができなかったが、制限された収容率内での有料入場率が8割を達成する公演もあった。</li> <li>・いずれの公演も高い水準で上演され、外部専門家、評論家及び観客の高い評価を得た。</li> <li>・オペラ公演では海外からの招聘キャストに代わって多くの実力ある日本人歌手が主役級だけでなく「夏の夜の夢」「ワルキューレ」ではほとんどの配役に日本人が出演した他、「こうもり」「トスカ」「フィガロの結婚」では日本人歌手が主役級の重要な役を務め活躍した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症感染者発生のため公演直前で中止となった「ニューイヤー・バレエ」は全編をライブ・ストリーミング配信し、15万6,338回という最大同時視聴者数を得た。</li> <li>・長期的に作品を育てる「こつこつプロジェクトーディベロップメントー」に加え、若手劇作家を育てる「英国ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」を継続して実施した。</li> <li>・演劇公演「リチャード二世」は、第28回読売演劇大賞最優秀作品賞を受賞するなど高い評価を受けた。</li> <li>・演劇公演「願いがかなうぐつぐつカクテル」「イヌビト～犬人～」「ピーター&amp;ザ・スターキャッチャー」で視覚・聴覚障害者向けの観劇サポート(文化庁委託事業「令和2年度障害者による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)」を当年度も実施したほか、小劇場内の階段に車いす昇降補助機を設置するなど設備面でもバリアフリー化を進めた。</li> <li>・ホームページとSNS(Facebook、Twitter、Instagram)を連動させ、動画も活用して積極的に情報を発信した。</li> </ul>
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表2記載) 《公演実績》表 参照</p>
<p>主な業務実績</p>	<p><b>(2) 現代舞台芸術の公演</b></p> <p><b>①オペラ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による公演中止や、客席の収容制限等により目標入場者数を達成することはできなかったが、6公演28回のオペラ公演を実施した。</li> <li>・客席の収容率50%以下の制限下で実施した「トスカ」「フィガロの結婚」「ワルキューレ」で80%以上の入場率を達成した。</li> <li>・2作品を新制作し、レパートリーを充実させた(当初計画では4作品を予定していたが新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2作品は公演中止)。</li> <li>・全オペラ公演で英語字幕を設置し、インバウンド対策を更に推進。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による入国制限により、多くの海外招聘歌手の入国が困難となったが、実力ある日本人歌手が重要な役で活躍した。</li> </ul> <p><b>②バレエ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による公演中止や、客席の収容制限等により目標入場者数を達成することはできなかったが、4公演20回のバレエ公演を実施した。</li> <li>・「眠れる森の美女」は入場率90.5%を達成した。(緊急事態宣言下につき客席収容率50%以下制限)</li> <li>・新国立劇場主催公演としては初めて公演映像の有料配信(ライブ及びオンデマ</li> </ul>

ンド)を実施し、多くの視聴者を得た。(「ドン・キホーテ」及び「くるみ割り人形」)

- ・公演中止となった「ニューイヤー・バレエ」では無観客上演・ライブ配信を実施し、最大同時視聴件数 15 万 6,338 回を得た。

### ③現代舞踊

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による公演中止や、客席の収容制限等により目標入場者数を達成することはできなかったが、2 公演 6 回(達成率 111.5%)の現代舞踊公演を実施した。
- ・実施した現代舞踊公演(2 公演)それぞれで目標入場者数を達成した(「Shakespeare THE SONNETS」で 81.1%、「舞姫と牧神たちの午後 2021」で 86.5%)

### ④演劇

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による公演中止や、客席の収容制限等により目標入場者数を達成することはできなかったが、4 公演 71 回の演劇公演を実施した。
- ・演劇公演「リチャード二世」は、第 28 回読売演劇大賞最優秀作品賞を受賞するなど高い評価を受けた。
- ・「イヌビト～犬人～」で 89%の入場率を達成した。
- ・新作上演 1 作品、海外の優れた戯曲の日本初演 1 作品(2 作品は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止)を上演した。
- ・複数年かけて舞台づくりに取り組む「こつこつプロジェクト」を継続して実施した。
- ・英国ロイヤルコート劇場と協力しての「劇作家ワークショップ」を継続して実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ロンドンでのリーディング公演は中止となったが、英国と日本をオンラインで繋いでの形態に変更し、取組を継続した。

### (3) 青少年等を対象とした公演

- ・主に青少年を対象とした公演等を 4 公演実施した。(3 公演については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止)

### (4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項

- ・共催、受託などによる公演等を 2 公演実施(3 公演については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止)。
- ・全国各地の文化施設等における公演を 10 公演実施。(オペラ 2 公演、バレエ 3 公演、現代舞踊 2 公演、演劇 4 公演については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止)
- ・国際文化交流公演については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。(オペラ 1 公演、バレエ 1 公演、演劇 1 公演、バレエ研修所 1 公演、演劇海外公演 1 公演)

### (5) 快適な観劇環境の形成

- ・演劇公演で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを実施した(令和 2 年度障害者による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)採択事業として)。

### (6) 広報・営業活動の充実

- ・ホームページと SNS (Facebook、Twitter、Instagram)を連動させ、動画も活用して積極的に情報発信に努めた。
- ・講座等イベントを開催して公演周知に努め、終了後は概要やダイジェスト映像をホームページに掲出した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大による公演の中止や内容変更、感染症対策の実施について細やかな発信を行った。

### (7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信した。

<b>課題と対応</b>	・上演機会の少ない公演の営業計画については、更なる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。
--------------	---

### 〈3〉日本博の運営・実施

自己評定	<b>A</b>
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大と東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会延期の影響の中、日本博事業の運営・実施・プロモーション業務を、多くの事業実施団体、他の国立文化施設、民間団体、企業等とともに連携して推進した。</li> <li>・特に、新たな環境に対応したデジタルコンテンツ等を用いた国内外への幅広い広報、プロモーションについて、様々な試行・実施を行い、今後につながるノウハウの蓄積等の成果を挙げていると考えられる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、中止・延期・実施方法変更など事業の見直しを迅速・的確に行うとともに、ライブ配信を含む動画の収録とオンライン配信、テレビ放送、VR映像の公開等、新たな手法による成果の積極的な発信を行った。</li> <li>・イノベーション型プロジェクト(公募助成型)についても新たに日本博事務局において公募・執行し、日本博の運営等を円滑に実現する上で成果を挙げていると考える。</li> <li>・日本博の駅広告「日本博 JAPAN CULTURAL EXPO」(令和2年3月東京駅)がジェイアール東日本企画主催「交通広告グランプリ 2020」駅メディア部門の優秀作品賞を受賞。</li> </ul>
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	数値目標なし
主要な業務実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本博主催・共催型プロジェクトとして公募を行い、61件を採択した。また、公募助成型であるイノベーション型プロジェクトについて、当年度より文化庁に代わり日本博事務局において公募を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、イノベーション型プロジェクトは2次にわたって公募し、合計48件を採択した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大とそれに伴う東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会延期に影響により、多くのプロジェクトが予定どおりの実施が困難な状況の中、文化庁と協議の上で次に掲げる方針のもとに、関係団体間で相談・調整をしつつ、効果的な事業実施に資する対応を行った。特に、中止等となったプロジェクトの多くで多言語映像コンテンツを制作・配信し、コロナ後の新たな環境を見据えた試行的取組としても成果を挙げた。             <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しつつ、極力開催する。</li> <li>b. 必要な場合は、開催時期・開催場所を変更するなどの調整を行う。</li> <li>c. 中止・延期せざるを得ないプロジェクトについては、可能な範囲で多言語映像コンテンツの制作・配信等を行う。</li> </ul> </li> <li>・「日本博」皇居外苑特別公演(3/12-3/14)は、皇居二重橋を背景とした特設会場で初めて伝統芸能を上演するプロジェクトであり、皇居やその周辺で能狂言等が上演される催しとしても約100年ぶりの試みであった。このプロジェクトを成功させるため、振興会内関係部署、民間団体、企業等とともに企画・実施に取り組み、感染症対策に万全を期しつつ実施した。また、ライブ配信・オンデマンド配信を併用し、本プロジェクトを中心に「日本博広報番組」を制作・放送・配信し、コロナ後の新たな環境を見据えた試行的取組としても成果を挙げた。</li> <li>・公式サイトをリニューアルし、「デジタルギャラリー」(掲載動画・VRコンテンツ75本)、「YouTube日本博チャンネル」(配信動画99本)などを新設して、コロナ後の新たな環境を見据えた国内観光需要の喚起・インバウンド需要回復に向けた取組を推進した。</li> <li>・海外へ情報を発信するため、在日の海外メディアやインフルエンサーを活用したプロモーションを試行的に行い、令和3年度に活かすこととした。</li> <li>・日本博の広報及びプロモーションのため、日本博事業の採択・認証団体と協力・調整しながら、キービジュアル・広報番組・PR動画を制作し、公式サイトや公</li> </ul>



	<p>式SNS、テレビ・配信サイト、新聞等の多様な媒体により国内外に向けて情報発信を積極的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS (Twitter、Facebook等)、テレビ、新聞などとのタイアップ広告を行った。</li> <li>・ 日本博の主なラインナップについて、フォーリンプレスセンター等から複数回にわたりプレスリリースを行い、また、主なラインナップ・事業紹介リーフレットを作成し、全国へ配布した。</li> <li>・ 文化庁が主催する会議である、文化庁「日本博」企画委員会や「日本博」審査・評価委員会、「日本博」に関する文化庁及び国立文化施設等関係者連絡会の開催準備や運営等に精力的に協力した。</li> <li>・ 国立劇場が位置する皇居周辺の各機関と連携協力し、「日本博」の各種イベントを掲載した「皇居周辺・日本橋エリアアートマップ」を引き続き作成、関係各所に配布した。</li> <li>・ 日本博の文化的・社会的・経済的効果等の検証について、委託業者と契約を結び、各事業者へのアンケート調査・ヒアリング等を実施し、基本方針や指標の再検証及び各調査結果等に基づく検証を実施した。</li> <li>・ 日本博の駅広告「日本博JAPAN CULTURAL EXPO」（令和2年3月東京駅）がジェイアール東日本企画主催「交通広告グランプリ2020」駅メディア部門の優秀作品賞を受賞。</li> </ul>
<p><b>課題と対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当年度の成果を活かしつつ、本番年として位置づけられる令和3年度事業の一層の充実とコロナ後の新たな環境を見据えた国内観光需要の一層の喚起とインバウンド需要の回復に資する映像コンテンツの発信等を推進する。</li> </ul>



(1) 伝統芸能の公開	p.28
ア 主催公演の実施	p.29
①歌舞伎	p.31
②文楽	p.35
③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等	p.40
舞踊	p.43
邦楽	p.44
雅楽	p.45
声明	p.46
民俗芸能	p.47
琉球芸能	p.47
特別企画	p.48
④大衆芸能	p.51
定席公演(上席・中席)	p.54
若手新人公演(花形演芸会)	p.56
新春国立名人会／国立名人会	p.58
特別企画公演	p.60
浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会	p.62
⑤能楽	p.65
定例公演	p.68
普及公演	p.70
企画公演、鑑賞教室	p.71
⑥組踊等沖縄伝統芸能	p.75
⑦公演動画等の配信	p.82
イ 演目の拡充	p.84



## 2 - (1) 伝統芸能の公開

### 《中期計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (1) 伝統芸能の公開

つとめて伝承のままの姿で伝統芸能の公開を行い、その適切な保存と振興を図る

- ア 歌舞伎公演：筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作等の上演、解説を付した公演等の実施
- イ 文楽公演：「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施
- ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演：質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性の高い公演等の実施
- エ 大衆芸能公演：寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施
- オ 能楽公演：伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施
- カ 組踊等沖縄伝統芸能公演：上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施

### 《年度計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (1) 伝統芸能の公開

- ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、別表 1 のとおり主催公演を実施、日本博に関連した公演を企画
- イ 演目の拡充
  - ①歌舞伎：復活等の上演に際して「国立劇場文芸研究会」において補綴、台本を作成。新作脚本募集について、周知及び募集を実施
  - ②文楽：新作の上演に向けて上演台本作成作業を実施、上演が途絶えていた場面の復活上演を準備
  - ③舞踊・邦楽：新作委嘱作品の上演
  - ④大衆芸能：新作脚本募集事業に関し、これまでの入選作品から上演可能と考えられるものの上演について検討
  - ⑤能楽：国立能楽堂で制作初演された新作・復曲作品の再演、他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演
  - ⑥組踊等沖縄伝統芸能：上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演、「創作舞踊大賞」として琉球舞踊の新作を公募し、選考・表彰の実施

### 《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 伝統芸能の公開の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	123 公演 (H25-29 実績平均：183.8 公演)
2-6 伝統芸能の公開について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	

ア 主催公演の実施

《公演実績(伝統芸能分野総計)》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

分野名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場							
歌舞伎	5 公演 (計画:5 公演)	実績	191 回	113 日	61,628 人	44.7%	137,966	125.1%
	本館大劇場	計画	114 回	114 日	49,263 人	59.8%	82,354	
文楽	6 公演 (計画:6 公演)	実績	298 回	104 日	58,696 人	64.5%	90,959	122.4%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	213 回	105 日	47,944 人	74.0%	64,806	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	9 公演 (計画:9 公演)	実績	18 回	11 日	4,876 人	76.8%	6,350	85.6%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	18 回	12 日	5,695 人	70.5%	8,084	
舞踊	3 公演 (計画:3 公演)	実績	6 回	3 日	1,652 人	78.8%	2,096	132.6%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	5 回	3 日	1,246 人	72.5%	1,719	
邦楽	3 公演 (計画:3 公演)	実績	7 回	4 日	1,637 人	78.9%	2,074	177.0%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	4 回	4 日	925 人	76.9%	1,202	
雅楽	1 公演 (計画:1 公演)	実績	2 回	1 日	609 人	80.8%	754	226.9%
	本館小劇場	計画	1 回	1 日	268 人	71.2%	377	
声明	0 公演 (計画:0 公演)	実績						
	本館大劇場	計画						
民俗芸能	0 公演 (計画:0 公演)	実績						
	本館小劇場	計画						
琉球芸能	0 公演 (計画:0 公演)	実績						
	本館小劇場	計画						
特別企画	2 公演 (計画:2 公演)	実績	3 回	3 日	978 人	68.6%	1,426	30.0%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	8 回	4 日	3,256 人	68.0%	4,786	
大衆芸能	47 公演 (計画:39 公演)	実績	265 回	201 日	18,418 人	45.7%	40,310	96.0%
	演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール	計画	201 回	198 日	19,182 人	61.3%	31,285	
能楽	39 公演 (計画:39 公演)	実績	44 回	44 日	16,399 人	95.4%	17,186	102.4%
	能楽堂	計画	44 回	44 日	16,013 人	93.2%	17,186	
小計	106 公演 (計画:98 公演)	実績	816 回	473 日	160,017 人	54.7%	292,771	115.9%
		計画	590 回	473 日	138,097 人	67.8%	203,715	
組踊等 沖縄伝統芸能	17 公演 (計画:17 公演)	実績	25 回	21 日	6,566 人	73.4%	8,941	106.6%
	国立劇場おきなわ 大小劇場	計画	24 回	21 日	6,158 人	71.2%	8,654	
総合計	123 公演 (計画:115 公演)	実績	841 回	494 日	166,583 人	55.2%	301,712	115.5%
		計画	614 回	494 日	144,254 人	67.9%	212,369	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、政府・自治体の要請により、一部公演を中止し、又は、座席数を大幅に制限して販売した。そのため、公演中止や販売制限を勘案した公演計画によることとする。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

※以下、計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

《公演実績(伝統芸能分野総計)》(年度当初の公演計画)

分野名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
歌舞伎	5 公演 (計画:7 公演)		実績	191 回	113 日	61,628 人	44.7%	137,966	29.6%
	本館大劇場		計画	196 回	155 日	208,150 人	69.9%	297,920	
文楽	6 公演 (計画:11 公演)		実績	298 回	104 日	58,696 人	64.5%	90,959	32.7%
	本館小劇場、文楽劇場		計画	373 回	176 日	179,710 人	74.4%	241,610	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	9 公演 (計画:20 公演)		実績	18 回	11 日	4,876 人	76.8%	6,350	22.0%
	本館大小劇場、文楽劇場		計画	37 回	26 日	22,210 人	72.4%	30,677	
舞踊	3 公演 (計画:3 公演)		実績	6 回	3 日	1,652 人	78.8%	2,096	75.1%
	本館小劇場、文楽劇場		計画	5 回	3 日	2,200 人	70.4%	3,124	
邦楽	3 公演 (計画:4 公演)		実績	7 回	4 日	1,637 人	78.9%	2,074	67.9%
	本館小劇場、文楽劇場		計画	5 回	5 日	2,410 人	77.4%	3,113	
雅楽	1 公演 (計画:1 公演)		実績	2 回	1 日	609 人	80.8%	754	145.0%
	本館小劇場		計画	1 回	1 日	420 人	71.2%	590	
声明	0 公演 (計画:1 公演)		実績						
	本館大劇場		計画	1 回	1 日	1,130 人	70.2%	1,610	
民俗芸能	0 公演 (計画:2 公演)		実績						
	本館小劇場		計画	3 回	2 日	1,190 人	67.2%	1,770	
琉球芸能	0 公演 (計画:1 公演)		実績						
	本館小劇場		計画	2 回	1 日	1,080 人	91.5%	1,180	
特別企画	2 公演 (計画:8 公演)		実績	3 回	3 日	978 人	68.6%	1,426	7.1%
	本館大小劇場、文楽劇場		計画	20 回	13 日	13,780 人	71.4%	19,290	
大衆芸能	47 公演 (計画:64 公演)		実績	265 回	201 日	18,418 人	45.7%	40,310	35.8%
	演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール		計画	293 回	289 日	51,490 人	60.8%	84,687	
能楽	39 公演 (計画:53 公演)		実績	44 回	44 日	16,399 人	95.4%	17,186	41.1%
	能楽堂		計画	68 回	62 日	39,935 人	93.7%	42,636	
小計	106 公演 (計画:155 公演)		実績	816 回	473 日	160,017 人	54.7%	292,771	31.9%
			計画	967 回	708 日	501,495 人	71.9%	697,530	
組踊等 沖縄伝統芸能	17 公演 (計画:30 公演)		実績	25 回	21 日	6,566 人	73.4%	8,941	39.5%
	国立劇場おきなわ 大小劇場		計画	41 回	37 日	16,632 人	70.0%	23,750	
総合計	123 公演 (計画:185 公演)		実績	841 回	494 日	166,583 人	55.2%	301,712	32.2%
			計画	1,008 回	745 日	518,127 人	71.8%	721,280	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

## ① 歌舞伎

### 《制作方針》

これまでの歌舞伎公演は、「通し狂言」の上演を基本とし、上演の稀な作品や場面を発掘する「復活狂言」を積極的に企画してきたが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、当年度の10月から3月の公演については、感染拡大防止の観点から販売座席数を通常の半分に制限し、来場者・出演者・スタッフの劇場滞在時間が長時間に及ばないように、上演時間の比較的短い作品を取り上げ、十分な感染対策を講じた上で公演を実施する。

また、青少年等を対象とした公演として、6・7月に解説を付した公演を行う。6月は東京公演の後、静岡・神奈川において移動公演を実施する。7月は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催期間に合わせて、外国人向けの公演を拡充して実施する。

以上により、歌舞伎の保存・振興を図る。

(6・7月に予定していた「歌舞伎鑑賞教室」は、学校単位での団体観劇が多いことに鑑み、感染症拡大防止のため中止した。)

○

10月歌舞伎公演は二部制の公演形態で実施する。第一部は中村梅玉を座頭に迎え、義太夫狂言の名作「ひらかな盛衰記」の中から“鎌倉一の風流男”と称される色男・梶原源太景季の悲哀を描く「源太勘当」を上演する。また、松本幸四郎を中心に、コロナ禍で芸能活動が制限されがちな現況を巧みに取り入れた新作舞踊劇「幸希芝居遊」を上演する。第二部は尾上菊五郎を座頭に迎え、菊五郎劇団を中心とする息の合った俳優陣によって、同劇団が得意とする世話物の傑作「新皿屋舗月雨暈一魚屋宗五郎一」を上演する。また、舞踊「太刀盗人」では、尾上松緑を中心とした中堅・若手俳優たちが澁漉とした舞台を見せる。令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演として、各部とも充実した配役で、芸術の秋にふさわしい名舞台を提供する。

11月歌舞伎公演も二部制で上演する。第一部は中村吉右衛門を座頭に迎え、近松門左衛門の名作「平家女護島」を上演する。単独での上演頻度が高い「鬼界ヶ島」の前に、俊寛の妻・東屋の自害を描く「清盛館」をつけて上演することで、俊寛の悲劇的な境遇をより浮き彫りにし、観客の理解が深まることを狙う。第二部は片岡仁左衛門を座頭に迎え、義太夫狂言の人気作「彦山権現誓助剣」を上演する。「杉坂墓所」から丁寧に上演することで、「毛谷村」の背景を分かりやすく伝えることを心掛ける。合わせて、舞踊「文売り」「三社祭」を上下で上演し、歌舞伎のパラエティーの豊かさを伝えられるような舞台作りを目指す。第一部は令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演、第二部は芸術祭協賛公演として、磨き上げた至芸による充実の舞台を提供する。

12月歌舞伎公演も二部制で上演する。第一部は中村時蔵、中村芝翫、尾上松緑という顔合せで、幕末の退廃的な世相を反映した河竹黙阿弥の「白浪物」の代表作「三人吉三巴白浪」を取り上げ、「大川端」「吉祥院」「火の見櫓」という簡潔な場面構成で上演する。第二部は松本白鸚を座頭に迎え、中村梅玉をはじめとする充実の共演者を得て、河竹黙阿弥の明治期の代表作「天衣紛上野初花」を、河内山宗俊の活躍が描かれる「上州屋」「松江邸」という場面構成で上演する。合わせて、舞踊「鶴亀」「雪の石橋」を上下で上演し、歌舞伎の多様な魅力を提供する。

初春歌舞伎公演は尾上菊五郎を座頭に迎え、一部制の公演形態で実施する。初芝居ならではの晴れやかさや楽しさを十分に堪能できる作品として、過去の上演作の中から、当劇場で平成23年1月に初演以来196年ぶりに復活上演した「四天王御江戸鑑」を上演演目に選定し、休憩を含めて3時間程度の上演時間を想定して場面を再構成した上で、通し狂言のエッセンスを凝縮して提供する。

3月歌舞伎公演は、近年、線の太い立役にも次々に挑み、意欲的に芸域を広げつつある花形の尾上菊之助を中心とする座組で、四世鶴屋南北の時代物の傑作「時今也桔梗旗揚」を上演する。公演名を「歌舞伎名作入門」と銘打ち、日頃歌舞伎に縁の薄い一般の歌舞伎初心者を中心にターゲットとして、20分程度の演目解説「入門 歌舞伎の“明智光秀”」を本編の上演前に提供することで、歌舞伎初心者を無理なく作品の世界へ誘えるよう工夫を凝らす。



## (a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
10月歌舞伎公演 ひらかな盛衰記・幸希芝居遊 ／新皿屋舗月雨暈・太刀盗人	本館 大劇場	10/4～27	実績	46回	23日	12,066人	36.3%	33,212	132.3%
			計画	23回	23日	9,120人	54.9%	16,606	
11月歌舞伎公演 平家女護島／彦山権現誓助 剣・文売り・三社祭	本館 大劇場	11/2/～25	実績	40回	22日	17,515人	60.6%	28,920	221.8%
			計画	22回	22日	7,896人	49.6%	15,906	
12月歌舞伎公演 三人吉三巴白浪／天衣紛上 野初花・鶴亀・雪の石橋	本館 大劇場	12/3～26	実績	46回	23日	11,062人	33.3%	33,212	97.4%
			計画	23回	23日	11,353人	68.4%	16,606	
1月歌舞伎公演 通し狂言「四天王御江戸鏡」	本館 大劇場	1/3～27	実績	24回	24日	10,035人	57.8%	17,352	77.6%
			計画	24回	24日	12,938人	74.6%	17,352	
3月歌舞伎公演《歌舞伎名 作入門》 入門 歌舞伎の”明智光秀”・ 「時今也桔梗旗揚」	本館 大劇場	3/3～27	実績	35回	21日	10,950人	43.3%	25,270	137.6%
			計画	22回	22日	7,956人	50.1%	15,884	
歌舞伎公演【小 計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	191回	113日	61,628人	44.7%	137,966	125.1%
			計画	114回	114日	49,263人	59.8%	82,354	
6月歌舞伎鑑賞教室 ※公演中止	本館 大劇場	6/2～21	実績						
			計画						
7月歌舞伎鑑賞教室 ※公演中止	本館 大劇場	7/3～27	実績						
			計画						
歌舞伎鑑賞教室【小 計】 0 公演 (計画:0 公演)			実績						
			計画						
歌舞伎【合 計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	191回	113日	61,628人	44.7%	137,966	125.1%
			計画	114回	114日	49,263人	59.8%	82,354	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

## (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
10月歌舞伎公演 ひらかな盛衰記・幸希芝居遊 ／新皿屋舗月雨暈・太刀盗人	本館 大劇場	10/4～27	実績	46回	23日	12,066人	36.3%	33,212	62.8%
			計画	23回	23日	19,200人	54.9%	34,960	
11月歌舞伎公演 平家女護島／彦山権現誓助 剣・文売り・三社祭	本館 大劇場	11/2/～25	実績	40回	22日	17,515人	60.6%	28,920	105.5%
			計画	22回	22日	16,600人	49.6%	33,440	
12月歌舞伎公演 三人吉三巴白浪／天衣紛上 野初花・鶴亀・雪の石橋	本館 大劇場	12/3～26	実績	46回	23日	11,062人	33.3%	33,212	46.3%
			計画	23回	23日	23,900人	68.4%	34,960	

1月歌舞伎公演 通し狂言「四天王御江戸鏡」	本館 大劇場	1/3~27	実績	24回	24日	10,035人	57.8%	17,352	36.9%
			計画	24回	24日	27,200人	74.6%	36,480	
3月歌舞伎公演《歌舞伎名作入門》 入門 歌舞伎の「明智光秀」・「時今也桔梗旗揚」	本館 大劇場	3/3~27	実績	35回	21日	10,950人	43.3%	25,270	65.4%
			計画	22回	22日	16,750人	50.1%	33,440	
歌舞伎公演【小計】5公演 (計画:5公演)			実績	191回	113日	61,628人	44.7%	137,966	59.5%
			計画	114回	114日	103,650人	59.8%	173,280	
6月歌舞伎鑑賞教室 ※公演中止	本館 大劇場	6/2~21	実績						
			計画	40回	20日	49,500人	81.4%	60,800	
7月歌舞伎鑑賞教室 ※公演中止	本館 大劇場	7/3~27	実績						
			計画	42回	21日	55,000人	86.2%	63,840	
歌舞伎鑑賞教室【小計】0公演 (計画:2公演)			実績						
			計画	82回	41日	104,500人	83.8%	124,640	
歌舞伎【合計】5公演 (計画:7公演)			実績	191回	113日	61,628人	44.7%	137,966	29.6%
			計画	196回	155日	208,150人	69.9%	297,920	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### (b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、第1回は書面開催、第2回はオンライン開催とした。

#### (c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
-	785人	785人	755人	-	96.2%

※全5公演でウェブアンケートを実施した。

#### (d) 優れた業績・評価すべき点

- ・外部専門家の意見では、各公演とも内容にそれぞれ工夫が感じられ、レベルの高い舞台が多かったとの評価を得た。
- ・10月は、第一部「ひらかな盛衰記一源太勘当一」で中村梅玉ら、第二部「新皿屋舗月雨暈一魚屋宗五郎一」で尾上菊五郎らが、それぞれの当たり役を勤めることにより文化庁芸術祭主催公演にふさわしい品格ある舞台となった。第一部「幸希芝居遊」は、コロナ禍に見舞われる中での新作の上演という挑戦的な試みであったが、準備期間の短期中、松本幸四郎を中心にスタッフ一丸となって取り組み、高い舞台成果を得られた。第二部「太刀盗人」では若手を積極的に起用した。
- ・11月は、中村吉右衛門らによる第一部「平家女護島」、片岡仁左衛門らによる第二部「彦山権現誓助剣」で当代第一線の俳優陣が至芸を見せ、文化庁芸術祭主催公演(第一部)・協賛公演(第二部)にふさわしい上質な舞台となった。「平家女護島」序幕「清盛館」は、簡潔に補綴されて物語の重層化に寄与したとの評価を受けた。第二部「三社祭」では若手俳優陣が躍動し、公演全体として人間国宝から花形若手まで幅広い世代が活躍する姿を提供できた。片岡仁左衛門が「彦山権現誓助剣」毛谷村六助の演技により第28回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞した。
- ・12月は、第一部・第二部ともに河竹黙阿弥の代表作を取り上げ、幕末に創られた退廃美あふれる「三人吉三巴白浪」と明治に創られた「天衣紛上野初花」の見比べが興味深い狂言立てと評価された。第二部「天衣紛上野初花」は、松本白鸚の河内山と中村梅玉の松江侯の顔合せによる舞台の充実ぶりに高評価が寄せられた。舞踊二題のうち、「鶴亀」では病氣療養を続けていた中村福助の約7年ぶりの当劇場舞台復帰、「雪の石橋」では花形若手による澁漵とした舞台で、明るい話題を提供できた。
- ・1月は、コロナ禍の状況下で様々な制約が続く中、休憩を挟む形で「通し狂言」の形態で公演を実施し、歌舞伎の保存・振興を責務とする当劇場の存在意義を改めて示す機会となった。10年前に初演以来196年ぶりに復活した「四天王御江戸鏡」を取り上げ、初春歌舞伎らしい娯楽性や立廻りなどの見

せ場を残しつつ、休憩を含めて3時間以内に台本を整理した手際の良さが高く評価された。尾上菊五郎劇団を中心とするチームワークの良さと高い舞台成果を挙げた。

- ・3月は、「歌舞伎名作入門」と銘打ち、日頃歌舞伎に縁の薄い一般の観劇初心者が無理なく名作を鑑賞できるよう、本編上演前に解説を付けて上演したことが評価され、SNS等でも話題になった。中村吉右衛門を監修に迎え、尾上菊之助が「時今也桔梗旗揚」の武智光秀を初役で勤めたことが大きな話題となり、芸の継承の面でも意義深い公演となった。

#### 【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(10月歌舞伎第一部・第二部、11月歌舞伎第一部)
- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(11月歌舞伎第二部)
- ・beyond2020プログラム認証事業(全公演)
- ・「日本博」参画プロジェクト(全公演)
- ・稽古開始前に出演者・スタッフを対象としたPCR検査を実施(全公演)
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LOD)申請。公演内容を短くまとめて英文を付した映像を海外へ向けて無料配信した。(11月第二部、12月、1月、3月)
- ・「文化芸術収益力強化事業」として文化庁の委託を受け、公演のデジタルコンテンツ配信を行った。コロナ禍における「新たな生活様式」に対応した舞台芸術鑑賞機会を設け、歌舞伎公演記録映像の有料配信を行うことで、課金配信を通じた新たな収益源確保の手段を調査、検証。(12月)
- ・出演者の新型コロナウイルス感染のため、第二部のみ11月22日以降の公演を中止し、払戻しを実施。出演者、付人、衣裳・床山業者計9名が濃厚接触者に指定され、12月5日までの自宅待機を要請された(11月)
- ・新型コロナウイルス濃厚接触者に指定されていた出演者1名が12月6日より舞台復帰。別の出演者1名が新型コロナウイルス濃厚接触者に指定され、12月16～19日休演。衣裳スタッフ1名が新型コロナウイルス濃厚接触者に指定され、12月20日以降千穂楽まで出勤停止。(12月)

## ② 文 楽

### 《制作方針》

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場面を積極的に取り上げ、文楽技芸員にとり、次世代への技芸の継承やレパートリー拡充つながらよう、また観客に対しても文楽の作品の多様さを伝えられるように努める。

また、解説を付した鑑賞教室を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムの実施に向け、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。

○

本館 5 月公演では、浄瑠璃三大名作の一つである「義経千本桜」を通し上演し、現在の文楽座の総力を結集した公演とする。3 月国立劇場小劇場の歌舞伎公演、4 月国立文楽劇場の文楽公演に続き、三か月連続して歌舞伎・文楽による「義経千本桜」の通し上演という国立劇場ならではの企画として、世間の耳目を集める画期的な公演とする(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に合わせ、通常は国立文楽劇場において 7 月下旬から 8 月上旬にかけて開催されている「夏休み文楽公演」を、8 月上旬に国立劇場でも開催する。三部制とし、第一部は「親子劇場」とし、お子様はもちろん、大人の文楽ファンの方にもお楽しみいただける親しみやすい民話を題材とした作品を東京公演で初めて上演する。第二部は「Discover BUNRAKU～文楽入門公演～」と題し、文楽に初めて触れられる方、また日本を訪れる外国人の方にも親しんでいただけるよう、コンパクトな時間に分かりやすい解説を付けて文楽の魅力にいざない、オリンピック観戦に東京を訪れた観光客の誘致をもくろむ。また上演する「曾根崎心中」は、今年が脚色・作曲をした野澤松之輔の四十五年祭にあたることもあり、その業績をしのぶ企画ともする。第三部は「名作劇場」で文楽愛好家が文楽の醍醐味を心行くまでご鑑賞いただける構成とする(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)。

9 月公演は、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で、初めての「四部制」で再開する。短めの上演時間で鑑賞しやすい名作の数々を各部にそろえ、文楽の醍醐味を堪能していただく。また、第四部は、外国人も含めた初心者向けの公演として企画する。

12 月公演は、新型コロナウイルス感染症対策を講じるため、従来は一部制の公演を二部制で上演する。客席の消毒等に必要の入替時間を確保するために、第一部・第二部それぞれに約 90 分で上演する。また、例年どおり幹部クラスの技芸員が出演せず、中堅若手技芸員が普段以上の大役や難役に挑戦し、今後の技芸の向上につなげることを目指す。

2 月公演は、昨年 11 月に鶴澤清治が文楽三味線弾きとして初めて文化功労者に顕彰されたが、2 月文楽公演はその記念公演として第 1 部で大曲「伽羅先代萩」御殿の段を演奏するなど、各部に名作を揃えて上演する。従来より三部制を採用しているが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言に対応して、終演時刻を 20 時以前にするために、当初予定されていた開演時間を切り上げて開催する。

文楽劇場では、4 月文楽公演に「義経千本桜」(延享 4 年[1747]初演)の通し上演を企画する。人形浄瑠璃で初演され歌舞伎でも演じられる「三大名作」のひとつである。発端の大序から通し狂言として上演できる貴重な演目のひとつでもあり、文楽にとっては財産である。国立文楽劇場では昭和 59 年[1984]4 月の開場記念・第 1 回文楽公演に取り上げたのをはじめ、平成 9 年 4 月、同 16 年 4 月と過去 3 回通し狂言として上演している。ところが近年、文楽劇場での文楽公演では部分上演をすることが多く、このことにより、観客にとっては作品のスケールの大きな世界感が理解しにくくなり、また技芸員にとっては通し上演でなければ上演できない場面の伝承の機会が失われていた。今回は平成 9 年以来 23 年ぶりとなる「大序 仙洞御所の段」「北嵯峨の段」を含む本格的な通し上演の構成とし、観客へは物語の全体像を示し、技芸員にとっては技芸の伝承を図ることを意図して企画した(新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため中止)。7 月は例年夏休み文楽特別公演と題し、7 月末から 8 月初めの月跨ぎの公演を実施していたが、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催(新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため延期)に合わせて 7 月のみの公演とし、8 月は東京で同一演目同一配役による公演を予定。内容は、例年どおりの 3 部制として、第一部は「親子劇場」で文楽劇場が初演した「舌切雀」、東京本公演では初めてとなる「瓜子姫とあまんじゃく」の上演。第二部(近松劇場)では、現代の文楽にとって作曲で功績のあった野澤松之輔の没後 45 年をしのいで、代表作「曾根崎心中」を上演。第三部(名作劇場)は、重厚な時代物の名作「ひらかな盛衰記」と刀剣小狐丸の由来脚色した「小鍛冶」を選ぶ(新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため公演中止)。錦秋公演及び初春公演は従来 2 部制であったが新型コロナウイルス感染症対策とし

て、いずれも3部制とする。10月から11月までの月跨ぎの錦秋公演では、3部制で上演時間2時間30分程度であっても、観客に文楽鑑賞の満足感を得られる演目を選定する。第一部は「平家物語」や「源平盛衰記」を題材にした時代物「源平布引滝」より三段目を上演。第二部「新版歌祭文」では平成21年初春公演以来となる場面を、第三部「本朝廿四孝」では平成17年11月以来となる場面を上演し、演目の継承にも努める。令和3年初春公演では、鶴澤清治の文化功労者顕彰記念と題し、第一部は、丑歳にちなんだ「菅原伝授手習鑑」、第二部は笑いと華やかな廓場が舞台となる「碁太平記白石嘶」と鶴澤清治が指導者として力量を発揮する「義経千本桜」「道行初音旅」を上演する。第三部は時代物の名作「妹背山婦女庭訓」の四段目から娘お三輪の叶わぬ恋を描く場面を上演する。6月には、若年層を対象とした文楽鑑賞教室、一般向けの「大人のための文楽入門」、外国人向けの「Discover BUNRAKU」を企画し、一般向け・外国人向け公演については案内役を起用した分かりやすい解説を付け、文楽の一層の普及振興を図る(新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため公演中止)。

(a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月文楽公演 通し狂言「義経千本桜」 ※公演中止	本館 小劇場	5/9～25	実績						
			計画						
8月文楽特別公演 「舌切雀」「文楽へのごあない」 「瓜子姫とあまんじゃく」/「解説 文楽の魅力」「曾根崎心中」/「ひ らかな盛衰記」「小鍛冶」 ※公演中止	本館 小劇場	8/3～9	実績						
			計画						
9月文楽公演 「寿二人三番叟」「姫山姥」/「鍵 の権三重帷子」/「絵本太功記」/ 解説「文楽をはじめよう」/「壺坂観 音霊験記」	本館 小劇場	9/5～22	実績	65回	17日	11,052人	70.8%	15,600	142.3%
			計画	36回	18日	7,766人	89.9%	8,640	
12月若手文楽公演 「仮名手本忠臣蔵」/「桂川連理 柵」	本館 小劇場	12/3～15	実績	25回	13日	5,973人	95.6%	6,250	191.4%
			計画	13回	13日	3,121人	96.0%	3,250	
2月文楽公演 五条橋・伽羅先代萩/曲輪樟・ 菅原伝授手習鑑/冥途の飛脚	本館 小劇場	2/6～22	実績	51回	17日	12,091人	84.7%	14,280	109.5%
			計画	51回	17日	11,040人	77.3%	14,280	
文楽(本館)【小 計】 3 公演 (計画:3 公演)			実績	141回	47日	29,116人	80.6%	36,130	132.8%
			計画	100回	48日	21,926人	83.8%	26,170	
12月文楽鑑賞教室 「二人禿/解説 文楽の魅力/ 芦屋道満大内鑑」	本館 小劇場	12/3～15	実績	25回	13日	5,611人	89.8%	6,250	97.0%
			計画	25回	13日	5,787人	92.6%	6,250	
文楽鑑賞教室(本館)【小計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	25回	13日	5,611人	89.8%	6,250	97.0%
			計画	25回	13日	5,787人	92.6%	6,250	
文楽(本館)【合 計】 4 公演 (計画:4 公演)			実績	166回	60日	34,727人	81.9%	42,380	125.3%
			計画	125回	61日	27,713人	85.5%	32,420	
4月文楽公演 通し狂言「義経千本桜」 ※公演中止	文楽 劇場	4/4～26	実績						
			計画						
夏休み文楽特別公演 「舌切雀」/「解説 文楽ってなあ に?」/「瓜子姫とあまんじゃく」/	文楽 劇場	7/18～28	実績						
			計画						

「曾根崎心中」/「ひらかな盛衰記」/「小鍛冶」 ※公演中止									
錦秋文楽公演 「源平布引滝」/「新版歌祭文」 「釣女」/「本朝廿四孝」	文楽劇場	10/31～11/23	実績	69回	23日	12,676人	62.3%	20,355	165.3%
			計画	46回	23日	7,668人	56.5%	13,570	
初春文楽公演 菅原伝授手習鑑/基太平記白石 嘶・義経千本桜/妹背山婦女庭訓	文楽劇場	1/3～24	実績	63回	21日	11,293人	40.0%	28,224	89.9%
			計画	42回	21日	12,564人	66.8%	18,816	
文楽(文楽劇場)公演 【小計】	2公演	(計画:2公演)	実績	132回	44日	23,969人	49.3%	48,579	118.5%
			計画	88回	44日	20,231人	62.5%	32,386	
6月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、 「夏祭浪花鑑」 ※公演中止	文楽劇場	6/5～18	実績						
			計画						
文楽(文楽劇場)鑑賞教室 【小計】	0公演	(計画:0公演)	実績						
			計画						
文楽(文楽劇場)【合計】	2公演	(計画:2公演)	実績	132回	44日	23,969人	49.3%	48,579	118.5%
			計画	88回	44日	20,231人	62.5%	32,386	
文楽【総合計】	6公演	(計画:6公演)	実績	298回	104日	58,696人	64.5%	90,959	122.4%
			計画	213回	105日	47,944人	74.0%	64,806	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

#### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月文楽公演 通し狂言「義経千本桜」 ※公演中止	本館 小劇場	5/9～25	実績						
			計画	34回	17日	17,120人	89.9%	19,040	
8月文楽特別公演 「舌切雀」「文楽へのごあんない」「瓜子 姫とあまんじゃく」/「解説 文楽の魅力」 「曾根崎心中」/「ひらかな盛衰記」/「小 鍛冶」 ※公演中止	本館 小劇場	8/3～9	実績						
			計画	21回	7日	10,400人	89.2%	11,662	
9月文楽公演 「寿二人三番叟」「姫山姥」/「鍵の権三 重帷子」/「絵本太功記」/解説「文楽を はじめよう」/「壺坂観音霊験記」	本館 小劇場	9/5～22	実績	65回	17日	11,052人	70.8%	15,600	61.0%
			計画	36回	18日	18,120人	89.9%	20,160	
12月若手文楽公演 「仮名手本忠臣蔵」/「桂川連理柵」	本館 小劇場	12/3～15	実績	25回	13日	5,973人	95.6%	6,250	85.5%
			計画	13回	13日	6,990人	96.0%	7,280	
2月文楽公演 五条橋・伽羅先代萩/曲輪樟・菅原伝 授手習鑑/冥途の飛脚	本館 小劇場	2/6～22	実績	51回	17日	12,091人	84.7%	14,280	54.8%
			計画	51回	17日	22,080人	77.3%	28,560	

文楽(本館)【小計】 3 公演 (計画:5 公演)			実績	141 回	47 日	29,116 人	80.6%	36,130	39.0%
			計画	155 回	72 日	74,710 人	86.2%	86,702	
12 月文楽鑑賞教室 「二人禿／解説 文楽の魅力／芦屋道満大内鑑」	本館 小劇場	12/3～15	実績	25 回	13 日	5,611 人	89.8%	6,250	43.8%
			計画	25 回	13 日	12,800 人	92.6%	13,825	
文楽鑑賞教室(本館)【小計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	25 回	13 日	5,611 人	89.8%	6,250	43.8%
			計画	25 回	13 日	12,800 人	92.6%	13,825	
文楽(本館)【合計】 4 公演 (計画:6 公演)			実績	166 回	60 日	34,727 人	81.9%	42,380	39.7%
			計画	180 回	85 日	87,510 人	87.1%	100,527	
4 月文楽公演 通し狂言「義経千本桜」 ※公演中止	文楽 劇場	4/4～26	実績	/	/	/	/	/	/
			計画	44 回	22 日	20,000 人	62.2%	32,164	
夏休み文楽特別公演 「舌切雀」「解説 文楽ってなあに？」 「瓜子姫とあまんじゃく」「曾根崎心中」 /「ひらかな盛衰記」「小鍛冶」 ※公演中止	文楽 劇場	7/18～28	実績	/	/	/	/	/	/
			計画	33 回	11 日	14,200 人	58.9%	24,123	
錦秋文楽公演 「源平布引滝」「新版歌祭文」「釣女」/ 「本朝廿四孝」	文楽 劇場	10/31～11/23	実績	69 回	23 日	12,676 人	62.3%	20,355	66.7%
			計画	46 回	23 日	19,000 人	56.5%	33,626	
初春文楽公演 菅原伝授手習鑑/基太平記白石噺・義 経千本桜/妹背山婦女庭訓	文楽 劇場	1/3～24	実績	63 回	21 日	11,293 人	40.0%	28,224	55.1%
			計画	42 回	21 日	20,500 人	66.8%	30,702	
文楽(文楽劇場)公演 【小計】 2 公演 (計画:4 公演)			実績	132 回	44 日	23,969 人	49.3%	48,579	32.5%
			計画	165 回	77 日	73,700 人	61.1%	120,615	
6 月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」、解説「文楽へようこ そ」、「夏祭浪花鑑」 ※公演中止	文楽 劇場	6/5～18	実績	/	/	/	/	/	/
			計画	28 回	14 日	18,500 人	90.4%	20,468	
文楽(文楽劇場)鑑賞教室 【小計】 0 公演 (計画:1 公演)			実績	/	/	/	/	/	/
			計画	28 回	14 日	18,500 人	90.4%	20,468	
文楽(文楽劇場)【合計】 2 公演 (計画:5 公演)			実績	132 回	44 日	23,969 人	49.3%	48,579	26.0%
			計画	193 回	91 日	92,200 人	65.4%	141,083	
文楽【総合計】 6 公演 (計画:11 公演)			実績	298 回	104 日	58,696 人	64.5%	90,959	32.5%
			計画	373 回	176 日	179,710 人	74.4%	241,610	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

## (b) 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を本館で第 1 回、第 2 回共に書面開催。
- ・ 公演専門委員会を文楽劇場では書類開催/3 月 17 日。

## (c) アンケート調査

《本館》

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
-	561 人	561 人	542 人	-	96.6%

《Discover BUNRAKU(東京公演)のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値

-	116人	116人 (9人)	114人 (9人)	-	98.3% (100%)
---	------	--------------	--------------	---	-----------------

※全4公演(9月、12月、12月教室、2月)でウェブアンケートを実施(「Discover BUNRAKU」を含む)。

#### 《文楽劇場》

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
219人	194人	193人	191人	88.6%	99.0%

※錦秋文楽公演、初春公演の2公演で計2回実施。

#### (d) 優れた業績・評価すべき点

- ・本館公演においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より販売座席数を制限し、上演時間に工夫が求められる状況に鑑み、過去前例のないコンパクトな公演の実施(9月:通常2部制→4部制、12月若手公演:1部制→2部制)で、新しい生活様式に即した公演形態を提示できた。
- ・9月公演、12月公演においては、新型コロナ感染症の拡大、出演者の感染による一部の公演中止、危機的な状況が続く中、消毒等の対応策を迅速かつ入念に講じた結果、一座内の感染拡大という最悪の事態を回避できた。
- ・2月公演においては緊急事態宣言下の開催ということで、開催が危ぶまれたが開演時間の変更など、感染予防の徹底等の対応で、公演の中止、途中休演者の発生を出すことなく開催できた。
- ・本館2月公演の鶴澤清治の勤めた「御殿の段」は、文化功労者顕彰記念にふさわしい重厚な演奏により、当代の文楽の水準を示す舞台となった。
- ・文楽劇場では、コロナ禍の中で2時間30分程度の比較的短い上演時間で文楽を鑑賞してもらうという方針のもと、当分の間3部制による公演構成を実施することとした。11月は、第一部を「源平布引滝」三段目の1本立て、第二部は「新版歌祭文」「野崎村の段」と「釣女」の2本立てとし、「野崎村」は大阪では11年ぶりにおみつの母を登場させた。第三部「本朝廿四孝」では、上演回数が多い「十種香の段」「奥庭狐火の段」に加え、通し上演でなければ上演の機会がない「道行似合の女夫丸」「景勝上使の段」「鉄砲渡しの段」を上演し、物語の背景を理解し易くした。初春公演では、第一部では「菅原伝授手習鑑」三段目を全段上演し、第二部では「碁太平記白石嘶」と鶴澤清治の文化功労者顕彰記念演目として「義経千本桜」「道行初音旅」を上演した。第三部は、「妹背山婦女庭訓」の四段目を「道行恋苧環」から「金殿の段」までを上演し、娘お三輪の悲劇の物語が中心となるような構成とした。

#### 【特記事項】

- ・「日本博」主催・共催型プロジェクト(文楽劇場6月、1公演)が、新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため中止となる。
- ・「日本博」参画プロジェクト(文楽劇場1月文楽公演)
- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場11月公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・beyond2020プログラム認証事業(全公演)
- ・各公演とも、字幕表示装置により義太夫の詞章を表示した。
- ・上演機会の少ない場面の上演等(文楽劇場錦秋文楽公演「本朝廿四孝」(「道行似合の女夫丸」「景勝上使の段」「鉄砲渡しの段」:15年ぶりの上演)
- ・出演者一名に新型コロナウイルス感染の疑いがあったため、9月5日から11日まで当人の休演・自宅待機とした(結果は陰性)。同様にスタッフに感染の疑いがあり、9月6日から13日まで自宅待機とし、結果が判明するまでの間9月5日第二部から6日(全部)の公演を中止した(結果は陰性)。その後、出演者一名に疑いがあり、9月20日から22日千種楽まで当人の休演・自宅待機とした(結果は陰性)。
- ・上京前に出演者一名に新型コロナウイルス陽性反応が確認されたため、上京せず公演に不参加とした。その後、出演者一名に陽性反応が確認されたため、12月6日から15日千種楽まで当人の休演、12月7日第二部の公演を中止した。上記濃厚接触者一名は、12月8日から休演とし、11日に陽性反応が確認されたため、15日千種楽まで休演とした。



### ③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

#### (a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

区分名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
舞踊	3 公演(計画:3 公演)		実績	6 回	3 日	1,652 人	78.8%	2,096	132.6%
	本館小劇場、文楽劇場		計画	5 回	3 日	1,246 人	72.5%	1,719	
邦楽	3 公演(計画:3 公演)		実績	7 回	4 日	1,637 人	78.9%	2,074	177.0%
	本館小劇場、文楽劇場		計画	4 回	4 日	925 人	76.9%	1,202	
雅楽	1 公演(計画:1 公演)		実績	2 回	1 日	609 人	80.8%	754	226.9%
	本館小劇場		計画	1 回	1 日	268 人	71.2%	377	
声明	0 公演(計画:0 公演)		実績						
	本館大劇場		計画						
民俗芸能	0 公演(計画:0 公演)		実績						
	本館小劇場		計画						
琉球芸能	0 公演(計画:0 公演)		実績						
	本館小劇場		計画						
特別企画	2 公演(計画:2 公演)		実績	3 回	3 日	978 人	68.6%	1,426	30.0%
	本館大小劇場、文楽劇場		計画	8 回	4 日	3,256 人	68.0%	4,786	
合計	9 公演 (計画:9 公演)		実績	18 回	11 日	4,876 人	76.8%	6,350	85.6%
			計画	18 回	12 日	5,695 人	70.5%	8,084	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

#### 公演実績(年度当初の公演計画)

区分名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
舞踊	3 公演(計画:3 公演)		実績	6 回	3 日	1,652 人	78.8%	2,096	75.1%
	本館小劇場、文楽劇場		計画	5 回	3 日	2,200 人	70.4%	3,124	
邦楽	3 公演(計画:4 公演)		実績	7 回	4 日	1,637 人	78.9%	2,074	67.9%
	本館小劇場、文楽劇場		計画	5 回	5 日	2,410 人	77.4%	3,113	
雅楽	1 公演(計画:1 公演)		実績	2 回	1 日	609 人	80.8%	754	145.0%
	本館小劇場		計画	1 回	1 日	420 人	71.2%	590	
声明	0 公演(計画:1 公演)		実績						
	本館大劇場		計画	1 回	1 日	1,130 人	70.2%	1,610	
民俗芸能	0 公演(計画:2 公演)		実績						
	本館小劇場		計画	3 回	2 日	1,190 人	67.2%	1,770	
琉球芸能	0 公演(計画:1 公演)		実績						
	本館小劇場		計画	2 回	1 日	1,080 人	91.5%	1,180	
特別企画	2 公演(計画:8 公演)		実績	3 回	3 日	978 人	68.6%	1,426	7.1%
	本館大小劇場、文楽劇場		計画	20 回	13 日	13,780 人	71.4%	19,290	

合計	9 公演 (計画:20 公演)	実績	18 回	11 日	4,876 人	76.8%	6,350	22.0%
		計画	37 回	26 日	22,210 人	72.4%	30,677	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### (b) 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を本館各ジャンルで各 2 回開催。第 1 回、第 2 回共に書面開催。
- ・ 公演専門委員会を文楽劇場で書面開催 (3/17)。
  - ◇ 舞踊公演専門委員会
  - ◇ 邦楽公演専門委員会
  - ◇ 雅楽・声明公演専門委員会
  - ◇ 民俗芸能公演専門委員会
  - ◇ 文楽劇場短期公演等専門委員会

#### (c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
-	38 人	38 人	36 人	-	94.7%

※舞踊 2 公演、邦楽 2 公演、雅楽 1 公演、特別企画 2 公演でウェブアンケートを実施。

#### (d) 優れた業績・評価すべき点

##### 【本館】

##### 《舞踊》

- ・ 11 月「舞の会—京阪の座敷舞—」は、公演時間の短縮や換気の促進を図るため、1 回 4 曲構成による 3 回公演として実施した。本公演に初出演となる演者の起用や、古典曲に新たに振り付けられたものの上演など、上方舞の充実に資する舞台成果を得た。3 月「素踊りの世界—日本舞踊の技法を知る—」は日本舞踊の重要な上演様式である素踊りを特集する新たなシリーズの第 1 回目で、実演を交えた解説を付けることで楽しみ方や魅力をより広い客層に向けてアピールすることができた。

##### 《邦楽》

- ・ 10 月「文楽素浄瑠璃の会」は、感染症リスクの観点から公演時間を短縮するとともに各出演者の活躍する機会を提供するため、1 日 1 回公演から 1 日 2 回公演に予定を変更し実施した。文楽技芸員の太夫と三味線弾きの素浄瑠璃により、語り物音楽の精髓をご鑑賞いただく。
- ・ 1 月「邦楽鑑賞会—長唄の会・三曲の会—」も同様に、感染症リスクの観点から公演時間を短縮するとともに各出演者の活躍する機会を提供するため、2 日 2 回公演から 2 日 4 回公演に予定を変更し実施した。人間国宝をはじめ斯界の第一人者による競演で名演、公演時間が短縮したことにより、通常公演では取り上げにくい大曲や稀曲を紹介することができた。

##### 《雅楽》

- ・ 11 月「管絃 王朝の遊び」では、6 月に新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした公演に、プレイベントを加えて実施した。プレイベントでは平安文学における雅楽の描かれ方も特集するなど当時の雅楽について多面的に紹介し、ジャンルを超えて興味を喚起することができた。公演では管絃の形式が発展した重要な時代である平安期の雅楽に焦点をあて、古典の名曲を紹介しつつ、当時の記録に則り和琴を加えた楽器編成で催馬楽を上演するなど現行の雅楽とは異なる側面も紹介することができた。

##### 《特別企画》

- ・ 2 月は「日本博」主催・共催型プロジェクトとして、「日本博」の総合テーマである「日本人と自然」をコンセプトに、「月・雪・花」というテーマを用いて、関連する舞踊や演奏を簡潔にまとめ、リレー形式で上演した。歌舞伎舞踊・邦楽・雅楽・声明・琉球芸能など様々な伝統芸能に、プロジェクトンマッピングのテクノロジーアートを融合させ、国立劇場ならではの日本の美を追求した、伝統芸能の魅力を発信した。本公演は、8 月に予定していた特別企画公演を基に、コロナ禍に対応しリニューアルした企画である。
- ・ 3 月「詩歌をうたい、奏でる—中世と現代—」では、日本特有の文芸様式「詩歌」に焦点を当て、中世歌謡の復元演奏と連歌をテーマにした現代曲を上演する。中世と現代の両面から日本の詩歌の魅力

を探ることで、従来の雅楽作品にはないレパートリーの拡充を図ることができた。また本公演の上演に合わせて、ライブ配信やオンデマンド配信を実施することにより、劇場に来場する以外の観客層へもインターネットを通じて伝統芸能の普及・振興に寄与することができた。

## 【文楽劇場】

### 《舞踊》

- ・ 10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」は、新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のための上演時間短縮等により各部演目を一番減らしての上演であったが、柱のひとつである上方四流(井上流、榎茂都流、山村流、吉村流)の競演を実現し、歌舞伎舞踊、素踊り、座敷舞などバラエティーに富んだ作品を取り上げ、凝縮した形で舞踊の魅力を掘り下げる企画内容とした。

### 《邦楽》

- ・ 8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、従来第一人者が出演する演奏会と位置づけてきたが、今回は中堅の三味線弾き鶴澤寛太郎に幹部の竹本鋳太夫が補導出演する形で「日吉丸稚桜」、切語りで重要無形文化財保持者の豊竹咲太夫と鶴澤燕三による「生写朝顔話」、本公演では組むことが少ない竹本千歳太夫と鶴澤清介による「恋女房染分手綱」を上演した。

## 【特記事項】

- ・ 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場10月舞踊、錦秋文楽)
- ・ 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(本館10月邦楽、11月雅楽、11月舞踊)
- ・ 「日本博」主催・共催型プロジェクト(本館11月雅楽、2月特別企画、3月舞踊、3月特別企画)
- ・ 「日本博」参画プロジェクト(本館10月邦楽、11月舞踊)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 「文化芸術収益強化事業」として文化庁の委託を受け、公演のデジタルコンテンツ配信を行った。コロナ禍における「新たな生活様式」に対応した舞台芸術鑑賞機会を設け、インタラクティブ動画技術を活用した「音楽」教科書向け邦楽演奏の収録・有料動画配信を行うことで、有料配信を通じた新たな収入源確保の手段を調査、検証。(ジャンルは、尺八2種・箏曲・地歌・三曲合奏・三味線組歌の6種類)
- ・ 上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。

## 舞 踊

### 《制作方針》

本館では、各公演の企画意図に即しつつ、現在鑑賞することのできる最高水準の舞台を制作することを根幹とし、古典を軸に日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家により、流派にとらわれず国立劇場独自の企画を盛り込みながら、広範な観客層への普及を図る。東京を中心に発展・継承されてきた歌舞伎舞踊と、京阪を中心に発展・継承されてきた上方舞を両輪とする。また、公演の意図や曲の性格に適した中堅や若手舞踊家の起用を積極的に行う。

文楽劇場「東西名流舞踊鑑賞会」は、日本舞踊界の第一線で華々しい活躍をみせる東西の舞踊家が一堂に会する恒例の舞踊公演である。上方四流(井上流、榎茂都流、山村流、吉村流)の競演を柱のひとつに、華やかな歌舞伎舞踊、味わい深い素踊りや座敷舞など様々な色合いの作品を上演し、舞踊の魅力に迫る内容とした。

### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
11月舞踊公演 「舞の会—京阪の座敷舞」	本館 小劇場	11/21	実績	3回	1日	953人	84.3%	1,131	149.1%
			計画	2回	1日	639人	84.7%	754	
3月舞踊公演 「素踊りの世界」	本館 小劇場	3/13	実績	1回	1日	253人	67.1%	377	94.3%
			計画	1回	1日	268人	71.2%	377	
舞踊(本館)【小計】2公演 (計画:2公演)			実績	4回	2日	1,206人	80.0%	1,508	132.9%
			計画	3回	2日	907人	80.2%	1,131	
10月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10/10	実績	2回	1日	446人	75.9%	588	131.7%
			計画	2回	1日	339人	57.6%	588	
舞踊(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	446人	75.9%	588	131.7%
			計画	2回	1日	339人	57.6%	588	
舞踊【合計】3公演 (計画:3公演)			実績	6回	3日	1,652人	78.8%	2,096	132.6%
			計画	5回	3日	1,246人	72.5%	1,719	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
11月舞踊公演 「舞の会—京阪の座敷舞」	本館 小劇場	11/21	実績	3回	1日	953人	84.3%	1,131	95.3%
			計画	2回	1日	1,000人	84.7%	1,180	
3月舞踊公演 「素踊りの世界」	本館 小劇場	3/13	実績	1回	1日	253人	67.1%	377	60.2%
			計画	1回	1日	420人	71.2%	590	
舞踊(本館)【小計】2公演 (計画:2公演)			実績	4回	2日	1,206人	80.0%	1,508	84.9%
			計画	3回	2日	1,420人	80.2%	1,770	
10月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10/10	実績	2回	1日	446人	75.9%	588	57.2%
			計画	2回	1日	780人	57.6%	1,354	
舞踊(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	446人	75.9%	588	57.2%
			計画	2回	1日	780人	57.6%	1,354	

舞踊【合計】3公演 (計画:3公演)	実績	6回	3日	1,652人	78.8%	2,096	75.1%
	計画	5回	3日	2,200人	70.4%	3,124	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

### 【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場10月)
- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(本館11月)
- ・「日本博」参画プロジェクト(本館11月)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場10月)
- ・beyond2020プログラム認証事業
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした(本館2公演)

## 邦 楽

### 《制作方針》

邦楽の各ジャンルの特徴やレパートリーの多彩さを踏まえ、国立劇場ならではの高い水準の舞台を目指す。出演者には各界の第一人者や実力者をはじめ、公演の意図や曲の性格に応じた演奏家を適宜起用する。劇場音楽として発展した長唄や浄瑠璃各派、純音楽として成立した地歌箏曲や尺八など邦楽の幅広いジャンルの中から適切な演目を選び質の高い舞台を上演する。

本館は、6月「日本音楽の流れⅣー笛・尺八ー」において、日本の代表的な管楽器「笛」「尺八」の歴史や特色を紹介するとともに各分野の実力者による演奏で構成する。上演される機会の少ない石笛や一節切を解説するとともに多彩な笛尺八が声やオルガンと合奏する委嘱新作を上演する。また、10月「文楽素浄瑠璃の会」並びに1月「邦楽鑑賞会ー長唄の会・三曲の会ー」では各ジャンルの特色を示した魅力的な演目を上演する。

文楽劇場8月公演「文楽素浄瑠璃の会」は、人形の演技に頼ることなく太夫・三味線の演奏のみで観客の想像力に働きかける浄瑠璃の魅力を引き立て、改めて曲の内容の魅力に触れていただく。今回は「日吉丸稚桜」「駒山山城中の段」、「生写朝顔話」「宿屋の段」、「恋女房染分手綱」「重の井子別れの段」、と聞きごたえのある3曲を上演する。

### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
6月邦楽公演「日本音楽の流れⅣー笛・尺八ー」 ※公演中止	本館 小劇場	6/6	実績						
			計画						
10月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	本館 小劇場	10/17	実績	2回	1日	555人	98.4%	564	215.0%
			計画	1回	1日	258人	91.5%	282	
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会 長唄の会・三曲の会」	本館 小劇場	1/16~17	実績	4回	2日	780人	66.1%	1,180	156.0%
			計画	2回	2日	500人	84.7%	590	
邦楽(本館)【小計】2公演 (計画:2公演)			実績	6回	3日	1,335人	76.5%	1,744	176.1%
			計画	3回	3日	758人	86.9%	872	
8月邦楽公演 「第23回文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	8/22	実績	1回	1日	302人	91.5%	330	181.3%
			計画	1回	1日	167人	50.5%	330	
邦楽(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	302人	91.5%	330	181.3%
			計画	1回	1日	167人	50.5%	330	
邦楽【合計】3公演 (計画:3公演)			実績	7回	4日	1,637人	78.9%	2,074	177.0%
			計画	4回	4日	925人	76.9%	1,202	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

**(a) 公演実績(年度当初の公演計画)**

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
6月邦楽公演「日本音楽の流れⅣ－笛・尺八－」 ※公演中止	本館 小劇場	6/6	実績						
			計画	1回	1日	490人	83.1%	590	
10月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	本館 小劇場	10/17	実績	2回	1日	555人	98.4%	564	102.8%
			計画	1回	1日	540人	91.5%	590	
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会 長唄の会・三曲の会」	本館 小劇場	1/16～17	実績	4回	2日	780人	66.1%	1,180	78.0%
			計画	2回	2日	1,000人	84.7%	1,180	
邦楽(本館)【小計】2公演 (計画:3公演)			実績	6回	3日	1,335人	76.5%	1,744	65.8%
			計画	4回	4日	2,030人	86.0%	2,360	
8月邦楽公演 「第23回文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	8/22	実績	1回	1日	302人	91.5%	330	79.5%
			計画	1回	1日	380人	50.5%	753	
邦楽(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	302人	91.5%	330	79.5%
			計画	1回	1日	380人	50.5%	753	
邦楽【合計】3公演 (計画:4公演)			実績	7回	4日	1,637人	78.9%	2,074	67.9%
			計画	5回	5日	2,410人	77.4%	3,113	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

**【特記事項】**

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(本館10月)
- ・「日本博」参画プロジェクト(本館10月)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場8月)
- ・beyond2020プログラム認証事業
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした。

**雅 楽**

**《制作方針》**

日本古来の歌舞と中国や朝鮮から渡来した舞や器楽を源流にして平安時代の王朝文化の中で大成した雅楽について、代表的な古典曲、廃絶した雅楽曲の復元曲など、その多彩な魅力を伝える公演を企画する。

11月公演は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、6月に予定していた公演を延期したものとす。平安時代の宮廷文化で花開いた管絃演奏の魅力を、当時発展した演奏技法を含め紹介する。王朝文化の雰囲気と、季節の巡りや草木、風といった自然美の中で音楽を楽しんでいた日本人の自然観とともに、雅楽古典曲の魅力を伝える公演を目指す。

**《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)**

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
11月雅楽公演 「王朝文化と雅楽を知る－ お話と実績から－」 ※実施時期変更	本館 小劇場	11/7	実績	2回	1日	609人	80.8%	754	226.9%
			計画	1回	1日	268人	71.2%	377	

雅楽【合計】 1 公演 (計画:1 公演)	実績	2 回	1 日	609 人	80.8%	754	226.9%
	計画	1 回	1 日	268 人	71.2%	377	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

#### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
11 月雅楽公演 「王朝文化と雅楽を知る－ お話と実績から－」 ※実施時期変更	本館 小劇場	11/7	実績	2 回	1 日	609 人	80.8%	754	145.0%
			計画	1 回	1 日	420 人	71.2%	590	
雅楽【合計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	2 回	1 日	609 人	80.8%	754	145.0%
			計画	1 回	1 日	420 人	71.2%	590	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### 【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(本館11月)
- ・「日本博」主催・共催型プロジェクト(本館11月)
- ・beyond2020プログラム認証事業
- ・字幕表示装置により、曲目や演奏形式についての解説文を表示し鑑賞の助けとした。

#### 声 明

#### 《制作方針》

仏教儀式において僧侶が唱える声明について、国立劇場ではその豊かな音楽性に着目して、各宗本山で行われている代表的な法会の紹介、廃絶している法会の復活、日本の現代詩を声明によってうたう試みなど様々な取組を行う。

2月公演では、真言宗智山派の総本山智積院の出演による、真言最大の法要儀式と言われる「大曼荼羅供養会(大曼荼羅供)」を取り上げ、華やかで洗練された智山声明の魅力を紹介する。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

文楽劇場では、高野山真言宗金剛峯寺で毎年正月に行われる「修正会」を取り上げ、真言宗らしい緩急や強弱など変化に富んだ声明を、杖を用いた迫力ある行道など特徴ある儀式次第を紹介する(新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため公演中止)。

#### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
2 月声明公演 ※公演中止 「智積院の声明」	本館 大劇場	2/20	実績						
			計画						
声明【合計】 0 公演 (計画:0 公演)			実績						
			計画						

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
2月声明公演 ※公演中止 「智積院の声明」	本館 大劇場	2/20	実績						
			計画	1回	1日	1,130人	70.2%	1,610	
声明【合計】0公演 (計画:1公演)			実績						
			計画	1回	1日	1,130人	70.2%	1,610	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

## 【特記事項】

- ・ beyond2020 プログラム認証事業

## 民俗芸能

### 《制作方針》

全国各地で行われている民俗芸能の中から、伝承が確かで、しかも舞台での上演が可能な芸能を広く一般に紹介し、その理解を深める。

9月公演では、国指定無形民俗文化財の「花祭」を上演する。ほぼ一昼夜かけて行われる祭礼を一通りご覧いただけるような構成とする。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

1月公演は、「四季」をテーマに日本各地からジャンルの異なる芸能を集め、民俗芸能の多様性と地域性を感じてもらおう企画とする。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
9月民俗芸能公演 「花祭—奥三河の霜月神楽—」 ※公演中止	本館 小劇場	9/26	実績						
			計画						
1月民俗芸能公演 「民俗芸能の四季」 ※公演中止	本館 小劇場	1/23	実績						
			計画						
民俗芸能【合計】0公演 (計画:0公演)			実績						
			実績						

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
9月民俗芸能公演 「花祭—奥三河の霜月神楽—」 ※公演中止	本館 小劇場	9/26	実績						
			計画	2回	1日	770人	65.3%	1,180	
1月民俗芸能公演 「民俗芸能の四季」 ※公演中止	本館 小劇場	1/23	実績						
			計画	1回	1日	420人	71.2%	590	
民俗芸能【合計】0公演 (計画:2公演)			実績						
			実績	3回	2日	1,190人	67.2%	1,770	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

## 琉球芸能

### 《制作方針》

「芸能の宝庫」とも言われ、多彩な芸能が息づく沖縄を代表する舞台芸術が組踊。組踊は「歌」「唱え(セ



リフ)「踊り」によって様々なドラマを描く沖縄独自の歌舞劇で、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている。

国立劇場琉球芸能公演では初の入門公演として、組踊の見どころ、聴きどころを紐解き、その魅力に迫る解説と、名作『執心鐘入』を通じて、組踊の世界を紹介する。

#### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
2月琉球芸能公演 ※公演中止	本館 大劇場	2/27	実績						
			計画						
琉球芸能【合計】0公演 (計画:0公演)			実績						
			計画						

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
2月琉球芸能公演 ※公演中止	本館 小劇場	2/27	実績						
			計画	2回	1日	1,080人	91.5%	1,180	
琉球芸能【合計】0公演 (計画:1公演)			実績						
			計画	2回	1日	1,080人	91.5%	1,180	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

### 特別企画

#### 《制作方針》

本館においては、公演内容が複数のジャンルにまたがるもの、特定のジャンルに限定できないもの、また特に固有の芸能史的な価値に着目して企画する公演などを軸として、伝統芸能の魅力幅広く楽しんでもらうことを目指す。

本館4月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」は、気鋭の舞踊家・邦楽家を起用し、紹介することを目的としており、主役や難曲に挑むことで今後の飛躍を期待する構成とする。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

本館5月「今を生きるー現前する舞と生ー」は、「言葉と身体」をコンセプトに、ジャンルや時代、国などを越えて広く舞踊(ダンス)の魅力を紹介することを目指し、新作3作品を上演する。とくにフランスの振付家、ラシッド・ウランダンによる作品では、欧米のダンサーとオーディションで選抜する日本人ダンサーとの競演を実現する(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)。

本館2月は、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった8月公演で予定していた特別企画公演を基に、コロナ禍に対応した企画とする。「日本博」の総合テーマである「日本人と自然」をコンセプトに、「月・雪・花」というテーマを用いて、関連する舞踊や演奏を簡潔にまとめ、リレー形式で上演する。また、プロジェクションマッピングのテクノロジーアートを融合させ、伝統芸能の魅力発信する。

本館3月「詩歌をうたい、奏でるー中世と現代ー」では、日本特有の文芸様式「詩歌」に焦点を当て、中世歌謡の復元演奏と連歌をテーマにした現代曲を上演する。中世歌謡では『梁塵秘抄』『五節間郢曲事』に関する今様・白拍子・乱拍子を取り上げ、一方現代曲では「RENGA」「ベルリン連詩2」を上演する。

文楽劇場5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、現在躍進めざましい舞踊家、演奏家に脚光をあてて舞踊・邦楽界の将来を展望する公演である。国内外を問わず積極的な舞台・演奏活動を展開する、おもに関西在住の新進・花形実演家を厳選し、様々なジャンルにわたる幅広い番組構成とする(新型コロナウイルス感染拡大リスク低減のため公演中止)。

#### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4月舞踊・邦楽公演	本館	4/18	実績						

「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」 ※公演中止	小劇場		計画						
5月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体Ⅱ今を生きる—現前する舞と生—」 ※公演中止	本館 大劇場	5/23～24	実績						
			計画						
9月特別企画公演 「バリアフリー-伝統芸能入門」 ※公演中止	本館 小劇場	9/5	実績						
			計画						
10月特別企画公演 「文楽と世界の人形芝居」 ※公演中止	本館 小劇場	10/23～25	実績						
			計画						
2月特別企画公演 「月・雪・花 —四季折々のこころ—」 ※実施時期変更	本館 小劇場	2/28	実績	1回	1日	544人	81.0%	672	20.8%
			計画	6回	2日	2,617人	64.9%	4,032	
3月特別企画公演 「詩歌を詠い、奏でる—今様・連歌—」	本館 小劇場	3/5～6	実績	2回	2日	434人	57.6%	754	67.9%
			計画	2回	2日	639人	84.7%	754	
特別企画(本館)【小計】2公演 (計画:2公演)			実績	3回	3日	978人	68.6%	1,426	30.0%
			計画	8回	4日	3,256人	68.0%	4,786	
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」 ※公演中止	文楽 劇場	5/16	実績						
			計画						
2月特別企画公演 高野山真言宗総本山「金剛峯寺の声明 修正会」 ※公演中止	文楽 劇場	2/13	実績						
			計画						
特別企画(文楽劇場)【小計】0公演 (計画:0公演)			実績						
			計画						
特別企画【合計】2公演 (計画:2公演)			実績	3回	3日	978人	68.6%	1,426	30.0%
			計画	8回	4日	3,256人	68.0%	4,786	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

#### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」 ※公演中止	本館 小劇場	4/18	実績						
			計画	1回	1日	390人	66.1%	590	
5月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体Ⅱ今を生きる—現前する舞と生—」	本館 大劇場	5/23～24	実績						
			計画	2回	2日	2,090人	64.9%	3,220	

※公演中止										
9月特別企画公演 「バリアフリー-伝統芸能入門」 ※公演中止	本館 大劇場	9/5	実績							
			計画	1回	1日	400人	74.9%	534		
10月特別企画公演 「文楽と世界の人形芝居」 ※公演中止	本館 小劇場	10/23~25	実績							
			計画	6回	3日	3,150人	89.0%	3,540		
2月特別企画公演 「月・雪・花 —四季折々のこ ころ—」 ※実施時期変更	本館 大劇場	2/28	実績	1回	1日	544人	81.0%	672	9.5%	
			計画	6回	2日	5,710人	64.9%	8,796		
3月特別企画公演 「詩歌を詠い、奏でる—今様・ 連歌—」	本館 小劇場	3/5~6	実績	2回	2日	434人	57.6%	754	43.4%	
			計画	2回	2日	1,000人	84.7%	1,180		
特別企画(本館)【小計】2公演 (計画:6公演)			実績	3回	3日	978人	68.6%	1,426	7.7%	
			計画	18回	11日	12,740人	71.3%	17,860		
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦 楽鑑賞会」 ※公演中止	文楽 劇場	5/16	実績							
			計画	1回	1日	360人	53.2%	677		
2月特別企画公演 高野山真言宗総本山「金剛 峯寺の声明 修正会」 ※公演中止	文楽 劇場	2/13	実績							
			計画	1回	1日	680人	90.3%	753		
特別企画(文楽劇場) 【小計】0公演 (計画:2公演)			実績							
			計画	2回	2日	1,040人	72.7%	1,430		
特別企画【合計】2公演 (計画:8公演)			実績	3回	3日	978人	68.6%	1,426	7.1%	
			計画	20回	13日	13,780人	71.4%	19,290		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### 【特記事項】

- ・「日本博」主催・共催型プロジェクト(本館 2月、3月)
- ・beyond2020 プログラム認証事業
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした(本館 2公演)

#### ④ 大衆芸能

##### 《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・浪曲・講談のほか、太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・奇術・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

演芸場では、「定席公演」を中心に大衆芸能公演を実施する。寄席の根幹ともいえるべき「定席公演」では、落語協会及び落語芸術協会と協力して、様々な分野の大衆芸能を幅広く取り入れた公演を企画・立案し、その多彩な魅力を伝えながら、普及・振興を図る。また、「若手新人公演」では、若手演芸家の育成を目的に、年間で花形演芸大賞を競うことで技芸向上を目指す。出演する若手演芸家は、落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野から選定する。「新春国立名人会」では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りて出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。「国立名人会」は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくりと味わえる公演を実施する。「特別企画公演」では、現代の噺家が各自の切り口で圓朝作品に挑む会や、東西の様々な演芸を一堂に会した公演、普段は個別に活動する落語団体から落語界を代表する実力者・人気者を選りすぐった公演等、公演ごとにテーマや分野を設定して、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。浪曲公演においては、斯界を代表する実力者を揃えた「浪曲名人会」、若手中心で技芸の向上も狙いとする「浪曲錬声会」という2種の公演を定期的に開催することで、関西浪曲界の発展に貢献するほか、令和2年2月に中止となった「浪曲名人会」の顔ぶれでの「浪曲特選会」を6月に企画する（「浪曲錬声会」「浪曲特選会」は新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため中止）。「上方演芸特選会」では、落語、浪曲、漫才、マジックなど多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸4団体（上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会）と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく（5月、7月上方演芸特選会は新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため公演中止）。

##### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

区分名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
定席	15 公演(計画:15 公演)	実績	208 回	149 日	11,482 人	36.1%	31,820	94.8%	
	演芸場	計画	149 回	149 日	12,108 人	51.4%	23,560		
花形演芸会	11 公演(計画:8 公演)	実績	11 回	11 日	1,551 人	88.9%	1,745	130.5%	
	演芸場	計画	8 回	8 日	1,189 人	94.3%	1,260		
新春 国立名人会	1 公演(計画:1 公演)	実績	7 回	6 日	1,111 人	81.4%	1,365	84.8%	
	演芸場	計画	7 回	6 日	1,310 人	96.0%	1,365		
国立名人会	4 公演(計画:4 公演)	実績	4 回	4 日	628 人	91.0%	690	52.5%	
	演芸場	計画	8 回	8 日	1,196 人	95.7%	1,250		
特別企画	11 公演(計画:6 公演)	実績	18 回	14 日	2,154 人	81.3%	2,650	137.9%	
	演芸場	計画	12 回	10 日	1,562 人	86.3%	1,810		
演芸場 合計	42 公演 (計画:34 公演)	実績	248 回	184 日	16,926 人	44.2%	38,270	97.5%	
		計画	184 回	181 日	17,366 人	59.4%	29,245		
浪曲名人会	1 公演(計画:1 公演)	実績	1 回	1 日	365 人	97.1%	376	112.5%	
	文楽劇場	計画	1 回	1 日	325 人	86.3%	376		
浪曲錬声会	0 公演(計画:0 公演)	実績							
	文楽劇場小ホール	計画							

上方 演芸特選会	4 公演(計画:4 公演)	実績	16 回	16 日	1,127 人	67.7%	1,664	75.6%
	文楽劇場小ホール	計画	16 回	16 日	1,491 人	89.6%	1,664	
文楽劇場 合計	5 公演 (計画:5 公演)	実績	17 回	17 日	1,492 人	73.1%	2,040	82.2%
		計画	17 回	17 日	1,816 人	89.0%	2,040	
合計	47 公演 (計画:39 公演)	実績	265 回	201 日	18,418 人	45.7%	40,310	96.0%
		計画	201 回	198 日	19,182 人	61.3%	31,285	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数=当初計画の回数・日数-中止した公演の回数・日数

入場者数=当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数=当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合=実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

区分名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
定席	15 公演(計画:22 公演)	実績	208 回	149 日	11,482 人	36.1%	31,820	33.9%	
	演芸場	計画	217 回	217 日	33,900 人	52.1%	65,100		
花形演芸会	11 公演(計画:12 公演)	実績	11 回	11 日	1,551 人	88.9%	1,745	46.0%	
	演芸場	計画	12 回	12 日	3,370 人	93.6%	3,600		
新春 国立名人会	1 公演(計画:1 公演)	実績	7 回	6 日	1,111 人	81.4%	1,365	55.1%	
	演芸場	計画	7 回	6 日	2,016 人	96.0%	2,100		
国立名人会	4 公演(計画:11 公演)	実績	4 回	4 日	628 人	91.0%	690	19.9%	
	演芸場	計画	11 回	11 日	3,152 人	95.5%	3,300		
特別企画	11 公演(計画:10 公演)	実績	18 回	14 日	2,154 人	81.3%	2,650	45.9%	
	演芸場	計画	19 回	17 日	4,692 人	82.3%	5,700		
演芸場 合計	42 公演 (計画:56 公演)	実績	248 回	184 日	16,926 人	44.2%	38,270	35.9%	
		計画	266 回	263 日	47,130 人	59.1%	79,800		
浪曲名人会	1 公演(計画:1 公演)	実績	1 回	1 日	365 人	97.1%	376	56.2%	
	文楽劇場	計画	1 回	1 日	650 人	86.3%	753		
浪曲錬声会	0 公演(計画:1 公演)	実績							
	文楽劇場小ホール	計画	2 回	1 日	290 人	91.2%	318		
上方 演芸特選会	4 公演(計画:6 公演)	実績	16 回	16 日	1,127 人	67.7%	1,664	33.0%	
	文楽劇場小ホール	計画	24 回	24 日	3,420 人	89.6%	3,816		
文楽劇場 合計	5 公演 (計画:8 公演)	実績	17 回	17 日	1,492 人	73.1%	2,040	34.2%	
		計画	27 回	26 日	4,360 人	89.2%	4,887		
合計	47 公演 (計画:64 公演)	実績	265 回	201 日	18,418 人	45.7%	40,310	35.8%	
		計画	293 回	289 日	51,490 人	60.8%	84,687		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

・公演専門委員会を演芸場では書面で3月に1回開催

(c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
1,304 人	811 人	798 人	756 人	62.2%	94.7%

※7 公演で計 17 回実施。

#### (d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 定席公演では、4月から7月まで新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演を中止したが、再開後の8月から10月までコロナ禍におけるあらたな鑑賞形態として各月上旬・中席とも午前・午後2部制とし上演時間を短縮して実施した。
- ・ 「若手新人公演」では、4月から7月まで4公演を中止したが、9、11、2月に追加公演を企画して花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する17組のレギュラーを中心に公演を実施し、計画どおり花形演芸大賞・金賞・銀賞受賞者を選出することができた。
- ・ 「新春国立名人会」は、例年どおり各分野の重鎮が一堂に会し日替りで公演するという豪華な内容で、正月らしい華やかな公演を実施することができた。
- ・ 「国立名人会」は、4月から6月までの3公演を中止し、7月から10月までは企画変更した公演を4回実施したのち、11月から上演時間を短縮して実施することができた。落語を中心に、講談、浪曲、漫才等、各分野を代表する演芸家によって番組を構成し、一人(組)当たりの出演時間も定席より長めに設定し、得意のネタをたっぷり演じてもらうことによって、大いに客席を楽しませる公演が実施できた。
- ・ 「特別企画公演」では、国立名人会を企画変更した「国立演芸特選会」を7月から10月まで実施し、上方落語や人間国宝による講談、上演機会の少ない作品を取り上げた企画が好評を得た。また東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が延期となったため「日本博寄席2020」として実施した8月の公演は、所属団体の異なる名人上手の落語家の競演となり、国立演芸場ならではの企画として観客にたっぷり楽しんでいただくことができた。同じく8月開催を予定していた日本演芸家連合の制作協力による特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」は、3月に延期して実施した。昨年に引き続き日本演芸家連合の協力を得て別会場で「演芸レクチャーデモンストラーション楽しもう演芸の世界」を公演に隣接する日程で開催し、一般公募による参加者に様々な演芸に親しむ機会を提供した。そのほか「林家彦いちの寄席入門」「圓朝に挑む!」「正蔵 正蔵を語る」「『円丈百席』を聴く会」や「立川流落語会」「五代目圓楽一門会」といった、様々な企画性に富んだ公演を実施し高い入場率を得た。
- ・ 文楽劇場の令和2年度(令和3年2月)「浪曲名人会」は、元年度の公演中止とその代替公演「浪曲特選会」との二度の中止を受けて、浪曲ファンの待望に応えるべく開場35周年記念公演であった元年度に近い出演者で企画したところ、販売座席数は緊急事態宣言下で半減したものの、ほぼ満席となり、令和2年度の文楽劇場主催公演としては唯一黒字を計上することができた。
- ・ 上方演芸特選会は落語、漫才、浪曲、マジックなど、感染症対策を行いながら、多彩な顔ぶれによる文楽劇場ならではの充実した番組での上演に取り組んだ。

#### 【特記事項】

- ・ 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(演芸場11月「国立名人会～夢追う人びと～」)
- ・ 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(演芸場10月・11月の7公演、文楽劇場11月上方演芸特選会)
- ・ beyond2020 プログラム認証事業(全公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場全公演)

## 定席公演(上席・中席)

### 《制作方針》

一般社団法人落語協会及び公益社団法人落語芸術協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、漫才、コント、奇術、太神楽曲芸、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

当年度は感染症拡大防止のため、公演再開後は従来より演目数を減らし上演時間を短縮して上演した。

### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月上席 ※公演中止	演芸場	4/1 ~4/10	実績						
			計画						
4 月中席 ※公演中止	演芸場	4/11 ~4/20/	実績						
			計画						
5 月中席 ※公演中止	演芸場	5/11/ ~5/20	実績						
			計画						
6 月上席 ※公演中止	演芸場	6/1/ ~6/10	実績						
			計画						
6 月中席 ※公演中止	演芸場	6/11 ~6/20	実績						
			計画						
7 月上席 ※公演中止	演芸場	7/2 ~7/10	実績						
			計画						
7 月中席 ※公演中止	演芸場	7/11 ~7/19	実績						
			計画						
8 月上席	演芸場	8/1 ~8/10/	実績	20 回	10 日	677 人	24.2%	2,800	103.6%
			計画	10 回	10 日	653 人	46.7%	1,400	
8 月中席	演芸場	8/12 ~8/20	実績	18 回	9 日	1,664 人	66.0%	2,520	137.1%
			計画	9 回	9 日	1,213 人	96.3%	1,260	
9 月上席	演芸場	9/1 ~9/10	実績	20 回	10 日	719 人	25.7%	2,800	171.2%
			計画	10 回	10 日	420 人	30.0%	1,400	
9 月中席	演芸場	9/11 ~9/20	実績	20 回	10 日	632 人	22.6%	2,800	123.1%
			計画	10 回	10 日	513 人	36.7%	1,400	
10 月上席	演芸場	10/1 ~10/10	実績	20 回	10 日	514 人	18.4%	2,800	110.1%
			計画	10 回	10 日	467 人	33.3%	1,400	
10 月中席	演芸場	10/11 ~10/20	実績	20 回	10 日	484 人	17.3%	2,800	79.8%
			計画	10 回	10 日	607 人	43.3%	1,400	
11 月上席	演芸場	11/1 ~11/10	実績	10 回	10 日	1,333 人	68.4%	1,950	128.2%
			計画	10 回	10 日	1,040 人	53.3%	1,950	
11 月中席	演芸場	11/11 ~11/20	実績	10 回	10 日	1,049 人	53.8%	1,950	161.4%
			計画	10 回	10 日	650 人	33.3%	1,950	
12 月上席	演芸場	12/1 ~12/10	実績	10 回	10 日	297 人	15.2%	1,950	50.8%
			計画	10 回	10 日	585 人	30.0%	1,950	
12 月中席	演芸場	12/11 ~12/20	実績	10 回	10 日	428 人	21.9%	1,950	47.0%
			計画	10 回	10 日	910 人	46.7%	1,950	
1 月中席	演芸場	1/11 ~1/20	実績	10 回	10 日	389 人	25.9%	1,500	32.4%
			計画	10 回	10 日	1,200 人	80.0%	1,500	
2 月上席	演芸場	2/1 ~2/10	実績	10 回	10 日	296 人	19.7%	1,500	24.7%
			計画	10 回	10 日	1,200 人	80.0%	1,500	

2 月中席	演芸場	2/11 ~2/20	実績	10 回	10 日	653 人	43.5%	1,500	46.6%
			計画	10 回	10 日	1,400 人	93.3%	1,500	
3 月上席	演芸場	3/1 ~3/10	実績	10 回	10 日	893 人	59.5%	1,500	137.4%
			計画	10 回	10 日	650 人	43.3%	1,500	
3 月中席	演芸場	3/11 ~3/20	実績	10 回	10 日	1,454 人	96.9%	1,500	242.3%
			計画	10 回	10 日	600 人	40.0%	1,500	
定席【合計】 15 公演 (計画:15 公演)			実績	208 回	149 日	11,482 人	36.1%	31,820	94.8%
			計画	149 回	149 日	12,108 人	51.4%	23,560	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

### 【特記事項】

・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月定席)

### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月上席 ※公演中止	演芸場	4/1 ~4/10	実績						
			計画	10 回	10 日	1,100 人	36.7%	3,000	
4 月中席 ※公演中止	演芸場	4/11 ~4/20/	実績						
			計画	10 回	10 日	2,500 人	83.3%	3,000	
5 月中席 ※公演中止	演芸場	5/11/ ~5/20	実績						
			計画	10 回	10 日	1,900 人	63.3%	3,000	
6 月上席 ※公演中止	演芸場	6/1/ ~6/10	実績						
			計画	10 回	10 日	1,500 人	50.0%	3,000	
6 月中席 ※公演中止	演芸場	6/11 ~6/20	実績						
			計画	10 回	10 日	1,200 人	40.0%	3,000	
7 月上席 ※公演中止	演芸場	7/2 ~7/10	実績						
			計画	9 回	9 日	1,400 人	51.9%	2,700	
7 月中席 ※公演中止	演芸場	7/11 ~7/19	実績						
			計画	9 回	9 日	1,000 人	37.0%	2,700	
8 月上席	演芸場	8/1 ~8/10/	実績	20 回	10 日	677 人	24.2%	2,800	48.4%
			計画	10 回	10 日	1,400 人	46.7%	3,000	
8 月中席	演芸場	8/12 ~8/20	実績	18 回	9 日	1,664 人	66.0%	2,520	64.0%
			計画	9 回	9 日	2,600 人	96.3%	2,700	
9 月上席	演芸場	9/1 ~9/10	実績	20 回	10 日	719 人	25.7%	2,800	79.9%
			計画	10 回	10 日	900 人	30.0%	3,000	
9 月中席	演芸場	9/11 ~9/20	実績	20 回	10 日	632 人	22.6%	2,800	57.5%
			計画	10 回	10 日	1,100 人	36.7%	3,000	
10 月上席	演芸場	10/1 ~10/10	実績	20 回	10 日	514 人	18.4%	2,800	51.4%
			計画	10 回	10 日	1,000 人	33.3%	3,000	
10 月中席	演芸場	10/11 ~10/20	実績	20 回	10 日	484 人	17.3%	2,800	37.2%
			計画	10 回	10 日	1,300 人	43.3%	3,000	
11 月上席	演芸場	11/1 ~11/10	実績	10 回	10 日	1,333 人	68.4%	1,950	83.3%
			計画	10 回	10 日	1,600 人	53.3%	3,000	
11 月中席	演芸場	11/11 ~11/20	実績	10 回	10 日	1,049 人	53.8%	1,950	104.9%
			計画	10 回	10 日	1,000 人	33.3%	3,000	



12 月上席	演芸場	12/1 ~12/10	実績	10 回	10 日	297 人	15.2%	1,950	33.0%
			計画	10 回	10 日	900 人	30.0%	3,000	
12 月中席	演芸場	12/11 ~12/20	実績	10 回	10 日	428 人	21.9%	1,950	30.6%
			計画	10 回	10 日	1,400 人	46.7%	3,000	
1 月中席	演芸場	1/11 ~1/20	実績	10 回	10 日	389 人	25.9%	1,500	16.2%
			計画	10 回	10 日	2,400 人	80.0%	3,000	
2 月上席	演芸場	2/1 ~2/10	実績	10 回	10 日	296 人	19.7%	1,500	12.3%
			計画	10 回	10 日	2,400 人	80.0%	3,000	
2 月中席	演芸場	2/11 ~2/20	実績	10 回	10 日	653 人	43.5%	1,500	23.3%
			計画	10 回	10 日	2,800 人	93.3%	3,000	
3 月上席	演芸場	3/1 ~3/10	実績	10 回	10 日	893 人	59.5%	1,500	68.7%
			計画	10 回	10 日	1,300 人	43.3%	3,000	
3 月中席	演芸場	3/11 ~3/20	実績	10 回	10 日	1,454 人	96.9%	1,500	121.2%
			計画	10 回	10 日	1,200 人	40.0%	3,000	
定席【合計】 15 公演 (計画:22 公演)			実績	208 回	149 日	11,482 人	36.1%	31,820	33.9%
			計画	217 回	217 日	33,900 人	52.1%	65,100	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

### 若手新人公演(花形演芸会)

#### 《制作方針》

各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。当年度は4月から7月にかけて予定していた4公演が中止となったため、9、11、2月の各月に追加公演を計3回実施した。

#### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月花形演芸会(第 491 回) ※公演中止	演芸場	4/25	実績						
			計画						
5 月花形演芸会(第 492 回) ※公演中止	演芸場	5/24	実績						
			計画						
6 月花形演芸会(第 493 回) ※公演中止	演芸場	6/21	実績						
			計画						
7 月花形演芸会(第 494 回) ※公演中止	演芸場	7/23	実績						
			計画						
8 月花形演芸会(第 494 回)	演芸場	8/15	実績	1 回	1 日	132 人	94.3%	140	104.8%
			計画	1 回	1 日	126 人	90.0%	140	
9 月花形演芸会(第 495 回)	演芸場	9/21/	実績	1 回	1 日	128 人	91.4%	140	98.0%
			計画	1 回	1 日	131 人	93.3%	140	
9 月花形演芸会(第 496 回) ※計画外公演	演芸場	9/26	実績	1 回	1 日	131 人	93.6%	140	
			計画						
10 月花形演芸会(第 497 回)	演芸場	10/17	実績	1 回	1 日	132 人	94.3%	140	101.0%
			計画	1 回	1 日	131 人	93.3%	140	
11 月花形演芸会(第 498 回)	演芸場	11/23/	実績	1 回	1 日	184 人	94.4%	195	98.3%
			計画	1 回	1 日	187 人	96.0%	195	
11 月花形演芸会(第 499 回) ※計画外公演	演芸場	11/28	実績	1 回	1 日	188 人	96.4%	195	
			計画						

12 月花形演芸会(第 500 回)	演芸場	12/12	実績	1 回	1 日	153 人	78.5%	195	84.1%
			計画	1 回	1 日	182 人	93.3%	195	
1 月花形演芸会(第 501 回)	演芸場	1/16	実績	1 回	1 日	105 人	70.0%	150	72.9%
			計画	1 回	1 日	144 人	96.0%	150	
2 月花形演芸会(第 502 回)	演芸場	2/6	実績	1 回	1 日	115 人	76.7%	150	79.9%
			計画	1 回	1 日	144 人	96.0%	150	
2 月花形演芸会(第 503 回) ※計画外公演	演芸場	2/20	実績	1 回	1 日	139 人	92.7%	150	
			計画						
3 月花形演芸会(第 504 回)	演芸場	3/6	実績	1 回	1 日	144 人	96.0%	150	100.0%
			計画	1 回	1 日	144 人	96.0%	150	
花形演芸会【合計】 11 公演 (計画:8 公演)			実績	11 回	11 日	1,551 人	88.9%	1,745	130.5%
			計画	8 回	8 日	1,189 人	94.3%	1,260	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

### 【特記事項】

・令和2年度レギュラー出演者(50音順)

入船亭小辰(落語)、桂小すみ(音曲)、桂佐ん吉(上方落語)、桂雀太(上方落語)、桂福丸(上方落語)、桂宮治(落語)、神田伯山(講談)、菊地まどか(浪曲)、古今亭志ん五(落語)、古今亭文菊(落語)、三笑亭夢丸(落語)、三遊亭萬橋(落語)、笑福亭喬介(上方落語)、瀧川鯉八(落語)、母心(漫才)、まんじゅう大帝国(漫才)、鈴々舎馬るこ(落語)

・令和2年度花形演芸大賞の審査を実施し、審査結果を公表した。

大賞：古今亭文菊(落語)

金賞：桂小すみ(音曲)、菊地まどか(浪曲)、瀧川鯉八(落語)、神田伯山(講談)

銀賞：春風亭昇也(落語)、笑福亭べ瓶(上方落語)、鏡味仙成(曲芸)

### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月花形演芸会(第 491 回) ※公演中止	演芸場	4/25	実績						
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
5 月花形演芸会(第 492 回) ※公演中止	演芸場	5/24	実績						
			計画	1 回	1 日	260 人	86.7%	300	
6 月花形演芸会(第 493 回) ※公演中止	演芸場	6/21	実績						
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
7 月花形演芸会(第 494 回) ※公演中止	演芸場	7/23	実績						
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
8 月花形演芸会(第 494 回)	演芸場	8/15	実績	1 回	1 日	132 人	94.3%	140	48.9%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
9 月花形演芸会(第 495 回)	演芸場	9/21/	実績	1 回	1 日	128 人	91.4%	140	45.7%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
9 月花形演芸会(第 496 回) ※計画外公演	演芸場	9/26	実績	1 回	1 日	131 人	93.6%	140	-!
			計画						
10 月花形演芸会(第 497 回)	演芸場	10/17	実績	1 回	1 日	132 人	94.3%	140	47.1%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
11 月花形演芸会(第 498 回)	演芸場	11/23/	実績	1 回	1 日	184 人	94.4%	195	63.9%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	

11 月花形演芸会(第 499 回) ※計画外公演	演芸場	11/28	実績	1 回	1 日	188 人	96.4%	195	-
			計画						
12 月花形演芸会(第 500 回)	演芸場	12/12	実績	1 回	1 日	153 人	78.5%	195	54.6%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
1 月花形演芸会(第 501 回)	演芸場	1/16	実績	1 回	1 日	105 人	70.0%	150	36.5%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
2 月花形演芸会(第 502 回)	演芸場	2/6	実績	1 回	1 日	115 人	76.7%	150	39.9%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
2 月花形演芸会(第 503 回) ※計画外公演	演芸場	2/20	実績	1 回	1 日	139 人	92.7%	150	-
			計画						
3 月花形演芸会(第 504 回)	演芸場	3/6	実績	1 回	1 日	144 人	96.0%	150	50.0%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
花形演芸会【合計】 11 公演 (計画:12 公演)			実績	11 回	11 日	1,551 人	88.9%	1,745	46.0%
			計画	12 回	12 日	3,370 人	93.6%	3,600	

### 新春国立名人会／国立名人会

#### 《制作方針》

新春国立名人会では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。

国立名人会は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくり味わえる公演を実施する。

#### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
新春国立名人会	演芸場	1/2 ～1/7	実績	7 回	6 日	1,111 人	81.4%	1,365	84.8%
			計画	7 回	6 日	1,310 人	96.0%	1,365	
【小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	7 回	6 日	1,111 人	81.4%	1,365	84.8%
			計画	7 回	6 日	1,310 人	96.0%	1,365	
4 月国立名人会(第 439 回) ※公演中止	演芸場	4/26	実績						
			計画						
5 月国立名人会(第 440 回) ※公演中止	演芸場	5/23	実績						
			計画						
6 月国立名人会(第 441 回) ※公演中止	演芸場	6/1	実績						
			計画						
7 月国立名人会(第 442 回) ※公演中止	演芸場	7/25	実績						
			計画	1 回	1 日	134 人	96.0%	140	
8 月国立名人会(第 443 回) ※公演中止	演芸場	8/30	実績						
			計画	1 回	1 日	134 人	96.0%	140	
9 月国立名人会(第 444 回) ※公演中止	演芸場	9/22	実績						
			計画	1 回	1 日	131 人	93.3%	140	
10 月国立名人会(第 445 回) ※公演中止	演芸場	10/31	実績						
			計画	1 回	1 日	134 人	96.0%	140	
11 月国立名人会(第 446 回)	演芸場	11/22	実績	1 回	1 日	175 人	89.7%	195	93.5%
			計画	1 回	1 日	187 人	96.0%	195	
12 月国立名人会(第 447 回)	演芸場	12/19	実績	1 回	1 日	185 人	94.9%	195	98.8%
			計画	1 回	1 日	187 人	96.0%	195	

2月国立名人会(第448回)	演芸場	2/21	実績	1回	1日	126人	84.0%	150	87.5%
			計画	1回	1日	144人	96.0%	150	
3月国立名人会(第449回)	演芸場	3/21	実績	1回	1日	142人	94.7%	150	98.6%
			計画	1回	1日	144人	96.0%	150	
国立名人会【小計】4公演(計画:4公演)			実績	4回	4日	628人	91.0%	690	52.5%
			計画	8回	8日	1,196人	95.7%	1,250	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

※7～10月の国立名人会は新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止としたため、計画の公演数からは除外している。ただし、公演内容を見直して特別企画公演として実施したため、特別企画公演の達成率の算定にあたって、内容を変更する前の国立名人会の計画値を算入した。

### 【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(11月国立名人会)
- ・感染症拡大防止のため新春国立名人会の初日(1/2)吉例の鏡開きは実施しなかった。

### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
新春国立名人会	演芸場	1/2 ～1/7	実績	7回	6日	1,111人	81.4%	1,365	55.1%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
【小計】1公演(計画:1公演)			実績	7回	6日	1,111人	81.4%	1,365	55.1%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
4月国立名人会(第439回) ※公演中止	演芸場	4/26	実績						
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
5月国立名人会(第440回) ※公演中止	演芸場	5/23	実績						
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
6月国立名人会(第441回) ※公演中止	演芸場	6/1	実績						
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
7月国立名人会(第442回) ※公演中止	演芸場	7/25	実績						
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
8月国立名人会(第443回) ※公演中止	演芸場	8/30	実績						
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
9月国立名人会(第444回) ※公演中止	演芸場	9/22	実績						
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
10月国立名人会(第445回) ※公演中止	演芸場	10/31	実績						
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
11月国立名人会(第446回)	演芸場	11/22	実績	1回	1日	175人	89.7%	195	60.8%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
12月国立名人会(第447回)	演芸場	12/19	実績	1回	1日	185人	94.9%	195	64.2%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
2月国立名人会(第448回)	演芸場	2/21	実績	1回	1日	126人	84.0%	150	43.8%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
3月国立名人会(第449回)	演芸場	3/21	実績	1回	1日	142人	94.7%	150	49.3%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
国立名人会【小計】4公演(計画:11公演)			実績	4回	4日	628人	91.0%	690	19.9%
			計画	11回	11日	3,152人	95.5%	3,300	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

## 特別企画公演

### 《制作方針》

公演ごとに独自のテーマや分野を設定し、圓朝作品に挑む会や花形演芸大賞受賞者の会、立川流落語会、五代目圓楽一門会、所属の異なる落語界の人気者・実力者が共演する「日本博寄席2020」等、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。日本演芸家連合の制作協力により昨年を引き続いて開催する特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」では、公演に先だって同連合の実演家を講師とする関連企画「演芸レクチャーデモンストレーション楽しもう演芸の世界」を実施し、多くの方に様々な演芸に親しむ機会を提供する。夏休み期間中には、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能を楽しむための解説付き入門公演を実施する。

### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月特別企画 立川流落語会 落語立川流 真打昇進披露公演 ※公演中止	演芸場	5/29 ～5/31	実績						
			計画						
6月特別企画 花形演芸会スペシャル～受賞者の会～ ※公演中止	演芸場	6/2	実績						
			計画						
7月特別企画 「国立演芸特選会 講談と落語を聴く会」 ※年度計画外	演芸場	7/25	実績	1回	1日	134人	95.7%	140	
			計画						
7月特別企画 「親子で楽しむ演芸会」 ※公演中止	演芸場	7/26	実績						
			計画	1回	1日	134人	96.0%	140	
7月特別企画 「林家彦いちの寄席入門」 ※年度計画外	演芸場	7/26	実績	1回	1日	135人	96.4%	140	
			計画						
7月特別企画 「国立演芸場夜席」 ※公演中止	演芸場	7/27/ ～7/29	実績						
			計画						
8月特別企画 「日本博奇席2020」	演芸場	8/11	実績	3回	1日	387人	92.1%	420	99.9%
			計画	3回	1日	387人	92.2%	420	
8月特別企画 「圓朝に挑む！」	演芸場	8/29	実績	1回	1日	134人	95.7%	140	106.3%
			計画	1回	1日	126人	90.0%	140	
8月特別企画 「国立演芸特選会 笑福亭鶴光 の上方落語を楽しむ会」 ※年度計画外	演芸場	8/30	実績	1回	1日	132人	94.3%	140	
			計画						
9月特別企画 「国立演芸特選会 2020 秋 彦 六ばなし」 ※年度計画外	演芸場	9/22	実績	1回	1日	132人	94.3%	140	
			計画						
10月特別企画	演芸場	10/23	実績	5回	3日	460人	65.7%	700	167.1%

「五代目圓楽一門会」		～10/25	計画	3回	3日	275人	65.6%	420	
10月特別企画 国立演芸特選会「桂雀々の『口 入屋』を聴く会」 ※年度計画外	演芸場	10/31	実績	1回	1日	136人	97.1%	140	
			計画						
11月特別企画 「正蔵 正蔵を語る」	演芸場	11/21	実績	1回	1日	188人	96.4%	195	100.4%
			計画	1回	1日	187人	96.0%	195	
12月特別企画 「『円丈百席』を聴く会～傑作円 丈作品～」	演芸場	12/23	実績	1回	1日	185人	94.9%	195	98.8%
			計画	1回	1日	187人	96.0%	195	
3月特別企画 「演芸大にぎわい～東から西か ら～」 ※実施時期変更	演芸場	3/22/ ～3/23	実績	2回	2日	131人	43.7%	300	49.4%
			計画	2回	2日	265人	88.3%	300	
特別企画【合計】 11公演(計画:6公演)			実績	18回	14日	2,154人	81.3%	2,650	137.9%
			計画	12回	10日	1,562人	86.3%	1,810	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月特別企画 立川流落語会 落語立川流 真打昇進披露公演 ※公演中止	演芸場	5/29 ～5/31	実績						
			計画	3回	3日	780人	86.7%	900	
6月特別企画 花形演芸会スペシャル～受賞者 の会～ ※公演中止	演芸場	6/2	実績						
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
7月特別企画 「国立演芸特選会 講談と落語を 聴く会」 ※年度計画外	演芸場	7/25	実績	1回	1日	134人	95.7%	140	
			計画						
7月特別企画 「親子で楽しむ演芸会」 ※公演中止	演芸場	7/26	実績						
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
7月特別企画 「林家彦いちの寄席入門」 ※年度計画外	演芸場	7/26	実績	1回	1日	135人	96.4%	140	
			計画						
7月特別企画 「国立演芸場夜席」 ※公演中止	演芸場	7/27/ ～7/29	実績						
			計画	3回	3日	340人	37.8%	900	
8月特別企画 「日本博奇席 2020」	演芸場	8/11	実績	3回	1日	387人	92.1%	420	46.6%
			計画	3回	1日	830人	92.2%	900	
8月特別企画 「圓朝に挑む！」	演芸場	8/29	実績	1回	1日	134人	95.7%	140	49.6%
			計画	1回	1日	270人	90.0%	300	
8月特別企画 「国立演芸特選会 笑福亭鶴光 の上方落語を楽しむ会」	演芸場	8/30	実績	1回	1日	132人	94.3%	140	
			計画						

※年度計画外										
9月特別企画 「国立演芸特選会 2020 秋 彦 六ばなし」 ※年度計画外	演芸場	9/22	実績	1回	1日	132人	94.3%	140		
			計画							
10月特別企画 「五代目圓楽一門会」	演芸場	10/23 ～10/25	実績	5回	3日	460人	65.7%	700	58.2%	
			計画	3回	3日	790人	87.8%	900		
10月特別企画 国立演芸特選会「桂雀々の『口 入屋』を聴く会」 ※年度計画外	演芸場	10/31	実績	1回	1日	136人	97.1%	140		
			計画							
11月特別企画 「正蔵 正蔵を語る」	演芸場	11/21	実績	1回	1日	188人	96.4%	195	65.3%	
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300		
12月特別企画 「『円丈百席』を聴く会～傑作円 丈作品～」	演芸場	12/23	実績	1回	1日	185人	94.9%	195	64.2%	
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300		
3月特別企画 「演芸大にぎわい～東から西か ら～」 ※実施時期変更	演芸場	3/22/ ～3/23	実績	2回	2日	131人	43.7%	300	24.7%	
			計画	2回	2日	530人	88.3%	600		
特別企画【合計】11公演（計画:10公演）			実績	18回	14日	2,154人	81.3%	2,650	45.9%	
			計画	19回	17日	4,692人	82.3%	5,700		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### 【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(10月「五代目圓楽一門会」・「国立演芸特選会」、11月「正蔵 正蔵を語る」)

#### 浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会

#### 《制作方針》

浪曲名人会は、関西浪曲界の第一人者が勢揃いし、名曲を披露する恒例の公演。今回は昨年中止となった同公演の出演者を中心とした顔ぶれで企画する。

浪曲錬声会は、次代を担う若手浪曲師の「語りを熟達させる」ことを目的に、若手を中心とした番組構成で彼らの奮起を促す公演とする。今回は4名の若手浪曲師が日頃の成果を2曲ずつ披露する機会とする。

浪曲特選会は、令和2年2月に中止となった「浪曲名人会」の代替公演として企画し、令和元年10月襲名した月子らによる襲名披露記念トークコーナーなどを設ける。

上方演芸特選会は、上方演芸4団体の総力を結集し、落語・漫才・浪曲・太神楽・講談等、多彩で昔懐かしい寄席の雰囲気を実現した温かみのある寄席づくりを目指す。

#### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
2月大衆芸能公演 浪曲名人会	文楽劇場	2/27	実績	1回	1日	365人	97.1%	376	112.5%
			計画	1回	1日	325人	86.3%	376	
【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	365人	97.1%	376	112.5%
			計画	1回	1日	325人	86.3%	376	
浪曲錬声会 ※公演中止	文楽劇場 小ホール	5/30	実績						
			計画						
【小計】0公演 (計画:0公演)			実績						
			計画						
5月上方演芸特選会		5/13	実績						

※公演中止	文楽劇場 小ホール	~5/16	計画						
7月上方演芸特選会 ※公演中止	文楽劇場 小ホール	7/8 ~7/11	実績						
			計画						
9月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	9/16 ~9/19	実績	4回	4日	216人	74.0%	292	82.5%
			計画	4回	4日	262人	89.6%	292	
11月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	11/18 ~11/21	実績	4回	4日	297人	50.5%	588	56.4%
			計画	4回	4日	527人	89.6%	588	
1月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	1/20 ~1/23	実績	4回	4日	296人	75.5%	392	84.3%
			計画	4回	4日	351人	89.6%	392	
3月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	3/10 ~3/13	実績	4回	4日	318人	81.1%	392	90.5%
			計画	4回	4日	351人	89.6%	392	
<b>【小計】</b>	<b>4公演</b>	<b>(計画:4公演)</b>	実績	16回	16日	1,127人	67.7%	1,664	75.6%
			計画	16回	16日	1,491人	89.6%	1,664	
<b>大衆芸能(文楽劇場)</b>	<b>5公演</b>	<b>(計画:5公演)</b>	実績	17回	17日	1,492人	73.1%	2,040	82.2%
<b>【合計】</b>			計画	17回	17日	1,816人	89.0%	2,040	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数=当初計画の回数・日数-中止した公演の回数・日数

入場者数=当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数=当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合=実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

#### 【特記事項】

- ・ 関西元気文化圏共催事業(全公演)
- ・ 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(11月上方演芸特選会)

#### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
2月大衆芸能公演 浪曲名人会	文楽劇場	2/27	実績	1回	1日	365人	97.1%	376	56.2%
			計画	1回	1日	650人	86.3%	753	
<b>【小計】</b>	<b>1公演</b>	<b>(計画:1公演)</b>	実績	1回	1日	365人	97.1%	376	56.2%
			計画	1回	1日	650人	86.3%	753	
浪曲錬声会 ※公演中止	文楽劇場 小ホール	5/30	実績						
			計画	2回	1日	290人	91.2%	318	
<b>【小計】</b>	<b>0公演</b>	<b>(計画:1公演)</b>	実績						
			計画	2回	1日	290人	91.2%	318	
5月上方演芸特選会 ※公演中止	文楽劇場 小ホール	5/13 ~5/16	実績						
			計画	4回	4日	570人	89.6%	636	
7月上方演芸特選会 ※公演中止	文楽劇場 小ホール	7/8 ~7/11	実績						
			計画	4回	4日	570人	89.6%	636	
9月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	9/16 ~9/19	実績	4回	4日	216人	74.0%	292	37.9%
			計画	4回	4日	570人	89.6%	636	
11月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	11/18 ~11/21	実績	4回	4日	297人	50.5%	588	52.1%
			計画	4回	4日	570人	89.6%	636	
1月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	1/20 ~1/23	実績	4回	4日	296人	75.5%	392	51.9%
			計画	4回	4日	570人	89.6%	636	
3月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	3/10 ~3/13	実績	4回	4日	318人	81.1%	392	55.8%
			計画	4回	4日	570人	89.6%	636	
<b>【小計】</b>	<b>4公演</b>	<b>(計画:6公演)</b>	実績	16回	16日	1,127人	67.7%	1,664	33.0%



	計画	24回	24日	3,420人	89.6%	3,816	
大衆芸能(文楽劇場)	実績	17回	17日	1,492人	73.1%	2,040	34.2%
【合計】 5公演 (計画:8公演)	計画	27回	26日	4,360人	89.2%	4,887	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

## ⑤ 能 楽

### 《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで公演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで公演する。

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。夏季には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、「国立能楽堂ショーケース」を実施するほか、「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら新たな観客層を開拓する。さらに、秋季には、〈釈迦と閻魔〉ゆかりの能・狂言と他芸能の併演、東日本大震災から10年の節目を迎える年度末には、東北・名取の地を舞台とした作品で、国立能楽堂で復曲初演された「名取ノ老女」の再演を行う。

鑑賞教室は、中・高校生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。令和2年度は、狂言「寝音曲」、能「殺生石」を上演し、学生が親しみを持てるよう、上演の前に体験参加型の解説を付ける。また前年度に引き続き、「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を通常の能楽鑑賞教室から独立させて実施する。

### (a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

区分名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
定例公演	14 公演 (計画:14 公演)		実績	14 回	14 日	5,520 人	93.3%	5,918	100.8%
			計画	14 回	14 日	5,474 人	92.5%	5,918	
普及公演	8 公演 (計画:8 公演)		実績	8 回	8 日	3,158 人	97.0%	3,257	99.7%
			計画	8 回	8 日	3,169 人	97.3%	3,257	
企画公演	10 公演 (計画:10 公演)		実績	10 回	10 日	4,187 人	94.4%	4,435	100.3%
			計画	10 回	10 日	4,173 人	94.1%	4,435	
鑑賞教室等	7 公演 (計画:7 公演)		実績	12 回	12 日	3,534 人	98.8%	3,576	110.6%
			計画	12 回	12 日	3,196 人	89.4%	3,576	
合計	39 公演 (計画:39 公演)		実績	44 回	44 日	16,399 人	95.4%	17,186	102.4%
			計画	44 回	44 日	16,013 人	93.2%	17,186	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

### 公演実績(年度当初の公演計画)

区分名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
定例公演	14 公演 (計画:20 公演)		実績	14 回	14 日	5,520 人	93.3%	5,918	47.6%
			計画	20 回	20 日	11,600 人	92.5%	12,540	
普及公演	8 公演 (計画:11 公演)		実績	8 回	8 日	3,158 人	97.0%	3,257	47.1%
			計画	11 回	11 日	6,710 人	97.3%	6,897	
企画公演	10 公演		実績	10 回	10 日	4,187 人	94.4%	4,435	47.3%

	(計画:14公演)	計画	15回	14日	8,850人	94.1%	9,405	
鑑賞教室等	7公演 (計画:8公演)	実績	12回	12日	3,534人	98.8%	3,576	27.7%
		計画	22回	17日	12,775人	92.6%	13,794	
合計	39公演 (計画:53公演)	実績	44回	44日	16,399人	95.4%	17,186	41.1%
		計画	68回	62日	39,935人	93.7%	42,636	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### (b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を2回開催。(2月8日、2回目は書面審議)
- ・専門家の主な意見は下記のとおり。
  - ◇「国立能楽堂ショーケース」という時間的な制約のある公演で「清経」が選択されたのは素晴らしく、実際の公演も良かった。
  - ◇企画公演「素の魅力」は演目として渋いものが揃ったが、素晴らしかった。

#### (c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
3,013人	1,601人	1,601人	1,552人	53.1%	96.9%
《Discover NOH & KYOGEN のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
272人	140人	140人 (5人)	138人 (5人)	51.5%	98.6% (100%)

※8公演で計8回実施。うち1回を「外国人のための能楽鑑賞教室」で実施。

#### (d) 優れた業績・評価すべき点

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催したほとんどの公演において極めて高い入場率を達成した。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催1年前の7・8・9月に、能・狂言をコンパクトな内容で上演する「国立能楽堂ショーケース」を実施した。各公演ともほぼ満席で高い関心が示された。
- ・9月〈手話狂言〉では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、初めて日本ろう者劇団による手話狂言を招聘。狂言の持つ強靱さと手話の豊かな表現力が融合され、成果を示した。
- ・9月企画公演〈素の魅力〉は面や装束を着けずに、演者の声や動きそのままを堪能していただく催し。通常とは異なる視点から能・狂言を楽しむ形を提示できた。
- ・10～11月〈演出の様々な形〉では、能・狂言の同一曲目を異なる流儀や家により上演し、多様な演出を比較して楽しむという国立能楽堂ならではの企画。観客数の落ち込みが危惧された秋冬期の夜公演の目標入場者数を達成した。
- ・10月企画公演〈蠟燭の灯りによる〉ではほの暗い明かりの下、謡や能を楽しむ催し。通常とは異なる環境で能・狂言を味わう場を提供した。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を6月の能楽鑑賞教室から独立させ、10月に実施し、日本文化の発信に貢献した。
- ・11月企画公演〈釈迦と閻魔〉は、お釈迦様やお地蔵様、閻魔大王の登場する能・狂言を多様な芸能とともにご覧いただくもの。仏教世界の多様な表現と、それぞれの芸能の特色を一度に味わえる、密度の濃い内容となった。
- ・3月企画公演〈復興と文化〉東日本大震災から10年の節目に、東北・名取が舞台の能で、国立能楽堂で復曲初演された「名取ノ老女」を上演し、震災からの復興と文化の力について考える機会となった。
- ・12月の〈月間特集・所縁の能・狂言〉、2月の〈月間特集・絵画と能・狂言〉と、効果的に「月間特集」を組むことで公演の連続性や関連性を持たせ、観客の注目を集めた。
- ・能「船弁慶 重キ前後之替・船歌替之語」(11月定例公演)・能「鞍馬天狗 天狗揃」(12月企画公演)等の珍しい小書による上演、能「吉野静 前入」(3月定例公演)・「名取ノ老女」(3月企画公演)等の

復曲、新作狂言「維盛」(3月企画公演)といった新作を積極的に取り上げて、レパートリーの拡充を推進した。

#### 【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(11月企画)
- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月実施の8公演)
- ・「日本博」主催・共催型プロジェクト(「手話狂言」)
- ・「日本博」参画プロジェクト(「国立能楽堂ショーケース」、「Discover NOH & KYOGEN」、企画公演〈復興と文化〉)
- ・4・5・6月の全14公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、10月企画公演(蠟燭の灯りによる)及び中止公演を除く38公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- ・「Discover NOH & KYOGEN」では、日本語・英語に中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語の字幕も加え、多言語化に対応した。

## 定例公演

### 《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスに配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。原則として月2回のペースで上演し、年間を通して能・狂言のもつ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「土筆」、能「熊野 村雨留」 ※公演中止	4/8	実績						
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「栗焼」、能「小督」 ※公演中止	4/17	実績						
月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「蝸牛」、能「西行桜 素囃子」 ※ 公演中止	5/15	実績						
月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「横座」、能「六浦」 ※公演中止	5/27	実績						
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「花盗人」、能「吉野天人 天人揃」 ※公演中止	6/3	実績						
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「箕被」、能「松風」 ※公演中止	6/19	実績						
狂言「瓜盗人」、能「氷室 白頭」	7/8	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	107.7%
狂言「菊の花」、能「天鼓」	9/18	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	107.4%
狂言「金藤左衛門」、能「江口」	10/7	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	107.7%
演出の様々な形 狂言「引括」、能「船弁慶 船中之語」	10/16	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	107.4%
狂言「若市」、能「龍田」	11/4	実績	1回	1日	430人	73.0%	589	78.9%
演出の様々な形 狂言「延命袋」、能「船弁慶 重キ前後 之替・舟唄替之語」	11/20	実績	1回	1日	583人	99.0%	589	107.0%
月間特集 所縁の能・狂言一勸進能一 ＜糺河原勸進猿楽＞おはなし、狂言 「伊文字」、能「実盛」	12/1	実績	1回	1日	581人	98.6%	589	106.6%
月間特集 所縁の能・狂言一勸進能一 ＜寛延勸進能＞狂言「悪坊」、能「邯鄲 盤渉」	12/18	実績	1回	1日	568人	96.4%	589	104.2%
素謡「神歌」、能「弓八幡」、狂言「靱猿」	1/6	実績	1回	1日	550人	93.4%	589	100.9%
狂言「松囃子」、能「弱法師」	1/15	実績	1回	1日	450人	76.4%	589	82.6%
月間特集 絵画と能・狂言 狂言「粟田口」、能「杜若」	2/3	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	107.7%
月間特集 絵画と能・狂言 狂言「塗附」、能「砧 梓之出」	2/19	実績	1回	1日	289人	97.0%	298	104.8%
狂言「折紙聲」、復曲能「吉野静 前入」	3/3	実績	1回	1日	293人	98.3%	298	106.3%
狂言「蜘蛛盗人」、能「景清」	3/19	実績	1回	1日	293人	98.3%	298	106.3%
定例公演【合計】 14公演(計画:14公演)		実績	14回	14日	5,520人	93.3%	5,918	100.8%
		計画	14回	14日	5,474人	92.5%	5,918	

※目標入場者数：1回当たり276人(92.5%)。ただし、11/4～1/15は545人(92.5%)。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

目標入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(10月、11月)
- ・4・5・6月定例公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、中止公演を除く14公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「土筆」、能「熊野 村雨留」 ※公演中止	4/8	実績						
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「栗焼」、能「小督」 ※公演中止	4/17	実績						
月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「蝸牛」、能「西行桜 素囃子」 ※ 公演中止	5/15	実績						
月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「横座」、能「六浦」 ※公演中止	5/27	実績						
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「花盗人」、能「吉野天人 天人揃」 ※公演中止	6/3	実績						
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「箕被」、能「松風」 ※公演中止	6/19	実績						
狂言「瓜盗人」、能「水室 白頭」	7/8	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	51.2%
狂言「菊の花」、能「天鼓」	9/18	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	51.0%
狂言「金藤左衛門」、能「江口」	10/7	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	51.2%
演出の様々な形 狂言「引括」、能「船弁慶 船中之語」	10/16	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	51.0%
狂言「若市」、能「龍田」	11/4	実績	1回	1日	430人	73.0%	589	74.1%
演出の様々な形 狂言「延命袋」、能「船弁慶 重キ前後之 替・舟唄替之語」	11/20	実績	1回	1日	583人	99.0%	589	100.5%
月間特集 所縁の能・狂言一勸進能一 ＜糺河原勸進猿楽＞おはなし、狂言「伊 文字」、能「実盛」	12/1	実績	1回	1日	581人	98.6%	589	100.2%
月間特集 所縁の能・狂言一勸進能一 ＜寛延勸進能＞狂言「悪坊」、能「邯鄲 盤渉」	12/18	実績	1回	1日	568人	96.4%	589	97.9%
素謡「神歌」、能「弓八幡」、狂言「靱猿」	1/6	実績	1回	1日	550人	93.4%	589	94.8%
狂言「松囃子」、能「弱法師」	1/15	実績	1回	1日	450人	76.4%	589	77.6%
月間特集 絵画と能・狂言 狂言「粟田口」、能「杜若」	2/3	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	51.2%
月間特集 絵画と能・狂言 狂言「塗附」、能「砧 梓之出」	2/19	実績	1回	1日	289人	97.0%	298	49.8%
狂言「折紙聳」、復曲能「吉野静 前入」	3/3	実績	1回	1日	293人	98.3%	298	50.5%
狂言「蜘蛛盗人」、能「景清」	3/19	実績	1回	1日	293人	98.3%	298	50.5%
定例公演【合計】 14公演(計画:20公演)		実績 計画	14回 20回	14日 20日	5,520人 11,600人	93.3% 92.5%	5,918 12,540	47.6%

※目標入場者数：1回当たり 580 人(92.5%)。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

## 普及公演

### 《制作方針》

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで上演する。

### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 解説「闇のうつつ」、狂言「水掛聲」、能「夕顔」※公演中止	4/11	実績						
月間特集 日本人と自然 草木成仏 解説「大伴家持の湖遊覧と藤の花」、狂言「茸」、能「藤」※公演中止	5/9	実績						
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 解説、狂言「千鳥」、能「善知鳥」 ※公演中止	6/13	実績						
解説「能・狂言の東国－武蔵野と隅田川」 狂言「神鳴」、能「隅田川」	7/11	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	102.1%
解説・能楽あんない「『花筐』における狂いの転換」 狂言「太刀奪」、能「花筐」	9/12	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	102.1%
解説、狂言「二九十八」、能「阿漕」	10/10	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	102.4%
解説、狂言「樋の酒」、能「俊寛」	11/14	実績	1回	1日	587人	99.7%	589	102.4%
月間特集 所縁の能・狂言－勸進能－ ＜粟田口勸進猿楽＞解説、狂言「猿賀」、能「舍利」	12/12	実績	1回	1日	586人	99.5%	589	102.3%
解説、狂言「昆布売」、能「雲林院」	1/9	実績	1回	1日	508人	86.2%	589	88.7%
月間特集 絵画と能・狂言 解説、狂言「仁王」、能「通小町 雨夜之伝」	2/27	実績	1回	1日	293人	98.3%	298	101.1%
解説、狂言「墨塗」、能「巴」	3/13	実績	1回	1日	295人	99.0%	298	101.8%
普及公演【合計】 8公演 (計画:8公演)		実績	8回	8日	3,158人	97.0%	3,257	99.7%
		計画	8回	8日	3,169人	97.3%	3,257	

※目標入場者数：1回当たり 290 人(97.3%)。ただし、11/14～1/9は573人(97.3%)。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

目標入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

### 【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(10月、11月)
- ・4・5・6月普及公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、中止公演を除く8公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 解説「闇のうつつ」、狂言「水掛聲」、能	4/11	実績						

「夕顔」※公演中止									
月間特集 日本人と自然 草木成仏 解説「大伴家持の湖遊覧と藤の花」、狂言「茸」、能「藤」※公演中止	5/9	実績							
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 解説、狂言「千鳥」、能「善知鳥」※公演中止	6/13	実績							
解説「能・狂言の東国－武蔵野と隅田川」 狂言「神鳴」、能「隅田川」	7/11	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	48.5%	
解説・能楽あんない「『花筐』における狂いの転換」 狂言「太刀奪」、能「花筐」	9/12	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	48.5%	
解説、狂言「二九十八」、能「阿漕」	10/10	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	48.7%	
解説、狂言「樋の酒」、能「俊寛」	11/14	実績	1回	1日	587人	99.7%	589	96.2%	
月間特集 所縁の能・狂言－勸進能－ 〈粟田口勸進猿楽〉解説、狂言「猿聲」、能「舍利」	12/12	実績	1回	1日	586人	99.5%	589	96.1%	
解説、狂言「昆布売」、能「雲林院」	1/9	実績	1回	1日	508人	86.2%	589	83.3%	
月間特集 絵画と能・狂言 解説、狂言「仁王」、能「通小町 雨夜之伝」	2/27	実績	1回	1日	293人	98.3%	298	48.0%	
解説、狂言「墨塗」、能「巴」	3/13	実績	1回	1日	295人	99.0%	298	48.4%	
普及公演【合計】 8公演 (計画:11公演)		実績	8回	8日	3,158人	97.0%	3,257	47.1%	
		計画	11回	11日	6,710人	97.3%	6,897		

※目標入場者数：1回当たり610人(97.3%)。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

## 企画公演、鑑賞教室

### 《制作方針》

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。夏季には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、「国立能楽堂ショーケース」を実施するほか、「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら新たな観客層を開拓する。さらに、秋季には、「(釈迦と閻魔)ゆかりの能・狂言と他芸能の併演、東日本大震災から10年の節目を迎える年度末には、東北・名取の地を舞台とした作品で、国立能楽堂で復曲初演された「名取ノ老女」の再演を行う。鑑賞教室は、中・高校生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。令和2年度は、狂言「寝音曲」、能「殺生石」を上演し、学生が親しみを持てるよう、上演の前に解説を付ける。また前年度に引き続き、「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を通常の能楽鑑賞教室から独立させて実施する。

### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 おはなし、狂言「木六駄」、復曲能「泰山木」※公演中止	4/24	実績						
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 女性能楽師による おはなし、仕舞「忠度」「野宮」「山姥 クセ」、能「葛城」※公演中止	4/29	実績						
月間特集 日本人と自然 草木成仏	5/22	実績						



狂言「梟」、狂言「蟬」、新作狂言「鮎」※公演中止									
月間特集 日本人と自然 草木成仏 能「半部 立花」、狂言「蚊相撲」、能 「鷺」※公演中止	5/30	実績							
親子で楽しむ能の会 おはなし、能「小鍛冶」	8/8	実績	1回	1日	295人	99.0%	298	105.2%	
親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「鷹磔」、狂言「腰折」	8/29	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	105.9%	
素の魅力 脇語「撰待」、小舞「住吉」、仕舞「遊行柳 クセ」、袴能「忠度」	9/25	実績	1回	1日	294人	98.7%	298	104.8%	
蠟燭の灯りによる おはなし「庶民のたのしみー謡講ー」、能 「鉄輪」	10/22	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	105.6%	
釈迦と閻魔 講談「大岡政談 しばられ地蔵」、落語 「地獄八景亡者戯」素囃子「神舞」、狂言 「朝比奈」	11/28	実績	1回	1日	585人	99.3%	589	105.5%	
釈迦と閻魔 朗読「蜘蛛の糸」、新内「朝比奈地獄 廻」、能「大会」	11/29	実績	1回	1日	581人	98.6%	589	104.8%	
月間特集 所縁の能・狂言ー勸進能ー ＜所縁の能・狂言/弘化勸進能＞狂言 「米市」、能「鞍馬天狗 天狗揃」	12/26	実績	1回	1日	582人	98.8%	589	105.0%	
狂言「餅酒」、狂言「泣尼」、狂言「牛盗 人」	1/22	実績	1回	1日	464人	78.8%	589	83.7%	
能「誓願寺」、狂言「節分」、狂言「大仏供 養」	1/30	実績	1回	1日	505人	85.7%	589	91.1%	
復興と文化 新作狂言「維盛」、復曲能「名取ノ老女」	3/26	実績	1回	1日	288人	96.6%	298	102.7%	
企画公演【合計】 10公演 (計画:10公演)		実績	10回	10日	4,187人	94.4%	4,435	100.3%	
			計画	10回	10日	4,173人	94.1%	4,435	

※目標入場者数：1回当たり280人(94.1%)。ただし、11/28～1/30は554人(94.1%)。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

目標入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

#### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 おはなし、狂言「木六駄」、復曲能「泰山 木」※公演中止	4/24	実績						
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 女性能楽師による おはなし、仕舞「忠 度」「野宮」「山姥 クセ」、能「葛城」※公 演中止	4/29	実績						
月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「梟」、狂言「蟬」、新作狂言「鮎」※ 公演中止	5/22	実績						

月間特集 日本人と自然 草木成仏 能「半部 立花」、狂言「蚊相撲」、能 「鷺」※公演中止	5/30	実績							
親子で楽しむ能の会 おはなし、能「小鍛冶」	8/8	実績	1回	1日	295人	99.0%	298	50.0%	
親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「鷹磔」、狂言「腰折」	8/29	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	50.3%	
素の魅力 脇語「摂待」、小舞「住吉」、仕舞「遊行柳 クセ」、袴能「忠度」	9/25	実績	1回	1日	294人	98.7%	298	49.8%	
蠟燭の灯りによる おはなし「庶民のたのしみー謡講ー」、能 「鉄輪」	10/22	実績	1回	1日	296人	99.3%	298	50.2%	
釈迦と閻魔 講談「大岡」政談「しばられ地藏」、落語 「地獄八景亡者戯」素囃子「神舞」、狂言 「朝比奈」	11/28	実績	1回	1日	585人	99.3%	589	99.2%	
釈迦と閻魔 朗読「蜘蛛の糸」、新内「朝比奈地獄 廻」、能「大会」	11/29	実績	1回	1日	581人	98.6%	589	98.5%	
月間特集 所縁の能・狂言一勸進能一 ＜所縁の能・狂言/弘化勸進能＞狂言 「米市」、能「鞍馬天狗 天狗揃」	12/26	実績	1回	1日	582人	98.8%	589	98.6%	
狂言「餅酒」、狂言「泣尼」、狂言「牛盗 人」	1/22	実績	1回	1日	464人	78.8%	589	78.6%	
能「誓願寺」、狂言「節分」、狂言「大仏供 養」	1/30	実績	1回	1日	505人	85.7%	589	85.6%	
復興と文化 新作狂言「維盛」、復曲能「名取ノ老女」	3/26	実績	1回	1日	288人	96.6%	298	48.8%	
企画公演【合計】 10公演 (計画:14公演)		実績 計画	10回 15回	10日 14日	4,187人 8,850人	94.4% 94.1%	4,435 9,405	47.3%	

※目標入場者数：1回当たり 590人(94.1%)。

#### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
能楽鑑賞教室 解説「能楽のたのしみ」、狂言「寝音 曲」、能「殺生石」※公演中止	6/22 ～6/26	実績						
		計画						
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「萩大名」、能「狸々」	7/20 ～7/21	実績	2回	2日	591人	99.2%	596	107.2%
		計画	2回	2日	551人	92.5%	596	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「棒縛」、能「土蜘蛛」	7/22 ～7/23	実績	2回	2日	592人	99.3%	596	107.4%
		計画	2回	2日	551人	92.5%	596	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「附子」、能「羽衣」	7/25 ～7/26	実績	2回	2日	593人	99.5%	596	107.6%
		計画	2回	2日	551人	92.5%	596	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「盆山」、能「清経」	8/26 ～8/27	実績	2回	2日	594人	99.7%	596	107.7%
		計画	2回	2日	551人	92.5%	596	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「仏師」、能「安達原」	9/2 ～9/3	実績	2回	2日	594人	99.7%	596	107.7%
		計画	2回	2日	551人	92.5%	596	
手話狂言 おはなし、狂言「佐渡狐」「清水」「六地 蔵」	9/5	実績	1回	1日	273人	91.6%	298	166.5%
		計画	1回	1日	164人	55.0%	298	
外国人のための能楽鑑賞教室	10/31	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	107.7%

解説、狂言「柿山伏」、能「紅葉狩 鬼揃」	計画	1回	1日	276人	92.5%	298	
鑑賞教室【合計】 7公演 (計画:7公演)	実績	12回	12日	3,534人	98.8%	3,576	110.6%
	計画	12回	12日	3,196人	89.4%	3,576	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
能楽鑑賞教室 解説「能楽のたのしみ」、狂言「寝音曲」、能「殺生石」※公演中止	6/22 ～6/26	実績						
		計画	10回	5日	6,050人	96.5%	6,270	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「萩大名」、能「猩々」	7/20 ～7/21	実績	2回	2日	591人	99.2%	596	50.9%
		計画	2回	2日	1,160人	92.5%	1,254	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「棒縛」、能「土蜘蛛」	7/22 ～7/23	実績	2回	2日	592人	99.3%	596	51.0%
		計画	2回	2日	1,160人	92.5%	1,254	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「附子」、能「羽衣」	7/25 ～7/26	実績	2回	2日	593人	99.5%	596	51.1%
		計画	2回	2日	1,160人	92.5%	1,254	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「盆山」、能「清経」	8/26 ～8/27	実績	2回	2日	594人	99.7%	596	51.2%
		計画	2回	2日	1,160人	92.5%	1,254	
国立能楽堂ショーケース 解説、狂言「仏師」、能「安達原」	9/2 ～9/3	実績	2回	2日	594人	99.7%	596	51.2%
		計画	2回	2日	1,160人	92.5%	1,254	
手話狂言 おはなし、狂言「佐渡狐」「清水」「六地藏」	9/5	実績	1回	1日	273人	91.6%	298	79.1%
		計画	1回	1日	345人	55.0%	627	
外国人のための能楽鑑賞教室 解説、狂言「柿山伏」、能「紅葉狩 鬼揃」	10/31	実績	1回	1日	297人	99.7%	298	51.2%
		計画	1回	1日	580人	92.5%	627	
鑑賞教室【合計】 7公演 (計画:8公演)		実績	12回	12日	3,534人	98.8%	3,576	27.7%
		計画	22回	17日	12,775人	92.6%	13,794	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

### 【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(11/28・29)
- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・「日本博」主催・共催型プロジェクト(「手話狂言」)
- ・「日本博」参画プロジェクト(「国立能楽堂ショーケース」、「Discover NOH & KYOGEN」、企画公演〈復興と文化〉)
- ・4月企画公演、5月狂言企画公演、5月特別公演、6月能楽鑑賞教室は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、10月公演(蠟燭の灯りによる)及び中止となった公演を除く16公演で、日本語・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とした。10月に実施した「Discover NOH & KYOGEN」では、字幕表示を6チャンネル方式(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語)により実施した。

## ⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

### 《制作方針》

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努める。

組踊公演では、「執心鐘入」、「花売の縁」、「手水の縁」など、長年のレパートリーとして親しまれてきた作品を中心に、上演機会の少ない優れた演目を取り上げる。

琉球舞踊公演では、定番となっている「男性舞踊家の会」、「琉球舞踊特選会」のほか、琉球舞踊界の次世代を担う中堅、若手の舞踊家に焦点をあて、それぞれが所属する流会派の持ち味をいかした演目で構成する「琉球舞踊鑑賞会」、南国沖縄ならではの自然観をもとに、島に生きる人々の暮らしや風習を、ストーリー性のある「歌舞集」で、琉球舞踊の魅力を発信する。

三線音楽公演では、約 250 名の唄い手で全 245 曲を収録した CD「沖縄・宮古・八重山民謡大全集 唄方」の制作を務めた宮沢和史氏によるプロデュース公演第二弾の「唄方」を上演する。

沖縄芝居公演では、当劇場の舞台機構を駆使し、沖縄芝居の魅力を堪能する公演制作に努め、自然界と人間界とのつながり、親子の情愛をテーマに描いた「チャー木の精」を上演する。

民俗芸能公演では、南風原町の各地区に継承されている、獅子舞や舞方棒等の災害を払う芸能や、十五夜遊びの中で伝承されてきた様々な特色ある民俗芸能を、一堂に紹介する。

企画公演では、琉球の史実や伝統をもとに、琉球史劇のセリフロ調と講談独特の台詞廻しが合わさり、話芸として演じられる「琉球講談」を上演する。また、「創作舞踊と新作組踊」と題し、当劇場の第 9 回創作舞踊大賞の入賞作品と、組踊の様式を用いつつ、現代に通じる新たなテーマを用いた新作組踊を上演する。このほか、アジア・太平洋地域の芸能として「箏」、「ゆらていく遊ば」、毎年秋の実施が定着している「国立劇場寄席」を上演する。

普及公演では、一般・団体向けの組踊鑑賞教室「執心鐘入」のほか、親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」を上演し、組踊の理解を深める工夫を行う。小学生から高校生及び学生等を対象とした、組踊鑑賞教室「二童敵討」では、解説を交えながら上演する。あわせて、外国人向けの公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」を実施する。

また、沖縄芝居、琉球舞踊についても、昨年に引き続き、普及公演・鑑賞教室を行う。

### 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/11	実績						
			計画						
組踊「賢母三遷の巻」 ※公演中止		4/25	実績						
			計画						
組踊「古典音楽の美」 ※公演中止		5/16	実績						
			計画						
琉球舞踊「男性舞踊家の会」 ※公演中止		6/13	実績						
			計画						
沖縄芝居「武士松茂良と平安山次良」 ※公演中止		6/27 ～6/28	実績						
			計画						
組踊「執心鐘入」	7/18	実績	1回	1日	237人	82.6%	287	133.2%	
		計画	1回	1日	178人	62.0%	287		
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」 ※公演中止	8/29	実績							
		計画							
組踊「花売の縁」	9/26	実績	1回	1日	254人	88.5%	287	142.8%	
		計画	1回	1日	178人	62.0%	287		

南風原町の民俗芸能「ふえー ばる村踊り」 ※公演中止		10/18	実績							
			計画							
組踊「伊祖の子」		12/12	実績	1回	1日	252人	81.8%	308	132.0%	
			計画	1回	1日	191人	62.0%	308		
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		12/19	実績	1回	1日	271人	88.0%	308	109.9%	
			計画	1回	1日	246人	80.0%	308		
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		1/16 ～1/17	実績	2回	2日	509人	82.6%	616	117.6%	
			計画	2回	2日	433人	70.3%	616		
組踊「孝行の巻」		1/30	実績	1回	1日	252人	82.4%	306	133.3%	
			計画	1回	1日	189人	61.8%	306		
三線音楽「唄方」 ※公演中止		2/6	実績							
			計画							
沖縄芝居「チャー木の精」		2/13 ～2/14	実績	2回	2日	375人	77.0%	487	112.9%	
			計画	2回	2日	332人	68.2%	487		
組踊「手水の縁」		3/13	実績	1回	1日	275人	89.3%	308	144.5%	
			計画	1回	1日	190人	61.8%	308		
琉球舞踊 「歌舞集 新南島風土記『ニ ライの島』」		3/20	実績	1回	1日	209人	86.7%	241	115.2%	
			計画	1回	1日	181人	75.3%	241		
定期公演【小計】 9公演 (計画:9公演)			実績	11回	11日	2,634人	83.7%	3,148	124.3%	
			計画	11回	11日	2,119人	67.3%	3,148		
千本ゑんま堂狂言 ※公演中止		6/7	実績							
			計画							
琉球講談		7/11	実績	1回	1日	270人	84.9%	318	121.5%	
			計画	1回	1日	222人	69.9%	318		
ゆらていく遊ば	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/3	実績	1回	1日	228人	88.7%	257	118.3%	
			計画	1回	1日	193人	75.0%	257		
アジア・太平洋地域の芸能		11/8	実績	1回	1日	235人	76.3%	308	117.4%	
			計画	1回	1日	200人	65.0%	308		
国立劇場奇席		11/14	実績	1回	1日	287人	90.5%	317	113.1%	
			計画	1回	1日	254人	80.0%	317		
創作舞踊と新作組踊		3/27	実績	1回	1日	270人	87.7%	308	135.3%	
			計画	1回	1日	200人	64.8%	308		
企画公演【小計】 5公演 (計画:5公演)			実績	5回	5日	1,290人	85.5%	1,508	120.7%	
			計画	5回	5日	1,068人	70.8%	1,508		
琉狂言 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 大劇場	5/23	実績							
			計画							
研究公演【小計】 0公演 (計画:0公演)			実績							
			計画							
琉球舞踊鑑賞教室 ※公演中止		8/8	実績							
			計画							

親子のための組踊鑑賞教室 「万歳敵討」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 大劇場	8/15	実績						
			計画						
沖縄芝居鑑賞教室 「沖縄芝居の楽しみ方」、「黒 島王物語」 ※公演中止		9/17 ～9/19	実績						
			計画						
組踊鑑賞教室「執心鐘入」		10/31	実績	2回	1日	527人	91.8%	574	262.1%
			計画	1回	1日	201人	70.1%	287	
組踊鑑賞教室「二童敵討」		11/18 ～11/20	実績	6回	3日	1,852人	54.1%	3,426	72.1%
			計画	6回	3日	2,570人	75.0%	3,426	
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 「二童敵討」		11/21	実績	1回	1日	263人	92.3%	285	131.9%
			計画	1回	1日	199人	70.0%	285	
普及公演【小 計】 3公演 (計画:3公演)			実績	9回	5日	2,642人	61.7%	4,285	89.0%
			計画	8回	5日	2,970人	74.3%	3,998	
組踊等沖縄伝統芸能 【合計】 17公演 (計画:17公演)			実績	25回	21日	6,566人	73.4%	8,941	106.6%
			計画	24回	21日	6,158人	71.2%	8,654	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/11	実績						
			計画	1回	1日	466人	75.0%	621	
組踊「賢母三遷の巻」 ※公演中止		4/25	実績						
			計画	1回	1日	349人	62.0%	563	
組踊「古典音楽の美」 ※公演中止		5/16	実績						
			計画	1回	1日	401人	65.0%	617	
琉球舞踊「男性舞踊家の会」 ※公演中止		6/13	実績						
			計画	1回	1日	497人	80.0%	621	
沖縄芝居「武士松茂良と平安 山次良」 ※公演中止		6/27 ～6/28	実績						
			計画	2回	2日	800人	70.0%	1,143	
組踊「執心鐘入」	7/18	実績	1回	1日	237人	82.6%	287	67.9%	
		計画	1回	1日	349人	62.0%	563		
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」 ※公演中止	8/29	実績							
		計画	1回	1日	466人	75.0%	621		
組踊「花売の縁」	9/26	実績	1回	1日	254人	88.5%	287	72.8%	
		計画	1回	1日	349人	62.0%	563		
南風原町の民俗芸能「ふえー ばる村踊り」	10/18	実績							

※公演中止			計画	1回	1日	401人	65.0%	617	
組踊「伊祖の子」		12/12	実績	1回	1日	252人	81.8%	308	72.2%
			計画	1回	1日	349人	62.0%	563	
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		12/19	実績	1回	1日	271人	88.0%	308	54.5%
			計画	1回	1日	497人	80.0%	621	
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		1/16 ～1/17	実績	2回	2日	509人	82.6%	616	58.5%
			計画	2回	2日	870人	70.3%	1,238	
組踊「孝行の巻」		1/30	実績	1回	1日	252人	82.4%	306	72.2%
			計画	1回	1日	349人	61.8%	565	
三線音楽「唄方」		2/6	実績						
※公演中止			計画	1回	1日	401人	64.8%	619	
沖縄芝居「チャー木の精」		2/13 ～2/14	実績	2回	2日	375人	77.0%	487	48.6%
			計画	2回	2日	771人	68.2%	1,130	
組踊「手水の縁」		3/13	実績	1回	1日	275人	89.3%	308	78.8%
			計画	1回	1日	349人	61.8%	565	
琉球舞踊 「歌舞集 新南島風土記『ニライの島』」		3/20	実績	1回	1日	209人	86.7%	241	44.8%
			計画	1回	1日	466人	75.3%	619	
定期公演【小計】 9公演 (計画:17公演)			実績	11回	11日	2,634人	83.7%	3,148	32.4%
			計画	20回	20日	8,130人	68.6%	11,849	
千本ゑんま堂狂言		6/7	実績						
※公演中止			計画	1回	1日	432人	70.0%	617	
琉球講談		7/11	実績	1回	1日	270人	84.9%	318	155.2%
			計画	1回	1日	174人	69.9%	249	
ゆらていく遊ば	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/3	実績	1回	1日	228人	88.7%	257	53.9%
			計画	1回	1日	423人	75.0%	564	
アジア・太平洋地域の芸能		11/8	実績	1回	1日	235人	76.3%	308	58.6%
			計画	1回	1日	401人	65.0%	617	
国立劇場奇席		11/14	実績	1回	1日	287人	90.5%	317	57.7%
			計画	1回	1日	497人	80.0%	621	
創作舞踊と新作組踊		3/27	実績	1回	1日	270人	87.7%	308	67.3%
			計画	1回	1日	401人	64.8%	619	
企画公演【小計】 5公演 (計画:6公演)			実績	5回	5日	1,290人	85.5%	1,508	55.4%
			計画	6回	6日	2,328人	70.8%	3,287	
琉狂言	国立劇場 おきなわ 大劇場	5/23	実績						
※公演中止			計画	1回	1日	366人	65.0%	563	
研究公演【小計】 0公演 (計画:1公演)			実績						
			計画	1回	1日	366人	65.0%	563	
琉球舞踊鑑賞教室	国立劇場 おきなわ 大劇場	8/8	実績						
※公演中止			計画	1回	1日	395人	70.0%	564	
親子のための組踊鑑賞教室		8/15	実績						

「万歳敵討」 ※公演中止			計画	2回	1日	751人	65.0%	1,156	
沖縄芝居鑑賞教室	9/17		実績						
「沖縄芝居の楽しみ方」、「黒島王物語」 ※公演中止	～9/19		計画	3回	3日	1,262人	73.3%	1,722	
組踊鑑賞教室「執心鐘入」	10/31		実績	2回	1日	527人	91.8%	574	130.1%
			計画	1回	1日	405人	70.1%	578	
組踊鑑賞教室「二童敵討」	11/18		実績	6回	3日	1,852人	54.1%	3,426	71.2%
	～11/20		計画	6回	3日	2,601人	75.0%	3,468	
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～	11/21		実績	1回	1日	263人	92.3%	285	66.8%
「二童敵討」			計画	1回	1日	394人	70.0%	563	
普及公演【小計】	3公演	(計画:6公演)	実績	9回	5日	2,642人	61.7%	4,285	45.5%
			計画	14回	10日	5,808人	72.1%	8,051	
組踊等沖縄伝統芸能【合計】	17公演	(計画:30公演)	実績	25回	21日	6,566人	73.4%	8,941	39.5%
			計画	41回	37日	16,632人	70.0%	23,750	

#### (b) 外部専門家等の意見

- ・公演事業委員会を8月と3月に2回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。(8月19日、3月26日)

#### (c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
4,378人	2,736人	2,506人	2,420人	62.5%	96.6%
《Discover KUMIODORI のみのアンケート調査結果》 ※()内は外国人のみの数値					
250人	106人	101人 (5人)	100人 (5人)	42.4%	99.0% (100%)

※16公演で計21回実施。うち1回を「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～組踊『二童敵討』」で実施。

#### (d) 優れた業績・評価すべき点

- ・当年度は、全ての公演制作において新型コロナウイルスの影響を受け、中止となった公演もあったが、組踊公演では、上演機会が少ない優れた演目上演として、4月の「賢母三遷の巻」、7月「久志の若按司」、9月「北山敵討」、1月「矢蔵の比屋」を予定していたが、4月公演は中止、7月公演以降については新型コロナウイルス感染対策の観点から稽古数、出演者数を見直すこととなり、それぞれ7月「執心鐘入」、9月「花売の縁」、1月「孝行の巻」といった定番物に変更するなどの工夫により劇場公演継続の努力を図った。
- ・復曲の上演・再演の12月「伊祖の子」、上演回数が多い組踊の3月「手水の縁」は、計画どおり実施し、日本博予算により英語字幕用タブレットの貸し出しを行った。「伊祖の子」は、組踊保存会で復活上演された作品で、島袋光尋先生に立方指導、地謡指導に山城暁先生と当時復活上演に関わった両先生に指導を仰ぎ、10年ぶりの上演となり細かい動きは当時の映像を参考に稽古に取り組み、それに加えて新たな動きも加味し、より深く組踊の面白さを追求した。
- ・企画公演では、6月「ゑんま堂狂言」は、新型コロナウイルスの影響で京都から招聘できず中止となったが、7月「琉球講談」は、客席が50%となったことから小劇場から大劇場に変更し観客数確保に努めた。公演自粛から再開後、最初の作品だったが満員御礼になった。10月「ゆらていく遊ば」は、例年、観客とふれ合う企画を行っていたが、新型コロナウイルス感染症対策で企画できず、映像を活用した演出や、本公演との関連企画として冊子「語やびら芸能ゆんたく」を発行するなど工夫を行った。



- ・11月「アジア・太平洋地域の芸能」は、海外から招聘できないため、国内で活躍している実演家で企画し、「国立劇場寄席」においても感染対策を工夫し実施した。
- ・普及公演9月沖縄芝居鑑賞教室は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の影響で稽古日数が確保できず、中止となったが、一部の歌劇「泊阿嘉」喜劇「亀さんよ」二部の「黒島王」の前半部分までは、少ない稽古日数の中でも作品として仕上げる事が可能であると判断し、無観客での映像収録、後日インターネットで映像配信を行った。
- ・日本博関連予算で、普及公演(2公演実施、1公演中止)、組踊公演(2公演実施)において、多言語オーディオガイド、タブレットの貸し出しを行った。
- ・沖縄県文化観光戦略推進事業において、普及公演の10月「執心鐘入」、11月「二童敵討」の映像を収録し、無料配信した。
- ・三線音楽公演「古典音楽の美」は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、人間国宝、中村一雄氏による古典音楽独唱「世渡節」を収録、また組踊若手実演家の出演で、コロナ禍における舞台鑑賞スタイルについての紹介動画の作成、ゆらていく遊ば関連企画の冊子「語やびら芸能ゆんたく」のインタビュー風景、紹介動画など、収録・編集し、広く配信に努めた。

### 【特記事項】

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(11月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」)
- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(10月企画公演「ゆらていく遊ば」、10月民俗芸能公演(中止)、普及公演「執心鐘入」、11月企画公演「国立劇場寄席」、11月普及公演「二童敵討」)
- ・18公演(中止となった9月普及公演含む)に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。(「国立劇場寄席」及び新型コロナウイルス感染防止対策により中止となった12公演を除く)
- ・beyond2020プログラム認証事業(全公演)
- ・「日本博」主催・共催型プロジェクト 2020年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業 10月普及公演「執心鐘入」、11月普及公演「二童敵討」、12月組踊公演「伊祖の子」、3月組踊公演「手水の縁」、8月普及公演「万歳敵討」(中止)
- ・英語字幕タブレットの無料貸出を実施し、外国人来場者の鑑賞の助けとした。(12月組踊公演「伊祖の子」、1月組踊公演「手水の縁」)
- ・多言語音声ガイド(2か国語:英語・日本語)機器の無料貸出(多言語での操作説明ができる人員も配置) 10月普及公演 組踊鑑賞教室「執心鐘入」
- ・多言語音声ガイド(4か国語:英語・中国語・韓国語・日本語)機器の無料貸出(多言語での操作説明ができる人員も配置)や英語通訳のある外国人のための組踊ワークショップを実施した(参加者18名)。  
11月普及公演 はじめての組踊～Discover KUMIODORI～「二童敵討」
- ・関連イベント、ワークショップ等を以下のとおり実施。

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数
組踊ワークショップ	7/18	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	玉城匠、山城峻称、大城貴幸	11人
組踊ワークショップ	9/26	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	上原崇弘、比嘉大志、徳田泰樹	11人
劇場バックステージツアー	8/1	国立劇場おきなわ大劇場	無料		20人
劇場バックステージツアー	8/2	国立劇場おきなわ大劇場	無料		38人
劇場バックステージツアー	8/1	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	上原崇弘、伊藝武士、高井賢太郎、比嘉克之、棚原健太、新垣勝裕	20人
劇場バックステージツアー	8/2	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	上原崇弘、伊藝武士、高井賢太郎、比嘉克之、棚原健太、新垣勝裕	38人
組踊ワークショップ	10/31	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	上原崇弘、比嘉大志、徳田泰樹	10人
外国人のための組踊ワークショップ	11/21	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	上原崇弘、比嘉大志、徳田泰樹	18人
組踊ワークショップ	12/12	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	上原崇弘、比嘉大志、徳田泰樹	18人
組踊ワークショップ	1/30	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	西門悠雅、上原崇弘、大城貴幸	4人

組踊ワークショップ	3/13	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	岸本隼人、比嘉大志、徳田 泰樹	11人
-----------	------	------------------	----	--------------------	-----

## ⑦ 公演動画等の配信

- ・ 振興会ホームページ内に動画配信サイト「国立オンライン劇場▶▶つながる伝統芸能◀◀」を開設し(10月から)、「国立劇場歌舞伎入門動画」等の動画(有料)の配信を開始した。

動画コンテンツ名	配信期間	売上件数
国立劇場歌舞伎入門動画『松本幸四郎の歌舞伎を知ろう』	8/27～3/23	1,540
国立劇場 雅楽 VR(360度視聴)動画	12/23～1/29	83
国立劇場 邦楽演奏(マルチアングル動画)	2/10～2/28	37
国立劇場 令和2年12月歌舞伎公演	2/17～3/16	145
国立劇場 令和3年3月特別企画公演	3/5～24	206
国立文楽劇場 令和2年8月文楽素浄瑠璃の会	8/29～9/11	135
国立文楽劇場 令和3年錦秋文楽公演	11/24～12/21	377
国立文楽劇場 令和3年初春文楽公演	1/25～2/21	438
国立文楽劇場 令和3年2月浪曲名人会	3/6～20	29
日本博皇居外苑公演特別公演～祈りのかたち～	3/12～30	721

### 【特記事項】

- ・ 文化庁 令和2年度戦略的芸術文化創造事業「文化芸術収益力強化事業」(令和2年12月歌舞伎公演、令和2年錦秋文楽公演、令和3年初春文楽公演、雅楽VR(360度視聴)動画、邦楽演奏(マルチアングル動画))
- ・ 英語版ホームページ内に「National Theatre Online」を開設し、コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LODlive)等にて作成された海外配信用動画(無料)の公開を開始した。

動画コンテンツ名	配信期間	再生回数
令和2年9月文楽公演 第一部～第三部	12/15～R4/2/28	5,907
令和2年11月舞踊公演「舞の会」	1/20～R4/2/28	4,655
令和2年12月文楽公演・文楽鑑賞教室	2/10～R4/2/28	3,160
令和2年11月歌舞伎公演	3/5～R4/3/7	2,960
令和2年12月歌舞伎公演	3/19～R4/3/25	3,946
「日本博寄席2020」関連映像コンテンツ 「寄席へようこそー太神楽編／落語編ー」	12/23～	1,453
令和3年初春文楽公演	3/24～R4/3/31	1,088
令和3年2月浪曲名人会	3/24～R4/3/31	239

※3/31時点での回数。

- ・ 振興会ホームページ内動画配信サイト「おうちでカンゲキ!!」(9月まで)において、感染症拡大防止のため中止となった5月演芸場中席で実施を予定していた落語協会の真打昇進披露の口上と新真打による落語を収録し動画配信した(配信期間7月10日～31日、再生回数5,231回)。
- ・ 国立劇場おきなわ公式YouTubeチャンネルにて、以下の動画を無料で公開。

動画コンテンツ名	配信期間	再生回数
琉球古典音楽「世渡節」	5/21～6/3	1,017
からくり花火「双龍」	10/23～11/6	291
沖縄芝居鑑賞教室「泊阿嘉～泊高橋の場～」	11/24～12/22	1,979
沖縄芝居鑑賞教室「亀さんよ」	12/23～1/20	2,749
沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語～黒島城内の場～」	1/25～2/22	1,320
組踊鑑賞教室「二童敵討」	3/8～3/31	3,145
組踊鑑賞教室「執心鐘入」	3/8～3/31	5,008
組踊鑑賞教室「二童敵討」(英語字幕版)	3/8～3/31	673
組踊鑑賞教室「執心鐘入」(英語字幕版)	3/8～3/31	702

- ・ 沖縄県（令和2年度文化観光戦略推進事業）より委託を受け制作（組踊鑑賞教室「二童敵討」、組踊鑑賞教室「執心鐘入」、組踊鑑賞教室「二童敵討」（英語字幕版）、組踊鑑賞教室「執心鐘入」（英語字幕版））
- ・ 沖縄県事業を活用し制作（組踊公演本編配信 PR 動画「執心鐘入版」、組踊公演本編配信 PR 動画「二童敵討版」）

## イ 演目の拡充

### ①歌舞伎

#### (a) 復活等の上演に際して「国立劇場文芸研究会」において補綴

- ・当劇場で過去に復活した作品の台本・演出を見直し、名場面を分かりやすく鑑賞できるよう台本を補綴。(11月歌舞伎公演第一部「平家女護島一俊寛」序幕「六波羅清盛館」)
- ・当劇場で平成23年1月に初演以来196年ぶりに復活上演した作品の場面構成を見直し、通し狂言のエッセンスを凝縮して補綴。(初春歌舞伎公演「四天王御江戸鏑」)

#### (b) 新作歌舞伎の上演

- ・外部の人材に脚本を委嘱し、新作歌舞伎を上演。(10月歌舞伎公演第一部「幸希芝居遊」鈴木英一＝作)

#### (c) 新作歌舞伎脚本の募集

- ・令和2年10月より令和3年3月末まで応募を受付。(応募規定・応募要領を一部変更。令和3年度中に選考の上、令和4年3月に入選発表予定)

### ②文楽

#### (a) 上演が途絶えていた場面の復活・上演

- ・文楽劇場では錦秋文楽公演第二部「新版歌祭文」の「野崎村の段」において、文楽劇場では11年ぶりに、割愛されがちなおみつの母を登場させる上演台本で上演した。第三部では「本朝廿四孝」の四段目を上演したが、見取り狂言として上演頻度の高い「十種香の段」「奥庭狐火の段」の前に、通し狂言でなければ上演されない「道行似合の女夫丸」「景勝上使の段」「鉄砲渡しの段」を15年ぶりに上演した。初春文楽公演第二部「碁太平記白石断」の「浅草雷門の段」において、段切の演出を、従来「詞」で終わっていたものを原典どおりの「三重」で終わる形で上演した。

#### (b) その他

- ・文楽劇場4月公演通し狂言「義経千本桜」では、大序仙洞御所の段、すしやの段で、近年の上演とは異なる古格に則った上演台本を作成、人形も特殊演出をふんだんに取り入れた公演内容を企画した。(※新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため公演中止となり、実現せず。)
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催時期に合わせて8月に本館での文楽公演を企画した。本館8月夏休み文楽特別公演は、文楽劇場の夏休み文楽特別公演と同一演目同一配役とし、第一部に「親子劇場」を開催。「舌切雀」「瓜子姫とあまんじゃく」といったこれまで本館では上演されなかった演目を採り上げ、親子で楽しめる新作文楽の可能性を東京でもアピールできるように企画した。(※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止となり、実現せず。)

### ③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

#### (a) 新作委嘱作品の上演

- ・今様「春始」「蓬莱山」、乱拍子「思之津」「白薄様」、白拍子「水白拍子」は古資料(博士譜)を見直し、近年の研究成果を反映させたいうえ約40年ぶりに上演。(本館3月特別企画公演)
- ・今様「足柄 関神」「物様 権現」は新たに発見された古資料(琵琶譜)に基づき、乱舞「万歳楽」は雅楽の唱歌に近年の研究成果を反映させることで初めて上演。(本館3月特別企画公演)
- ・現代曲「ベルリン連詩Ⅱ」(作曲＝川島素晴、マーク D. フェルム、桑原ゆう)を新作委嘱初演。(本館3月特別企画公演)

#### (b) その他

- ・地唄「かくれんぼ」に新たに振付し(山村友五郎＝振付)、上方舞の作品として国立劇場初演となった。(本館11月舞踊公演)
- ・現代曲「RENGA」の楽器編成やスコアを見直し35年ぶりに上演。(本館3月特別企画公演)

### ④大衆芸能

#### (a) 新作脚本募集受賞作品の上演

- ・11月「国立名人会～夢見る人々～」において、平成29年度(第19回)大衆芸能脚本募集浪曲部門奨励賞受賞作「ソメイヨシノ縁起」(作＝浦野貴子)を玉川奈々福(曲師＝沢村豊子)が口演した。

### ⑤能楽

(a) 国立能楽堂で制作初演された新作・複曲作品の再演

- ・ 3月企画公演 復曲能「名取ノ老女」

(b) 他の能楽堂等で上演された新作・複曲作品の再演

- ・ 3月定例公演 復曲能「吉野静 前入」
- ・ 3月企画公演 新作狂言「維盛」

(c) 国立能楽堂委嘱作品の他劇場での再演

- ・ 新作狂言「鮎」(5/9、1回、大分・平和市民公園能楽堂「野村万作・野村萬斎狂言公演」、主催：大分合同新聞社、制作協力)(感染症の拡大防止のため公演中止)

## ⑥組踊等沖縄伝統芸能

(a) 上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演

- ・ 7月企画公演 琉球講談マジムン怪談「オーナチマヤー」「片足ピンザ」「遺念火」
- ・ 10月企画公演 ゆらていく遊ば 喜劇「うるま西遊記」
- ・ 3月企画公演 創作舞踊と新作組踊 創作舞踊「若衆鯉」「春夜の梅」「籬内」「初はじち」
- ・ 3月企画公演 創作舞踊と新作組踊 新作組踊「塩売」

《上演機会が少ない優れた演目の上演》

- ・ 4月定期公演 組踊「賢母三遷の巻」(公演中止)
- ・ 6月定期公演 「武士松茂良と平安山次良」(公演中止)

《復曲の上演・再演》

- ・ 5月研究公演 琉狂言 琉狂言「武富秀才」(公演中止)
- ・ 12月定期公演 組踊「伊祖の子」

《新作の上演・再演》

- ・ 5月研究公演 琉狂言 新作琉狂言「ちんなんちんなん」(公演中止)
- ・ 7月企画公演 琉球講談マジムン怪談「オーナチマヤー」「片足ピンザ」「遺念火」
- ・ 10月企画公演 ゆらていく遊ば 喜劇「うるま西遊記」
- ・ 3月定期公演 歌舞衆「新南島風土記・ニライの島」
- ・ 3月企画公演 創作舞踊と新作組踊 創作舞踊「若衆鯉」「春夜の梅」「籬内」「初はじち」
- ・ 3月企画公演 創作舞踊と新作組踊 新作組踊「塩売」

(b) 「第9回創作舞踊大賞」の公募・選考・表彰

- ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄伝統芸能の振興を図るため、新たな作品の創造を目指して「創作舞踊(琉球舞踊)」を公募した。入賞作品は下記のとおり。(募集期間：8/20～10/19 応募総数：10作品)

- 大賞 「若衆鯉」 喜屋武愛香作
- 奨励賞 「春夜の梅」 真境名由佳子作
- 佳作 「籬内」 金城真次作
- 佳作 「初はじち」 山城亜矢乃作

## ⑦多分野の組合せや新たな演出

複数の分野を組み合わせた公演や、新たな演出による公演を実施した。

- ・ 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭オープニング 国際音楽の日記念「花鳥風月によせて一重要無形文化財保持者(各個認定)の至芸」(10/1 国立劇場大劇場。邦楽・舞踊・能楽・琉球芸能の各分野における重要無形文化財保持者が出演する公演。)
- ・ 本館2月特別企画「月・雪・花一四季折々のこころ」(2/28 国立劇場大劇場。歌舞伎舞踊・邦楽・雅楽・声明・琉球芸能など様々な伝統芸能にテクノロジーアートを融合した公演。)
- ・ 皇居外苑特別公演「祈りのかたち」(3/12～14 皇居外苑。能楽・民俗芸能・琉球芸能の各分野を順次上演する屋外公演。)

(2) 現代舞台芸術の公演	p.86
①オペラ	p.88
②バレエ	p.91
③現代舞踊	p.94
④演劇	p.96





## 2 - (2) 現代舞台芸術の公演

### 《中期計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演、振興、普及

ア オペラ公演：名作と呼ばれる代表的な作品の上演、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品の上演、日本の作曲家の作品の上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、オペラの振興と普及

イ バレエ公演：スタンダードな作品を新国立劇場バレエ団を主体に上演、国内外の振付家による質の高い新国立劇場オリジナル作品の企画・上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、バレエの振興と普及

ウ 現代舞踊公演：特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品、国内外で高い評価を得ている作品等の上演、現代舞踊の振興と普及

エ 演劇公演：新作上演を企画・発信、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流、現代演劇の振興と普及

### 《年度計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施

### 《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 現代舞台芸術の公演の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	16 公演 (H25-29 実績平均：30.2 公演)
2-6 現代舞台芸術の公演について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	

《公演実績(現代舞台芸術分野総計)》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

分野名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場							
オペラ	6公演(計画:6公演)	実績	28回	28日	23,024人	62.4%	36,891	75.7%
	オペラ劇場	計画	28回	28日	30,404人	82.4%	36,891	
バレエ	4公演(計画:4公演)	実績	26回	17日	25,239人	72.0%	35,076	80.8%
	オペラ劇場	計画	26回	18日	31,249人	85.3%	36,650	
現代舞踊	2公演(計画:2公演)	実績	6回	5日	2,454人	83.6%	2,936	111.5%
	中劇場、小劇場	計画	6回	5日	2,200人	74.9%	2,936	
演劇	4公演(計画:4公演)	実績	71回	66日	20,075人	59.3%	33,869	66.4%
	中劇場、小劇場	計画	79回	67日	30,219人	83.8%	36,045	
総合計	16公演 (計画:16公演)	実績	131回	116日	70,792人	65.1%	108,772	75.3%
		計画	139回	118日	94,071人	83.6%	112,522	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、政府・自治体の要請により、一部公演を中止し、又は、座席数を大幅に制限して販売した。そのため、公演中止や販売制限を勘案した公演計画によることとする。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

※以下、計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

《公演実績(現代舞台芸術分野総計)》(年度当初の公演計画)

分野名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場							
オペラ	6公演(計画:12公演)	実績	28回	28日	23,024人	62.4%	36,891	31.5%
	オペラ劇場	計画	51回	51日	73,000人	80.5%	90,660	
バレエ	4公演(計画:7公演)	実績	26回	17日	25,239人	72.0%	35,076	36.0%
	オペラ劇場	計画	48回	36日	70,200人	84.1%	83,456	
現代舞踊	2公演(計画:3公演)	実績	6回	5日	2,454人	83.6%	2,936	70.1%
	中劇場、小劇場	計画	11回	10日	3,500人	75.5%	4,636	
演劇	4公演(計画:7公演)	実績	71回	66日	20,075人	59.3%	33,869	43.0%
	中劇場、小劇場	計画	122回	105日	46,700人	81.5%	57,291	
総合計	16公演 (計画:29公演)	実績	131回	116日	70,792人	65.1%	108,772	36.6%
		計画	232回	202日	193,400人	81.9%	236,043	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

## ① オペラ

### 《制作方針》

- 1、名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

#### (a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「夏の夜の夢」(新制作)	オペラ 劇場	10/4 ~10/12	実績	5回	5日	4,200人	49.7%	8,450	63.6%
			計画	5回	5日	6,602人	78.1%	8,450	
「アルマゲドンの夢」 (創作委嘱作品・新制作)		11/15 ~11/23	実績	4回	4日	3,042人	45.0%	6,760	56.6%
			計画	4回	4日	5,376人	79.5%	6,760	
「こもり」		11/29 ~12/6	実績	5回	5日	4,722人	55.9%	8,450	66.8%
			計画	5回	5日	7,073人	83.7%	8,450	
「トスカ」		1/23 ~2/3	実績	5回	5日	4,174人	81.8%	5,104	92.8%
			計画	5回	5日	4,500人	88.2%	5,104	
「フィガロの結婚」		2/7 ~2/14	実績	4回	4日	3,010人	83.3%	3,612	106.7%
			計画	4回	4日	2,822人	78.1%	3,612	
「ワルキューレ」		3/11 ~3/23	実績	5回	5日	3,876人	85.8%	4,515	96.1%
			計画	5回	5日	4,031人	89.3%	4,515	
オペラ公演【小 計】 6 公演 (計画:6 公演)			実績	28回	28日	23,024人	62.4%	36,891	75.7%
			計画	28回	28日	30,404人	82.4%	36,891	
オペラ鑑賞教室【小 計】 0 公演 (計画:0 公演)			実績						
			計画						
オペラ【合 計】 6 公演 (計画:6 公演)			実績	28回	28日	23,024人	62.4%	36,891	75.7%
			計画	28回	28日	30,404人	82.4%	36,891	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数=当初計画の回数・日数-中止した公演の回数・日数

入場者数=当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数=当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合=実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

#### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「ジュリオ・チェザレ」 (新制作) ※公演中止	オペラ 劇場	4/7 ~4/12	実績						
			計画	3回	3日	4,700人	87.4%	5,376	
「ホフマン物語」 ※公演中止		4/19 ~4/25	実績						
			計画	4回	4日	4,600人	64.2%	7,168	
「サロメ」 ※公演中止		5/17 ~5/26	実績						
			計画	4回	4日	5,200人	72.5%	7,168	
「ニュルンベルクのマイスター ジンガー」(新制作)		6/21 ~6/30	実績						
			計画						

※公演中止			計画	4回	4日	6,300人	87.9%	7,168	
「夏の夜の夢」(新制作)		10/4 ~10/12	実績	5回	5日	4,200人	49.7%	8,450	60.0%
			計画	5回	5日	7,000人	78.1%	8,960	
「アルマゲドンの夢」 (創作委嘱作品・新制作)		11/15 ~11/23	実績	4回	4日	3,042人	45.0%	6,760	53.4%
			計画	4回	4日	5,700人	79.5%	7,168	
「こうもり」		11/29 ~12/6	実績	5回	5日	4,722人	55.9%	8,450	63.0%
			計画	5回	5日	7,500人	83.7%	8,960	
「トスカ」		1/23 ~2/3	実績	5回	5日	4,174人	81.8%	5,104	52.8%
			計画	5回	5日	7,900人	88.2%	8,960	
「フィガロの結婚」		2/7 ~2/14	実績	4回	4日	3,010人	83.3%	3,612	53.8%
			計画	4回	4日	5,600人	78.1%	7,168	
「ワルキューレ」		3/11 ~3/23	実績	5回	5日	3,876人	85.8%	4,515	48.5%
			計画	5回	5日	8,000人	89.3%	8,960	
オペラ公演【小 計】 6 公演 (計画:10 公演)			実績	28回	28日	23,024人	62.4%	36,891	36.8%
			計画	43回	43日	62,500人	81.1%	77,056	
子どもたちとアンドロイドが創 る新しいオペラ 「Super Angels スーパーエン ジェル」(新制作) ※公演中止	オペラ 劇場	8/22 ~8/23	実績	/	/	/	/	/	/
			計画	2回	2日	2,000人	67.0%	2,984	
高校生のためのオペラ鑑賞 教室 2020 「夕鶴」 ※公演中止		7/9 ~7/15	実績	/	/	/	/	/	/
			計画	6回	6日	8,500人	80.0%	10,620	
オペラ鑑賞教室【小 計】 0 公演 (計画:2 公演)			実績	/	/	/	/	/	/
			計画	8回	8日	10,500人	77.2%	13,604	
オペラ【合 計】 6 公演 (計画:12 公演)			実績	28回	28日	23,024人	62.4%	36,891	31.5%
			計画	51回	51日	73,000人	80.5%	90,660	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### (b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

#### (c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
-	301人	301人	262人	-	87.0%

※全6公演でウェブアンケートを実施した。

#### (d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、年度前半の6演目23公演が中止となったが、年度後半の2020/2021シーズン開幕の10月からの公演については、財団独自に策定したガイドラインに基づく感染症対策を徹底して計画どおり6演目28公演を全て実施することができた。
- ・ 実施した公演ではいずれも新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら高い水準で上演することができた。

- 20世紀オペラの傑作「夏の夜の夢」、英国在住の日本人作曲家藤倉大による世界初演・委嘱新制作「アルマゲドンの夢」を新制作で上演し、新国立劇場に不足していた分野の充実に努めた。特に、「アルマゲドンの夢」は平成30年度の「紫苑物語」に続く日本人作曲家創作委嘱オペラであり、作曲家藤倉大氏の第33回ミュージックペンクラブ音楽賞受賞のみならず、現代の世相を巧みに捉えた先鋭的なテーマや、映像を駆使した斬新な演出もあいまって、作品の完成度と出演者の歌唱は高い評価を受けた。
- 新国立劇場主催公演としては初のバロックオペラ上演となる「ジュリオ・チェーザレ」、東京文化会館・ザルツブルク・イースター音楽祭・ザクセン州立歌劇場との共同新制作「ニュルンベルクのマイスタージンガー」、こどもたちとアンドロイドが作る新しいオペラ「Super Angels」を新制作で上演する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止となった。
- 日本語字幕を表示に加え、令和元年度から実施している、全てのオペラ公演での英語字幕の設置を引き続き実施した。あわせて、公演プログラムには従来のあらすじとクレジットに加え、プロフィールや解説にも英文ページを増やし、外国人観客の公演環境整備を更に推進した。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入国制限が厳格化され、当初招聘を予定していたキャストの来日が一部困難になったため、10月「夏の夜の夢」を全キャスト日本人歌手で上演したのを皮切りに、日本人歌手の出演機会が大幅に増加し、国内の優れた芸術家の存在を発信する機会を得た。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入国制限の緩和にいち早く対応し、政府の実施する水際対策を遵守しながら海外の芸術家の招聘を続けた。特に「アルマゲドンの夢」や「トスカ」においては当初予定していた出演者での上演を実施することができた。
- 10月「夏の夜の夢」においては、新国立劇場オペラ研修所を終了したオペラ歌手が多数出演し、研修所の成果を主催公演に反映することができた。

#### 【特記事項】

- 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(「夏の夜の夢」「こうもり」)
- 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(「アルマゲドンの夢」)
- 文化庁委託事業「令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業」(「アルマゲドンの夢」)
- 全公演において、字幕による歌詞の日本語訳及び英語訳(「アルマゲドンの夢」においては英語による歌唱のため原詩)を表示した。
- 「アルマゲドンの夢」の作曲を手掛けた藤倉大が第33回ミュージックペンクラブ音楽賞(現代音楽部門)を受賞した。

## ② バレエ

### 《制作方針》

- 1、スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

### (a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率	
「ドン・キホーテ」 ※実施時期変更	オペラ 劇場	10/23 ～11/1	実績	7回	5日	7,862人	66.6%	11,802	92.6%	
			計画	6回	6日	8,487人	83.9%	10,116		
「くるみ割り人形」		12/12 ～12/20	実績	9回	5日	10,627人	70.0%	15,174	75.6%	
			計画	9回	5日	14,050人	92.6%	15,174		
吉田都セレクション ※公演中止		2/20 ～2/23	実績	△	△	△	△	△	△	
			計画	3回	3日	4,200人	78.3%	5,364		
「眠れる森の美女」 ※年度計画外		2/20 ～2/23	実績	4回	3日	3,268人	90.5%	3,612	△	
			計画	△	△	△	△	△	△	
バレエ公演【小計】3公演 (計画:3公演)			実績	20回	13日	21,757人	71.1%	30,588	81.4%	
			計画	18回	14日	26,737人	87.2%	30,666		
こどものためのバレエ劇場 2020 「竜宮 りゅうぐう」(新制作) ※日程変更・一部公演中止	オペラ 劇場	7/25 ～7/28	実績	6回	4日	3,482人	77.6%	4,488	77.2%	
			計画	8回	4日	4,512人	75.4%	5,984		
バレエ鑑賞教室【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	6回	4日	3,482人	77.6%	4,488	77.2%	
			計画	8回	4日	4,512人	75.4%	5,984		
バレエ【合計】4公演 (計画:4公演)			実績	26回	17日	25,239人	72.0%	35,076	80.8%	
			計画	26回	18日	31,249人	85.3%	36,650		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「不思議の国のアリス」 ※公演中止	オペラ 劇場	6/5 ～6/14	実績	△	△	△	△	△	△
			計画	10回	8日	15,900人	88.9%	17,880	
「白鳥の湖(新制作)」 ※公演中止		10/23 ～11/1	実績	△	△	△	△	△	△
			計画	9回	7日	13,000人	80.8%	16,092	
「ドン・キホーテ」 ※実施時期変更		10/23 ～11/1	実績	7回	5日	7,862人	66.6%	11,802	87.4%
			計画	6回	6日	9,000人	83.9%	10,728	
「くるみ割り人形」		12/12 ～12/20	実績	9回	5日	10,627人	70.0%	15,174	75.6%
			計画	9回	5日	14,900人	92.6%	16,092	
ニューイヤー・バレエ			1/9	実績	△	△	△	△	△

※公演中止		～1/11	計画	3回	3日	4,200人	78.3%	5,364	
吉田都セレクション		2/20	実績						
※公演中止		～2/23	計画	3回	3日	4,200人	78.3%	5,364	
「眠れる森の美女」		2/20	実績	4回	3日	3,268人	90.5%	3,612	
※年度計画外		～2/23	計画						
バレエ公演【小計】3公演 (計画:6公演)			実績	20回	13日	21,757人	71.1%	30,588	35.6%
			計画	40回	32日	61,200人	85.6%	71,520	
こどものためのバレエ劇場 2020 「竜宮 りゅうぐう」(新制作) ※日程変更・一部公演中止	オペラ 劇場	7/25 ～7/28	実績	6回	4日	3,482人	77.6%	4,488	38.7%
			計画	8回	4日	9,000人	75.4%	11,936	
バレエ鑑賞教室【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	6回	4日	3,482人	77.6%	4,488	38.7%
			計画	8回	4日	9,000人	75.4%	11,936	
バレエ【合計】4公演 (計画:7公演)			実績	26回	17日	25,239人	72.0%	35,076	36.0%
			計画	48回	36日	70,200人	84.1%	83,456	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### (b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

#### (c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
-	591人	591人	577人	-	97.6%

※全4公演でウェブアンケートを実施した。

#### (d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止した「ドン・キホーテ(5月)」「不思議の国のアリス」「白鳥の湖」「ニューイヤー・バレエ」「吉田都セレクション」を除き、4公演(本公演3公演、こどもバレエ1公演)を計画どおり実施した。
- ・ 新型コロナウイルスに関する検査で公演関係者に陽性者が出たため、公演中止を余儀なくされた「ニューイヤー・バレエ」は、1月11日に全編を無観客上演・ライブ配信し、約2.8万件の同時視聴件数・延べ15万6千件の視聴を得た。
- ・ 10月公演「ドン・キホーテ」では、チョコちゃんといっしょに課外授業製作委員会に共催団体として参加し、本公演(10/31公演)の映像配信に加え、吉田都芸術監督、バレエ団ダンサーへのインタビュー、リハーサル映像を特典として有料配信した。(10/1～販売、配信期間11/5～1/15 有料視聴件数3,262件)
- ・ 12月公演「くるみ割り人形」では、文化芸術収益力強化事業(文化庁委託事業)の一環として本公演の映像をライブ配信(12/20、視聴件数756件)し、後日アーカイブ配信(1/15～2/14、視聴件数1,329件)も行った。配信に併せて公演の舞台裏を紹介するドキュメンタリー映像を作成し、配信した(U-NEXT・観劇三昧:1/22～2/14 視聴件数1,322件、Vimeo:2/20～3/22)
- ・ 古典作品の「ドン・キホーテ」「くるみ割り人形」「眠れる森の美女」に加えて、新作バレエ「竜宮 りゅうぐう 亀の姫と季(とき)の庭」を上演したほか、「ニューイヤー・バレエ」(公演中止・無観客配信)の中でデヴィッド・ビントレー元芸術監督による作品「ペンギン・カフェ」を再演し、新国立劇場バレエ団ならではの幅広いレパートリーを示す多彩な公演を高い水準で上演した。
- ・ 本年度上半期は大原永子前芸術監督の最終シーズンであったが、新型コロナウイルス感染症の影響に

より英国在住の氏の来日そのものが困難となり、代わって吉田都芸術参与(現芸術監督)が活動休止を余儀なくされたバレエ団の指揮を執った。

- 本年度下半期は吉田都芸術監督の最初のシーズンにあたり、新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止や、演目の変更を余儀なくされたが、日々変化する状況に臨機応変に対応し、ダンサーの実力向上、公演の成功に深く寄与し、バレエ団を力強く牽引した。
- 新国立劇場バレエ団が主役からコール・ド・バレエまでいかに実力を発揮した。若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、新国立劇場バレエ団の層の厚さをアピールすることができ、観客から高い支持を得た。外部専門家等からも評価を受けた。
- SNS(Twitter、Instagram、Facebook)を活用し、リハーサル風景や公演の様子等を積極的に動画・写真で掲載したり、動画広告を出稿したりすることで、当該公演やバレエ団への興味喚起・認知度の向上に貢献した。
- 「ドン・キホーテ」「くるみ割り人形」での有料配信、「ニューイヤー・バレエ」の無観客上演・無料ライブ配信を行い、公演成果の発信・活用に努めた。

#### 【特記事項】

- 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(「ドン・キホーテ」)
- 令和2年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業(主催・共催型プロジェクト)採択事業(世界初演・新作バレエ公演 「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季(とき)の庭～)
- コンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助金(「ニューイヤー・バレエ」)
- 2020年の「ニューイヤー・バレエ」がBSプレミアムで再放送された(1/24)



### ③ 現代舞踊

#### 《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

#### (a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
中村恩恵×首藤康之×新国立劇場バレエ団 「Shakespeare THE SONNETS」	中劇場	11/28 ～11/29	実績	2回	2日	1,278人	81.1%	1,576	106.5%
			計画	2回	2日	1,200人	76.1%	1,576	
ダンスコンサート 「舞姫と牧神たちの午後2021」	小劇場	3/26 ～3/28	実績	4回	3日	1,176人	86.5%	1,360	117.6%
			計画	4回	3日	1,000人	73.5%	1,360	
現代舞踊【合計】2公演 (計画:2公演)			実績	6回	5日	2,454人	83.6%	2,936	111.5%
			計画	6回	5日	2,200人	74.9%	2,936	106.5%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

#### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
小野寺修二 カンパニー デラシネラ 「ふしぎの国のアリス」 ※公演中止	小劇場	6/20 ～6/28	実績	/	/	/	/	/	/
			計画	5回	5日	1,300人	76.5%	1,700	
中村恩恵×首藤康之×新国立劇場バレエ団 「Shakespeare THE SONNETS」	中劇場	11/28 ～11/29	実績	2回	2日	1,278人	81.1%	1,576	106.5%
			計画	2回	2日	1,200人	76.1%	1,576	
ダンスコンサート 「舞姫と牧神たちの午後2021」	小劇場	3/26 ～3/28	実績	4回	3日	1,176人	86.5%	1,360	117.6%
			計画	4回	3日	1,000人	73.5%	1,360	
現代舞踊【合計】2公演 (計画:3公演)			実績	6回	5日	2,454人	83.6%	2,936	70.1%
			計画	11回	10日	3,500人	75.5%	4,636	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### (b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

#### (c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)

-	69人	69人	65人	-	94.2%
---	-----	-----	-----	---	-------

※全2公演でウェブアンケートを実施した。

**(d) 優れた業績・評価すべき点**

- ・「ふしぎの国のアリス」は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため全公演を中止したが、「Shakespeare THE SONNETS」、「舞姫と牧神たちの午後 2021」は計画どおり実施した。
- ・実施した2公演とも80%以上の入場率を達成し高い水準で上演することができた。(販売制限を勘案した2公演合計の達成率111.5%)
- ・平成23年度に上演して大好評を博した「Shakespeare THE SONNETS」に、初演・振り付けを担当した中村恩恵と首藤康之のペアに加え、新国立劇場バレエ団ダンサーが出演した。

**【特記事項】**

- ・令和2年度(第75回)文化庁芸術祭協賛公演(「ダンス 中村恩恵×首藤康之×新国立劇場バレエ団「Shakespeare THE SONNETS」」)
- ・コンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助金(「Shakespeare THE SONNETS」)

#### ④ 演劇

##### 《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

##### (a) 公演実績(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
こどももおとなも楽しめる企画 「願いがかなうぐつぐつカクテル」(日本初演)※日程・公演回数変更、プレビュー公演中止	小劇場	7/9 ～7/26	実績	16回	16日	2,035人	77.1%	2,640	87.4%
			計画	20回	17日	2,328人	70.6%	3,300	
こどももおとなも楽しめる企画 「イヌビト～犬人～」(新作)※日程・公演回数変更 「リチャード二世」	中劇場	8/5 ～8/16	実績	11回	11日	3,712人	89.0%	4,169	80.6%
			計画	15回	11日	4,603人	81.0%	5,685	
		10/2 ～10/25	実績	22回	21日	10,070人	50.5%	19,932	56.5%
			計画	22回	21日	17,821人	89.4%	19,932	
こどももおとなも楽しめる企画 「ピーター＆ザ・スターキャッチャー」(日本初演)	小劇場	12/5 ～12/27	実績	22回	18日	4,258人	59.7%	7,128	77.9%
			計画	22回	18日	5,466人	76.7%	7,128	
演劇【合計】4公演 (計画:4公演)			実績	71回	66日	20,075人	59.3%	33,869	66.4%
			計画	79回	67日	30,219人	83.8%	36,045	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数＝当初計画の回数・日数－中止した公演の回数・日数

入場者数＝当初計画の目標入場者数×販売座席を制限した割合(注)

総席数＝当初計画の総席数×販売座席を制限した割合(注)

(注)販売座席を制限した割合＝実際に販売した1回当たりの満席数/計画時の1回当たりの満席数

##### (a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
フルオーデション2 「反応工程」※公演中止	小劇場	4/9 ～4/26	実績	/	/	/	/	/	/
			計画	16回	16日	3,600人	69.0%	5,216	
「ガールズ＆ボーイズーGirls&Boys-」(日本初演)※公演中止	小劇場	5/12 ～5/31	実績	/	/	/	/	/	/
			計画	23回	18日	6,800人	85.9%	7,912	
こどももおとなも楽しめる企画 「願いがかなうぐつぐつカクテル」(日本初演)※日程・公演回数変更、プレビュー公演中止	小劇場	7/9 ～7/26	実績	16回	16日	2,035人	77.1%	2,640	44.2%
			計画	20回	17日	4,600人	70.6%	6,520	
こどももおとなも楽しめる企画 「イヌビト～犬人～」(新作)※日程・公演回数変更	中劇場	8/5 ～8/16	実績	11回	11日	3,712人	89.0%	4,169	50.8%
			計画	15回	11日	7,300人	81.0%	9,015	

海外招聘公演		9/11 ～9/14	実績						
「ガラスの動物園」※公演中止			計画	4回	4日	3,400人	82.5%	4,120	
「リチャード二世」		10/2 ～10/25	実績	22回	21日	10,070人	50.5%	19,932	65.0%
			計画	22回	21日	15,500人	89.4%	17,336	
こどももおとなも楽しめる企画 「ピーター&ザ・スターキャッチャー」(日本初演)	小劇場	12/5 ～12/27	実績	22回	18日	4,258人	59.7%	7,128	77.4%
			計画	22回	18日	5,500人	76.7%	7,172	
演劇【合計】4公演 (計画:7公演)			実績	71回	66日	20,075人	59.3%	33,869	43.0%
			計画	122回	105日	46,700人	81.5%	57,291	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

#### (b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

#### (c) アンケート調査

配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
-	472人	472人	459人	-	97.2%

※全4公演でウェブアンケートを実施した。

#### (d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止となった「反応工程」「ガールズ&ボーイズ Girls&Boys」、海外招聘公演「ガラスの動物園」を除き、4公演を実施した。
- ・ 全キャストをオーディションで選考、上演する企画の第二弾「反応工程」は作品のみならずフルオーディションという企画自体が大きな注目を集めたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出により公演中止となった。令和3年7月に当初のキャストでの上演を予定している。
- ・ 「リチャード二世」は12年にわたるシェイクスピアの歴史劇の最後の作品にして、歴史の時系列では原点にあたる時代を描いた作品であり、演出の鶴山仁、リチャード二世役の岡本健一、ボリングブルック役の浦井健治をはじめとして過去のシリーズ作品のキャストが再集結した。
- ・ おとなもこどもも楽しめる企画として3公演を実施し、各作品の上演成果に加え、若い世代に演劇の奥深さを伝えることができ、将来の観客層へのアピールができた。
- ・ 「願いがかなうぐつぐつカクテル」「犬人」「ピーター&ザ・スターキャッチャー」各公演に付随して、視覚・聴覚に障害のある方々への観劇サポート(文化庁委託事業「令和2年度障害者による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)」)を実施した。
- ・ 公演に付随して実施してきた企画「ギャラリープロジェクト」を、令和2年度においては全てオンライン配信にて実施し、来場者だけでなく劇場に足を運べない層にも訴求する企画を実施した。
- ・ 英国ロイヤルコート劇場と協力し、若手劇作家が参加して1年間・3段階にわたるワークショップを通じて新作戯曲を執筆・ブラッシュアップしていく「ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」は、新型コロナウイルス感染症の影響によりリーディング公演の実施は見送られたが、オンラインで両国の参加者がディスカッション等を継続した。

#### 【特記事項】

- ・ 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演(「リチャード二世」)
- ・ コンテツググローバル需要創出等促進事業費補助金(「イヌビト～犬人～」)
- ・ 「リチャード二世」公演に関連して、以下のとおり各賞の受賞があった。

- ◇ 「リチャード二世」が第28回読売演劇大賞最優秀作品賞を受賞した。
  - ◇ 演出の鶴山仁が、第62回(2020年度)毎日芸術賞を受賞した。(舞台「リチャード二世」(東京・新国立劇場)の演出とシェイクスピア歴史劇シリーズ完結に対して)
  - ◇ リチャード二世役岡本健一が第五十五回紀伊國屋演劇賞(個人賞)を受賞した。(新国立劇場公演「リチャード二世」における王リチャード二世の演技に対して)
  - ◇ リチャード二世役岡本健一が令和2年度(第71回)芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。(新国立劇場公演「リチャード二世」における王リチャード二世の演技に対して)
  - ◇ ヨーク公爵夫人を演じた那須佐代子が第28回読売演劇大賞優秀女優賞を受賞した。
- ・ 令和元年12月に上演された「タージマハルの衛兵」が5/3(日)「BSプレミアム」にて放送された。

## ⑤ 公演動画等の配信

動画コンテンツ名	配信期間	再生回数
新国立劇場舞踊芸術監督 吉田都 就任公演 プレミアム配信「ドン・キホーテ」(ライブ配信、見逃し配信及び特典映像を含む)	10/1~11/5	3,262
Introducing the New National Theatre, Tokyo   Drama “Hounding Hounds” Excerpts ※1	12/18~12/20	979
くるみ割り人形(ライブ配信)※2	12/20	756
1月「ニューイヤー・バレエ」無観客上演ライブ配信※3	1/11	156,338
くるみ割り人形(オンデマンド配信) ※2	1/15~2/14	1,329
NAKAMURA Megumi × SHUTO Yasuyuki × The National Ballet of Japan “Shakespeare THE SONNETS” Excerpts ※1	2/19~R4/2/21	2,007
New Year Ballet 2021 - The National Ballet of Japan   New National Theatre, Tokyo ※1	3/17~R4/3/28	18,562

再生回数については配信終了時点のデータ。配信継続中のものについては3月31日時点の再生回数。

- ※1 バレエ公演「ニューイヤー・バレエ」、現代舞踊公演「中村恩恵×首藤康之×新国立劇場バレエ団『Shakespeare THE SONNETS』」、演劇公演「イヌビト～犬人～」については、コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LODlive 補助金)採択事業の成果物として無料公開した。
- ※2 12月公演「くるみ割り人形」については、文化庁委託事業「文化芸術収益力強化事業」対象公演である。また、公演映像の配信と併せて、ドキュメンタリー映像「新国立劇場バレエ団『くるみ割り人形』公演までの日々」が有料配信された。
- ※3 表記は延べ数。最大同時視聴者数は約2万8,000人。



### (3) 青少年等を対象とした公演

- (3) 青少年等を対象とした公演 —————p.99
  - ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした  
公演・入門企画(伝統芸能分野) —————p.100
  - イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野) p.104
  - ウ 外国人を対象とした公演・入門企画 —————p.106

### (4)伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の 実施に際しての留意事項等

- (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等
  - 〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等 —————p.109
  - 〈2〉 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等 —p.114





## 2 - (3) 青少年等を対象とした公演

### 《中期計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、(1)の中で主に青少年を対象とした公演を実施するほか、社会人や親子を対象とする入門企画を実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、(2)の中で主に青少年を対象とした公演を実施
- ウ 2020年東京大会に向けた文化プログラム実施の中核的拠点として、外国人向けの公演や普及的な企画を充実

### 《年度計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表4のとおり実施する。
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。
- ウ 2020年東京大会を契機とする文化プログラムに対応し、外国人を対象とした公演・入門企画を別表5のとおり実施する。

### 《中期目標の指標・関連指標》

<p>2-4 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数 (前中期目標期間実績の維持)</p>	<p>[伝統芸能分野] 青少年：7,463人 (H25-29実績平均：162,410.2人)</p> <p>社会人・親子等：1,741人 (H26-29実績平均：43,399.8人)</p> <p>[現代舞台芸術分野] 13,487人 (H25-29実績平均：25,986.8人)</p>
<p>2-5 外国人向け公演の入場者数 (前中期目標期間実績以上)</p>	<p>[伝統芸能分野] 2,337人 (H28-29実績平均：3,397.7人)</p>

## ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画(伝統芸能分野)

### 《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、6・7月に歌舞伎鑑賞教室を実施し、歌舞伎の代表的な演目を分かりやすい解説付きで上演することにより、若い世代への歌舞伎の普及振興を図る。また、社会人の歌舞伎初心者でも来場しやすいよう遅めの時間帯の公演日も設けるほか、7月の夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を実施する。(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止)

文楽では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて8月に3部制の文楽特別公演を開催し、その第1部に「親子劇場」として民話伝承を土台にした「舌切雀」、「瓜子姫とあまんじゃく」を大阪7月公演に続けて上演し、親子で文楽に親しんでいただける企画とする(新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため中止)。また、恒例の12月文楽鑑賞教室では、「二人禿」火の見櫓の段と近松門左衛門の名作「平家女護島」鬼界が島の段を、実演を交えた解説を付け鑑賞の一助とする。また、2月には東京では鑑賞機会の少ない「組踊」を対象とした入門公演を企画する(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止)。

演芸場では、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能(落語、紙切り、コント等)を子供たちに知ってもらうため、夏休み期間中に解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を予定したが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、一般向けの入門公演に企画変更して実施する。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、内容の分かりやすい狂言「寝音曲」、能の人気曲「殺生石」に、学生が親しみを持てるよう解説を付ける。8月に「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら、新たな観客層を開拓する。

文楽劇場では、6月に若年層を対象とした文楽鑑賞教室を実施し、また公演中の2回を「大人のための文楽入門」として夜公演とし、勤め帰りに気軽に文楽鑑賞を体験できるよう工夫する(新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため中止)。7月は例年夏休み文楽特別公演と題し、7月末から8月初めの月過ぎの公演を実施していたが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催(新型コロナウイルス感染症拡大により延期)に合わせて7月のみの公演とし、8月は東京で同一演目同一配役による公演を予定していた(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止)。内容は、第一部を「親子劇場」として、文楽劇場が初演した「舌切雀」、東京本公演では初めてとなる「瓜子姫とあまんじゃく」という親子で楽しめる作品の上演を企画した(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止)。

国立劇場おきなわでは、8月には親子、10月には一般対象に、11月には主に中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を上演する。第一部において、案内役による解説「組踊の楽しみ方」や「組踊版シンデレラ」を上演することで、第二部の組踊の理解を深める工夫を行う。また、8月には「琉球舞踊鑑賞教室」、9月には「沖縄芝居鑑賞教室」に、引き続き取り組む。

### ①公演実績

#### (a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 ※公演中止	本館 大劇場	6/2 ~21	実績	/	/	/	/	/	/
				計画	40回	20日	49,500人	81.4%	60,800	
	7月歌舞伎鑑賞教室 ※公演中止		7/3 ~27	実績	/	/	/	/	/	/
				計画	42回	21日	55,000人	86.2%	63,840	
文楽	12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」 「二人禿」「芦屋道満大内鑑」	本館 小劇場	12/3 ~15	実績	25回	13日	5,611人	89.8%	6,250	43.8%
				計画	25回	13日	12,800人	92.6%	13,825	
	6月文楽鑑賞教室	文楽	6/5	実績	/	/	/	/	/	/

	「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、「夏祭浪花鑑」 ※公演中止	劇場	～18	計画	28回	14日	18,500人	90.4%	20,468	
能楽	能楽鑑賞教室 解説、狂言「寝音曲」、能「殺生石」 ※公演中止	能楽堂	6/22 ～26	実績						
				計画	10回	5日	6,050人	96.5%	6,270	
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室 「黒島王物語」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 大劇場	9/17 ～19	実績						
				計画	3回	3日	1,262人	73.3%	1,722	
	組踊鑑賞教室「二童敵討」		11/18 ～20	実績	6回	3日	1,852人	54.1%	3,426	71.2%
				計画	6回	3日	2,601人	75.0%	3,468	
伝統芸能【合計】		2公演 (計画:7公演)		実績	31回	16日	7,463人	77.1%	9,676	5.1%
				計画	154回	79日	145,713人	85.5%	170,393	

(b) 社会人・親子等を対象とした公演・入門企画(再掲)

	公演名	劇場	期間	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
社会人	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」 ※公演中止	本館 大劇場	6/5 6/12					
	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」 ※公演中止		7/10					
親子	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」 ※公演中止		7/22～27					
歌舞伎【小計】		0公演	(計画:3公演)					
社会人	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館 小劇場	12/4 12/11	2回	2日	487人	97.4%	500
	6月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門」 ※公演中止	文楽 劇場	6/14					
親子	8月文楽特別公演「親子劇場」 ※公演中止	本館 小劇場	8/3～9					
	夏休み文楽特別公演(第一部親子劇場) ※公演中止	文楽 劇場	7/18～28					
文楽【小計】		1公演	(計画:4公演)	2回	2日	487人	97.4%	500
社会人	9月特別企画「バリアフリー伝統芸能入門」 ※公演中止	本館 大劇場	9/5					
	2月琉球芸能公演「組踊入門」 ※公演中止	本館 小劇場	2/27					
短期【小計】		0公演	(計画:2公演)					
親子	7月特別企画「親子で楽しむ演芸会」 ※公演中止	演芸場	7/26					
社会人	7月特別企画 「林家彦いちの寄席入門」	演芸場	7/26	1回	1回	135人	96.4%	140
大衆芸能【小計】		1公演	(計画:1公演)	1回	1回	135人	96.4%	140
	夏休み親子で楽しむ能の会	能楽堂	8/8	1回	1日	295人	99.0%	298

親子	おはなし、能「小鍛冶」							
	夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「鴈磔」、狂言「腰折」		8/29	1回	1日	297人	99.7%	298
	能楽【小計】	2公演	(計画:2公演)	2回	2日	592人	99.3%	596
一般	組踊鑑賞教室「執心鐘入」	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/31	2回	1日	527人	91.8%	574
社会人	琉球舞踊鑑賞教室 ※公演中止		8/8					
親子	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」 ※公演中止		8/15					
	組踊等【小計】	1公演	(計画:3公演)	2回	1日	527人	91.8%	574
	主に社会人を対象とした公演・入門企画 【合計】	3公演	(計画:8公演)	5回	4日	1,149人	94.6%	1,214
	主に親子を対象とした公演・入門企画 【合計】	2公演	(計画:7公演)	2回	2日	592人	99.3%	596
	【合計】	5公演	(計画: 15公演)	7回	6日	1,741人	96.2%	1,810

(c) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演(後掲)

区分	公演名	会場	共催	期間	回数	入場者数	入場率
共催	6月歌舞伎鑑賞教室 静岡公演 ※公演中止	静岡県コンベンションアーツ センター グランシップ	(公財)静岡県文化財 団、静岡県	6/23	2回	-	-
共催	6月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演 ※公演中止	神奈川県立青少年センター	かながわ伝統芸能祭 実行委員会	6/25~ 26	4回	-	-

②アンケート調査

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
主に青少年を対象とした公演	2公演 31回	-	334人	333人	317人	-	95.2%
主に社会人を対象とした 公演・入門企画	1公演 2回	-	154人	139人	136人	-	97.8%
主に親子を対象とした 公演・入門企画	2公演 2回	523人	464人	464人	435人	88.7%	93.8%

※本館は全公演で毎回ウェブアンケートを実施。能楽堂は座席背面字幕ディスプレイによる選択式で実施。

③優れた業績・評価すべき点

- ・歌舞伎では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校団体による観劇が中心となる6・7月歌舞伎鑑賞教室を中止した代わりに、初心者向け公演の代替企画として、インターネット動画配信の歌舞伎入門コンテンツ「松本幸四郎の歌舞伎を知ろう」(全3シリーズ)を製作し、有料配信した。また、3月歌舞伎公演を「歌舞伎名作入門」と銘打ち、本編上演前に解説を付けて、日頃歌舞伎になじみの薄い一般の歌舞伎初心者に向けた入門公演とした。
- ・本館小劇場の文楽鑑賞教室では、昼の時間帯では学生向け22回、夜の時間帯に社会人向け2回、外国人向けの公演を1回実施した。また、上演の構成は「二人禿」「解説 文楽の魅力」「芦屋道満大内鑑」とした。初めて文楽に触れる青少年でも文楽特有の表現や演出を短い時間で楽しめる演目、画像を活用した解説を組み合わせることで、文楽の持つ魅力について広く提供できた。
- ・演芸場の「林家彦いちの寄席入門」では、『寄席』及び寄席で演じられる『演芸(落語、ものまね)』を出演者の対談で解説し、実演とともに子供も大人も楽しめる公演となった。
- ・「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では公演内容等の理解を促進するた

め、イラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、座席字幕表示装置に子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、好評であった。

- ・ 10月、11月の組踊鑑賞教室は、解説の際に客席より来場者を案内役が舞台上げて、即興で一緒に組踊を作っていく例年の形を計画していたが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来場者との接触を避けるため、新たな手法として案内役二人での掛け合いや、舞台衣装・小道具をスクリーンで解説するなど、初めて組踊を鑑賞する方でも、よりイメージしやすいように配慮して実施した。
- ・ 「組踊鑑賞教室」では、学校行事としての参加を促すため、公演の前年度から営業活動に取り組むとともに、県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、学校団体の誘客に努めた。

#### **【特記事項】**

- ・ 公演内容等の理解を促進するため、「文楽入門～Discover BUNRAKU～」 「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」では写真入りの初心者向けパンフレットを作成し、無料配布した。

## イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野)

### 《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

### ①公演実績

#### (a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020「夕鶴」 ※公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	7/9～15	実績						
				計画	6回	6日	8,500人	80.0%	10,620	
オペラ	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ 「Super Angels スーパーエンジェル」(新制作) ※公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	8/22～23	実績						
				計画	2回	2日	2,000人	56.5%	3,540	
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2020 「竜宮 りゅうぐう」(新制作) ※日程変更・一部公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	7/25～28	実績	6回	4日	3,482人	77.6%	4,488	38.7%
				計画	8回	4日	9,000人	75.4%	11,936	
現代舞踊	小野寺修二カンパニーデラシネラ 「ふしぎの国のアリス」 ※公演中止	新国立劇場 小劇場	6/20～28	実績						
				計画	5回	5日	1,300人	76.5%	1,700	
演劇	こどももおとなも楽しめる企画 「願いがかなうぐつぐつカクテル」 (日本初演) ※日程・公演回数変更、プレビュー公演中止	新国立劇場 小劇場	7/9～26	実績	16回	16日	2,035人	77.1%	2,640	44.2%
				計画	20回	17日	4,600人	70.6%	6,520	
	こどももおとなも楽しめる企画 「イヌビト～犬人～」(新作) ※日程・公演回数変更	新国立劇場 中劇場	8/5～16	実績	11回	11日	3,712人	89.0%	4,169	50.8%
				計画	15回	11日	7,300人	81.0%	9,015	
	こどももおとなも楽しめる企画 「ピーター & ザ・スターキャッチャー」(日本初演)	新国立劇場 小劇場	12/5～27	実績	22回	18日	4,258人	59.7%	7,128	77.4%
				計画	22回	18日	5,500人	76.7%	7,172	
現代舞台芸術【小 計】				実績	55回	49日	13,487人	73.2%	18,425	35.3%
				計画	78回	63日	38,200人	75.6%	50,503	

#### (b) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演、主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演(後に再掲)

##### 《全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演》

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020「魔笛」	ロームシアター京都 大ホール	京都市、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	10/27～28	2回	1,183人	42.0%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場 2020 バレエ「竜宮 りゅうぐう」	アルカス SASEBO 大ホール	(公財)佐世保地域文化事業財団	9/19	1回	607人	86.7%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場 2020 バレエ「竜宮 りゅうぐう」	オーバード・ホール	(公財)富山市民文化事業団	9/22	1回	726人	90.8%

##### 《主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演》

公演名	会場	主催・共催等	期間	回数
-----	----	--------	----	----

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業 ※中止	石川県・富山県・福井県 各 県の小・中学校体育館	主催：文化庁	6・11・12月	7回
こども音楽フェスティバル オープニング・コンサート ※中止	サントリーホール	公益財団法人ソニー音 楽財団、公益財団法人 サントリー音楽財団	7/18	1回
令和2年度文化芸術による子供育成総合事業（注）	東京都内の小学校	主催：文化庁	1月	2回

（注）当初予定していた3校のうち1校での実施が中止となった。

## ②アンケート調査

分野	公演名	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2020 「竜宮 りゅうぐう」(新制作)	6回	-	-	247人	240人	-	97.2%
演劇	こどももおとなも楽しめる企画 「願いがかなうぐつぐつカクテル」(日本初演)	16回	-	-	78人	74人	-	94.9%
演劇	こどももおとなも楽しめる企画 「イヌビト～犬人～」(新作)	11回	-	-	80人	78人	-	97.5%
演劇	こどももおとなも楽しめる企画 「ピーター & ザ・スターキャッチャー」(日本初演)	22回	-	-	78人	73人	-	93.6%
合計			-	-	483人	465人	-	96.3%

※ウェブアンケートを実施。

## ③優れた業績・評価すべき点

- 新型コロナウイルス感染症拡大のため公演中止となった「高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020『夕鶴』」に来場する予定であった高等学校に対して希望を募り、2018年に上演した『魔笛』公演のダイジェスト映像(DVD又はオンライン視聴形式)及び特別パンフレットを配布した。
- こどものためのバレエ劇場 2020 世界初演・新作バレエ公演「竜宮 りゅうぐう～亀の姫と季(とき)の庭～」は、前年度の現代舞踊公演「NINJA」でも高い評価を得た現代日本を代表する振付家森山開次による初のバレエ作品であり、今回が世界初演となった。前年度2月の「マノン」を最後に公演中止が続いていた新国立劇場バレエ団の5か月ぶりの公演であり、おとぎ話を題材にした子どもにも理解しやすい構成でありながら、大人の観客からも高い評価を得た。
- 演劇「願いがかなうぐつぐつカクテル」「イヌビト～犬人～」「ピーター&ザ・スターキャッチャー」は「こどももおとなも楽しめる企画」として上演された。それぞれに深いテーマ性を備えながら、またコロナ禍における上演の新しい形を提示した。
- こどものためのバレエ劇場 2020「竜宮」は全国2か所、演劇「ピーター&ザ・スターキャッチャー」は全国5か所・7回の公演を実施した。特に演劇「ピーター&ザ・スターキャッチャー」は新国立劇場での計22回の公演に続けて約2か月にわたる長期公演を実施し、新国立劇場での公演との合計で29回公演・5,855人の入場者を得た。

## 【特記事項】

- こどものためのバレエ劇場 2020「竜宮」アルカス SASEBO(佐世保市)公演に際して、『アルカス SASEBO 文化茶話～新国立劇場バレエ団と初コラボ！振付家・森山開次に聞く～』が実施された。

## ウ 外国人を対象とした公演・入門企画

### 《制作方針》

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う文化プログラムの一環として、引き続き「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」をはじめ、能楽、組踊で、外国人向けの入門公演を各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示、音声同時解説等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から7月歌舞伎鑑賞教室を中止したことに伴い、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を中止した。)

本館文楽においては、日本語を母国語としない外国人にも理解しやすく鑑賞できる機会を作り、観劇人口の増加を図る。解説には、前年度に引き続きイギリス出身の翻訳家・キャスターのステュウット・ヴァーナム・アットキン氏を起用し、観客の視点から文楽という舞台芸能を詳細に解説する。解説と演目の進行に合わせて日本語・英語の2言語の音声ガイドを放送し、無料貸し出しする。

### ①公演実績

	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」 ※公演中止	本館 大劇場	7/24 ～27						
文楽	8月文楽特別公演 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」 ※公演中止	本館 小劇場	8/3 ～9						
	9月文楽鑑賞教室 「文楽入門～Discover BUNRAKU～」	本館 小劇場	9/5 ～22	実績	16回	16日	1,545人	40.2%	3,840
	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	本館 小劇場	12/14	実績	1回	1日	232人	92.8%	250
	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」 ※公演中止	文楽劇場	6/13						
	夏休み文楽特別公演 「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」(第二部) ※公演中止	文楽劇場	7/18 ～28						
	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「柿山伏」、能「紅葉狩 鬼揃」	能楽堂	10/31	実績	1回	1日	297人	99.7%	298
組踊等	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 大劇場	8/15						
	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 「二童敵討」	国立劇場 おきなわ 大劇場	11/21	実績	1回	1日	263人	92.3%	285
伝統芸能【合計】		4公演 (計画:8公演)		実績	19回	19日	2,337人	50.0%	4,673

### ②アンケート調査 ※()内は外国人のみの数値

分野	公演名	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
文楽	9月文楽鑑賞教室 「文楽入門～Discover BUNRAKU～」	16回	109人	109人	109人 (2人)	107人 (2人)	100.0%	98.2% (100.0%)



文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU—外国人 のための文楽鑑賞教室—」	1回	7人	7人	7人 (7人)	7人 (7人)	100.0%	100.0% (100.0%)
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「柿山伏」、 能「紅葉狩 鬼揃」	1回	272人	140人	140人 (5人)	138人 (5人)	51.5%	98.6% (100.0%)
組踊 等	はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～組踊 「二童敵討」	1回	250人	106人	101人 (5人)	100人 (5人)	42.4%	99.0% (100.0%)
合計		19回	638人	362人	357人 (19人)	352人 (19人)	56.7%	98.6% (100.0%)

### ③優れた業績・評価すべき点

- ・歌舞伎公演については「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」を実施せず、無評価。
- ・本館「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」では、昨年に引き続きステュウット・ヴァーナム—アットキン氏を案内役に起用し、観客の視点から文楽という芸能の構造を詳細に解きほぐして解説した。併せて英語字幕も実施した。また、親子の情愛という民族、言語を越えた不変のテーマを持ち、狐が人間に化けているという神秘的な物語である「葛の葉子別れの段」を通して、人形浄瑠璃文楽という芸能の魅力を外国人に伝えることができた。
- ・「文楽入門～Discover BUNRAKU～」 「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室」の集客のため、それぞれ専用のチラシを作成して、大学留学生センター等の外国人関係団体やホテル・観光案内所に周知を行った結果、外国人来場者を得ることができた。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」は6月の能楽鑑賞教室から独立させて10月に実施し、充実した番組によって外国人観客に能楽を強く印象付けた。座席字幕表示装置は従来の4か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語)にフランス語とスペイン語を加え6か国語での表示を行った。また、当日無料配布した解説書も同じく6か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語)として、理解促進に大いに役立った。
- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、公演前に英語通訳付きのワークショップを開催したほか、多言語版公演チラシの作成、県内のインターナショナルスクールや外国人関係団体への公演案内を送付する等の誘客活動を実施した。

### 【特記事項】

- ・本館で実施した外国人向けの入門公演「文楽入門～Discover BUNRAKU～」 「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」では、日本語及び英語による特別パンフレットを作成し、無料配布した。
- ・本館では、歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語(簡)・中国語(繁)・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を国立劇場チケット売場や観光案内所等に設置した。
- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、劇場ロビーに英語通訳者を配置したほか、前年度に引き続き4か国語(英語・中国語・韓国語・日本語)による音声同時解説を導入した。
- ・国立劇場おきなわ運営財団ウェブチケット販売サービスの英語化や、英語版のチケット販売ウェブサイト(Confetti)を活用し、外国のお客様の利便性向上を図った。
- ・関連イベント、ワークショップ等を以下のとおり実施。

分野	イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	満足回答率
組踊 等	外国人のための 組踊ワークショップ	11/21	国立劇場おきなわ 大稽古室	チケット 購入者限定	山城峻称、高井賢太郎、仲嶺良盛	18人	100.0%



## 2 - (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

### 《中期計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 新たな観客層の開拓、適切な鑑賞者数の目標設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
  - ①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等
  - ②全国各地の文化施設等における公演等
  - ③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

### 《年度計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- イ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
  - ①共催、受託などによる公演等を別表 6 のとおり実施
  - ②全国各地の文化施設等における公演等を別表 7 のとおり実施
  - ③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施
  - ④伝統芸能の振興等のため、青少年、外国人等を対象としたワークショップを各分野で開催

### 《中期目標の指標・関連指標》

2-A 全国各地の文化施設等における公演数(共催・受託公演や地方自治体等の協賛公演等の公演数)	[伝統芸能分野] 8 公演  [現代舞台芸術分野] 11 公演
---	---

## 〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

### ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

#### ①外部専門家等の意見聴取

外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。

#### ②アンケート調査の実施(分野ごと集計)

分野	公演数	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	5公演	191回	-	785人	785人	755人	-	96.2%
文楽(本館小劇場)	4公演	166回	-	561人	561人	542人	-	96.6%
文楽(文楽劇場)	2公演	2回	219人	194人	193人	191人	88.6%	99.0%
舞踊・邦楽等	7公演	15回	-	38人	38人	36人	-	94.7%
大衆芸能(演芸場)	6公演	16回	962人	558人	545人	506人	58.0%	92.8%
大衆芸能(文楽劇場)	1公演	1回	342人	253人	253人	250人	74.0%	98.8%
能楽	8公演	8回	3,013人	1,601人	1,601人	1,552人	53.1%	96.9%
組踊等沖縄伝統芸能	16公演	21回	4,408人	2,736人	2,505人	2,421人	62.1%	96.6%
計	49公演	420回	8,944人	6,726人	6,481人	6,253人	75.2%	96.5%

※本館は全公演で毎回ウェブアンケートを実施。能楽堂は座席背面字幕ディスプレイによる選択式で実施。

### イ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

#### ①共催、受託などによる公演等

##### (a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
特別企画	共催	5月特別企画公演 ※公演中止	本館大劇場	(公財)東京都歴史文化財団 他	5/23 ~24	2回	-	-
特別企画	共催	8月特別企画公演 ※公演中止	本館大劇場	(公財)東京都歴史文化財団 他	8/1 ~2	6回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 琉球古典音楽野村流保存会 中部北支部	国立劇場おきなわ小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	8/14	1回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 NPO 法人尋藝能塾 ※公演中止	国立劇場おきなわ小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	9/18	1回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 玉城流七扇会	国立劇場おきなわ小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	10/2	1回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 那覇市文化協会 演劇部会	国立劇場おきなわ小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	10/9	1回	115人	90.6%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 琉球舞踊真境名本流教師会 ※公演中止	国立劇場おきなわ小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	10/23	1回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 糸満市南山組踊保存会 ※公演中止	国立劇場おきなわ小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	10/30	1回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 勤王流八重山舞踊保存会無銘之会	国立劇場おきなわ小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振興会 共催:沖縄県	11/6	1回	110人	86.6%

組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 琉球古典音楽野村流保存会 大湾朝重研究所	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振 興会 共催:沖縄県	11/13	1回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 沖縄芝居「演」	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振 興会 共催:沖縄県	11/20	1回	100人	78.7%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 琉球舞踊真踊流 ※公演中止	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振 興会 共催:沖縄県	11/27	1回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 島袋流千尋会	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振 興会 共催:沖縄県	12/4	1回	98人	77.2%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 玉城流金城清一組踊会 ※公演中止	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振 興会 共催:沖縄県	12/11	1回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 玉城流円の會 平良富士子琉舞道場	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振 興会 共催:沖縄県	1/15	1回	88人	69.3%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 琉球舞踊親泊流輝てい會 ※公演中止	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振 興会 共催:沖縄県	1/29	1回	-	-
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 劇団与座	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:(公財)沖縄県文化振 興会 共催:沖縄県	3/12	1回	94人	74.0%
組踊等	共催	新春組踊大公演 ※公演中止	国立劇場おきなわ 大劇場	(一社)伝統組踊保存会	1月	1回 程度	-	-
組踊等	共催	国立劇場おきなわ県外公演 ※オンラインで実施	京都芸術劇場 春秋座	京都芸術大学舞台芸術研 究センター	11/29	1回	366人	90.1%
組踊等	共催	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵 討」 ※公演中止	国立劇場おきなわ 大劇場	(公財)東京オリンピック・ パラリンピック競技大会組 織委員会	8/15	2回	-	-

(b) 年度計画外の公演

i. 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭

主催公演	本館大劇場:10月歌舞伎公演(第一部・第二部)、11月歌舞伎公演(第一部) 演芸場:11月企画公演(国立名人会) 能楽堂:11月企画公演 文楽劇場:錦秋文楽公演、10月舞踊公演 国立劇場おきなわ:11月企画公演(アジア・太平洋地域の芸能)
協賛公演	本館大劇場:11月歌舞伎公演(第二部) 本館小劇場:10月邦楽公演、11月雅楽公演、11月舞踊公演 演芸場:10月・11月定席公演(4公演)、10月・11月特別企画公演(3公演) 能楽堂:10月・11月定例公演(4公演)、10月・11月普及公演、10月企画公演 文楽劇場:11月上方演芸特選会 国立劇場おきなわ:10月企画公演、10月民俗芸能公演、10月普及公演、 11月企画公演(国立劇場寄席)、11月普及公演

- ・ 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭オープニング 国際音楽の日記念  
「花鳥風月によせて一重要無形文化財保持者(各個認定)の至芸一」(受託公演)  
10/1(木)、1回、本館大劇場  
主催:文化庁芸術祭執行委員会、制作:独立行政法人日本芸術文化振興会  
入場者数:350人(入場率70.4%) ※1階席のみ販売

ii. 地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力

公演名	区分	連携協力先
-----	----	-------

歌舞伎鑑賞教室 ※公演中止	後援	文化庁、東京都、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、公益財団法人日本修学旅行協会
	協力	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、株式会社 JTB、株式会社日本旅行、株式会社近畿日本ツーリスト首都圏
親子で楽しむ 歌舞伎教室 (7月歌舞伎 鑑賞教室期間中) ※公演中止	共催	東京都教育委員会
	後援	文化庁、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、一般社団法人東京都小学校 PTA 協議会、東京都公立中学校 PTA 協議会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
社会人のための 歌舞伎鑑賞教室 ※公演中止	後援	一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所、公益社団法人東京青年会議所
9月文楽公演 第四部 「文楽入門～Discover BUNRAKU～」	主催	文化庁
文楽(本館) 鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県
5月特別企画公演 ※公演中止	主催	アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
	助成 協力	東京都
11月雅楽	主催	文化庁
2月特別企画	主催	文化庁
3月特別企画	主催	文化庁
3月舞踊	主催	文化庁
3月特別企画公演 「演芸大にぎわい」	制作 協力	一般社団法人日本演芸家連合
文楽劇場の全公演	共催	関西元気文化圏共催事業
文楽劇場 6月文楽鑑賞教室 ※公演中止	後援	文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK 大阪放送局
	協力	公益財団法人文楽協会

### iii. 外部の公演等への後援・協力等

区分	公演名	会場	主催等	期間
協賛	キッズ伝統芸能体験	本館大劇場 他	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	11/1～ 3/31
協賛	2020年度キッズ伝統芸能体験開講式 ※収録のみ	国立能楽堂	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	9/20
特別 協賛	Discover NIHONBUYO ※公演中止	本館小劇場	公益社団法人日本舞踊協会	7/28～29
協賛	第31回全国高等学校総合文化祭 優秀校東京公演 ※公演中止	本館大劇場	文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟	8/29～30
協賛	第61回式能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	2/21
協力	ザ・グレート文楽	国立文楽劇場	関西テレビ放送株式会社	10/21～22
協力	シリーズ舞台芸術としての伝統芸能 Vol.3 人形浄瑠璃 文楽	ロームシアター京都	京都市、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団	2/27～28
協力	うめだ文楽 2021	ナレッジシアター	毎日放送・テレビ大阪・関西テレビ放送・ナレッジキャピタル	3/26～28

② 全国各地の文化施設等における公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
歌舞伎	共催	6月歌舞伎鑑賞教室 静岡公演 ※公演中止	静岡県コンベンションア ツセンター グランシップ	(公財)静岡県文化財団、静岡 県	6/23	2回	-	-
歌舞伎	共催	6月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演 ※公演中止	神奈川県立 青少年センター	かながわ伝統芸能祭実行委員 会	6/25～26	4回	-	-
組踊等	共催	国立劇場おきなわ県外公演 ※オンラインで実施	京都芸術劇場 春秋座	京都芸術大学舞台芸術研究セ ンター	11/29	1回	366人	90.1%

③ 国際文化交流公演等

(a) 年度計画公演

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」 ※公演中止	本館大劇場	7/24～27	4回	-	-
文楽	8月文楽特別公演 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」 ※公演中止	本館小劇場	8/3～9	7回	-	-
文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	本館小劇場	12/14	1回	230人	92.0%
特別企画	5月特別企画公演 「言葉～ひびく～身体Ⅱ今を生きるー現前する舞と生ー」 ※公演中止	本館大劇場	5/23～24	2回	-	-
特別企画	10月特別企画公演「文楽と世界の人形芝居」 ※公演中止	本館小劇場	10/23～25	6回	-	-
文楽	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」 ※公演中止	文楽劇場	6/13	1回	-	-
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「柿山伏」、能「紅葉狩 鬼揃」	能楽堂	10/31	1回	297人	99.7%
組踊等	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	国立劇場おきなわ 大劇場	8/15	2回	-	-
組踊等	アジア・太平洋地域の芸能 ～箏～	国立劇場おきなわ 大劇場	11/8	1回	235人	76.3%
組踊等	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 「二童敵討」	国立劇場おきなわ 大劇場	11/21	1回	263人	92.3%

《アンケート結果》 ※0内は外国人のみのアンケート結果

分野	公演名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	-	19人	19人 (7人)	19人 (7人)	-	100.0% (100.0%)
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「柿山伏」、能「紅葉狩 鬼揃」	272人	140人	140人 (5人)	138人 (5人)	51.5%	98.6% (100.0%)
組踊等	アジア・太平洋地域の芸能 ～箏～	250人	180人	167人	164人	72.0%	98.2%
組踊等	はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～組踊「二童敵討」	250人	106人	101人 (5人)	100人 (5人)	42.4%	99.0% (100.0%)

(b) 年度計画外の公演等

i. 年度計画外の公演等

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
文楽	9月文楽公演 第四部 「文楽入門～Discover BUNRAKU～」	本館小劇場	9/5～22	16回	1,544人	40.2%

《ワークショップ等》

企画名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数
外国人のための組踊ワークショップ	11/21	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原 崇弘、比嘉 大志、徳田 泰樹	18人

ii. 在日各国大使等の公演招待

- ・2月特別企画公演に大使館招待を実施、18の国と地域の大使等34名が参加(2/28)。

④ 青少年、外国人等を対象とするワークショップ

イベント・キャンペーン名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	応募者数
レクチャーデモンストレーション 「楽しもう演芸の世界」	3/20～ 21	伝統芸能情報館 レクチャー室	無料	日本演芸家連合会員団体 所属演芸家	66人	78人
おでかけワークショップ in 山田小学校	11/13	恩納村立山田小 学校体育館	無料	嘉数道彦、仲村逸夫、喜納吏一、玉 城匠	59名	—
外国人のための組踊ワークショップ	11/21	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原 崇弘、比嘉 大志、徳田 泰樹	18名	—

⑤ その他の留意事項

(a) 「beyond2020 プログラム」への参加

- ・令和2年度独立行政法人日本芸術文化振興会主催公演・展示等事業  
5月に一括で申請を行い、同月に文化庁より認証を受けた。  
計128件(公演中止となったものを除く)  
(国立劇場19件、国立演芸場44件、国立能楽堂45件、国立文楽劇場14件、伝統芸能情報館3件、日本博(振興会実施企画)3件)
- ・令和2年度国立劇場おきなわ自主公演等  
国立劇場おきなわ37件(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団より申請)

(b) その他の連携協力

- ・日本の伝統芸能に触れる機会を学生に提供する現場レベルでの協力をさらに発展させるため、相互協力に関する基本協定を締結した独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)の要請を受け、国立劇場歌舞伎入門動画「松本幸四郎の歌舞伎を知ろう」の団体販売を同機構に行った(2本×東京日本語教育センターの留学生176名、合計352件)。
- ・国立劇場近隣の店舗で国立劇場・国立演芸場のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられる「国立劇場 GoTo 半蔵門キャンペーン」を実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど34店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した。
- ・「国立劇場 GoTo 半蔵門キャンペーン」参加店舗と協力し、初春歌舞伎公演・3月歌舞伎公演の招待券等が当たる抽選会を実施した。抽選会の応募はがきに公演情報を掲載して公演周知を図った。
- ・千代田区観光協会との協力により、同協会へのチラシ掲出と同協会HP(日本語・英語・中国語・韓国語対応)に公演情報を掲出し、公演周知を図った。
- ・国立劇場にて地域連携及び学校教育活動への協力の一環として、前年度に引き続き国立劇場舞台技術部と協力し、千代田区立麴町中学校が3月に実施した「ミライ探求フィールドワーク」の中学生訪問を受け入れ、劇場施設見学等を実施(3/12)。
- ・文楽劇場では大阪府市はもとより、Osaka Metro、JR西日本、民放各社、京阪神エルマガジン社、大阪市立中央図書館といった多様な連携先との協力により広報活動を充実させた。
- ・沖縄県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行った。



## 〈2〉 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

### ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

#### ①外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。  
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

#### ②アンケート調査の実施(分野ごと集計)

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からチラシ等の手渡し配布を取りやめているため、劇場内にウェブアンケート回答用ページにアクセスできる QR コードを掲示した他、希望者に同様の QR コードを印字した用紙をお渡しした。
- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、HP に掲出した。

分野	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	6 公演 28 回	-	-	301 人	262 人	-	87.0%
バレエ	4 公演 26 回	-	-	591 人	577 人	-	97.6%
現代舞踊	2 公演 6 回	-	-	69 人	65 人	-	94.2%
演劇	4 公演 71 回	-	-	472 人	459 人	-	97.2%
計	16 公演 131 回	-	-	1,433 人	1,363 人	-	95.1%

### イ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

#### ①共催、受託などによる公演等

##### (a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	地域招聘公演 びわ湖ホール オペラ「竹取物語」	新国立劇場 オペラ劇場	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	7/11～12	2 回	-	-
オペラ	共催	東京二期会オペラ劇場公演 「フィデリオ」	新国立劇場 オペラ劇場	主催：公益財団法人東京二期会 共催：公益財団法人日本オペラ振興会	9/3～6	4 回	2,458 人	68.6%
オペラ	共催	高校生のための オペラ鑑賞教室 2020 「魔笛」	ロームシアター京都 メインホール	主催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場 協賛：ローム株式会社 助成：公益財団法人ロームミュージックファンデーション	10/27～28	2 回	1,183 人	42.0%
オペラ	提携	「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 ※公演中止	東京文化会館 大ホール	主催：東京都・東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)	6/14～ 6/17	2 回	-	-
オペラ	提携	「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 ※公演中止	兵庫県立芸術文化センター	主催：兵庫県 兵庫県立芸術文化センター	7/5	1 回	-	-

##### (b) 年度計画外の公演等

###### i. 令和 2 年度(第 75 回)文化庁芸術祭

主催公演	オペラ「夏の夜の夢」「こうもり」 バレエ「ドン・キホーテ」 演劇「リチャード二世」
------	---

協賛公演	オペラ「アルマゲドンの夢」 現代舞踊 中村恩恵×首藤康之×新国立劇場バレエ団「Shakespeare THE SONNETS」 演劇【特別イベント】シェイクスピア歴史劇シリーズ映像上映
------	--

## ii. 大学との連携協力

- 11 大学と連携・協力に関する協定を締結している。(東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学)
- 新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、大学からのインターンシップ生の受入れを実施。

## ②全国各地の文化施設等における公演

### (a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	提携	「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 ※公演中止	東京文化会館 大ホール	(公財)東京都歴史文化財団	6/14 ~17	2回	-	-
オペラ	提携	「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 ※公演中止	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター	7/5	1回	-	-
オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020「魔笛」	ロームシアター京都 大ホール	京都市、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	10/27 ~28	2回	1,183人	42.0%
オペラ	受託	「こうもり」	札幌文化芸術劇場 hitaru	(公財)札幌市芸術文化財団	12/13 ~15	2回	1,084人	52.9%
バレエ	受託	「白鳥の湖」 ※公演中止	やまぎん県民ホール (山形県総合文化芸術館) 大ホール	山形県総合文化芸術館 オープニング事業等実行委員会	4/4	1回	-	-
バレエ	受託	「不思議の国のアリス」 ※公演中止	愛知県立芸術劇場 大ホール	愛知県芸術劇場	6/20 ~21	2回	-	-
バレエ	受託	「不思議の国のアリス」 ※公演中止	高崎芸術劇場 大劇場	(公財)高崎財団	6/27 ~28	2回	-	-
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場 2020 バレエ「竜宮 りゅうぐう」	アルカス SASEBO 大ホール	(公財)佐世保地域文化事業財団	9/19	1回	607人	86.7%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場 2020 バレエ「竜宮 りゅうぐう」	オーバード・ホール	(公財)富山市民文化事業団	9/22	1回	726人	90.8%
バレエ	受託	「眠れる森の美女」	札幌文化芸術劇場 hitaru	(公財)札幌市芸術文化財団	11/14 ~15	2回	2,573人	60.5%
現代舞踊	受託	小野寺修二 カンパニーデラシネラダンス「ふしぎの国のアリス」 ※公演中止	いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場	いわき市	7/4	1回	-	-
現代舞踊	受託	小野寺修二 カンパニーデラシネラダンス「ふしぎの国のアリス」 ※公演中止	水戸芸術館 ACM 劇場	(公財)水戸市芸術振興財団	7/11 ~12	未定	-	-
演劇	受託	「ガールズ&ボーイズ -Girls & Boys-」 ※公演中止	穂の国とよはし 芸術劇場 PLAT 主ホール	豊橋市、(公財)豊橋文化振興財団	6/3 ~4	2回	-	-
演劇	受託	「ガールズ&ボーイズ -Girls & Boys-」 ※公演中止	滋賀県立劇場 びわ湖ホール 中ホール	滋賀県、 (公財)びわ湖芸術文化財団	6/7	1回	-	-
演劇	受託	「ガールズ&ボーイズ -Girls & Boys-」 ※公演中止	いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場	いわき市	6/11	2回	-	-
演劇	受託	「願いのかなうぐつぐつカクテル」 ※公演中止	米子市淀江文化センター さなめホール	(公財)鳥取県文化振興財団	8/2	1回	-	-
演劇	受託	「ピーター&ザ・スターキャッチャー」	兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター	1/9 ~10	2回	421人	33.3%
演劇	受託	「ピーター&ザ・スターキャッチャー」	穂の国とよはし 芸術劇場 PLAT 主ホール	豊橋市、(公財)豊橋文化振興財団	1/17	1回	260人	36.5%

演劇	受託	「ピーター&ザ・スターキャッチャー」	北九州芸術劇場 中ホール	(公財)北九州市芸術 文化振興財団	1/24	1回	241人	84.9%
演劇	受託	「ピーター&ザ・スターキャッチャー」	水戸芸術館 ACM劇場	(公財)水戸市芸術振興 財団	1/30 ~31	2回	259人	76.2%

(b) その他の公演等

i. 新国立劇場合唱団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	期間	回数
2019年度芝浦工業大学入学式演奏会 芝浦工業大学校歌、ヘンデル「メサイア」より	東京国際フォーラム	主催:芝浦工業大学	4/2	1回※
東京春祭ブッチャーニ・シリーズ vol.1 <<三部作>> 外套/修道女アンジェリカ/ジャンニ・スキッキ(演奏会形式)	東京文化会館大ホール	主催:東京・春・音楽祭実行委員会	4/18	1回※
紀尾井ホール室内管弦楽団第121回定期演奏会 ハイドン オラトリオ「天地創造」	紀尾井ホール	主催:公益財団法人日本製鉄文化財団	4/24、 25	2回※
軽井沢大賀ホール 開館15周年記念2020春の 音楽祭 東京フィルハーモニー交響楽団「第九」	軽井沢大賀ホール	主催:軽井沢町、公益財団法人軽井沢大賀ホール	4/29	1回※
NHK交響楽団定期公演 プーランク「グロリア」	NHKホール	主催:NHK/NHK交響楽団	5/15、 16	2回※
令和2年度文化芸術による子供育成総合事業	石川県・富山県・福井県 各県の 小・中学校体育館	主催:文化庁	6・11・ 12月	7回※
Orchard Artists Opinion(OAO)第1回 東京フィル ハーモニー交響楽団「新しい生活様式、オーケ ストラはどうなる?」ベートーヴェン 交響曲第9番 「合唱付き」より抜粋	Bunkamura オーチャードホール	主催:Bunkamura	6/20	1回 (収録)
NHK交響楽団定期公演 ヴェイトマン オラトリオ「箱舟」	サントリーホール	主催:NHK/NHK交響楽団	7/4	1回※
こども音楽フェスティバル オープニング・コンサート	サントリーホール	主催:公益財団法人ソニー音 楽財団、公益財団法人サント リー音楽財団	7/18	1回※
TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2020[サラ ダ音楽祭](ワークショップ)	新宿村スタジオ(動画撮影)	主催:東京都/(公財)東京都 交響楽団	8/5、6	2回
龍角散 presents パーヴォ・ヤルヴィ&N響 ピゼー:オペラ「カルメン」(演奏会形式)	Bunkamura オーチャードホール	主催:Bunkamura	9/3、6	2回※
東京二期会オペラ劇場公演 ベートーヴェン:オペラ「フィデリオ」	新国立劇場オペラパレス	主催:公益財団法人東京二期 会	9/3、 4、5、 6	4回
NHK交響楽団定期公演 マーラー 交響曲第3番	NHKホール	主催:NHK/NHK交響楽団	9/12、 13	2回※
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 ザンドナーイ:歌劇「フランチェスカ・ダ・リミニ」	サントリーホール(25日)、 Bunkamura オーチャードホール(27 日)、 東京オペラシティコンサート ホール(29日)	主催:(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	9/25、 27、29	3回※
第49回サントリー音楽賞受賞記念コンサート 読 売日本交響楽団 メシアン:「我らの主イエス・キリストの変容」	サントリーホール	主催:サントリーホール	10/6	1回※
東京交響楽団定期演奏会 ワーグナー:楽劇「トリスタンとイゾルデ」(演奏会 形式)	ミューザ川崎シンフォニーホール(9 日・15日)、サントリーホール(11 日・17日)	主催:(公財)東京交響楽団	10/9、 11、 15、17	2回※
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 マーラー 交響曲第3番	サントリーホール(19日)、東京オ ペラシティコンサートホール(22 日)、 Bunkamura オーチャードホー ル(25日)	主催:(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	10/19 、22、 25	3回※
シンフォニック特撮ヒーローズ(公開収録)	NHKホール	主催:NHK	12/4	1回
ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 生誕 250年ベートーヴェン交響曲全曲演奏会 ベートーヴェン 交響曲第9番	東京オペラシティコンサートホール	主催:(公財)東京オペラシティ 文化財団	12/13	1回※
読売日本交響楽団定期演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	東京芸術劇場(16日、19日、20 日)、サントリーホール(18日)、 大阪フェスティバルホール(23 日)、横浜みなとみらいホール(26 日)、 所沢市民文化センター・ミュージ アークホール(27日)	主催:読売新聞社/日本テレ ビ放送網/読売テレビ/読売 日本交響楽団 (公財)所沢市文化振興 事業団(27日のみ)	12/16 、18、 19、 20、 23、 26、27	7回

東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	東京オペラシティコンサートホール (18日)、サントリーホール(19日)、 Bunkamura オーチャードホール(20日)	主催:(公財)東京フィルハーモニー交響楽団	12/18、19、20	3回
東京交響楽団 定期演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	ミューザ川崎シンフォニーホール (20日)、東京オペラシティコンサートホール(23日)、 サントリーホール(28日、29日)	主催:(公財)東京交響楽団/ ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) (20日のみ)	12/20、23、28、29	4回
NHK 交響楽団定期公演 ベートーヴェン:交響曲第9番	NHKホール(23日、25日、26日)、サントリーホール(27日)	主催:NHK/NHK 交響楽団 (サントリーホール公演はNHK交響楽団のみ)	12/23、25、26、27	4回
第64回NHKニューイヤーオペラコンサート	NHKホール	主催:NHK/NHK プロモーション	1/3	1回
令和2年度 文化芸術による子供育成総合事業	東京都内小学校	主催:文化庁	1/13、15、21	2回※ 1回は中止
<26> 東急文化村「カルミナ・ブラーナ」特別配信版	Bunkamura オーチャードホール	主催:東急文化村 Bunkamura オーチャードホール	1/19、2/9	配信
東京都交響楽団 定期演奏会 ブラームス:「アルト・ラブソディ」	サントリーホール(20日)、東京文化会館大ホール(22日)	主催:(公財)東京都交響楽団	2/20、22	2回
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 マーラー:交響曲第2番「復活」	Bunkamura オーチャードホール(21日)、サントリーホール(24日)	主催:(公財)東京フィルハーモニー交響楽団	2/21、24	2回※
ゲーム「二ノ国」CM映像収録	東京国際フォーラム	主催:レベルファイブ	3/13	1回 (収録)

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため一部又は全部を公演中止

### iii. 全国各地の文化施設等との連携強化

- ・全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設から技術者の実習受入れもしくは地域の公立文化施設へ技術者を講師として派遣するなど、連携を強化した。

## ③国際文化交流公演等

### (a) 年度計画公演

- ・東京文化会館、ザルツブルク・イースター音楽祭(オーストリア)、ザクセン州立歌劇場(ドイツ)との共同制作作品・オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」は、新国立劇場、東京文化会館で6月に上演予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止となった。
- ・オーストラリア・バレエとの共同制作により2018年に新国立劇場で上演したバレエ「不思議の国のアリス」は、英国ロイヤルバレエ、オーストラリア・バレエからソリストを招聘して6月に再演する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止となった。
- ・フランスの国立オデオン劇場で上演され、新国立劇場で海外招聘公演として9月に上演予定であった演劇「ガラスの動物園」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により本国での上演も初日直後に中断され、日本での上演も見送られた。
- ・バレエ研修所バレエ研修所バレエ・アステラス・スペシャル2020「世界バレエ学校フェスティバル&アステラス・ガラ」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止となった。
- ・「ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」の成果として、三人の劇作家作品が選ばれ、ロンドン(英国)のロイヤルコート劇場で2月に「リーディング公演」を上演予定であったが、両国における新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止となった。

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 ※公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	6/21~30	4回	-	-
バレエ	「不思議の国のアリス」 ※公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	6/5 ~14	10回	-	-
演劇	海外招聘公演「ガラスの動物園」 ※公演中止	新国立劇場 中劇場	9/11~14	4回	-	-
バレエ 研修	バレエ研修所バレエ・アステラス・スペシャル2020 「世界バレエ学校フェスティバル&アステラス・ガラ」 ※公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	9/12~13	2回	-	-

演劇海外公演	ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ 演劇「ロンドン・リーディング公演」 ※公演中止	ロイヤルコート劇場 (イギリス)	2/22～28	2回	-	-
--------	--	---------------------	---------	----	---	---

## (b) 年度計画外の公演等

### i. 海外劇場等との交流

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外劇場関係者の見学や懇談会等は実施できなかったが、オンラインでの交流に積極的に参加し、海外の劇場との情報交換に努めた
- オンラインで開催された中国国家大劇院が主催する、世界各国のオペラハウス総裁が集う北京フォーラム(BFPA)に参加し、「新国立劇場の今後」について同総会のファウンディング・メンバー劇場の一つとして各国の前でスピーチをした(9/9～10)。
- オンラインで開催されたアジア太平洋舞台芸術文化施設協会(AAPPAC)の年次総会に参加した(9/30)。
- World Ballet Day 2020 に新国立劇場が参加し、Facebook 及び YouTube にて新国立劇場バレエ団のリハーサル風景のライブ配信を行ったほか、7月に上演したバレエ「竜宮 りゅうぐう 亀の姫と季(とき)の庭」のハイライト映像を公開した(10/23、YouTube にて動画公開)。
- 2019年に続いて開催された World Opera Day 2020 は、新型コロナウイルス感染症拡大のため世界各国の劇場が動画をもち寄る形で開催された。新国立劇場合唱団がベートーヴェンの第九交響曲第4楽章から抜粋して歌唱する動画を収録・公開した。世界各国のオペラハウスと協調してオペラの素晴らしさを称えるとともに、社会におけるオペラの力、価値、コロナ禍における芸術の力をアピールした。(10/25、YouTube にて動画公開)
- オンラインで開催されたアジア太平洋舞台芸術文化施設協会(AAPPAC)のトークセッションで「コロナ禍における新国立劇場の対応」と題してパネリストとしてディスカッションに参加した(10/30)。
- 台中国立歌劇院(台湾)で開催された舞台映像上映会にて、新国立劇場のオペラ・バレエ公演の公演記録映像が上映された(2/12～2/15)。
- オンラインで開催された駐日アイルランド大使館主催の聖パトリックデー・イベントに参加した(3/17)。
- 台湾國家兩廳院の藝術副總監並びに国際連携室の職員たちと、オンライン上で互いの劇場の今後の国際戦略に関して情報交換をした(3/24)。

分野	公演等名	開催場所	期間	日数/回数	入場者数
国際会議	北京フォーラム(BFPA)にオンライン参加	中国国家大劇院 (中国)	9/9～10	2日	—
国際会議	アジア太平洋舞台芸術文化施設協会(AAPPAC)年次総会にオンライン参加	エスプラナーダ劇場 (シンガポール)	9/30	1日	-
イベント参加	「ワールド・バレエ・デー」に新国立劇場バレエ団紹介映像 オンライン参加	オーストラリア・バレエ団 (オーストラリア)	10/23	1日	-
イベント参加	「ワールド・オペラ・デー」に新国立劇場合唱団による オペラコンサートを実施し、オンラインで世界配信	オペラ・ヨーロッパ (ベルギー)	10/25	1日	-
国際会議	アジア太平洋舞台芸術文化施設協会(AAPPAC)トークセッションにパネリストとしてオンライン参加	エスプラナーダ劇場 (シンガポール)	10/30	1日	-
上映会	台中国立歌劇院 舞台映像上映会 バレエ「ドン・キホーテ」	台中国家歌劇院小劇場 (台湾)	2/12	1回	138人
上映会	台中国立歌劇院 舞台映像上映会 バレエ「竜宮 りゅうぐう ～亀の姫と季(とき)の庭～」	台中国家歌劇院小劇場 (台湾)	2/13	1回	107人
上映会	台中国立歌劇院 舞台映像上映会 オペラ「エウゲニ・オネーギン」	台中国家歌劇院小劇場 (台湾)	2/14	1回	111人
上映会	台中国立歌劇院 舞台映像上映会 オペラ「魔笛」	台中国家歌劇院小劇場 (台湾)	2/14	1回	165人
上映会	台中国立歌劇院 舞台映像上映会 バレエ「くるみ割り人形」	台中国家歌劇院小劇場 (台湾)	2/15	1回	163人
イベント参加	「聖パトリックデー」を祝うイベントにオンライン参加	駐日アイルランド大使館 (アイルランド)	3/17	1日	-
国際会議	藝術副總監並びに国際部職員とオンライン会議で情報交換	台湾國家兩廳院 (台湾)	3/24	1日	-

## ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う感染症予防対策の一貫として、海外からの入国制限並びに公演時以外の劇場への入館者制限が実施されたため、当年度は海外の芸能関係者の来場や、見学を中止した。

## iii. 在日各国大使館との連携協力

- ・「在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム」を令和2年度においては10月オペラ「夏の夜の夢」と2月オペラ「フィガロの結婚」において実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の期間延長を受けて実施を見送った。
- ・プログラム以外の主催公演には主要国大使を招待し、大使館関係者へのチケット購入を促した。
- ・在日各国大使館との連携を活発に行い、各国の新型コロナウイルス感染状況や劇場界の動向に関する情報を収集した。
- ・「日英交流年 UK in JAPAN」と「日独交流160周年」に該当する当年度は、イギリス大使館やドイツ大使館との交流を活発にし、イギリスやドイツに関連する主催公演に対して後援名義を取得し、大使館HPやSNSで公演の周知等の広報協力を得た。
- ・プログラム以外の主催公演でも各国大使を招待した。
- ・大使館との交流を活発にし、大使館HPやSNSで公演の周知等の広報協力を得た。

## ④その他の留意事項

### (a) 「beyond2020プログラム」への参加

- ・新国立劇場 2020/2021 シーズン公演等  
計 41 件(公益財団法人新国立劇場運営財団より申請・新型コロナウイルス感染症拡大による中止公演を含む)

## (5) 快適な観劇環境の形成

- (5) 快適な観劇環境の形成 ————— p.120
  - ア 快適で安全な観劇環境の提供、  
高年齢者・障害者・外国人等への配慮、  
サービスの充実 ————— p.121
  - イ 多様な購入方法の提供 ————— p.126
  - ウ 公演内容等の理解促進のための取組 ————— p.127
  - エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用 ————— p.129

## (6) 広報・営業活動の充実

- (6) 広報・営業活動の充実 ————— p.131
  - ア 効果的な広報・営業活動の展開 ————— p.132
  - イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実 ————— p.143

## (7) 劇場施設の使用効率の向上等

- (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ————— p.147
  - ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与 ————— p.148
  - イ 各施設の利用促進を図るための取組 ————— p.148
  - ウ 6 劇場の相乗効果を発揮するための連携協力 ————— p.149





---

## 2 - (5) 快適な観劇環境の形成

### 《中期計画の概要》

---

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上及び観客の満足度の向上

- ア 観客の要望等及び高齢者、障害者、外国人等の利用の機会が拡充される、快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説や字幕表示等のサービスの提供  
鑑賞団体等に対する公演内容の説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用

### 《年度計画の概要》

---

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (5) 快適な観劇環境の形成

- ア 快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえた売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけの実施  
高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実  
2020年東京大会の期間中は、外国人利用者への対応の充実
- イ 入場券販売における、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説及び字幕表示の実施  
鑑賞団体等に対する公演内容の事前説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用  
ホームページ、ご意見箱等を通じた意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果のサービス向上への活用

## ア 快適で安全な観劇環境の提供、高齢者・障害者・外国人等への配慮、サービスの充実

### ① 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ガイドライン・実施要領等に従って、公演を実施した。
- ・公演の再開に当たっては、職員・委託業者により、実地確認・予行練習等を実施した。また、感染症の専門家等の協力を得て、飛沫飛散検証を行い、結果をホームページで公開した。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各劇場では掲示・場内アナウンス等による注意喚起、消毒液の設置、職員等のマスク着用、換気の強化等の取組を実施。
- ・新型コロナウイルス感染症対策への取組・お客様へのお願いについて、振興会ホームページに掲出し、周知を図った。
- ・職員からのアイデア募集による「すわれない座席プロジェクト」を実施。優秀作であった「和柄の紙による座席装飾」を4館共通方針として実施。柄は各館で選定。人形の衣裳から柄をとった文楽劇場の実践はSNSで話題となり、著名人のTwitterや新聞報道でも取り上げられた。
- ・各館の食堂・売店及びイヤホンガイドでは、観客の利便性向上と新型コロナウイルス感染症拡大のリスク低減のためキャッシュレス決済を導入した。
- ・新型コロナウイルスの感染症の拡大防止のため中止とした公演について、チケット代金の払い戻しを行った。また、1月～3月の緊急事態宣言発出期間に行った公演については、感染拡大予防のために観劇を取り止めた購入者に対してもチケット代金の払い戻しを行った。

#### (a) 本館

- ・新型コロナウイルスの感染予防対策の周知の一環として下記を実施した。
  - ① 国立劇場のマスコットキャラクター「くろごちゃん」と歌舞伎の有名な登場人物に見立てた「歌舞伎たまご」を使用し、「くろごちゃん新型コロナ対策イラスト」を作成した。
  - ② ①を使用して、「国立劇場「新しい鑑賞様式、—新型コロナウイルス感染予防対策—」チラシ(日本語・英語)・ポスター(日本語)を作成し、振興会ホームページへの掲載と、大・小劇場ロビーやチケット売場等での掲出を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み、劇場オリジナル商品として、国立劇場でぬぐいマスク及びくろごちゃんマスクを製作、販売し、好評を得て完売(国立劇場でぬぐいマスク98個、くろごちゃんマスク498個)。
- ・アンケートは用紙の配布を行わず、ウェブで実施した。

#### (b) 演芸場

- ・スタンプラリーを一時中止した。(8/1～10/31)

#### (c) 能楽堂

- ・アンケートは用紙の配布を行わず、字幕表示装置のアンケート機能を利用して実施した。

#### (d) 文楽劇場

- ・感染予防対策の周知の一環として下記を実施した。
  - ◇ 来場時・観劇中の注意事項や劇場の取組をまとめた動画を作成しホームページで公開、劇場ロビーでも上映した。三味線の鶴澤清介の作曲・演奏と竹本織太夫の義太夫節を模した語りにより、桐竹勘十郎らが操る文楽人形が、マスクの着用、手指の消毒、十分な距離を取っての整列、ロビーでのマナーなどを分かりやすく説明した。この動画は、国立文楽劇場の企画提案、大阪市と公益財団法人文楽協会による「文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会」の制作によるもので、市及び協会のホームページとYouTubeでも公開され、12月25日のNHK教育テレビ「にっぽんの芸能」(今年の話 2020)でも映像の一部が放映された。
  - ◇ 文楽人形のコロナ対策イラストを用いて、お客様に感染予防対策への協力をお願いするチラシ・ポスターを作成して館内に配架・掲出し、そのイラストのステッカーも作成して館内各所に貼付、配布も行って周知に努めた。
  - ◇ マスクの着用を促すために、錦秋文楽公演の演目に登場する人形のイラストでマスク等に貼付できる布製品用シールを作成し、観劇記念グッズとして売店で販売した。

#### (e) 国立劇場おきなわ

- ・新型コロナウイルス感染症の感染を予防するための観劇マナー動画を作成し、劇場ロビーやインターネットで配信を行った。
- ・大劇場、小劇場客席にウイルス予防対策として、抗菌コート施工をした。

#### (f) 新国立劇場

- ・館内の換気状況を調査し、専門家により劇場内の換気状態は良好であるとの調査結果を得た。このこ

とをホームページに掲載し、来館されるお客様の安心につなげた。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中劇場テラスの喫煙所を閉鎖した。
- ・劇場ホワイエ、ロビーの扉の取手、手摺等に抗菌コーティングを施した。
- ・アンケートは用紙の配布を行わず、ウェブで実施した。

## ② 観客の要望等を踏まえたサービスの充実

- ・引続き、来場者、出演者及び施設利用者等に向けた公衆無線 LAN サービス(無料 Wi-Fi)を継続。
- ・各館の初春公演では、ロビー・玄関の正月飾り等を実施。本館では大凧や積み樽を飾り、能楽堂では1/10まで能舞台に注連を張り、文楽劇場ではにらみ鯛を舞台上部に吊り上げ来場者に正月の雰囲気をお楽しみいただいた。

### (a) 本館

- ・大劇場壁面に季節ごとの造花等の装飾を実施し、季節を感じる雰囲気づくりを行った。(10月「紅葉」、11月「銀杏」、12月「寒梅」、1月「枝垂れ梅」、3月「桜」)
- ・歌舞伎公演の開場後の観客入場の間や休憩時間に伝統芸能音楽をBGMとしてロビーに流した。

### (b) 演芸場

- ・幟、正面入口提灯を更新した。
- ・演芸場2階ロビー壁面に10月は秋草、11月は紅葉、12月は椿、1月は繭玉、2月は梅の装飾を施し、季節を感じさせる雰囲気づくりを行った。
- ・正面入口外に暑気対策としてミストファンを設置した。(8/1～9/26)

### (c) 能楽堂

- ・「国立能楽堂ショーケース」  
字幕表示装置の表示言語を6か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語)で実施した。新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを低減するため、楽器等の体験コーナーは実施を見合わせた。プログラムは机に設置して各自にお取りいただいた。
- ・8月企画公演《夏スペシャル》「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」  
字幕表示装置を通常の日本語と英語のチャンネルに加え、子供用の現代語訳チャンネルを導入し、3チャンネルで実施。  
新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを低減するため、広間に設置したテーブルに子供向けのイラスト入りパンフレットを配置し、各自にお取りいただいた。楽器等の体験コーナーは実施を見合わせた。
- ・9月手話狂言  
トット基金の協力を得て、玄関広間に手話通訳者を配置した。  
トット基金の協力を得て、場内アナウンス時には、舞台に手話通訳が登場し、アナウンス内容に合わせて手話通訳を行った。  
トット基金より「触る舞台模型」(国立能楽堂の1/40サイズの模型)を拝借し、広間に展示して体験してもらった。
- ・10月初旬から翌年のカレンダー販売が開始された。毎月の主催公演プログラム「月刊国立能楽堂」購入者も売場に集中するため、カレンダーを能楽書林、檜書店に加え小林能装束でも取り扱うこととし、月刊国立能楽堂は檜書店(10月より)、能楽書林(11月より)でも販売することとなった。入場券売場及び文化堂国立劇場売店での販売は従来どおりで、購入先が増えたため、「密」を避けるのみならず、お客様の利便性向上にもつながることとなった(文化堂はネット販売も実施)。

### (d) 文楽劇場

- ・観劇の雰囲気を盛り上げ、公演演目の周知を図るため、正面玄関の柱に、演目に登場する文楽人形の写真ポスターを巻きつけた装飾を施し、2階ロビーへの大階段の周辺にも大型懸垂幕ポスターを掲出。
- ・初春文楽公演での手拭いまきは、新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため中止し、抽選で初春文楽公演オリジナル干支手ぬぐいプレゼントを実施。また、同デザインの手拭いをお客様へ販売するなど、売店に文楽上演演目に因んだグッズ類を充実させ、観劇の雰囲気を盛り上げるように努めた。
- ・当年度は新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため公演中止となった初春文楽公演初日の恒例行事である「にらみ鯛」の贈呈式を無観客で実施し、その様子を収録した映像も併せて上演することで、コロナ禍の中であっても初春の雰囲気を観劇客に味わっていただいた。
- ・2月浪曲名人会のプレイベントを無料で開催、お話と口演で期待感を盛り上げ、販売促進の一助とした。(1月19日、小ホール、出演：京山幸枝若(浪曲師・浪曲親友協会会長)、京山幸太(浪曲師)、一風

亭初月(曲師)、参加者数:64人)

- ・経年劣化が問題になっていた劇場外壁タイルについて、昨年の東・西・北面上層部に引き続き、低層部の補修工事を実施。併せて、建物の外回り全般について、敷地床面の補修、段差の解消、手すりの設置により安全性を高め、建物外周の千本格子や門扉の補修、伸縮フェンスの更新等の外周環境美化により劇場の美観向上に努めた。

**(e) 国立劇場おきなわ**

- ・チケット購入者限定で組踊公演前に組踊ワークショップを開催。
- ・8月公演「琉球舞踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室 万歳敵討」のチケット購入者を対象としたバックステージツアーの参加者に、国立劇場おきなわ立版古をプレゼントした。
- ・1月定期公演「琉球舞踊特選会」では、来場者に劇場オリジナルグッズ7品が当たる「お年玉抽選会」を実施し、初春公演の雰囲気盛り上げた。
- ・第2小稽古室の壁面に鏡を設置した。
- ・組踊等で用いられる紅型のデザインを取り入れたオリジナルグッズを作成し、販売した。
- ・1月末からカフェスペースにテナントが入居し、飲食の提供を開始した。

**(f) 新国立劇場**

- ・オペラパレス公演日にメインエントランスにある売店で劇場関連グッズ等を販売した。

**③ 観劇時のマナーに関する取組**

**(a) 本館**

- ・プラカードを用いて観劇マナーの注意喚起を行った。

**(b) 演芸場**

- ・プラカードを用いて観劇マナーの注意喚起を行った。

**(c) 能楽堂**

- ・プラカードを用いて観劇マナーの注意喚起を行った。

**(d) 文楽劇場**

- ・開演前の客席において、場内案内係による口頭及び視覚的なサインを用いたボードでの観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- ・劇場内に観劇マナーに関する日本語と英語によるチラシを配架、日本語によるポスターを掲出。

**(e) 国立劇場おきなわ**

- ・開演前、休憩時間の客席において、場内案内係による口頭及び視覚的なサインを用いたボードや字幕装置を用いた観劇マナーに関する注意喚起を行った。

**(f) 新国立劇場**

- ・開場中、開演前、休憩中の客席において、オペラパレスでは場内アナウンス(日・英)、中・小劇場では場内アナウンス(日)とプラカードによる観劇マナーの注意喚起を実施した。
- ・保護者・子供向けのマナーちらしをホワイエ各所に設置し、必要に応じて場内案内係の口頭及び視覚的なサインを用いたボード(日・英)による観劇マナーに関する注意喚起を実施した。

**④ 高齢者・障害者等多様な観客への配慮、サービスの充実**

- ・元年度に引き続き、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場・国立劇場おきなわ・新国立劇場の各公演について障害者割引を行った。

**(a) 本館**

- ・歌舞伎・文楽公演において人数制限を行い託児サービスを実施、観客の利便を図った。

**(b) 演芸場**

- ・車椅子を1階及び2階ロビーに常備。

**(c) 能楽堂**

- ・座席字幕表示装置を活用して、能楽堂主催の全公演(中止となった公演及び「蠟燭の灯りによる」を除く)で字幕(日本語・英語)等表示を実施した。

**(d) 文楽劇場**

- ・1階ロビーチケット売場及び楽屋・事務所入口受付に、筆談等及び補助犬入場に対応可である標示を継続して掲出。
- ・車椅子を2階救護室及び3階小ホール控室に常備。
- ・全ての文楽公演及び8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」において、舞台上部に詞章の字幕表示を実施。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・災害時の避難等に関して、文字を大きく、分かりやすい表現でロビーに掲示した。
- ・劇場ホームページにバリアフリー情報を掲載し、観劇する方が事前に劇場内情報を手に入れやすいようにした。

(f) 新国立劇場

- ・「願いがかなうぐつぐつカクテル」「イヌビト～犬人～」「ピーター&ザ・スターキャッチャー」では視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを行った(文化庁委託事業「令和2年度障害者による文化芸術活動推進事業(文化芸術活動による共生社会の推進を含む)」として)。視覚障害者向けには事前に舞台装置・小道具の位置関係やあらすじ、登場人物を説明。併せて音声で見どころなどを解説する音声プログラムを提供した。また、「イヌビト～犬人～」「ピーター&ザ・スターキャッチャー」では上演中のリアルタイム音声ガイドを提供した。聴覚障害者向けにはポータブル字幕機を貸出し、さらに、劇場内の案内サインを強化した。
- ・引き続き、高齢者割引を行い、2020/2021 シーズン 1 月公演より、Web ボックスオフィス購入においても高齢者割引を利用できるようサービス拡充を行った。車椅子での来場にも対応した。
- ・オペラパレス一階のテラスから劇場外に出る階段エリアの照明を入れ替え、安全性向上に努めた。

⑤ 外国人利用者への配慮、サービスの充実

《Discover 公演 多言語化対応状況》

	解説書等	字幕	音声同時解説	アナウンス・案内業務
歌舞伎	公演中止	-	-	-
文楽(本館)	2 言語 (日・英)	2 言語 (日・英) ※英語は 12 月のみ	2 言語 (日・英)	1 言語 (日) ・観劇マナーについて、視覚的なサインを用いたボードにより呼びかけ。
文楽 (文楽劇場)	公演中止	-	-	-
能楽	6 言語 (日・英・中(簡)・韓・西・仏) 芸能紹介リーフレット(能楽入門) 4 言語 (日・英・中(簡)・韓)	パーソナル字幕 6 言語 (日・英・中(簡)・韓・ 西・仏)	-	2 言語 (日・英)
組踊	チラシのみ 5 言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓)	-	5 言語 (日・英・中(簡)・ 中(繁)・韓)	外国人の来場者の問合せにスムーズに対応できるようにロビーに英語通訳 1 名を配置した

(a) 本館

- ・歌舞伎・文楽公演の解説書(有料)及び 2 月特別企画公演の解説書(無料)に英文あらすじ等を掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット(無料)を配布。
- ・「文楽入門～Discover BUNRAKU～」 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」で 2 言語(日本語・英語)の文楽の概要説明・演目解説・あらすじをまとめた解説書(無料)を配布
- ・旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを劇場内のほか、空港・観光案内所・主要ホテル等に配布。
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語(簡)・中国語(繁)・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を国立劇場チケット売場や観光案内所等に設置した。
- ・9 月文楽公演「文楽入門～Discover BUNRAKU～」において、多くの外国人観客に対応するため、英語・日本語の文楽の概要説明・演目解説・あらすじを 1 冊にまとめた解説書を作成(無料配布)
- ・12 月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」において、多くの外国人観客に対応するため、英語日本語の文楽の概要説明・演目解説・あらすじを 1 冊にまとめた解説書を作成(無料配布)

(b) 演芸場

- ・英語版の寄席の紹介パンフレットを場内に配置し、外国人の利用環境の充実を図った。

### (c) 能楽堂

- ・英語版「主催公演予定表」(冊子)、演目を解説した英文リーフレット、英語による場内アナウンス等により、外国人の観劇環境を充実した。
- ・「国立能楽堂ショーケース」において、日本語、英語の配役表、日本語、英語、中国語(簡)、韓国語のあらすじを広間で配布した。
- ・英語による演目解説リーフレット、「主催公演予定表」(冊子)、施設紹介パンフレットの作成・配布、英語による案内表示、場内アナウンス等のサービスを提供した。
- ・能楽堂の英語版ホームページに年間主催公演予定(スケジュール)を掲載した。
- ・「NOH & KYOGEN Guide Book」ほか、中国語(簡)・韓国語による能楽解説書を作成し、無料配布した。
- ・能楽堂主催の全公演(中止となった公演及び「蠟燭の灯りによる」を除く)で座席字幕表示装置(日本語・英語等)を活用した。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」において、日本語、英語の配役表、6か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・スペイン語・フランス語)によるあらすじを作成し、無料配布した。また、6か国語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・スペイン語・フランス語)による字幕表示を実施した。

### (d) 文楽劇場

- ・錦秋・初春の各文楽公演では、英語によるあらすじパンフレットを作成し、劇場内に配架。

### (e) 国立劇場おきなわ

- ・英語版のチケット販売ウェブサイト(Confetti)の活用を開始し、外国人のお客様の利便性向上を図った。
- ・国立劇場おきなわ Web チケット販売サービスに英語版サイト(R3.1月本稼働)を開設し、外国人のお客様の利便性向上を図った。
- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『二童敵討』」において、外国人のお客様からのお問合せにスムーズに対応できるようロビーに英語通訳を1名配置したほか、公演前には英語通訳付きの組踊ワークショップを実施した。
- ・外国人観客の来場時や電話での問合せに対応するため、多言語対応の電話通訳サービスを実施。

### (f) 新国立劇場

- ・2019/2020 シーズンより実施している、全オペラ公演での英語の字幕表示を引き続き実施した。併せて、プログラムを増頁して英語による作品解説・出演者プロフィールを掲載した。
- ・全ての主催公演・研修所公演で、海外からチケットを購入できる英語版 Web ボックスオフィスのサービス等を引き続き提供した(なお、オペラパレス公演は、購入時に座席選択が可能となっている)。
- ・英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置した。
- ・日本政府観光局主催のインバウンド関連ビジネス商談会である「VISIT JAPAN トラベル& MICE マーケット2020」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となったが、同じく日本政府観光局主催の「JNTO インバウンドセミナーin 沖縄」に参加し、ウィズ・コロナの状況下における消費者動向やプロモーション等を学ぶことで、今後のインバウンドプロモーションの参考とした。(10/29)

## ⑥ 災害等への対応

### (a) 本館

- ・大劇場にて委託業者による避難誘導訓練を行った(3/27)。

### (b) 能楽堂

- ・自衛消防訓練を2回(9月・2月)実施し、職員、委託業者等、全職域が参加した。避難誘導等の実地訓練及び模擬消火器による消火訓練を行ったほか、2月には原宿警察署署員指導のもと、爆弾テロを想定した体験訓練を実施し、職員等の防犯の意識を高めることができた。
- ・2月には自衛消防訓練に引き続き舞台安全会議を開催し、職員、委託業者等、全職域が参加して普段は通行しない屋上や地下ドライエリアなどの施設の見学を行い、避難経路の確認等を行った。

### (c) 文楽劇場

- ・3階小ホールにて、職員及び委託業者社員が消防署提供のビデオを視聴し消防活動について学んだあと、客席からの避難誘導訓練を行った。(10/7)
- ・2階文楽劇場にて、職員及び委託業者社員が消防署提供のビデオを視聴し地震を含む防災活動について学んだあと、舞台裏及び客席からの避難誘導訓練を行った。(3/17)
- ・職員及び委託業者社員により、舞台安全対策会議(1/25)及び現場でのシミュレーションを含む舞台安

全講習会(3/17)を実施した。

(d) 国立劇場おきなわ

- ・警備、中央監視員による通報訓練(6/16)実施。職員や委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を実施し、避難や消火器の取扱い等について実地訓練を実施(7/20、12/1)。津波避難訓練を実施(10/27)。
- ・津波の際、3階から屋上に避難するための避難階段を設置(施設整備補助事業)。併せて津波避難経路を示す蓄光板サインを稽古室に設置。
- ・エレベーターの耐震対策工事を行った(施設整備補助事業)。
- ・老朽化していた自動火災報知器、非常放送設備、誘導灯等の更新工事を行った(施設整備補助事業)。

(e) 新国立劇場

- ・避難路を確保する非常照明用の直流電源盤及び蓄電池の更新を行った。
- ・オペラパレスの甲州街道側出入り口から、劇場外に通じる通路の照明を設置した。より明るい機種に変更した。
- ・老朽化した誘導灯の更新を行い、LED化を進めた。

イ 多様な購入方法の提供

- ・チケットセンターホームページ内に親子企画を紹介する特設サイトを設置し、振興会トップページに目立つバナーを掲載して誘導した。
- ・親子を対象とする公演のインターネット販売では、能楽堂の各公演は、会員及び一般発売に先行して発売。
- ・文楽劇場の各文楽公演では新型コロナウイルス感染症拡大のリスク低減のため幕見席の販売を中止。
- ・国立劇場おきなわウェブチケット販売サービスに英語版サイト(R3.1月本稼働)を開設した。

《親子を対象とする公演の販売に関するデータ》

公演名	公演期間	購入方法	先行発売日	予約件数	販売枚数	総入場者数
親子で楽しむ歌舞伎教室 ※公演中止	7/22~27	インターネット	-	-	-	-
		電話	-	-	-	
文楽親子劇場 ※公演中止	8/3~9	インターネット	-	-	-	-
		電話	-	-	-	
親子で楽しむ演芸会 ※公演中止	7/26	インターネット	-	-	-	-
		電話	-	-	-	
夏休み親子のための能の会	8/8	インターネット	7/3	119件	245枚	295人
		電話	7/4	17件	32枚	
夏休み親子のための 狂言の会	8/29	インターネット	7/3	120件	263枚	297人
		電話	7/4	13件	27枚	
文楽親子劇場 ※公演中止	7/18~28	インターネット	-	-	-	-
		電話	-	-	-	
親子のための組踊鑑賞教室 ※公演中止	8/15	親子先行なし	-	-	-	-

《新国立劇場の取組》

- ・若年層向けの特別優待制度であるU25優待メンバーズ、U39オペラ優待メンバーズに対し、適時「フレンズキャンペーン」を実施し、U25優待メンバーズ等の登録者が未登録の友人等を勧誘し未登録の友人等も優待価格で購入できる機会を提供。
- ・U15ファミリー優待メンバーズに向け、先行販売を実施していない公演に関しては、直前に特別優待料金での販売を行った。
- ・すべての主催公演について、過去に、一般・会員問わずウェブ購入登録を行い、かつ新国立劇場からのDM送付を許可している顧客等に対し、先行販売を実施した。
- ・オペラ、バレエ、現代舞踊のシーズンセット券については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により6月5日をもって申込みを停止し、申込済みのチケットについてもキャンセルを行った。以後の公演については実施の可否を公演ごとに判断・発表し、販売促進に努めた。シーズンセット券に申し込まれた顧客に対しては優先的に申し込める「特別先行申込(郵送/抽選)」を実施した。
- ・「選べる!夏のこども劇場セット」として、現代舞踊『ふしぎの国のアリス』、演劇「願いがかなうぐ

つぐつカクテル」、世界初演・新作バレエ公演『竜宮 りゅうぐう』～亀の姫と季(とき)の庭～」、演劇「イヌビト～犬人～」、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Anegels スーパーエンジェル」から複数公演を選んで割引購入できる子ども連れ向けセット券を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施の見通しが立たなくなった公演が相次いだため、6月5日をもってセット券としての販売を停止した。

## ウ 公演内容等の理解促進のための取組

### ①解説書等の作成

#### (a) 本館

- ・各公演において、公演内容に応じた解説書を作成。
- ・12月文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書及び読本(初心者向けガイドブック)を無料配布。
- ・歌舞伎・文楽公演の解説書(有料)に英文あらすじを掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット(無料)を配布。
- ・9月文楽公演「文楽入門～Discover BUNRAKU～」、12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」において、あらすじ等を記載した2言語(日本語・英語)による解説書を無料配布。
- ・2月特別企画公演「月・雪・花—四季折々のこころ—」で2言語(日本語・英語)の演目解説・出演者紹介をまとめた解説書(無料)を配布。

#### (b) 演芸場

- ・出演者の顔写真や略歴を掲載した公演ガイドを毎月作成し無料配布。
- ・11月特別企画「正蔵 正蔵を語る」及び文化庁芸術祭主催「11月国立名人会」において別途解説パンフレットを作成し、いずれも無料配布した。

#### (c) 能楽堂

- ・公演内容に応じて特集を組み、カラー写真や図版を挿入するなど、工夫を凝らした解説書を毎月作成した。

#### (d) 文楽劇場

- ・各公演(新型コロナウイルス感染症拡大リスクを低減するため中止となった公演及び「上方演芸特選会」を除く)において解説書を作成。うち、2月浪曲名人会は無料配布とし広く公演内容を周知した。
- ※4月文楽公演は公演中止だったが、中止の決定が直前だったため解説書は作成されており、販売委託先により予定公演期間中に通信販売を実施、予定公演期間後はバックナンバーとして店頭販売も行った。

#### (e) 国立劇場おきなわ

- ・公演解説書ステージガイド「華風」(月刊)を作成。

#### (f) 新国立劇場

- ・すべての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成した。うちバレエ・現代舞踊公演及び一部の演劇公演(12月『ピーター&ザ・スターキャッチャー』)は無料配布とした。
- ・公演プログラムに公演クレジットと英文によるあらすじ解説を掲載した。オペラ公演では2019/2020シーズンより継続して増頁にて全てのプログラムに英語による作品解説・出演者プロフィールを掲載した。
- ・11月オペラ公演「アルマゲドンの夢」よりプログラム販売においてクレジットカード・交通系電子マネー等による支払いを可能とした。観客の利便性向上に寄与するとともに、新型コロナウイルス感染症対策として接触機会の低減に繋げることができた。
- ・新国立劇場バレエ団シーズンプログラム(有料)を別途作成、ラインアップ演目に関連する解説のみならずダンサー情報を充実させて観客の要望に応えた。

### ②音声同時解説・字幕表示

#### (a) 音声同時解説サービスの実施

- ・歌舞伎の全公演で、日本語による音声同時解説サービスを実施。
- ・文楽の全公演で、日本語による音声同時解説サービスを実施。9月・12月のDiscover BUNRAKUでは2か国語(日本語・英語)解説を実施。
- ・文楽劇場では錦秋文楽公演と初春文楽公演において、音声同時解説サービスを実施した(英語については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で利用者が激減しているため一時休止)。



- ・国立劇場おきなわでは、18公演(中止となった9月普及公演含む)に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。(「国立劇場寄席」及び新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった12公演を除く)
- ・10月普及公演 組踊鑑賞教室「執心鐘入」では、2言語(英語・日本語)による音声ガイドを提供した。
- ・11月普及公演 はじめての組踊～Discover KUMIODORI～では、4言語(英語・中国語・韓国語・日本語)による音声ガイドを提供した。
- ・12月組踊公演「伊祖の子」、3月組踊公演「手水の縁」では、英語字幕タブレットの無料貸出を実施した。
- ・はじめての組踊～Discover KUMIODORI～では、4言語(英語・中国語・韓国語・日本語)による音声ガイドを提供した。

### (b) 字幕表示の実施

ジャンル	実施公演数	内 訳
文楽公演(鑑賞教室含む)	6公演	全公演
舞踊・邦楽・雅楽・特別企画公演	7公演	11月舞踊公演、3月舞踊公演
		10月邦楽公演、1月邦楽公演、8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」
		11月雅楽公演
		3月特別企画公演
能楽公演(鑑賞教室含む)	38公演	中止となった公演及び蠟燭能を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能公演(鑑賞教室含む)	18公演	18公演(中止となった9月普及公演含む)に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。(「国立劇場寄席」及び新型コロナウイルス感染防止対策により中止となった12公演を除く)
オペラ公演	6公演	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった公演を除く全公演
研修公演	2公演	オペラ・バレエガラ、オペラ研修所修了公演「悩める劇場支配人」

- ・12月「Discover BUNRAKU」及び11月雅楽公演で英語字幕を実施した。
- ・オペラ公演では英語の字幕も表示した。

### ③公演内容の事前説明会等の実施

#### (a) 公演説明会等の実施

	公演説明会		施設見学		バックステージツアー	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
本館・演芸場	26件	649人	1件	5人	0件	0人
能楽堂	1件	11人	0件	0人	2件	59人
文楽劇場	14件	150人	0件	0人	1件	103人
国立劇場おきなわ	3件	69人	11件	89人	2件	58人
新国立劇場	5件	1,215人	2件	31人	0件	0人
合計	49件	2,094人	14件	125人	4件	117人

(本館)

- ・新型コロナウイルスの感染予防対策として、出演者と観客との区分けに伴い、出演者による観劇団体向けの解説を、ウェブ会議システムの利用により、出演者が別室から解説するリモート方式に変更し、従来と同等のサービスを提供した。

(国立文楽劇場)

- ・夏休み文楽特別公演(親子劇場)が新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため、公演中止となったことを受け、今後の観客層の拡大に繋げるため特別に「親子で楽しむ舞台裏方体験」を企画、実施した。8月18日(火)～20日(木)の3日間(1日2回)、舞台・客席・ロビーにおいて、舞台デモンストラーション・裏方体験(大道具・音響・照明)・人形解説(吉田勘市他)・文楽技術室作業見学(かしら・床山・衣裳)・舞台機構体験・舞台上での記念撮影を行った。(参加費:大人1,000円、子供500円 参加者数:103名(39件、大人48名、子供55名))

(国立劇場おきなわ)

- ・8月琉球舞踊鑑賞教室及び親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」において、チケット購入者限定で参

加できる劇場バックステージツアーを実施。(参加者：8/1 20人、8/2 38人)

- 10月組踊鑑賞教室「執心鐘入」及び12月組踊「伊祖の子」において、旅行会社と連携して組踊ワークショップを体験できる組踊鑑賞ツアーを実施(参加者：28人)。(新国立劇場)
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、バックステージツアーについては実施を見送った。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、劇場施設内での公演説明会は見送り、オンラインでの取組を推進した。
- オペラ「アルマゲドンの夢」指揮の大野和士、作曲の藤倉大、演出のリディア・シュタイアー、台本のハリー・ロスをゲストに YouTube ライブ配信でのオペラトークを開催。世界初演となるこの作品のコンセプトや、コロナ禍における上演を敢行した意義などを対談形式で解説し、カバー歌手による歌唱も交えて、充実した内容で新作オペラへの期待感醸成を図った。また、後日アーカイブ映像を公開した(11/13、無料)
- 令和元年に続いて開催された World Opera Day2020 は、新型コロナウイルス感染症拡大のため世界各国の劇場が動画を持ち寄る形で開催された。新国立劇場合唱団がベートーヴェンの第九交響曲第4楽章から抜粋して歌唱する動画を収録。公開した。世界各国のオペラハウスと協調してオペラの素晴らしさを称えるとともに、社会におけるオペラの力、価値、コロナ禍における芸術の力をアピールした。(10/25、YouTubeにて動画公開)
- 引き続き、演劇公演でシアタートークを開催した(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった公演を除く4演目)。演出家や主な出演者が制作過程の逸話等を紹介し、舞台への興味関心を喚起した。
- 演劇公演で実施されてきた各公演の制作担当プロデューサーが公演中の劇場にて舞台美術の説明や開幕に至るまでの足跡等を解説する公演ガイドツアーについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から動画での発信に切り替え、従来抽選で一部の観客に公開していたものを幅広い層にリーチすることができた。(4演目、総再生数17,513回)

## (b) 劇場外での公演説明会等の実施

### i. 伝統芸能分野

- 国立劇場おきなわでは、県内の小学校において、伝統芸能の魅力を親しみやすく感じていただけるよう、入門編のワークショップを実施した(1回、参加者人数59人)。

### ii. 現代舞台芸術分野

- チケット購入団体に対して職員によるオペラ・バレエ公演の事前レクチャーを実施した。令和2年度においては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインでの実施となった。
- 多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリー ソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界 ～Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～」を開催した。舞台装置模型及び衣裳を展示するとともに、器楽アンサンブルがオペラの名曲カバーやポップスを演奏するミニ・コンサートを開催した。解説を日英2か国語で記載し、インバウンド観光客にも対応した。(2/27～28、1,449名)
- 新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった「高校生のためのオペラ鑑賞教室2020『夕鶴』」の代替企画として「魔笛」映像を45分程度に編集し、2学期開始時期(9月)から3学期(3月)までインターネット上(希望校にはDVDを提供)で鑑賞できる機会を提供した。当初参加予定であった46校へ案内を行い、そのうち視聴希望があった18校へ視聴URLを案内し、映像配信用のプログラム計2,488枚を送付した。

## エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用

### ①意見・要望等への対応体制

#### (a) 振興会

- 各館に寄せられた観客の意見・感想・要望については、より迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握と、職員や案内業務委託業者への周知のほか、各館で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。ただし、劇場ロビーに設置していたご意見箱は新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため一部撤去し、要望を受けた場合に筆記具を渡す等の対応をした。

#### (b) 国立劇場おきなわ

- 観客の意見・感想・要望については、関係部署間で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

### (c) 新国立劇場

- アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、ホームページに掲出した。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からアンケート用紙の配布を取りやめ、劇場内に掲示したQRコードからウェブアンケートページにアクセスしていただき、回答をお願いした。
- インターネット上でのご意見収集について、従来は専用フォームのみによる受付であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための公演中止、払い戻しなどに関する問合せニーズの増加に対応するため、新たなご意見受付チャンネルとして、ご意見受付用のメールアドレスを公開した。
- 意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- 主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者・観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

### ②意見・要望等への対応状況

	劇場内ご意見箱		メールによるご意見	
	受付件数	回答件数	受付件数	回答件数
本館	0件	0件	203件	124件
演芸場	3件	1件		
能楽堂	14件	3件		
文楽劇場	0件	0件		
国立劇場おきなわ	3件	0件	1件	0件
新国立劇場			674件	362件
合計	20件	4件	878件	486件

※本館・文楽劇場は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためご意見箱を一時撤去

#### 《主な対応・改善例》

- 国立劇場おきなわでは、開演前の待機・休憩スペースが少ないとの要望を受け、共通ロビー一角のテーブル・椅子のあるカフェ専有エリアを開放した。
- 新国立劇場では、新型コロナウイルスによる影響に伴い、関連のご意見、ご要望を数多く受けた。下記のような対応を行った。
  - 払い戻し方法に関する質問、払い戻し状況の確認について、適宜回答を行った。
  - 払い戻し方法を簡便にしてほしいとの要望を受け、対応を行った。
  - 払い戻しに変えて寄附をしたいとの要望を受け、受け入れ方法を整備した。
  - 公演に際する感染防止対策を強化してほしいとの要望を受け、「マスク、会話の自粛」を強力に励行するなど、適宜対策を行った。
- 公演の上演可否、キャスト変更に関する質問を受け、適宜回答した。また、頻繁に問われる情報について、ウェブサイトやSNSでの情報配信を行った。



---

## 2 - (6) 広報・営業活動の充実

### 《中期計画の概要》

---

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (6) 広報・営業活動の充実

幅広く多くの人が鑑賞することを目標とする、一層効果的な広報・営業活動、

ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動

振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

イ シーズンシートの拡充、会員に向けた各種サービスの提供、外国人向けの広報・営業、潜在的なニーズの把握、関係機関との連携等、観客の需要を的確に捉えた営業活動の展開

### 《年度計画の概要》

---

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用し、広報活動を効果的に実施

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

(a)ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等の分析

(b)SNS やメールマガジンによる公演等の情報の随時配信

(c)外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を効果的に実施、より効果的な情報発信を行うための検討を開始

(d)文化プログラムへの参加を通して、国内外に向け振興会各種事業の情報発信及び周知を実施

③振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行

・日本芸術文化振興会ニュース(毎月発行)

・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)

・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

④シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンの企画・実施

⑤団体観劇促進のため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

⑥若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営、サービスの提供、会員校の増加及びサービスの拡充に努める

⑦全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的を実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用

①あぜくら会(本館・演芸場・能楽堂)

・会報「あぜくら」(毎月発行)

・会員向けイベント(年 8 回程度)

②国立文楽劇場友の会

・「国立文楽劇場友の会会報」(年 6 回発行)

・会員向けイベント(年 4 回程度)

③国立劇場おきなわ友の会

・「国立劇場おきなわ友の会会報」(年 4 回発行)

・会員向けイベント(年 3 回程度)

④クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)

・会報「ジ・アトレ」(毎月発行)

・会員向けイベント(年 12 回程度)

## ア 効果的な広報・営業活動の展開

### ①多様な媒体を活用した効果的な広報活動

- ・ポスター、チラシ、ホームページ、メール、SNS(Twitter、Instagram、Facebook、YouTube)、会報誌・広報誌での広報、新聞・雑誌等への公演情報掲載等で公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の取材会(記者会見)、舞台稽古の取材等を実施。
- ・文化庁ホームページ内の令和2年度(第75回)文化庁芸術祭専用ページに6劇場すべての文化庁芸術祭主催公演、協賛公演の公演情報を掲載。

#### (a) 本館

- ・出演者による取材会(記者会見)を実施し、公演の趣旨や出演者の意気込み等について取材する機会を設けた。
- ・取材会の様子をまとめた動画や、過去の公演記録を活用した演目の紹介動画などを振興会ホームページのトピックスに掲載するとともにYouTube 国立劇場チャンネルにも掲載し、訴求を図った。
- ・歌舞伎公演、文楽公演について、演劇関係雑誌「演劇界」に各公演前月に広告を出稿した。
- ・文楽公演(5月、9月、2月)について、特設ウェブサイトを作成し、インターネット上での訴求を図った。また、当該サイトに誘引するウェブ広告(DSP 広告)を展開した。
- ・12月文楽鑑賞教室 Discover BUNRAKU では、振興会ホームページ内に英語による特設ページを作成し、外国人向けの情報発信を行った。
- ・歌舞伎公演、文楽公演を中心に、Twitter、Instagram、YouTube 国立劇場チャンネルに投稿を行い、SNSによる広報に努めた。YouTube 国立劇場チャンネルの登録者数は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった令和2年3月歌舞伎公演『義経千本桜』の動画を4月に公開したことが主な要因となって、20,820に増加した。(3/31時点。前年度末比+17,496。)
- ・令和2年国立劇場さくらまつり(令和2年3/20~4/6、国立劇場前庭)は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。
- ・令和3年国立劇場さくらまつりは新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、開催を見送り。振興会ホームページにて国立劇場さくら情報を公開。
- ・千代田区観光協会へのチラシ掲出と同協会ホームページ(日本語・英語・中国語・韓国語対応)における公演情報掲載により、公演周知を図った。
- ・国立劇場近隣の店舗で国立劇場・国立演芸場のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられる「国立劇場 GoTo 半蔵門キャンペーン」を実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど34店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した。
- ・「国立劇場 Goto 半蔵門キャンペーン」参加店舗と協力し、初春歌舞伎公演・3月歌舞伎公演の招待券等が当たる抽選会を実施した。抽選会の応募はがきに公演情報を掲載して公演周知を図った。

#### (b) 演芸場

- ・演芸場2階ロビーに「令和2年度国立演芸場花形演芸大賞受賞者」の看板を掲示し、来場者に各受賞者及び花形演芸大賞制度を周知。(4月~)
- ・新聞や「東京かわら版」等へ広告掲載。
- ・定席公演では、11月からスタンプラリーを再開し、リピーターによる継続的な鑑賞が行われるよう努めた(1回の鑑賞でスタンプを1回押し、スタンプ5回で粗品進呈)。
- ・チラシ裏に新型コロナウイルス感染症対策に伴う「お客様へのお願い」と「国立演芸場の取り組み」を記載し、お客様が安心してご来場いただけるよう努めた。
- ・5月中席真打昇進襲名披露興行について、落語協会と連携し他の4席亭での披露興行との共同チラシ・ポスターを作製(国立演芸場での公演は中止となった)。
- ・11月上席襲名披露興行について、落語協会と連携し他の4席亭での披露興行との共同ポスター・チラシを作成。
- ・11月中席真打昇進披露興行について、落語芸術協会と連携し他の5席亭での披露興行との共同ポスター・チラシを作成。
- ・3月中席真打昇進披露興行について、落語芸術協会と連携し他の5席亭での披露興行との共同制作ポスター・チラシを作成。

#### (c) 能楽堂

- ・チラシ・ポスターの作成・配布、東京メトロ「北参道駅」、都営地下鉄「国立競技場駅」(都営地下鉄

は7/5まで)へのポスター掲出、新聞・雑誌等への公演情報掲載、取材対応等の通常の広報に加え、振興会ホームページにトピックス情報を随時掲載し、広報・宣伝を行った。

- ・日本博オープニングにあたり、月刊特集「日本人と自然」(4~6月定例公演・4~6月普及公演・4月企画公演・5月狂言企画公演・5月特別公演含む)リーフレット10,000部を作成・配布した。
- ・特別チラシ(6月鑑賞教室・7、8、9月国立能楽堂ショーケース・10月外国人のための能楽鑑賞教室)20,000枚を作成・配布した。
- ・6月「能楽鑑賞教室」では特別チラシ8,000枚を作成・配布した。
- ・7、8、9月国立能楽堂ショーケース特別チラシ6,500枚を作成・配布した。うちわ型7、8、9月国立能楽堂ショーケースチラシ3,000枚を作成・配布した。
- ・8月親子で楽しむ能の会、狂言の会特別チラシ10,000枚を作成・配布した。
- ・11月企画公演《釈迦と閻魔》特別チラシ5,000枚を作成・配布した。

#### (d) 文楽劇場

- ・上演演目ゆかりの地の自治体、教育委員会、文化施設、商工会議所等関係団体に対し、DM 発送等の団体勧誘の実施及びチラシ・ポスターの配架・掲示を依頼。
- ・公益財団法人文楽協会やOsaka Metro、JR西日本、在阪私鉄各社の協力を得て、タイアップポスター、壁面広告、車内中吊り広告等の交通広告を利用して、一般の集客に努めた。
- ・JRみどりの窓口で文楽公演の入場券を販売し、車内中吊り広告の優遇掲出を行った。
- ・大阪市と公益財団法人文楽協会が主催する文楽普及事業「ムムム！文楽シリーズ 中之島文楽」において初春文楽公演の周知を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった。
- ・大阪市立中央図書館の協力により、市内24区の各図書館へのポスター・チラシの配布などを行った。
- ・フリーペーパー等への記事広告掲出、販促グッズの作成・配布等、幅広い客層に対して興味を持ってもらえるよう工夫を行った。

◇大阪市及び京阪神エルマガジン社の協力を得て、関西のニュース情報サイト「エルマガジン」のウェブ特設サイトで文楽の特集ページ「ハロー！文楽」を設置、文楽公演情報を掲載。またフリーペーパー「ハロー！文楽」にも情報を掲載し、街頭及び映画館、飲食店などにも配布、公演PRに努めた。

◇大阪市等が主催する「大阪文化芸術フェス2020」のホームページやチラシへ公演情報を掲載。

- ・初春公演の「にらみ鯛」吊り上げの公開取材などをセッティングし、マスコミに積極的に働きかけることで、マスコミ各社を通じて広く情報の提供を図った。
- ・在阪ラジオ局への働きかけにより、ラジオ番組への技芸員の出演等で公演PRに努めるなどラジオを通じて情報の周知を図った。

◇ラジオ大阪「Hit&Hit！」に技芸員が出演して公演周知。

◇NHKラジオの「関西ラジオワイド」に技芸員が出演して公演周知。

- ・振興会ホームページの「文楽かんげき日誌」に著名人の観劇日誌を掲載。
- ・公演情報、出演者のインタビュー動画、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画を振興会ホームページに掲載、メールやSNSでの情報発信を行いウェブサイト上での情報提供に努めた。

◇新型コロナウイルス感染症拡大に対応して、来場時及び観劇中の注意事項や劇場の取組をまとめた動画を作成しホームページで公開、劇場ロビーでも上映した。三味線の鶴澤清介の作曲・演奏と竹本織太夫の義太夫節を模した語りにより、桐竹勘十郎らが操る文楽人形が、マスクの着用、手指の消毒、十分な距離を取っての整列、ロビーでのマナーなどを分かりやすく説明した。この動画は、国立文楽劇場の企画提案、大阪市と公益財団法人文楽協会による「文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会」の制作によるもので、市及び協会のホームページとYouTubeでも公開され、令和2年12月25日のNHK教育テレビ「にっぽんの芸能」(今年の話 2020)でも映像の一部が放映された。

- ・劇場利用客への効果的な広報、宣伝を実施するために、1階エントランスロビーに大画面テレビモニターを新設するとともに、2階ロビーの既設観客用舞台モニターに機器の追加と回線の整備を行い、上記の新型コロナウイルス対策映像、後続する公演の出演者インタビュー動画などの宣伝映像、新たに開始した有料動画配信の告知映像などを上映した。今後も効果的な広報のための設備として継続的に活用していく。

#### (e) 国立劇場おきなわ

- ・公演案内の送付

- ◇ 県内の全自治会(647カ所)へ公演案内を送付。
- ◇ 県内8か所の観光施設へ当劇場専用ラック設置し公演チラシを配布。
- ◇ 県内自治会、児童館へ公演案内を送付。(8月琉球舞踊鑑賞教室、親子のための組踊鑑賞教室)
- ◇ 県内小中高校・大学・専門学校への一斉募集を3回実施。(9月沖縄芝居鑑賞教室、11/18～20組踊鑑賞教室)
- ・ イベントとの連携等
  - ◇ 沖縄県教育委員会主催「おきなわ県民カレッジ第2回美ら島沖縄学講座」を共催(7月「執心鐘入」)。
  - ◇ チケット購入者限定の公演前の組踊ワークショップ(7回実施)、バックステージツアー(8月普及公演対象)を開催。
  - ◇ 一般社団法人りっか浦添が主催する浦添市への誘客イベント「りっか!浦添」に参加し、11月公演はじめての組踊～Discover KUMIODORI～「二童敵討」のPRを行った。
- ・ TV・ラジオ等による広報
  - ◇ 7/5FM ニライ、11/4・3/17FM コザ、12/2・3/10FM やんばる。
  - ◇ 「モモト VOL. 45」にて、1月公演の案内。
- ・ 外国関係団体、近隣ホテル、芸能団体、三線販売店、児童館等、公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体、自治会、老人会等に対し、各公演の特性にあわせた誘客活動を展開した。
- ・ チケット購入者限定で公演前の組踊ワークショップやバックステージツアーを開催。
- ・ 旅行に関する展示・商談会「ツーリズム EXPO ジャパン 2020 沖縄」(沖縄コンベンションセンター)にて、ツーリスト関係者、一般来場者にチラシ配布(10/29～11/1)。
- ・ 県外公演において組踊を周知。

#### (f) 新国立劇場

- ・ 演目別の広報については、プレスリリース、個別インタビュー、稽古場取材の実施等、きめ細かいマスコミ対応により、記事掲載の促進を図った。
- ・ 公演を取り扱う各種プレイガイドに働きかけることで、稽古場取材の斡旋や各社のSNS・メルマガ等を通じた幅広い顧客への公演情報の周知を行うことができた。
- ・ SNS(Facebook、Twitter、Instagram)を効果的に活用し、稽古場風景やインタビュー等を動画で積極的に発信したり、公演直前や当日の残席状況を細やかに発信したりすることで、公演への期待感醸成とチケットの販売促進を図った。
- ・ オペラ「アルマゲドンの夢」では交通広告として都営新宿線内にてドア横広告(10/16～11/22)を、東京メトロ新宿三丁目駅にて電飾広告(11/2～11/8)を実施した。
- ・ バレエ「くるみ割り人形」において、JR品川駅の自由通路(11/30～12/6)、東京メトロ日本橋駅の地下通路(12/1～12/19)のデジタルアドヴィジョンにて広告を掲出した。
- ・ 演劇「願いがかなうぐつぐつカクテル」フォトコール・囲み取材を実施。(7/9)
- ・ 演劇「リチャード二世」フォトコール・囲み取材を実施。(10/1)
- ・ バレエ「ドン・キホーテ」吉田都芸術監督による記者会見を実施。(10/23)
- ・ World Ballet Day 2020に新国立劇場が参加し、Facebook及びYouTubeにて新国立劇場バレエ団のリハーサル風景ライブ配信を行ったほか、7月に上演したバレエ「竜宮 りゅうぐう～亀の姫と季(とき)の庭～」のハイライト映像を公開した(10/23)。
- ・ 2019年に続いて開催されたWorld Opera Day 2020は、新型コロナウイルス感染症拡大のため世界各国の劇場が動画を持ち寄る形で開催された。新国立劇場合唱団がベートーヴェンの第九交響曲第4楽章から抜粋して歌唱する動画を収録・公開した。世界各国のオペラハウスと協調してオペラの素晴らしさを称えるとともに、社会におけるオペラの力、価値、コロナ禍における芸術の力をアピールした。(10/25、YouTubeにて動画公開)
- ・ オペラ、舞踊、演劇の各芸術監督による2021/2022シーズンラインアップ記者発表を行った。(オペラ・舞踊：3/2、演劇：3/8)。
- ・ 公演中止となったオペラ「ジュリオ・チェーザレ」の稽古映像を収録・作成し、公演を楽しみにされていたお客様への発信を行った。(4/7～)
- ・ オペラ「夏の夜の夢」に出演する指揮者・歌手のショートインタビュー映像を作成し、公演の期待感を醸成した。(9/30～、10/1～)
- ・ オペラ「アルマゲドンの夢」制作陣によるメッセージ動画を作成し、新作の世界初演となる本作の公演内容について理解促進を図った。



- ・オペラ「アルマゲドンの夢」の指揮者・作曲家・演出家・台本作家・カバー歌手が出演するオペラトークをライブ配信し、後日アーカイブを公開した。
- ・オペラ「フィガロの結婚」の初日公演直後に主要出演歌手にインタビューを行い、公演期間中の販売促進に繋げた。(2/9～、2/12～)
- ・バレエ「竜宮 りゅうぐう」では、プロモーション映像及びダンサーへのインタビュー映像を作成し、公演への期待感醸成とチケットの販売促進を図った。(6/30～、7/14～)
- ・演劇公演「こどももおとなも楽しめる企画」、バレエ「竜宮 りゅうぐう～亀の姫と季(とき)の庭～」では、渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会及び東京都公立小学校長会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシ配布を行った。
- ・京王線の初台駅列車接近メロディーは、新国立劇場のオペラ・バレエにちなんで「アイダ」及び「眠れる森の美女」の音楽が使用されているが、京王電鉄の協力により、バレエ「くるみ割り人形」の上演にあわせて期間限定で同作品の音楽に変更された。
- ・公演会場ホワイエ内で、会報誌「ジ・アトレ」の記事やポスター等を利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行ったほか、レポートリー公演のダイジェスト映像やスタッフ・キャストのインタビュー映像を上映し、観客の興味を喚起した。

### (g) 日本博

- ・令和2年3月14日の東京国立博物館平成館で収録した「日本博特別公演 日本の音と声と舞」を放送した。
  - 放送日時：6月20日(土)12:00～13:24  
放送局：BS日テレ  
放送後、民放テレビ局連携公式ポータルサイト「TVer」「日テレ無料！」で1か月間(6月20日放送後～7月19日まで)配信。再生回数57,804回  
日テレ無料、日テレYouTube、GYAO!にて特別公演ダイジェスト動画(5分)配信。  
出演：尾上菊之助、観世清和、桐竹勘十郎 他
  - 放送日時：7月19日(日)13:50～14:58  
放送局：NHK総合テレビ  
放送後、NHKプラスで1週間(7月19日放送後～7月26日まで)見逃し配信。
- ・各地の日本博事業を紹介する30分番組を4回放送。
  - 放送日時：2月10日(金)  
放送局：NHK WORLD(番組名「The Japanese and Nature Message of the Japan Cultural Expo」)  
放送後、ビデオ・オンデマンド[jib tv]で配信。
- ・皇居外苑特別公演PR動画を放送(時間は日本時間)。
  - 放送日時：3月4日(木)10:30～11:00、16:30～17:00、19:30～20:00、翌日4:30～5:00  
3月5日(金)8:30～9:00、14:30～15:00、21:30～22:00、翌日2:30～3:00  
3月9日(火)8:30～9:00、14:30～15:00、21:30～22:00、翌日2:30～3:00  
放送局：NHK WORLD  
4回の30分枠内でそれぞれ20秒の放送を実施。放送対象地域は約160の国と地域、3億世帯以上。
- ・皇居外苑特別公演を中心に、令和2年度以降の日本博事業を紹介する「日本博広報番組」を放送。
  - 放送日時：2月27日(土)11:00～11:30  
日本博事業紹介のほか、皇居外苑特別公演のうち、能楽を中心に紹介。  
出演：観世清和 他  
3月6日(土)11:00～11:30  
日本博事業紹介のほか、皇居外苑特別公演のうち、琉球舞踊、浦浜念仏剣舞を紹介。  
3月27日(土)12:30～14:00  
皇居外苑特別公演「祈りのかたち」ダイジェスト映像及び新潟県十日町市と島根県出雲市の取組を含め日本博事業を「衣食住」「美術・文化財」などテーマごとに紹介。  
放送局：BS日テレ  
各日放送後、Tver、GYAO、日テレTADAにて1か月程度オンデマンド配信を実施。
- ・日本博事業のパンフレットを作成。(作成部数：6,000部)
- ・フォーリンプレスセンターから、日本博今年度の主なラインナップ及び「工藝2020」「日本のたても」等のプレスリリースを配信。その他、皇居外苑特別公演等のプレスリリースを複数回実施した。

- ・2月16日掲載の新聞広告のためのインタビューを実施(12/10,12/14)(日経、朝日、産経)
- ・2月10日放送のNHK ワールド日本博広報番組「日本人と自然」の撮影、インタビュー等を実施。
- ・1～3月(3回)にANA 機内誌「翼の王国」に日本博事業を紹介。
- ・2月16日 朝日新聞、日経新聞、読売新聞朝刊に日本博記事広告掲載。

## ②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等の活用

### (a) ホームページ

- i. 日本芸術文化振興会 HP(令和2年度年間アクセス件数：2,556,336件、前年度実績：3,691,585件)
  - ・ホームページへの公演情報、出演者のインタビュー動画、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画を掲載、公演関係トピックスの更新、メールやSNSでの情報発信を行いウェブサイト上での情報提供に努めた。
  - ・演芸場定席公演初日の前日に、ホームページの公演情報で全ステージの休演・代演情報を提供。
  - ・能楽堂では、令和3年1月に令和3年度の全主催公演のラインナップをホームページに掲載した。
  - ・文楽劇場では、振興会ホームページの「文楽かんげき日誌」に著名人の観劇日誌を掲載。
  - ・文楽公演(5月、9月、2月)について、特設ウェブサイトを作成し、インターネット上での訴求を図った。また、当該サイトに誘引するウェブ広告(DSP広告)を展開した。
  - ・12月文楽鑑賞教室 Discover BUNRAKU では、振興会ホームページ内に英語による特設ページを作成し、外国人向けの情報発信を行った。
- ii. 国立劇場おきなわ HP(令和2年度年間アクセス件数：509,736件、前年度実績：615,592件)
  - ・各種事業に関する広報の充実に努め、各種情報の早期掲載及び内容の充実に図り、随時最新の情報を提供した。
  - ・国立劇場おきなわ公式 Facebook ページを活用して、公演案内をはじめとする沖縄伝統芸能等に関する情報を提供し、ファンとのコミュニケーションを図った。
  - ・国立劇場おきなわ公式 YouTube チャンネルにて、お客様に安心して公演を楽しんでいただくため、コロナ対策への協力をお願いする広報動画を配信。また当劇場が発行したインタビュー冊子「語やびら芸能ゆんたく」のPR動画を配信し営業に活用した。
    - ◇「観劇のご案内」(6/30～、再生回数4,207回(3/31時点))
    - ◇インタビュー冊子「語やびら芸能ゆんたく」インタビュー動画(9/15～、再生回数1,572回(3/31時点))
    - ◇第10回若手伝承者公演「孝行竹壽之巻」出演者インタビュー(11/18～、再生回数703回(3/31時点))
  - ・沖縄芝居公演映像3作品を期間限定で配信し、沖縄芝居の周知や次年度予定している公演への期待感の醸成に努め、併せて、学校団体鑑賞募集時期に配信時期をかぶせ、団体鑑賞を検討している学校等へ配信中の映像を案内するなどし、営業に活用した。
    - ◇「泊阿嘉～泊高橋の場～」(11/24～12/22、再生回数1,979回)
    - ◇「亀さんよ」(12/23～1/20、再生回数2,749回)
    - ◇「黒島王物語～黒島城内の場～」(1/25～2/22、再生回数1,320回)
    - ◇組踊公演本編配信PR動画「執心鐘入版」(3/8～3/31、再生回数626回)
    - ◇組踊公演本編配信PR動画「二童敵討版」(3/8～3/31、再生回数335回)
- iii. 新国立劇場 HP(令和2年度年間アクセス件数：6,807,383件、前年度実績：5,746,365件)
  - ・新国立劇場ウェブサイトの各ジャンルトップページ及び各公演詳細ページをリニューアルしたほか、バレエ・ダンスのジャンルトップページを統合し、両ジャンルにまたがる観客層への発信を強化した。
  - ・演目発表後、早い段階から舞台写真や動画等を掲載し、公演開始後はすみやかに初日の舞台映像を掲出するなどして観劇意欲の促進を図った。令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により、各公演について実施の可否や内容の変更について告知する必要が生じたため、各公演実施決定後、最新情報を逐次ウェブサイトで発信するよう努めた。
  - ・各公演のトークイベントなど公演説明会は終了後に概要やダイジェスト映像をホームページに掲出し、当日参加できなかった観客への情報周知・拡散に努めた。
  - ・新型コロナウイルスの影響による公演中止、変更、公演実施、感染予防対策などを逐次ウェブサイトで発信した。
- iv. 日本博 HP(令和2年度年間アクセス件数：965,149件、前年度実績：954,862件)
  - ・各種事業に関する広報の充実に努め、各種情報の早期掲載及び内容の充実に図り、随時最新の情報を

提供した。

- 日本博ホームページをリニューアル(日本語サイト:10/20、多言語版:11/16)、デジタルギャラリーでは動画コンテンツやVRコンテンツ(75本)、YouTube 日本博チャンネルでは動画(99本)を配信。
- 皇居外苑特別公演「祈りのかたち」特設サイトを開設。(1/12)
- 日本博特別公演「日本の音と声と舞」の映像を活用した伝統芸能紹介動画(「日本の音」、「日本の声」、「日本の舞」)を5言語(日、英、仏、中、韓)で作成し、日本博YouTube、日本博公式サイトデジタルギャラリーに公開。YouTubeの「日本の舞」への誘導広告動画を英語圏、フランス語圏、中国語圏、韓国語圏にそれぞれ配信(11/24)。結果、「日本の舞」英語版の再生数は94,411回。
- Facebook、Instagram、Twitter、YouTubeに日本博事業の広告を掲載・配信(10/30-11/12)

## (b) SNS やメールマガジンによる情報の随時発信

SNS/メールマガジン	更新頻度等
国立劇場、国立文楽劇場 SNS (Twitter, Instagram, YouTube)	随時情報を配信。
インターネット発売情報メール	毎月5日に定期的に発信しているメールのほか、販売促進のための臨時メールを配信。
国立劇場おきなわ SNS (Facebook, Instagram, YouTube)	随時公演やイベント情報を配信。
国立劇場おきなわメールマガジン	毎月1回、主催公演や貸劇場公演に関する情報を配信。新発売のグッズや映像配信、展示内容やワークショップについても情報を発信した。
新国立劇場、研修所 SNS (Twitter, Facebook(日英), Instagram(日英), Tumblr, YouTube)	情報発信を継続実施。公演ごとに画像、動画、文章を用いて、過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを随時発信。公演前には過去の公演・リハーサル風景・出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真・動画、当日の残席状況等を掲載し、興味を喚起した。反応の状況を逐一精査することで観客の嗜好を把握し、ジャンルによって SNS の使い分けも考慮しつつニュース内容を組み立て、発信した。
新国立劇場 e メール Club (メールマガジン)	販売促進のためのメールを随時発信。発売直前に発売情報と見どころ等、公演直前にキャストインタビューやリハーサルの映像等を、ホームページや SNS(Facebook、Twitter)と連動させつつ発信。
日本博 SNS (Instagram(日英), Facebook(日英) Twitter(日英), YouTube)	随時情報を配信。

- 国立劇場の歌舞伎・文楽鑑賞教室の団体予約開始日にあわせて、団体鑑賞の申込方法をホームページ及びTwitterに掲載。
- 国立劇場歌舞伎公演の団体向け観劇プランの案内をホームページ及びTwitterに掲載。
- World Ballet Day 2020 に新国立劇場が参加し、Facebook 及び YouTube にて新国立劇場バレエ団のリハーサル風景ライブ配信を行ったほか、7月に上演したバレエ「竜宮 りゅうぐう 亀の姫と季(とき)の庭」のハイライト映像を公開した(10/23)。
- 令和元年に続いて開催された World Opera Day 2020 は、新型コロナウイルス感染症拡大のため世界各国の劇場が動画を持ち寄る形で開催された。新国立劇場合唱団がベートーヴェンの第九交響曲第4楽章から抜粋して歌唱する動画を収録・公開した。世界各国のオペラハウスと協調してオペラの素晴らしさを称えとともに、社会におけるオペラの力、価値、コロナ禍における芸術の力をアピールした。(10/25、YouTube にて動画公開)
- 新型コロナウイルス感染症に係る検査陽性者発生のため公演中止となった新国立劇場バレエ公演「ニューイヤー・バレエ」の全編を YouTube 及び Facebook でライブストリーミング配信した。(1/11)

## (c) 外国人に対する情報発信の効果的な実施、より効果的な情報発信を行うための検討

### i. 伝統芸能分野

- 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京シティエターミナル・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町 TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前 TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前 KITTE 内観光案内所(日本郵便・JTB 運営)、東急渋谷駅構内観光案内所

内所 WANDER COMPASS SHIBUYA、都内主要ホテルに配布。

- ・海外からの旅行者の観劇を増やすため、外国人向けにチケット販売を行っている代理店等との連携強化を図り、チケット販売とあわせて公演情報を TKTS に掲出。
- ・主に外国人旅行者を対象としている成田空港内観光案内所、東京駅前 KITTE 内観光案内所、東京駅前の観光案内所 TIC TOKYO 及び東急渋谷駅構内観光案内所 WANDER COMPASS SHIBUYA において、英文の歌舞伎イメージポスターを掲示。
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語(簡)・中国語(繁)・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を国立劇場チケット売場や観光案内所等に設置した。
- ・千代田区観光協会へのチラシ掲出と同協会ホームページ(日本語・英語・中国語・韓国語対応)における公演情報掲載により、公演周知を図った。
- ・独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)等外部機関との連携
  - ◇日本の伝統芸能に触れる機会を学生に提供する現場レベルでの協力をさらに発展させるため、相互協力に関する基本協定を締結した JASSO の要請を受け、同機構に国立劇場歌舞伎入門動画「松本幸四郎の歌舞伎を知ろう」の団体販売を行った(2本×東京日本語教育センターの留学生 176名、合計 352件)。
  - ◇JASSO が運営する東京国際交流館居住の外国人留学生・研究者に対して、チラシの掲出と案内メールにより、「文楽入門～Discover BUNRAKU～」 「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室」の公演周知を行った。
- ・Discover 公演の情報発信
  - ◇公演を紹介する英文サイトを作成し、動画、あらすじ掲載等で演目の内容を紹介。
  - ◇大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問。(Discover BUNRAKU)
  - ◇1都3県の旅行代理店・観光案内所・ホテルに DM を送付。(Discover BUNRAKU)
  - ◇国際交流関係団体や県内大学、インターナショナルスクール等へ営業、外国語オーディオガイド機器の無料貸し出し、及び英語通訳のある外国人のための組踊ワークショップ(チケット購入者限定)を実施。(Discover KUMIODORI)
  - ◇沖縄県を通じて県教育庁及び県内市町村(JAT プログラム任用団体)へ、ALT(外国語指導助手)及び CIR(国際交流員)に対する公演及び組踊ワークショップを周知。(Discover KUMIODORI)
  - ◇国立劇場おきなわホームページにおいて、公演情報を英語で紹介するページを新設し、あらすじ等を掲載し演目の内容を紹介した。
- ・劇場近隣ホテルへ公演の案内を行った。(文楽劇場公演)

## ii. 現代舞台芸術分野

- ・例年実施している大使鑑賞プログラムについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施を見送ったが、多くの主催公演で大使等を招待した。また、大使館のホームページや SNS でも周知するなど広報協力を得た。
- ・新型コロナウイルスの影響による公演中止、変更、公演実施、感染予防対策などを逐次ウェブサイトで発信した。
- ・日本政府観光局主催のインバウンド関連ビジネス商談会である「VISIT JAPAN トラベル& MICE マーケット 2020」は感染症の影響で中止となったが、同じく日本政府観光局主催の「JNTO インバウンドセミナー in 沖縄」に参加し、ウィズ・コロナの状況下における消費者動向やプロモーション等を学ぶことで、今後のインバウンドプロモーションの参考とした。(10/29)
- ・英語版 SNS(Facebook、Instagram)の投稿頻度を増やし、よりきめ細かな情報発信を行った。
- ・英語版のプレスリリースを作成し、世界各国のマスコミへの周知に努めた。
- ・多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリー ソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界 ～Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～」を開催した。舞台装置模型及び衣裳を展示するとともに、オペラの名アリアのカバー曲や、ポップスを演奏するミニ・器楽コンサートを開催した。解説を日英 2 か国語で記載し、インバウンド観光客にも対応した。(2/27～28、1,449名)

## iii. 日本博

- ・国立劇場 2 月特別企画公演「月・雪・花—四季折々のこころ—」及び皇居外苑特別公演「祈りのかたち」に合わせ、海外メディア、インフルエンサーを招聘し、プレスツアーを実施。
- ・●2月28日 日本博プレスツアー(伝統芸能情報館、国立劇場大劇場)

国立劇場 2 月特別企画公演「月・雪・花—四季折々のこころ—」にあわせ、主に海外をターゲットとするメディアやインフルエンサーを招へいし、メディアツアーを実施。

参加 メディア：5 社(香港 1、オーストラリア 1、アメリカ 2、欧米富裕層 1)

インフルエンサー：6 名(ドイツ 1、フランス 1、アメリカ 2、台湾 1、イギリス 1)

ツアー内容：日本博についてオリエンテーション

情報展示室「見世物の精華」見学

大劇場内 観覧

特別企画公演 鑑賞

●3 月 14 日(日) プレスツアー(皇居外苑 他)

日本博の取組の説明や日本博参加プログラム関係者へのインタビュー取材を提供し、その後、皇居外苑特別公演「祈りのかたち」を鑑賞。

参加 メディア：7 社(香港 1、オーストラリア 1、アメリカ 2、イタリア 1、欧米富裕層 1、全世界 1)

インフルエンサー：5 名(ドイツ 1、フランス 1、台湾 1、イギリス 1、アメリカ 1)

ツアー内容：日本博についてオリエンテーション

日本博 2021 年の取組について説明

インタビュー取材：「アートフェア 2021」エグゼクティブディレクター

皇居外苑特別公演 鑑賞

### ③振興会各種事業に関する広報誌の発行

年度計画に従い、以下の広報誌を作成・発行した。

- ・「日本芸術文化振興会ニュース」(毎月発行)
- ・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)
- ・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

その他、下記の刊行物を作成・発行した。

- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(日本語)」(8 月発行)
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧 令和 2 年度」(10 月発行)
- ・「国立演芸場公演ガイド」(月刊)
- ・「新国立劇場 令和元年度年報」(9 月発行、2 か国語(日本語・英語)表記)
- ・「皇居周辺・日本橋エリアアートマップ 2020. 8-11(日本語)」(8 月発行)
- ・「皇居周辺・日本橋エリアアートマップ 2020. 12-2021. 3(日本語)」(12 月発行)
- ・「皇居周辺・日本橋エリアアートマップ 2020. 8-11(英語)」(8 月発行)
- ・「皇居周辺・日本橋エリアアートマップ 2020. 12-2021. 3(英語)」(12 月発行)
- ・「令和 2 年度日本博事業紹介パンフレット」(10 月発行、1 月発行)

### ④シーズンシートやセット券、各種キャンペーン等

#### i. 伝統芸能分野

- ・3 月歌舞伎公演において、休憩後から入場して終演まで観劇できる特別当日券「さくら割引」を販売。(購入実績：40 枚)
- ・入場券のセット購入者に対する割引を公演形態に合わせて実施した。舞踊等の短期の公演でも、内容の異なる 2 回公演の場合は同時に購入すると割引となる、セット割引を行った(11 月雅楽公演 104 枚、1 月邦楽公演 68 枚、3 月特別企画公演 100 枚)。
- ・国立劇場おきなわ 8 月の琉球舞踊公演「琉球舞踊鑑賞会」と 9 月の組踊公演「花売の縁」において、「組踊・琉球舞踊」セット券を販売。(購入実績：28 組)
- ・国立劇場おきなわ 1 月の琉球舞踊特選会において、2 日通し券を販売。(購入実績：83 組)
- ・国立劇場おきなわ 1 月の組踊公演「孝行の巻」と 2 月の三線音楽公演「唄方」において、「組踊・三線音楽」セット券を販売。(購入実績：17 組)
- ・国立劇場おきなわ友の会会員限定企画として、令和 2 年 5 月から令和 3 年 2 月 6 日までの公演を対象に「国立劇場おきなわ自主公演観劇ラリー」を実施(観劇公演数に応じて割引券を進呈)。

#### ii. 現代舞台芸術分野

- ・令和 2 年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う公演中止が相次ぎ、公演実施の見通し

が難しくなったため、オペラ、バレエ、現代舞踊の2020/2021シーズンセット券の販売を6月5日をもって停止し、申込済みのチケットについてもキャンセルとした。

- ・申込み停止、キャンセルとなったシーズンセット券申込者及びクラブ・ジ・アトレゴールド会員に対して優先的に各公演チケットの案内を行い、販売促進に努めた。
- ・現代舞踊「ふしぎの国のアリス」、演劇「願いがかなうぐつぐつカクテル」、世界初演・新作バレエ公演「こどものためのバレエ劇場 2020 竜宮 りゅうぐう～亀の姫と季(とき)の庭～」、演劇「イヌビト～犬人～」、オペラ「Super Angels スーパーエンジェル」の中から複数作品を組み合わせて家族で楽しめる「選べる！夏のこども劇場セット2020」を企画し、販売を開始したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により対象となる公演の中止が相次ぎ、実施見通しが困難となったため6月5日をもって販売を停止、申込み済みのチケットについてもキャンセルとした。
- ・オペラについては、2021/2022シーズンセット券の販売を開始した(3/22～)。全10公演を鑑賞するフルシリーズに加え、前半5演目のみの前期セット、後半5演目のみの後期セットを用意し、アトレ会員限定で、申込時に一部演目の日程を変更できる日程セレクトサービスを設けるなど、販売促進に努めた。
- ・プレイガイド会員、新国立劇場 Web ボックスオフィス登録者及びDM先行登録者に対し、一般発売に先駆けた先行発売を実施した。
- ・若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」、「U39 オペラ優待メンバーズ」、「U15 ファミリー優待メンバーズ」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。

## ⑤ 団体観劇促進のための営業活動、旅行代理店・ホテル等との連携強化

### (a) 団体観劇の促進

#### i. 伝統芸能分野

##### ■本館

- ・営業担当者が受注見込団体への個別訪問等を実施。新型コロナウイルスの感染拡大期には、個別訪問の代替としてメール・DM等での営業活動を行った。
- ・新型コロナウイルスの感染状況下における需要に対応して、歌舞伎公演の団体人数の下限を従来の20名から10名に変更した。
- ・演目ゆかりの地の団体に対して、チラシ・ポスターの掲出による周知の依頼と観劇の勧誘を行った。
- ・団体向け観劇プランを発売し、専用チラシ・ホームページ・Twitter等で周知を行った。(アフタヌーンティーセットプラン、公演プログラム付きプラン、イヤホンガイド付きプラン)(販売実績：11月歌舞伎 2件21枚、3月歌舞伎 10件129枚)
- ・歌舞伎及び文楽の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去10年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に向けて、定期的に最新の公演情報等のDMを送付。(8回、のべ16,876通)
- ・1都3県にある旅行代理店・学校団体・呉服店など、団体観劇の見込みが高い業種に向けて、最新の公演情報等のDMを送付。(8回、のべ2,307通)
- ・歌舞伎・文楽鑑賞教室の公演内容の周知と団体客の集客のため、関東甲信越地方・東海地方・南東北地方にある中学校・高等学校及び首都圏専門学校・公民館等に最新の公演情報をお知らせするDMを定期的に送付して、広く観劇の勧誘を行った。(1回：10,971通)
- ・歌舞伎・文楽鑑賞教室の団体予約開始日にあわせて、団体鑑賞の申込方法をウェブサイト及びTwitterに掲載。
- ・学校向け修学旅行情報誌(月刊「教育旅行10月号」、季刊「パピルス2021年第1号」)に団体鑑賞の案内を掲載。
- ・元年6月・7月歌舞伎鑑賞教室において、学校関係者向けに「鑑賞教室体験会」(企画及び施設説明・観劇)を6回実施。首都圏の過去3年間観劇履歴のない中学校・高等学校・専門学校等の担当者宛4,646件にDMで案内。参加実績：53校83名(鑑賞教室体験会参加校のうち、12月文楽鑑賞教室申込：3校)
- ・Discover BUNRAKUの集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所を個別訪問した。
- ・3年度歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室(本館)の団体鑑賞申込み受付を11月から開始。
- ・主要なホテル、旅行代理店、観光案内所等に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付。(のべ938通)
- ・法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供。福利厚生メニューの充実と福利厚生業務担当者の事務軽減を図ることができる「法人利用サービス企業様向け」

と、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」の2種類のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った。(加入実績：28団体)

#### ■演芸場

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で団体観劇の受注が大きく減少する中、演芸場の感染症対策について丁寧に説明したことが奏功し、9月上旬公演2公演で貸切公演を獲得できた(9/4 第1部・第2部)。

#### ■能楽堂

- ・令和3年6月能楽鑑賞教室特別チラシを作成し、首都圏の中学・高校・大学や観劇団体に送付した。
- ・過去3年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に令和3年度能楽鑑賞教室公演と令和3年度国立能楽堂主催公演予定表を送付した。
- ・小田急まなたび(小田急ポイントカード会員組織)にて委託販売を行った。その委託販売にあたり、小田急電鉄の各駅で100枚分、1,100両の車内にて公演紹介ポスターを無料掲出し集客を図った。(8/8親子で楽しむ能の会、8/26.27国立能楽堂ショーケース及び1/22狂言の会、1/30特別公演の2回)
- ・団体向け鑑賞プランとして能楽師等が開演前に演目の解説等行う「能楽鑑賞レクチャー」を実施した(1/9、1/15、3/13)。
- ・令和3年度能楽鑑賞教室及び外国人のための能楽鑑賞教室の団体鑑賞申込み受付を12月から開始した。

#### ■文楽劇場

- ・団体客に対して、芸員による文楽人形の実演解説等の付帯サービスを提供し、団体客の増加に努めるとともに、作品の理解を深めることで顧客の定着を図った。
- ・公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去に文楽劇場で観劇履歴のある団体、主要なホテル等にDMを送付。
- ・上演演目ゆかりの地の自治体、教育委員会、文化施設、商工会議所等関係団体に対し、DM発送等の団体勧誘の実施及びチラシ・ポスターの配架・掲示を依頼。
- ・大阪市経済戦略局と「青少年のための文楽鑑賞教室」事業について覚書を取り交わし、大阪市立の高校、中学校、小学校による6月文楽鑑賞教室の団体観劇を受け付けていたが、新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため、公演中止となった。
- ・今後の文楽鑑賞教室利用促進のため、申込みを検討中の学校等の音楽科教員向けに、文楽についてレクチャーする学習会を実施した。

#### ■国立劇場おきなわ

- ・沖縄県の助成による団体客に対する貸切バス費用助成事業を令和2年5月公演から開始。30名以上の団体(チケット購入)を対象として助成。(11月組踊鑑賞教室)
- ・8月琉球舞踊鑑賞教室及び親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」において、県内自治会、児童館、等に案内文書を送付。
- ・9月沖縄芝居鑑賞教室、11/18~20組踊鑑賞教室において、県内小中高校・大学・専門学校への一斉募集を3回実施。
- ・10月組踊鑑賞教室「執心鐘入」及び12月組踊「伊祖の子」において、旅行会社と連携して組踊ワークショップを体験できる組踊鑑賞ツアーを実施(参加者：28人)。
- ・「ツーリズム EXPO ジャパン 2020 沖縄」会場にて、ツーリスト関係者、一般来場者にチラシを配布、公演の周知。また、組踊への理解を深めてもらうため、ツーリスト関係者を対象とした10/31「執心鐘入」を観劇するツFAMツアーを実施。
- ・国立劇場おきなわホームページに「団体鑑賞のご案内」ページを新設し、申込みを検討している学校教員等に団体鑑賞のしくみを紹介した。

#### ■日本博

- ・「皇居周辺・日本橋エリアアートマップ」に掲載されている文化施設全館、半蔵門駅・永田町駅、東京駅・日本橋駅周辺の観光案内所、都内を中心とした全国のホテル(日本コンシェルジュ協会会員ホテル)に配布、周知(年2回)。

#### ii. 現代舞台芸術分野

- ・「こうもり」公演のチケット購入団体(1団体)に対して、オンラインでの事前レクチャーを実施した。
- ・公演に関する協会、団体や出演者のファンクラブ会員などへ公演情報を周知するとともに、チケット

の申込みを受け付けた。

- ・団体鑑賞の取引実績のある団体へ、ラインアップ発表後に演目の資料を DM 送付し、団体営業活動の促進に資した。
- ・団体鑑賞の取引実績がある旅行代理店へ、ラインアップ発表後に演目の資料を DM 送付した。
- ・首都圏近郊の見込み法人顧客を対象に、団体観劇ご案内の DM を送付した。

## (b) 旅行代理店・ホテル等との連携強化

### i. 伝統芸能分野

- ・歌舞伎公演において、ホテルグランドアーク半蔵門と連携した団体向け観劇プラン(アフタヌーンティーセットプラン)を販売した。販売実績：2件 21枚
- ・ホテルグランドアーク半蔵門の協力の下、ホテル公式ホームページ等で国立劇場観劇付き宿泊プランを案内。
- ・国立劇場近隣の店舗で国立劇場・国立演芸場のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられる「国立劇場 GoTo 半蔵門キャンペーン」を実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど 34 店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した。
- ・首都圏を中心とした旅行代理店に向けて、最新の公演情報等の DM を送付。(3回、のべ 594 通)
- ・主要なホテル、旅行代理店、観光案内所等に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容の DM を送付。(のべ 938 通)(再掲)
- ・海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京シティーエアターミナル・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町 TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前 TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前 KITTE 内観光案内所(日本郵便・JTB 運営)、都内主要ホテルに配布。
- ・主に外国人旅行者を対象としている成田空港内観光案内所、東京駅前 KITTE 内観光案内所、東京駅前の観光案内所 TIC TOKYO 及び東急渋谷駅構内観光案内所 WANDER COMPASS SHIBUYA において、英文の歌舞伎イメージポスターを掲示。
- ・歌舞伎・音楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語(簡)・中国語(繁)・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を国立劇場チケット売場や観光案内所等に設置した。
- ・JTB との連携により、学校向け修学旅行情報誌(月刊「教育旅行 10月号」)に団体鑑賞の案内を掲載。
- ・KNT-CT ホールディングスとの連携により、学校向け修学旅行情報誌(季刊「パピルス 2021 年第 1号」)に団体鑑賞の案内を掲載。
- ・地方や海外からの旅行者の観劇を増やすため、ホテルとの連携強化を図り、セラトン都ホテル大阪では、宿泊と文楽劇場公演観劇をセットにした宿泊パックを販売した。(販売実績：6件 24枚)
- ・旅行会社と連携して、公演鑑賞と合わせて開演前に組踊ワークショップを体験できる組踊鑑賞ツアーを実施。(参加者：10月組踊鑑賞教室「執心鐘入」10名、12月組踊「伊祖の子」18名)
- ・「ツーリズム EXPO ジャパン 2020 沖縄」(主催：公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会、日本政府観光局)に国立劇場おきなわが参加し、劇場 PR ブースを設置するとともに、ツーリスト関係者との商談会を行った。また、組踊への理解を深めてもらうため、ツーリスト関係者を対象とした 10/31「執心鐘入」を観劇する FAM ツアーを実施。

### ii. 現代舞台芸術分野

- ・日本政府観光局主催のインバウンド関連ビジネス商談会である「VISIT JAPAN トラベル& MICE マーケット 2020」は感染症の影響で中止となったが、同じく日本政府観光局主催の「JNTO インバウンドセミナー in 沖縄」に参加し、ウィズ・コロナの状況下における消費者動向やプロモーション等を学ぶことで、今後のインバウンドプロモーションの参考とした。(10/29)

## ⑥「国立劇場キャンパスメンバーズ」等

### (a) 「国立劇場キャンパスメンバーズ」

会員数：30校

(元年度より継続加入：24校)

大妻女子大学文学部・短期大学国文科/英文科、お茶の水女子大学、学習院女子大学、鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部、共立女子大学文芸学部、国士舘大学文学部文学科日



本文学・文化専攻、学校法人上智学院、昭和女子大学日本語日本文学科/歴史文化学科、女子美術大学アート・デザイン表現学科アートプロデュース領域、白百合女子大学、清泉女子大学、中央大学国文学会、津田塾大学、東京学芸大学、東京藝術大学音楽学部、東京工芸大学芸術学部、学校法人東京国際大学、獨協大学、二松学舎大学、日本大学芸術学部、フェリス学院大学文学部日本語日本文学科、法政大学文学部日本文学科、明治大学文学部、明治学院大学

(2年度より新規加入：6校)

国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校観光総合科、学校法人国際共立学園、総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻、東京アニメーションカレッジ専門学校、日本外国語専門学校アジア・ヨーロッパ言語科、了徳寺大学

利用枚数：387枚

イベント：3回実施(参加者数：6名)

歌舞伎デビュー応援！歌舞伎観劇(解説付き)+バックステージツアー(6月、※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止)、オリジナルグッズが当たる！国立劇場公演ラリー(10月～1月の国立劇場公演)、イヤホンガイド無料キャンペーン(初春歌舞伎公演)、春の伝統芸能入門キャンペーン(3月歌舞伎公演・3月舞踊公演)

サービスの拡充：キャンパスメンバーズ料金の対象公演に国立劇場で実施する歌舞伎鑑賞教室を追加

#### (b) 新国立劇場大学連携協力協定

協定締結校：11校

東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学

#### ⑦おすすめキャンペーン

・職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施(479枚)。

### イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実

#### ①あぜくら会(会員数:18,078人/対前年度-991人)

##### (a) 会報誌(計画:毎月発行)

「あぜくら」を毎月2日に発行した(計12回)。

##### (b) 会員向けイベント(計画:年8回程度)

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
特別インタビュー「祝・五代目三遊亭金馬襲名」	-	会報あぜくら 10月号掲載	-	五代目三遊亭金馬	-	-	-	-
鼎談「今様、中世歌謡の魅力」	-	会報あぜくら 2月号掲載	-	豊英秋、下野戸亜弓、沖本幸子	-	-	-	-

##### (c) 会員向けサービスの充実

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、従来実施していたイベントの代替として、出演者等による対談を会報に掲載した。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止として販売座席数を制限したため、あぜくら会会員に対する各歌舞伎公演の初日から三日目の入場券をセットにした「三日目の会」の入場券の販売について、当年度は中止した。

#### ②国立文楽劇場友の会(会員数:8,095人/対前年度-543人)

##### (a) 会報誌(計画:年6回発行)

文楽本公演に合わせて「友の会会報」を年5回(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための公演中止に伴い1回休刊)発行した。

(b) 会員向けイベント（計画：年4回程度）

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
文楽のつどい 錦秋文楽公演に向けて※	10/19	文楽劇場	無料	(出演)竹本織太夫、竹澤宗助、吉田一輔（聞き手）くまざわあかね	152人	171人	171人	-

※収録動画を会員限定でインターネット配信

(c) 会員向けサービスの充実

- ・一定数以上の公演のチケットを購入した会員へ記念品を贈呈する「文楽公演観劇ラリー」を計画していたが、対象公演の一部中止に伴い、観劇ラリーも企画を中止した。
- ・振興会ホームページ内に会員専用ページを作成し、会員イベントレポートや会報を掲載した。
- ・国立文楽劇場友の会入会時のサービスとして、新規入会者に公演プログラム引換券(1冊分)と文楽劇場オリジナルグッズ引換券をプレゼントした。
- ・大阪市と公益財団法人文楽協会が主催する文楽普及事業「ムムム！文楽シリーズ 中之島文楽」において、文楽劇場友の会入会勧誘チラシを配布し、新規会員の獲得に努める予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった。

③国立劇場おきなわ友の会（会員数：1,266人／対前年度－382人）

(a) 会報誌（計画：年4回発行）

「国立劇場おきなわ友の会会報」を6、9、12、3月に発行した(計4回)。

(b) 会員向けイベント（計画：年3回程度、実施：4回）

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
国立劇場おきなわ自主公演観劇ラリー	5月～2月	-	無料	-	-	-	-	-
国立劇場おきなわ友の会入金0円キャンペーン	8月～11月	-	-	-	24人	-	-	-
国立劇場おきなわ友の会ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン	1月～3月	-	-	-	22人	-	-	-
国立劇場おきなわ友の会「実演家ザ談会」	1/30	国立劇場おきなわ小劇場	無料	(出演)宮城茂雄、田口博章、新垣俊道、仲嶺良盛(聞き手)嘉数道彦	66人	83人	83人	83.6%
国立劇場おきなわ友の会自主公演出演者入会金0円	3/4～	-	-	-	1人	-	-	-

(c) 会員向けサービスの充実

- ・国立劇場おきなわ友の会新規会員の入会を促すことを目的として、次の「友の会新規入会キャンペーン」を実施。
  - ◇ 8月から11月までに上演される普及公演のチケット購入者に限り、公演当日までの入会で入会金が0円となる「友の会入金0円キャンペーン」を実施した。(新規入会者：24人)
  - ◇ ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン(1月～3月)：既存会員から紹介を受けて新規入会した場合、入会者及び紹介者へ特典として自主公演50%割引券を進呈。(新規入会者：22人)
- ・国立劇場おきなわ友の会会員限定企画として、5月から2月まで「国立劇場おきなわ自主公演観劇ラリー」を実施。3公演購入ごとに自主公演50%割引券1枚を進呈。(実績：106人)
  - ◇ 会報誌の発行・送付、チケット購入時に押されるスタンプをためて割引券等がもらえるポイントカード制度、キャンセル待ちサービス、チケットの無料郵送、公演チラシ送付サービス、会員対象の講演会(1/30、66名参加)を実施した。

(d) アンケート調査等

- ・国立劇場おきなわでは、実演家ザ談会で実施。

④新国立劇場クラブ・ジ・アトレ（会員数：11,230人／対前年度－270人）

(a) 会報誌（計画：毎月発行）

「ジ・アトレ」を毎月発行した(計12回)。

## (b) 会員向けイベント（計画：年12回程度、実施：3回）

イベント名	期間	会場	料金	参加者数
オペラ「ジュリオ・チェザレ」 舞台稽古見学会 ※中止	4/5	新国立劇場 オペラ劇場	無料	-
バレエ「ドン・キホーテ」 舞台稽古見学会 ※中止	5/1	新国立劇場 オペラ劇場	無料	-
バレエ「不思議の国のアリス」稽古場リハーサル見学会 ※中止	5/22	新国立劇場 バレエリハーサル室	無料	-
バレエ「不思議の国のアリス」舞台稽古見学会 ※中止	6/4	新国立劇場 オペラ劇場	無料	-
オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」休演日バック クステージツアー ※中止	6/28	新国立劇場 オペラ劇場	無料	-
バレエ「ドン・キホーテ」 舞台稽古見学会	10/22	新国立劇場 オペラ劇場	無料	14人
バレエ「くるみ割り人形」 舞台稽古見学会	12/11	新国立劇場 オペラ劇場	無料	10人
バレエ「眠れる森の美女」 舞台稽古見学会	2/19	新国立劇場 オペラ劇場	無料	10人

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止

## (c) 会員向けサービスの充実

- ・公演初日まで10%割引価格にて先行販売（電話、窓口及びインターネット申込みによる「先行受付」）を行った。会員抽選受付（郵送、インターネット）は、公演実施決定から初日までの期間が短いことから、実施を取り止めたが、他方で、昨シーズンのセット券を申込者（主にアトレ会員）、及びクラブ・ジ・アトレゴールド会員に対し、先行受付前に郵送での優先申込受付を行った。
- ・シーズンセット券については、例年より2か月遅れて3月より2021/2022シーズンオペラセット券を、10%から18%の割引価格にて優先的に販売している。また、アトレ会員限定のサービスとして、購入時に一部演目の日程変更が可能な「日程セレクトサービス」を実施している。
- ・バレエ・ダンスセット券については、2021/2022シーズンは実施を見送ったが、代替サービスとして、前シーズンの購入実績に応じて郵送申込時に優先的に単券を購入できる「バレエ・ダンス郵送申込シード権」を開始した。
- ・公演中止、関連イベント中止により会員サービスが十分に行えない現状を鑑み、夏のポイントアップサービス開始前に以下の救済措置を講じた。
  - ① 5月15日までの獲得ポイントを次シーズンに繰越した。（夏のポイントアップサービスを受けた会員を除く）
  - ② 主催公演チケット購入によって獲得したポイントは、公演中止に伴い払戻となっても有効とした。
  - ③ マエストロ食事券、ビュッフェ&ショップクーポン及びプログラム引換券の有効期限を1年延長した。
  - ④ 令和元年の夏のポイントアップサービスで「2名様でゲネプロ見学」を選択し、当該ゲネプロが中止になった方には、夏のポイントアップサービス案内時に1,000ポイント加算した。
- ・購入金額に応じて加算されるポイント数に応じて、夏のポイントアップサービスを実施した。今シーズンは、チケット購入時の優待サービス、各種クーポン、グッズの提供は例年どおり実施したが、ゲネプロ見学や公演への招待については、1年分をまとめた招待を取り止め、公演やゲネプロの実施を確認した後に毎月対象者に会報誌で告知し抽選を行う方法を取った。なお、バックステージツアーやバレエリハーサル見学などのイベントは、今回実施を見送った。
- ・公演中止及び開演時間変更となった公演のチケットを購入した会員全員に払戻申込書を送付し、払戻手続方法を丁寧に説明した。
- ・また、キャスト変更や収容率変更に伴い追加発売日を決定した場合に、会報誌での告知タイミングと合わない場合は、全会員に対し、ハガキやDM等で告知を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により主催公演が中止となり、会員としての特典を活用いただけない期間が生じたため、チケット購入の際に使用できるクーポンを発行し、会員の継続維持に努めた。

- ・オペラセット券の販売時期に併せ、入会キャンペーンを例年の3か月遅れで3月から4月にかけて実施し、会員募集に努めている。なお、カード利用促進キャンペーン(ゲネプロ見学会、バックステージツアー等各種イベントへの招待)については、先々のイベント実施の見通しを経たないことから実施をとりやめた。前年度に引き続き三井住友 VISA カード及びゴールドカードのみならずクレジット機能のないハウスカードもキャンペーン対象としている。
- ・前年度に引き続き、会員サイト上で、会報誌を講読できるサービスを提供している。

**(d) アンケート調査等**

- ・今後の運営に活用するため、夏のポイントアップサービスサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

---

## 2 - (7) 劇場施設の使用効率の向上等

### 《中期計画の概要》

---

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 各種事業の日程をより効率的に設定するなど劇場施設の使用効率の向上

国民の鑑賞機会の増加を図る観点から、主催公演等の実施のほか、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与

イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供

利用者に対するアンケート調査等を活用したサービスの向上に努め、一層の利用促進を図る

ウ 振興会が有する6劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化、効果的な運営の実施

### 《年度計画の概要》

---

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施

①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載

②パンフレットやダイレクトメールによる広報

③利用希望者に対する説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む

④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実

⑤他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用

ウ 振興会が有する6劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に実施

## ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与

劇場	主催公演等使用日 養成研修使用日	貸劇場使用日 (左記使用日との重複除く)	使用可能日	劇場稼働率	前年度 劇場稼働率
本館大劇場	150日	9日	181日	87.8%	94.6%
本館小劇場	102日	46日	189日	78.3%	90.3%
演芸場	189日	18日	229日	90.4%	93.4%
能楽堂	92日	95日	211日	88.6%	88.9%
文楽劇場	123日	26日	200日	74.5%	66.4%
文楽劇場小ホール	64日	33日	185日	52.4%	71.8%
国立劇場おきなわ大劇場	112日	18日	235日	55.3%	70.4%
国立劇場おきなわ小劇場	19日	28日	216日	21.8%	62.6%
<b>伝統芸能分野 合計</b>	<b>851日</b>	<b>273日</b>	<b>1,561日</b>	<b>72.0%</b>	<b>80.5%</b>
新国立劇場オペラ劇場	187日	14日	201日	100.0%	100.0%
新国立劇場中劇場	117日	99日	216日	100.0%	99.4%
新国立劇場小劇場	109日	109日	218日	100.0%	99.4%
<b>現代舞台芸術分野 合計</b>	<b>413日</b>	<b>222日</b>	<b>635日</b>	<b>100.0%</b>	<b>99.6%</b>
<b>総 合 計</b>	<b>1,264日</b>	<b>495日</b>	<b>2,196日</b>	<b>80.1%</b>	<b>85.9%</b>

※劇場稼働率＝稼働日数／使用可能日

稼働日数：主催公演等使用日＋養成研修使用日＋貸劇場使用日(自主重複除く)

主催公演等使用日・養成研修使用日は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

使用可能日：365日－(休館日＋保守日＋調整日)

※新型コロナウイルス感染症の影響による利用中止

国立劇場 大劇場：34件 69日 小劇場：54件 69日

国立演芸場：36件 45日

国立能楽堂：74件 69日

国立文楽劇場 文楽劇場：39件 59日 小ホール：37件 59日

国立劇場おきなわ 大劇場：26件 37日 小劇場：53件 74日

新国立劇場 オペラ劇場：3件 12日 中劇場：12件 103日 小劇場：4件 41日

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、劇場稼働率の算出において1日と計上されるため、重複日が多い施設は、実際の貸与日数(重複を除く)が増加した場合でも劇場稼働率が低下する場合がある。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止による公演中止日は調整日とした。

## イ 各施設の利用促進を図るための取組

### ①ホームページへの掲載

- ・(本館・演芸場)施設、設備等の概要及び利用手続き方法、貸劇場公演情報等、「劇場使用のご案内」パンフレットPDF版、使用申込要項及び使用申込書をホームページに掲載した。
- ・(本館・演芸場)ホームページに利用案内及び使用可能日を掲出・更新し広報の充実を図るとともに、新規利用希望者には、「劇場使用のご案内」パンフレットを配布、随時相談や施設見学に応じるなど利用促進に努めた。
- ・(能楽堂)ホームページに利用案内を掲出・更新し広報の充実を図るとともに、新規利用希望者には、「国立能楽堂料金表」を配布、随時相談や施設見学への対応、感染症対策の充実をアピールするなど利用促進に努めた。
- ・(文楽劇場)ホームページに施設案内及び座席案内を掲出した。
- ・(新国立劇場)令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により例年4月～5月に行ってきた令和3年度使用団体の募集を延期し、8月17日(月)～9月4日(金)の期間で募集を行った。募集期間中はトップ画面にニュースを掲載し情報発信した。
- ・(おきなわ)前年同様、「施設・設備の概要」及び「施設のご利用案内」をはじめ、劇場の空き状況等について定期的に更新し、施設利用の情報発信を行った。

### ②パンフレットやダイレクトメールによる広報

- ・(本館・演芸場)「劇場使用のご案内」パンフレット及び施設申込受付期間の案内のDMを過去の劇場利用者へ送付。
- ・(本館・演芸場)実演家団体の会報誌や専門誌に貸劇場利用に関する情報を掲載した。
- ・(本館・演芸場)劇場利用に関するチラシ・ポスターを劇場内ロビー・楽屋・稽古場等に掲示して周知を図った。
- ・(能楽堂)楽屋周辺及び劇場利用係執務室等に能楽堂施設利用に関する案内を設置した。過去3年間能楽堂を利用した主催者に能楽堂予約申込書とともにDMで送付した(77件)。

- ・(文楽劇場)劇場施設申込受付の案内をDMにて過去の劇場利用者へ送付した。
- ・(文楽劇場)劇場内(ロビー・楽屋等)に劇場利用に関するチラシ・ポスターを配架・掲出した。
- ・(おきなわ)ツーリズム EXPO ジャパンに参加し、劇場利用のPRを行った。

### ③利用希望者に対する説明・見学等

- ・(本館・演芸場)利用希望者には随時、申込手続き、利用日までの流れ等について、個別に説明及び施設・設備の見学に応じ、劇場利用者の増加に努めた。
- ・(本館・演芸場)新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、ガイドラインに基づき、利用者に予め文書等で協力を要請した。また、公演前の主催者との打合せ会にて開催内容に即した措置を講ずるための協議を行うとともに、状況により当該公演の担当者を増員して対応した。
- ・(能楽堂・文楽劇場)初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時申込手続き、利用日までの流れ等について個別に説明や劇場見学等の案内を行うなど利用促進に努めた。
- ・(おきなわ)利用希望者からの問合せには随時対応し、希望があれば劇場見学の案内を行うことで新規の利用者獲得に努めた。

### ④利用者に対するアンケート調査、調査結果を踏まえたサービスの充実

- ・(本館・演芸場)舞台の保守点検日や施設整備期間の設定について、関係部署と調整しながら貸与希望者の使用希望日に沿うように調整した。
- ・(能楽堂)申合せ(=稽古)だけでなく公演での利用についても、時間単位できめ細かい調整を行い、1日に複数の主催者の公演を実施するなど、施設利用件数の増加と効率的な施設の運営に努めた。
- ・(文楽劇場)貸与希望者の希望に沿うよう設備整備及び保守点検の設定を関係部署と調整を行った。
- ・(国立劇場)施設利用者にはアンケート用紙を渡し、意見を集めた。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。

#### 《アンケート結果》

イベント名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
本館・演芸場	40件	8件	8件	7件	20.0%	87.5%
能楽堂	31件	15件	15件	12件	48.4%	80.0%
文楽劇場	39件	21件	21件	19件	53.8%	90.5%
国立劇場おきなわ	24件	13件	13件	13件	54.1%	100%

## ウ 6劇場の相乗効果を発揮するための連携協力

- ・伝統芸能情報館企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」(10/1~1/27)では、歌舞伎俳優研修が開始されてから50年を記念し、事業開始から現在に至る養成事業の歩みと伝統芸能の世界で果たしてきた役割について紹介するとともに、国立文楽劇場とも連携して1/3~3/7の期間、事業データの紹介等、一部共通の資料を展示することにより、養成事業に関する国民の理解促進に資するだけでなく、並行して行われた歌舞伎俳優及び文楽研修生の募集の宣伝広報の強化に繋がった。
- ・養成研修50周年を記念して、国立能楽堂では「伝承者養成事業50周年記念 能楽研修発表会第23回青翔会(10/13)・第24回青翔会(3/9)」及び公開講座「伝承者養成事業50周年記念講座」(12/9)を開催した。
- ・令和2年2月10日に国立劇場おきなわで開催した公演記録鑑賞と講座「織物からみる琉球舞踊」において、映像を国立劇場より借用し鑑賞会で上演した。
  - ①琉球舞踊「苧引(ウビチ)」 比嘉 清子(昭和47年)
  - ②八重山舞踊「苧引き(ブビキ)」 慶田盛 末子・森田章子(昭和61年)
  - ③琉球舞踊「かせかけ(カシキ)」 宮城 幸子・喜納 幸子(昭和55年)





## (8) 日本博の運営・実施

(8) 日本博の運営・実施 ----- p.150



## 2 - (8) 日本博の運営・実施

### 《年度計画の概要》

#### 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

##### (8) 日本博の運営・実施

日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する「日本博」について、縄文から現代までの美術・文化財の展覧会、伝統芸能、現代舞台等の舞台芸術公演、文化芸術祭等に関する企画・実施等と、国内外にわたり、訪日外国人等に対して戦略的なプロモーションに関する企画・実施等における、中心的な役割を担う事務局を運営する。

ア 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下で主催・共催事業を体系的に実施する。

- ① 「日本博」の中核となる主催・共催型プロジェクトについて、企画原案の提案を受け付ける。受け付けた企画原案については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の評価、及び文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。(別表 9※令和 2 年度実施分)
- ② 主催・共催型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等との契約・支払等に関する業務を行う。併せて、団体等との連絡・調整に関する業務も行う。
- ③ 主催・共催型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

イ 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下でイノベーション型プロジェクトを実施する。

- ① 「日本博」プロジェクトとして企画・実施する新規性・創造性が高い文化芸術プロジェクト等について補助事業の公募を受け付ける。受け付けた事業については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の審査、及び文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。
- ② イノベーション型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等への補助金交付に関する業務を行う。
- ③ イノベーション型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

ウ 各地域や団体の特色ある企画について参画プロジェクトとして認証する。

- ① 認証申請に関する相談への対応、申請者との調整を行う。参画プロジェクトへの認証申請は随時受け付ける。
- ② 参画プロジェクトの認証手続きを随時実施する。
- ③ 認証した参画プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

エ 「日本博」のプロジェクト全体について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施する。

- ① 「日本博」の戦略的なプロモーションに関する方針を検討し、策定する。
- ② 「日本博」のプロジェクト全体について、多様な媒体を活用し、国内外に向けた情報発信を効果的に行う。
- ③ プロモーション業務の終了後、事業者等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

オ 「日本博」の開催に際し実施される、文化芸術活動及びそれらのプロモーション活動を通じた国家ブランディング・インバウンド拡充等、文化的・社会的・経済的効果等を効果検証の基本方針や指標等に沿って、定量的・定性的に測定、その結果を検証する。

## ア 主催・共催型プロジェクトの実施

・主催・共催型プロジェクトの提案受付・採択状況

企画提案件数	採択内定件数		4月公表	5月公表
95件	61件	内 訳	46件	61件
		(予定どおり実施)	(16)件	(8)件
		(変更して実施)	(30)件	(50)件
		(中止・辞退)	(0)件	(3)件

### 《振興会から提案した事業》

＜振興会から提案した事業＞

プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
「日本博」皇居外苑特別公演	(独)日本芸術文化振興会	3月
ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」 ※映像コンテンツの発信	(独)日本芸術文化振興会	展覧会: 中止・延期 映像コンテンツ: 6月～3月
Discover 伝統芸能 —歌舞伎・能・狂言・文楽・日本舞踊・寄席・雅楽で「おもてなし」—	(独)日本芸術文化振興会	8月～3月
「伝統芸能」にみる「日本人と自然」	(独)日本芸術文化振興会	11月～3月
文楽・世界への発信と国際交流	(独)日本芸術文化振興会	9月～12月
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」 ※映像コンテンツの発信	公益財団法人新国立劇場 運営財団	3月
世界初演・新作バレエ公演「竜宮 りゆうぐう」～亀の姫と季(とき)の庭～	公益財団法人新国立劇場 運営財団	7月
琉球王朝の美～組踊、その継承と発信～	公益財団法人国立劇場お きなわ運営財団	8月～3月

＜振興会が文化庁と協議の上、企画提案した事業＞

プロジェクト名	組織・団体名	開催時期
「工芸 2020—自然と美のかたち—」	(独)日本芸術文化振興会	9月～11月
特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」	(独)日本芸術文化振興会	中止・延期

## イ イノベーション型プロジェクトの実施

一次応募件数	採択内定件数		4月公表	5月公表	6月公表	9月公表
92件	40件	内 訳	22件	38件	40件	40件
		(予定どおり実施)	(7)件	(3)件	(3)件	(1)件
		(変更して実施)	(12)件	(24)件	(26)件	(27)件
		(中止・辞退)	(3)件	(11)件	(11)件	(12)件

※新型コロナウイルスによる影響を考慮し、事業実施に向けた検討状況を9月に公表。

二次応募件数	採択内定件数		8月公表 件数
25件	8件	内 訳	8件
		(予定どおり実施)	(8)件
		(変更して実施)	(0)件

(中止・辞退)	(0)件
---------	------

## ウ 参画プロジェクトの認証

・ 3月31日までの認証件数 135件

### 《振興会の認証事業》

- ・ 国立文楽劇場 第158回4月文楽公演「通し狂言義経千本桜」  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 国立劇場おきなわ 琉球王朝の美～組踊と琉球舞踊、その継承と発信～
- ・ 国立能楽堂 月間特集 日本人と自然  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 国立能楽堂 国立能楽堂 3月企画公演 復興と文化
- ・ 国立能楽堂 企画展「日本人と自然 能楽と日本美術」
- ・ 国立能楽堂 入門展「能楽入門」
- ・ 国立文楽劇場 第36回舞踊・邦楽公演 新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 国立文楽劇場 第37回文楽鑑賞教室 「二人三番叟」「解説文楽へようこそ」「夏祭浪花鑑」  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 国立文楽劇場 第23回文楽素浄瑠璃の会
- ・ 国立劇場 国立劇場5月文楽公演 「通し狂言 義経千本桜」 第一部・第二部  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 令和2年国立劇場さくらまつり ⇒中止
- ・ 国立劇場 国立劇場4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 国立劇場 国立劇場5月特別企画公演「言葉～ひびく～身体Ⅱ 今を生きる 一現前する舞と生一」  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 国立文楽劇場 企画展示「文楽の四季」 同時開催「文楽入門」
- ・ 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2020「夕鶴」  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 新国立劇場 新国立劇場演劇研修所 朗読劇＋ダンス「オズマ隊長」
- ・ 新国立劇場 ニューイヤー・バレエ「ペンギン・カフェ」  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 国立劇場 令和2年9月 第213回 文楽公演
- ・ 国立劇場 令和2年10月 第194回 邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」
- ・ 国立劇場 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭オープニング「花鳥風月によせて—重要無形文化財保持者(各個認定)の至芸—」
- ・ 国立劇場 令和2年10月歌舞伎公演「ひらかな盛衰記—源太勘当—」「幸希芝居遊」「新皿屋舗月雨暈—魚屋宗五郎—」「太刀盗人」
- ・ 国立劇場 国立劇場11月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」
- ・ 国立劇場 令和2年11月歌舞伎公演
- ・ 国立文楽劇場 第161回初春文楽公演
- ・ 国立劇場 令和2年12月歌舞伎公演
- ・ 国立劇場 令和3年初春歌舞伎公演
- ・ 国立劇場 国立劇場1月邦楽公演「邦楽鑑賞会—長唄の会・三曲の会—」
- ・ 国立劇場 国立劇場2月文楽公演
- ・ 国立劇場 国立劇場2月声明公演「真言宗智山派 総本山智積院の声明 大曼荼羅供」  
⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止
- ・ 国立劇場 令和3年3月歌舞伎公演
- ・ 国立劇場 国立劇場12月文楽公演
- ・ 国立劇場 国立劇場12月文楽鑑賞教室

## エ 日本博全体の戦略的プロモーションの実施

### ①戦略的プロモーションに関する方針の検討、策定

- ・日本博の戦略的プロモーションの方針について事務局で検討
- ・日本博の戦略的プロモーションに関する方針について、海外情報発信を行う有識者や JNTO(日本政府観光局)に意見を伺い、日本博の国内外に対する戦略的プロモーションに関する方針の検討・策定を行った。

## ②多様な媒体を活用し、国内外に向けた情報発信

- ・日本博ホームページへの掲載件数 ※3月31日時点  
(日本語) : 439件 (英語) : 317件 (仏語) : 215件 (韓国語) : 214件  
(繁体字中国語) : 214件 (簡体字中国語) : 215件
- ・令和2年3月14日の東京国立博物館平成館で収録した「日本博特別公演 日本の音と声と舞」を放送した。
  - 放送日時 : 6月20日(土)12:00~13:24  
放送局 : BS日テレ  
放送後、民放テレビ局連携公式ポータルサイト「TVer」「日テレ無料!」で1か月間(6月20日放送後~7月19日まで)配信。再生回数 57,804回  
日テレ無料、日テレYouTube、GYAO!にて特別公演ダイジェスト動画(5分)配信。  
出演 : 尾上菊之助、観世清和、桐竹勘十郎 他
  - 放送日時 : 7月19日(日)13:50~14:58  
放送局 : NHK総合テレビ  
放送後、NHKプラスで1週間(7月19日放送後~7月26日まで)見逃し配信。
- ・各地の日本博事業を紹介する30分番組を4回放送。
  - 放送日時 : 2月10日(金)  
放送局 : NHK WORLD(番組名「The Japanese and Nature Message of the Japan Cultural Expo」)  
放送後、ビデオ・オンデマンド[jib tv]で配信。
- ・皇居外苑特別公演PR動画を放送(時間は日本時間)。
  - 放送日時 : 3月4日(木)10:30~11:00、16:30~17:00、19:30~20:00、翌日4:30~5:00  
3月5日(金)8:30~9:00、14:30~15:00、21:30~22:00、翌日2:30~3:00  
3月9日(火)8:30~9:00、14:30~15:00、21:30~22:00、翌日2:30~3:00  
放送局 : NHK WORLD  
4回の30分枠内でそれぞれ20秒の放送を実施。放送対象地域は約160の国と地域、3億世帯以上。
- ・皇居外苑特別公演を中心に、令和2年度以降の日本博事業を紹介する「日本博広報番組」を放送。
  - 放送日時 : 2月27日(土)11:00~11:30  
日本博事業紹介のほか、皇居外苑特別公演のうち、能楽を中心に紹介。  
出演 : 観世清和 他  
3月6日(土)11:00~11:30  
日本博事業紹介のほか、皇居外苑特別公演のうち、琉球舞踊、浦浜念仏剣舞を紹介。  
3月27日(土)12:30~14:00  
皇居外苑特別公演「祈りのかたち」ダイジェスト映像及び新潟県十日町市と島根県出雲市の取組を含め日本博事業を「衣食住」「美術・文化財」などテーマごとに紹介。  
放送局 : BS日テレ  
各日放送後、TVer、GYAO、日テレTADAにて1か月程度オンデマンド配信を実施。
- ・日本博事業のパンフレットを作成。(作成部数 : 6,000部)
- ・フォーリンプレスセンターから、日本博今年度の主なラインナップ及び「工芸2020」「日本のたても」等のプレスリリースを配信。その他、皇居外苑特別公演等のプレスリリースを複数回実施した。
- ・日本博特別公演「日本の音と声と舞」の映像を活用した伝統芸能紹介動画(「日本の音」「日本の声」「日本の舞」)を5言語(日、英、仏、中、韓)で作成し、YouTube日本博チャンネル、日本博公式サイトデジタルギャラリーに公開。YouTubeの「日本の舞」への誘導広告動画を英語圏、フランス語圏、中国語圏、韓国語圏にそれぞれ配信(11/24)。結果、「日本の舞」英語版の再生数は94,411回。
- ・Facebook、Instagram、Twitter、YouTubeに日本博事業の広告を掲載・配信(10/30~11/12)
- ・2月16日掲載の新聞広告のためのインタビューを実施(12/10, 12/14)(日経、朝日、産経)
- ・2月10日放送のNHKワールド日本博広報番組「日本人と自然」の撮影、インタビュー等を実施。
- ・1~3月(3回)にANA機内誌「翼の王国」で日本博事業を紹介。

- ・国立劇場 2 月特別企画公演「月・雪・花―四季折々のこころ―」及び皇居外苑特別公演「祈りのかたち」に合わせ、在日海外メディア、インフルエンサーを招聘し、プレスツアーを実施。
- 2月28日 日本博プレスツアー(伝統芸能情報館、国立劇場大劇場)  
国立劇場 2 月特別企画公演「月・雪・花―四季折々のこころ―」にあわせ、主に海外をターゲットとするメディアやインフルエンサーを招へいし、メディアツアーを実施。  
参加 メディア：5 社(香港 1、オーストラリア 1、アメリカ 2、欧米富裕層 1)  
インフルエンサー：6 名(ドイツ 1、フランス 1、アメリカ 2、台湾 1、イギリス 1)  
ツアー内容：日本博についてオリエンテーション  
情報展示室「見世物の精華」見学  
大劇場内 観覧  
特別企画公演 鑑賞
- 3月14日(日) プレスツアー(皇居外苑 他)  
日本博の取組の説明や日本博参加プログラム関係者へのインタビュー取材を提供し、その後、皇居外苑特別公演「祈りのかたち」を鑑賞。  
参加 メディア：7 社(香港 1、オーストラリア 1、アメリカ 2、イタリア 1、欧米富裕層 1、全世界 1)  
インフルエンサー：5 名(ドイツ 1、フランス 1、台湾 1、イギリス 1、アメリカ 1)  
ツアー内容：日本博についてオリエンテーション  
日本博 2021 年の取組について説明  
インタビュー取材：「アートフェア 2021」エグゼクティブディレクター  
皇居外苑特別公演 鑑賞

### ③プロモーション終了後の報告書等の取りまとめ

- ・3月31日までに委託業者より報告書及び成果物(映像資料・広報物等)を収集し、文化庁に報告を行った。

## オ 日本博の文化的・社会的・経済的効果等の検証

- ・委託業者と契約を結び、前年度検討した効果検証における基本方針・指標を基に経年変化等をとらえるとともに、新型コロナウイルスの影響の把握について検討。
- ・各事業者に対し、事業の目的及び効果について、アンケート及びヒアリング等を実施。
- ・有識者による、基本方針や指標の再検証及び各調査結果等に基づく検証を実施。

## カ その他

- ・日本博ホームページリニューアル(日本語サイト：10月20日(火)、多言語版：11月16日(月))  
◇デジタルギャラリー  
掲載動画・VRコンテンツ：75本  
◇YouTube 日本博チャンネル  
配信動画数：99本  
◇Living History [参画型]  
(日本語)：20件 (英語)：15件
- ・「工芸 2020」オンライン国際シンポジウムの映像を配信。  
◇動画コンテンツ  
特別展「工芸 2020」オンライン国際シンポジウムを10月17日(土)から YouTube で配信。  
「工芸と自然」「実用性の問題」「日本工芸の海外発信」をテーマに基調講演、制作作家や海外研究者によるオンラインディスカッションを実施し、その様子をライブ配信。
- ・当年度の日本博チラシ及びキービジュアルポスターを作成し、関係各所へ配布。
- ・ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」のうち、歌舞伎・雅楽・組踊の映像等を公開。  
◇動画コンテンツ  
おうちで「体感！日本の伝統芸能」の歌舞伎編・雅楽編・組踊編を順次 YouTube で配信。  
◇VR コンテンツ  
おうちで「体感！日本の伝統芸能」を自分のペースでじっくり 360 度ぐるっと鑑賞できるよう 6 月 6 日(土)より VR で公開。
- ・日本博の駅広告「日本博 JAPAN CULTURAL EXPO」(令和 2 年 3 月東京駅)がジェイアール東日本企画主催「交通広告グランプリ 2020」駅メディア部門の優秀作品賞を受賞。





### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

- (1) 伝統芸能の伝承者の養成——p.160
  - ア 養成の計画的な実施——p.163
  - イ 既成者研修の実施——p.167
  - ウ 実施に当たっての留意事項——p.169
  
- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修——p.173
  - ア 安定的、継続的な実演家の育成——p.175
  - イ 実施に当たっての留意事項——p.178



### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評価	B
<p>自己評価の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標である研修発表会・既成者研修発表会について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除き、概ね計画どおり実施できた。</li> <li>・伝統芸能分野では、研修生の募集広報を積極的に行い、募集した全2コースに応募があり、令和3年度に開講できることとなった。</li> <li>・全日本空輸株式会社の協賛により、新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。例年実施されていたオペラ及びバレエ研修所の「ANAスカラシップ」による海外研修については、新型コロナウイルス感染症の全世界的な拡大と、出入国制限に伴い、実施が見送られた。</li> <li>・研修公演で成果を披露することができた。</li> <li>・講習会・オープンスクールや説明会を開催し研修の内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、演劇研修所の説明会はオンラインで行われた。</li> <li>・振興会ホームページ内「国立オンライン劇場」にて研修事業紹介動画を公開し、オンラインでの情報発信を強化した(3月末時点の再生回数30,164回)。</li> </ul>
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p><b>(1) 伝統芸能の伝承者の養成</b>            研修発表会の実施状況：6公演/8公演 (75.0%) (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた達成率100.0%)            既成者研修発表会の実施状況：5公演/11公演 (45.5%) (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた達成率100.0%)</p> <p><b>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修</b>            研修発表会の実施状況：8公演/9公演 (88.9%) (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた達成率114.3%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p><b>(1) 伝統芸能の伝承者の養成</b></p> <p><b>ア 養成の計画的な実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、研修開始時期の延期や休講などがあった。</li> </ul> <p><b>イ 既成者研修の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり既成者研修発表会を実施(組踊)。</li> <li>・能楽研究課程を引き続き開講(受講者34名、実施回数267回)。</li> </ul> <p><b>ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝承者養成事業50周年記念として、企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」を実施した。</li> <li>・伝承者養成事業50周年記念「伝統芸能伝承者養成事業概要 令和2年度版」を刊行し、関係者等に送付するとともに一般にも販売を行った。</li> <li>・養成事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進。</li> <li>・外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知。</li> <li>・組踊研修修了者を中心とした若手組踊伝承者の巡回ワークショップ等を22件実施。</li> <li>・振興会ホームページ内「国立オンライン劇場」にて研修事業紹介動画を公開し、オンラインでの情報発信を強化した。</li> </ul> <p><b>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修</b></p> <p><b>ア 安定的、継続的な実演家の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラ及びバレエ研修所における、ANAスカラシップによる海外研修については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施が見送られた</li> <li>・演劇研修所において、全日本空輸株式会社による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」として、航空券のサポートを受け国内研修を実施。</li> <li>・研修事業委員会を開催、令和元年度の成果検証と2年度計画を確認。</li> </ul>

	<p><b>イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや SNS を活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信。</li> <li>・講習会、オープンスクールを開催し事業の周知と将来の研修生確保に努める。令和 2 年度においてはオンラインの活用を推進した。</li> <li>・舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携して新国立劇場の人材及び施設を活用。</li> </ul>
<p><b>課題と対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能分野では、近年応募者が減少傾向にある中、伝承者を安定的に確保するために、募集広報を強化するとともに、研修生の精神的なケアや経済的支援について必要な措置を講じる。</li> <li>・現代舞台芸術の研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していきたい。</li> </ul>

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の充足状況等の調査、関係団体との協議、外部専門家の意見聴取を行いながら令和2年度の事業を進めた。</li> <li>《歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能》</li> <li>・養成研修及び既成者研修等について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、劇場施設における研修の一時中止や公演入場者数の制限等の対策に努めながら、技芸の習得に大きな支障を来すことなく研修を実施することができた。</li> <li>・第24期歌舞伎俳優研修生4名のうち3名が無事研修を修了し、それぞれの入門先が決定した。体調不良で年度途中から研修休止中の1名は回復し、令和3年度に25期生として2年目の研修を実施し、修了を目指すことになった。</li> <li>・「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「音の会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴って中止されていた国立劇場歌舞伎公演再開第一号として、出演者事前PCR検査など様々な感染防止対策を講じた上で実施し、舞台成果においても高い評価を得た。</li> <li>・歌舞伎俳優研修の毎年度募集を始めて2年目にあたり、募集方法の工夫によって前年度の倍以上の応募者があり、引続き令和3年度に第26期生の研修を開講することとなった。</li> <li>《文楽》</li> <li>・太夫の技芸員が不足している状況下で、太夫専攻の研修生2名について、当年度研修期間中辞退者もなく無事研修を修了し、それぞれの入門先が決定した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため緊急事態宣言が発出され、休講を余儀なくされる時期があったが、講師の協力により一部の研修をリモートで行うなど新しい方法を取り入れ、平常時に劣らない講義時間を確保し研修を実施できた。</li> <li>・通常の実技研修や講義に加え、入門後に必要となる技術の実習も行い、就業後のイメージを具体的に持たせることができた。</li> <li>・既成者研修発表会及び研修発表会時にロビーでの文楽研修紹介映像の活用、外部団体等と連携した研修紹介チラシの配布など、幅広い層に対し事業を周知することができた。</li> <li>・第30期文楽研修については、新型コロナウイルス感染症拡大の中、例年どおりの募集広報が行えない部分もあったが、歌舞伎俳優研修生募集と協力して積極的に活動を行った。選考試験の結果、3名が合格となり令和3年度に開講できることとなった。</li> <li>《能楽》</li> <li>・第10期の4年目、第11期の1年目の研修を計画どおり実施。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため4月・5月は休講としたが、夏季休暇を短縮してコマ数を確保し、滞りなく予定の研修を実施することができた。</li> <li>・2か月の休講期間中、研修生は講師から課題を与えられ、自宅で自習を行い、あるいはリモート授業を受けた。</li> <li>・4/27「第1回稽古会」・6/9「第22回青翔会」・6/27「第30回京都若手能」・1/31「第30回大阪若手能」・2/6「第30回東京若手能」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。</li> <li>・第11期生3名の適性審査を実施。専攻(ワキ方・笛方・狂言方)が決定し、その後も順調な成長をみせている。</li> <li>《組踊》</li> <li>・第6期1年目研修は、コロナ禍の中、緊急事態宣言を受け余儀なく休講とする期間があったが、研修中には講師と研修生の間にアクリル板を立て、マスク着用などの徹底した対策を取り、2回の発表会を予定どおり実施できた。また、適性審査を実施し、10名全員が合格。休講期間中も自主的に練習を積み成長している。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修発表会2回(執心鐘入・二童敵討)及び既成者研修発表会1回(孝行竹壽之巻)の実施。</li> </ul> <p>《舞台技術》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より幅広い層への普及を進めるため、伝統芸能の上演に係る舞台技術を紹介するためのテキスト「国立劇場の舞台技術―伝統芸能の上演のために―」の一般販売を開始した。</li> </ul>
<p><b>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</b></p>	<p><b>研修発表会の実施状況：6公演/8公演(75.0%)</b>(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた達成率100.0%)</p> <p><b>既成者研修発表会の実施状況：5公演/11公演(45.5%)</b>(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた達成率100.0%)</p>
<p><b>主要な業務実績</b></p>	<p><b>ア 養成の計画的な実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染の拡大防止のため、緊急事態宣言中は劇場施設における研修を中止とする措置を執った。</li> </ul> <p><b>イ 既成者研修の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(本館・演芸場)4～5月は研修を中止。「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」及び「音の会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため定員を50%以下に制限するなどして実施。</li> <li>・(能楽堂)新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、既成者研修発表会3公演を中止した。</li> <li>・能楽研究課程を引き続き開講(受講者34名、実施回数267回)。</li> <li>・(文楽劇場)新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、歌舞伎俳優既成者研修発表会「第30回上方歌舞伎会」及び文楽既成者研修発表会のうち「文楽若手会」の公演を中止した。</li> <li>・(国立劇場おきなわ)計画どおり既成者研修発表会を実施。</li> </ul> <p><b>ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養成事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進。</li> <li>・振興会ホームページ内「国立オンライン劇場」にて研修事業紹介動画を公開し、オンラインでの情報発信を強化した。</li> <li>・外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知。</li> <li>・能楽研修修了者を中心とした若手能楽師の巡回ワークショップ等は、当初予定していた学校から、新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを鑑みて中止にしたいという希望があったため、実施を見合わせた。</li> <li>・組踊研修修了者を中心とした若手組踊伝承者の巡回ワークショップ等を22件実施。</li> </ul>
<p><b>課題と対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年応募者が減少傾向にある中、伝承者を安定的に確保するために、募集広報を強化するとともに研修生の精神的なケアや経済的支援について必要な措置を講じてきたが、とくに経済的な支援については引き続き拡充していく。</li> <li>・文楽研修は応募者が減少傾向にあるため、伝承者を安定的に確保するために募集年度以外でも、養成事業の広報を強化する。</li> <li>・能楽研修は次期募集に向けて、さらに効果的な広報や、効率的な研修の在り方を検討していく。</li> <li>・組踊研修修了者において、芸能活動を継続的に行っていくための出演機会の創出について、各関係団体・関係機関と調整し、協力、連携していく必要がある。</li> <li>・組踊既成者研修発表会では演者自身の営業意識を高めるため、企画、宣伝、日程調整など自主的な運営を行っていく。</li> </ul>

## (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
<p><b>自己評定の根拠</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画に基づき研修を実施し、オペラ研修生5名、バレエ研修生7名、演劇研修生12名が修了した。</li> <li>・研修発表会等について、新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止・新規公演実施を除き計画どおり実施した。</li> <li>・全日本空輸株式会社の協賛によるオペラ及びバレエ研修所の「ANAスカラシップ」による海外研修については、新型コロナウイルス感染症による出入国制限、研修予定先国のロックダウンなどの諸事情により実施が見送られた。新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。</li> <li>・研修公演で成果を披露することができた。</li> <li>・オペラ研修所では従来の授業に加え、1年に1本を目安としてオペラの1つの役を習得することを目指したレパトリーレッスンを取り入れた。また修了生のみならず研修生のコンクール受賞が相次いだ。</li> <li>・バレエ研修所では花伝舎のほか新宿村スタジオにも稽古場をおき、研修を実施した。</li> <li>・「バレエ・アステラス2020」及びオペラ研修所「試演会(演目未定)」については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止となり、新たにオペラ・バレエ研修所合同公演「ヤングアーティストオペラ&amp;バレエ ガラ」を企画・実施した。オペラ研修所とバレエ研修所が合同で公演を行うのは、研修所開所以来初めての試みであった。</li> <li>・研修事業について、ホームページやSNS(Facebook, Twitter, tumblr)を活用して各研修所が専用のSNSを通じて継続的に情報を発信した。併せて国内外での修了生の活躍を積極的に発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く知らしめることができた。</li> <li>・講習会・オープンスクールや説明会をオンラインで開催し研修の内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。</li> <li>・舞台技術者等の研修については、関係諸団体と協力し、地方の劇場への技術指導や連携大学への講義など新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。</li> </ul>
<p><b>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</b></p>	<p>研修発表会の実施状況: 8公演/9公演(88.9%)(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた達成率114.3%)</p>
<p><b>主要な業務実績</b></p>	<p><b>ア 安定的、継続的な実演家の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止・新規企画を除き計画どおり研修を実施。</li> <li>・オペラ及びバレエ研修所における、ANAスカラシップによる海外研修については新型コロナウイルス感染症拡大のため実施を見送った。</li> <li>・演劇研修所において、令和元年度から開始された全日本空輸株式会社による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」を実施、航空券のサポートを受け国内研修を行った。</li> <li>・研修事業委員会を開催、令和元年度の成果検証と令和2年度計画を確認。</li> </ul> <p><b>イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページやSNSを活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信。</li> <li>・講習会、オープンスクールを開催し事業の周知と将来の研修生確保に努める。</li> <li>・舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携して新国立劇場の人材及び施設を活用。</li> </ul>
<p><b>課題と対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していきたい。</li> </ul>





### 3 - (1) 伝統芸能の伝承者の養成

#### 《中期計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及を図るため、長期的な視点に立ち効果的かつ効率的に以下の養成・研修を実施

##### (1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を次のとおり実施

ア 民間での養成が難しいため振興会として実施すべき分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施

実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直しを実施

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、次の養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ② 大衆芸能伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ③ 能楽伝承者養成(研修期間:基礎研修課程 3 年間、専門研修課程 3 年間)
- ④ 文楽伝承者養成(研修期間 2 年間)
- ⑤ 組踊伝承者養成(研修期間 3 年間)

ウ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会(歌舞伎俳優・歌舞伎音楽・能楽・文楽・組踊)
- ② 能楽研究課程(1 年間)

##### (3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

#### 《年度計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

本年度は、伝承者養成事業開始 50 周年の記念の年に当たる。伝統芸能の伝承者養成事業の成果を広く一般に周知し、国民の関心の喚起、理解の促進を図るため、広報活動を充実させる。

##### (1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 各分野の充足状況及び年齢構成等を把握、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了者の動向把握等により成果の検証を行い、次年度以降に対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

- ① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽
  - (歌舞伎俳優)
    - (a) 第24期生(研修期間2年、4名)の2年目の養成研修(修了)
    - (b) 第25期生(研修期間2年、2名)の1年目の養成研修
  - (歌舞伎音楽)
    - (c) 竹本第24期生(研修期間2年、2名)の1年目の養成研修
    - (d) 鳴物第17期生(研修期間2年、1名)の1年目の養成研修
    - (e) 長唄第8期生(研修期間3年、1名)の2年目の養成研修
- ② 大衆芸能
  - (a) 寄席囃子第16期生(研修期間2年、5名)の1年目の養成研修
- ③ 能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間6年)
  - (a) 第10期生(2名)の4年目の養成研修
  - (b) 第11期生(3名)の1年目の養成研修
- ④ 文楽(太夫、三味線、人形:研修期間2年)
  - (a) 第29期生(2名)の2年目の養成研修
- ⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)
  - (a) 第6期生(10名)の1年目の養成研修
- ⑥ 研修生の技芸の習得及び向上の成果を測るため、研修発表会を別表10のとおり実施
- ⑦ 下記の研修生について、次年度の養成研修を実施する場合、募集人員及び応募資格等について検討・募集
  - (a) 第26期歌舞伎俳優
  - (b) 第30期文楽

イ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会を別表10のとおり実施する。
- ② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

- ① 養成事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努め、周知に当たっては、令和2年に養成事業が50周年の節目を迎えることを踏まえ、その成果等を広くアピール
  - (a) 伝承者養成事業50周年「伝統芸能伝承者養成研修概要(令和2年度版)」(仮)の刊行
- ② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修修了者等によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、パンフレットや研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し両分野の相互交流を図る
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める

《中期目標の指標・関連指標》

3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	6公演 (H25-29 実績平均：8.0 公演)
3-2 既成者研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	5公演 (H25-29 実績平均：10.8 公演)

<p>3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)</p>	<p>P. 170 に掲載</p>
<p>3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)</p>	
<p>3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)</p>	<p>P. 173 に掲載</p>

## ア 養成の計画的な実施

### 《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、大衆芸能(寄席囃子)研修においては、1年目に基礎研修、2年目には、専門研修と並行して、実践の場において役立つ実技研修を実施する。歌舞伎音楽(長唄)においては、1年目に基礎研修、2年目に専門研修を行い、3年目に実践の場において役立つ実技研修を実施する。

能楽(三役)研修は、ワキ方・囃子方・狂言方について、基礎課程3年、専門課程3年、計6年の研修を実施する。

文楽研修においては、太夫・三味線・人形の後継者を養成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修は、組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支えうる、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

### ①養成の概要

区分		年度計画				研修実績	
		期	研修期間	年次	人数	人数	うち修了者
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優	24期	2年	2年次	4名	4名	3名
		25期	2年	1年次	2名	0名	
	竹本 鳴物 長唄	24期	2年	1年次	2名	1名	
		17期	2年	1年次	1名	1名	
		8期	3年	2年次	1名	1名	
大衆芸能	太神楽	休止中					
	寄席囃子	16期	2年	1年次	5名	4名	
能楽		10期	専門課程3年	4年次	2名	2名	
		11期	基礎課程3年	1年次	3名	3名	
文楽		29期	2年	2年次	2名	2名	2名
組踊		6期	3年	1年次	10名	10名	

- ・第24期歌舞伎俳優研修生1名が健康上の理由により令和2年12月から令和3年3月まで研修を休止した(令和3年4月から第25期歌舞伎俳優研修生として研修に復帰)。
- ・第25期歌舞伎俳優研修生1名が6月(適性審査前)に研修を辞退し、さらに1名が12月(適性審査後)に研修を辞退した。
- ・第24期竹本研修生1名が、8月(適性審査前)に研修を辞退した。
- ・第16期大衆芸能(寄席囃子)研修生1名が7月(適性審査前)に研修を辞退した。

### ②主な授業等の概要

区分			回数	授業内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優(24期) 計657回	実技	564回	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、黒御簾音楽、箏曲
		その他	93回	講義、体操、公演・稽古見学、舞台実習、部外研修、発表会、あげざらいほか
	俳優(25期) 計332回	実技	295回	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物
		その他	37回	作法・講義、体操、公演・稽古見学、あげざらい、着付
	竹本 計435回	実技	319回	義太夫、狂言
		その他	116回	作法・講義、習字、体操、公演・稽古見学、部外研修、着付ほか
	鳴物 計280回	実技	188回	鳴物、長唄、能楽
		その他	92回	作法・講義、習字、体操、公演・稽古見学、部外研修、着付ほか
	長唄 計364回	実技	304回	長唄、五線譜、鳴物
		その他	60回	作法・講義、習字、体操、公演・稽古見学、部外研修、あげざらいほか
大衆芸能	寄席囃子	実技	352回	寄席囃子、長唄、小唄・俗曲、囃子、住吉踊り

	計 431 回	その他	79 回	作法・講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、あげざらいほか
能楽 計 855 回		実技	731 回	ワキ、シテ謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
		その他	124 回	講義、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、その他(発表会等)
文楽 計 276 回		実技	205 回	義太夫、義太夫(三味線入り)
		その他	71 回	謡・狂言、日本舞踊、作法・講義、体操、実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学、その他(発表会等)
組踊 計 433 回		実技	407 回	組踊実技、副実技(琉球舞踊・太鼓等)、基礎実技
		その他	26 回	講義、鑑賞・見学研修等、その他(発表会等)

- ・ 4 月 7 日に新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言が東京都及び大阪府に行われ、第 24 期歌舞伎俳優研修及び第 8 期歌舞伎音楽(長唄)研修を 4 月 8 日から 5 月 31 日まで中断し、講師から与えられた課題等について在宅で自習を行った。また、新研修生(第 25 期歌舞伎俳優研修、第 24 期歌舞伎音楽(竹本)研修、第 17 期歌舞伎音楽(鳴物)研修)は開講を延期した。第 29 期文楽研修は 4 月 7 日から 6 月 2 日まで中断した。
- ・ 5 月 25 日に宣言が解除され、6 月 1 日より、第 24 期歌舞伎俳優研修及び第 8 期歌舞伎音楽(長唄)研修を、6 月 3 日より第 29 期文楽研修を再開し、第 25 期歌舞伎俳優研修、第 24 期歌舞伎音楽(竹本)研修、第 17 期歌舞伎音楽(鳴物)研修、第 16 期大衆芸能(寄席囃子)研修を開始した。再開時には、感染のリスクを下げるため、それまでの午前 10 時から午後 6 時までの研修時間を変更して通勤時の混雑を避けるとともに、研修時間の短縮及び研修時間内の換気の実施、マスクの着用並びにパーテーションの設置で感染のリスク低減に努めた。
- ・ 研修開始にあたり、第 11 期能楽(三役)研修生 3 名・第 25 期歌舞伎俳優研修生 2 名・第 24 期歌舞伎音楽(竹本)研修生 2 名・第 17 期歌舞伎音楽(鳴物)研修生 1 名・第 16 期大衆芸能(寄席囃子)研修生 5 名と役員の挨拶会を、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった「合同開講式」に代わり開催。(6/1、伝統芸能情報館 3 階レクチャー室)
- ・ 歌舞伎俳優研修生は、修了後の職場環境や舞台・楽屋における作法等を学ぶため、国立劇場にて舞台実習を実施した。
- ・ 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、歌舞伎音楽(長唄)及び大衆芸能(寄席囃子)研修では、11/27 に両国・深川界隈の史跡、3/15 に浅草・向島界隈の史跡を巡る部外研修を実施した。事前に江戸の歴史文化に関する講義を受けた後、講師の案内により実際に史跡を訪れることで、現代の東京に残る江戸の面影を肌で感じ、歌舞伎や落語作品の理解を深めることができた。
- ・ 能楽(三役)研修生の第 10 期生は、国立能楽堂及び外部の能楽堂での楽屋実習・舞台実習を年間で笛方 6 回・小鼓方 10 回程度行い、着実に経験を積んでいる。
- ・ 各分野とも、振興会主催公演をはじめとする公演見学等を積極的に行い、研鑽を積んだ。
- ・ 第 6 期組踊研修生 10 名の開講式を、4/15 に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。その代わりとして、規模を縮小し関係者のみの参加で 5/26 にオリエンテーションを行った。
- ・ 組踊研修生は、11/14 に組踊にまつわる史跡見学を、講義の研修講師を伴い、各箇所にて解説をしてもらいながら実施した。組踊創始者の玉城朝薫生誕の碑及び墓、生誕三百年記念碑を見学した。また、沖縄学の父と言われる伊波普猷の墓の見学、前年度焼失してしまった首里城へ赴き、復興作業を目の当たりにすることにより、琉球伝統芸能の継承の大切さを再認識する貴重な機会となった。

#### 《外部専門家等の意見》

- ・ 養成事業委員会を開催(1 回：書面開催)。主な意見は以下のとおり。
  - ◇ 全体に新型コロナの大きな影響をうけている。コロナ対応を視野に、研修や開講式、発表会などの中止・規模縮小などの担当者の対応は妥当だと思う。そのような状況下でも、広報活動を充実させたことは、皆様の熱意、努力を感じた。
  - ◇ 応募者の減少は、残念ながら社会全体が背景にあると思う。指摘のとおり振興会の努力だけでは限界があり、ここの「関係団体」には伝統芸能だけでなく、社会全体の変化が必要だと感じる。
  - ◇ 本年度はコロナ感染症対策のため、種々の公演や稽古会、発表会を中止にせざるを得ず、研修生にとって厳しい 1 年間だったと思う。客席数を減らしての研修発表会でしたが、演者をはじめとし関係者の方々の、真摯な取り組み姿勢を感じた。
  - ◇ 「研修生の募集広報を積極的に行い」と自己評価欄にもあるとおり、各劇場や劇場近辺の駅などでポスターやチラシを見る機会が以前に比べて多くなっているのを感じる。

- ◇現状で SNS などがどの程度活用されているのかわからないが、研修生に応募する若い層にとってはこうした SNS はとても重要な情報獲得ツールなので、その活用をより適切かつ効果的にさらに検討していくといいのではないかと思う。
- ◇コロナ禍のため中止になる公演もある中で、大半の公演が観客数を 50%以内に制限するなどして実施されたのは良かった。研修生には観客の前でやることは勉強になるし、修了生にとっても大きな役に挑む貴重な機会でもある。
- ◇平成 30 年度の評価に即応し、「養成事業の在り方に関する 3 部検討会議」を開催し、広報の強化、応募者・研修生への支援、研修制度見直しを実施したことは、非常に適切な対応であった。
- ◇研修生募集の広報活動について、一層、効率的に展開されるよう、常に検討と工夫が必要だと思ふ。
- ◇新型コロナウイルスの影響の中、各研修修了発表会を中止することなく、感染防止に配慮して開催したことは英断であったと思う。
- ◇総じて、すべての分野において研修生たちの力量は高水準であると感じる。
- ・国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を開催(3/18)。副実技、講義の内容について意見交換がなされた。主な意見は以下のとおり。
  - ◇研修には、実技だけでなく講義や作法等いろいろな科目があるので、沖縄の文化等いろいろな事を吸収して行ってほしい。
  - ◇研修修了生は、自分の出演公演以外にも鑑賞したりと、ずっと学ぶ姿勢を持ち続けており、頼もしい。

### 《適性審査の実施等》

区分		試験日	受験者数	合格者数	備考
歌舞伎俳優	俳優	9/24	1名	1名	
歌舞伎音楽	竹本	9/24	1名	1名	
歌舞伎音楽	鳴物	10/16	1名	1名	
大衆芸能	寄席囃子	9/28	4名	4名	
	能楽	12/16	3名	3名	
	組踊	10/22	10名	10名	

### ③研修発表会の実施

#### (a) 発表会

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数 (入場率)	入場料	内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽 大衆芸能	第 24 期歌舞伎俳優研修修了発表会・第 24 期歌舞伎音楽(竹本)・第 17 期歌舞伎音楽(鳴物)・第 16 期大衆芸能(寄席囃子)研修発表会(合同)	本館 小劇場	3/9	1回	141人 (62.4%)	無料	歌舞伎俳優研修生:歌舞伎「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場、日本舞踊「玉屋」、立廻り「歌舞伎の立廻り」 竹本研修生:歌舞伎「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場、義太夫「羽根の禿」 鳴物研修生:長唄「鶴亀」 寄席囃子研修生:小唄「花の雲」「今年やなんだか」「春風がそよそよと」「風折烏帽子」「さんさしぐれ」「黒田節」「ぎっちゃんちゃん」「河太郎」「惚れて通う」「さわぎ」、曲芸「太神楽曲芸」、長唄「越後獅子」
能楽	第 22 回青翔会 ※公演中止	国立 能楽堂	6/9	1回	-	正面 1,500 円 脇正面 1,000 円 中正面 700 円  学生 脇正面 700 円 中正面 500 円	舞囃子「高砂」(喜多流)、舞囃子「楊貴妃」(金春流)、舞囃子「花月」(宝生流)、狂言「隠狸」(和泉流)、能「胡蝶」(観世流) 指導者:観世鏡之丞・野村萬ほか 出演者:第 10 期研修生、第 8・9 期修了者、令和 2 年度研究生、研修講師ほか

能楽	第 23 回青翔会	国立能楽堂	10/13	1 回	278 人 (99.6%)		能「胡蝶」(観世流)、舞囃子「龍田」(金春流)、舞囃子「女郎花」(喜多流)、狂言「酢薑」(和泉流)、能「清経」(宝生流) 指導者: 観世鏡之丞・宝生和英・大倉源次郎ほか 出演者: 第 10 期研修生、第 5・6・8・9 期修了者、令和 2 年度研究生、研修講師ほか
能楽	第 24 回青翔会	国立能楽堂	3/9	1 回	276 人 (98.9%)		舞囃子「箆」(金春流)、舞囃子「東北」(宝生流)、舞囃子「百萬」(観世流)、狂言「伯母ヶ酒」(和泉流)、能「船弁慶」(観世流) 指導者: 観世清和・観世鏡之丞ほか 出演者: 第 10 期研修生、第 8・9 期修了者、令和 2 年度研究生、研修講師ほか
能楽	第 51 回 東西合同研究発表会 ※公演中止	京都 観世会館	8/25	1 回	-	無料	-
文楽	第 29 期文楽研修修了発表会	文楽劇場	1/26	1 回	179 人 (49.0%)	無料	「二人三番叟」、素浄瑠璃「菅原伝授手習鑑」東天紅の段、素浄瑠璃「生写朝顔話」明石浦船別れの段
組踊	第 6 期組踊研修生 第 1 回研修発表会	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/8	1 回	211 人 (85.8%)	無料(整理券事前配布)	組踊「執心鐘入」
組踊	第 6 期組踊研修生 第 2 回研修発表会	国立劇場 おきなわ 大劇場	3/4	1 回	208 人 (84.5%)	無料(整理券事前配布)	琉球舞踊「かぎやで風」「かせかけ」 組踊「二童敵討」

- ・「第 24 期歌舞伎俳優研修修了発表会・第 24 期歌舞伎音楽(竹本)・第 17 期歌舞伎音楽(鳴物)・第 16 期大衆芸能(寄席囃子)研修発表会」は、当初は歌舞伎音楽(長唄)研修の「研修発表会」も兼ねる予定で番組も組んでいたが、研修生の病気により中止となった。また、開催に際しては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事前に出演者等に PCR 検査を実施した。客席は定員を 50%以下に制限するとともに、これまでの自由席から指定席に変更して開催した。
- ・第 24 期歌舞伎俳優研修生は、緊急事態宣言により約 2 か月間劇場施設での研修ができなかったことや、平均年齢 17.3 歳と今までの期に比べて低年齢であることを感じさせず、歌舞伎実技・立廻り・日本舞踊を堂々と披露し、2 年間の研修の成果を十分に示すことができた。
- ・第 24 期歌舞伎音楽(竹本)研修生は、研修 1 年目で、俳優研修生が演じる歌舞伎の舞台上で義太夫節を語って共演し、注目された。
- ・第 17 期歌舞伎音楽(鳴物)研修生は、研修 1 年目で長唄「鶴亀」の太鼓の演奏を披露し、研修の成果を示した。
- ・第 16 期大衆芸能(寄席囃子)研修生は、研修 1 年目で、太神楽のお囃子、小唄 10 曲と長唄「越後獅子」を披露し、研修の成果を示した。
- ・文楽研修では、研修修了発表会において日頃の研修の成果を披露し、入門後の成長を期待させた。
- ・令和元年度の第 21 回青翔会が中止になったため、第 10 期能楽(三役)研修生の 1 人は観客の前で能を発表する初の機会を失ってしまった。そのため第 23 回青翔会では同じ曲を番組に加え、あらためて発表の場を設けた。
- ・組踊研修は、10 月及び 3 月の発表会において新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般客の入場は取りやめ、講師や研修生親族などの関係者のみを招待して開催した。コロナ禍で緊急事態宣言を受け、研修が何度か休講となったため、通常より短い研修数ではあったが、研修の成果を十分に発揮することができ、今後の成長を期待させた。

#### (b) その他の発表会等

区分	公演名	会場	期間	入場料	内容
歌舞伎	第 24 期・第 25 期歌舞伎俳優研修生 あげざらい	国立劇場 大稽古場	11/11	一般非公開	○歌舞伎「本朝廿四孝」長尾謙信館十種香の場 指導者: 中村時蔵・市川團蔵・市村橋太郎、出演者: 第 24 期・第 25 期歌舞伎俳優研修生

寄席囃子 長唄	第8期長唄研修生 第16期寄席囃子研修生 あげざらい	国立劇場 大稽古場	9/17	一般非公開	「残酷な天使のテーゼ」、指導者：杵屋巳織 演奏者：第8期長唄研修生、助演：杵屋巳織 「ゲゲゲの鬼太郎」「紅蓮華」「女の子は誰でも」「ダンシング・ヒーロー」「アンパンマンのマーチ」、 指導者：杵屋巳織、演奏者：第16期寄席囃子研修生 「ずいずいずっころばし」、 演奏者：第8期長唄研修生、第16期寄席囃子研修生
寄席囃子	第16期寄席囃子研修生 あげざらい	国立劇場 中稽古場	1/29	一般非公開	「ハリケーン」「真夏の夜の夢」「Beat It」「GUTS!」、 指導者：杵屋巳織、演奏者：第16期寄席囃子研修生
能楽	令和2年度 第1回稽古会 ※公演中止	国立能楽堂 研修能舞台	4/27	一般非公開	狂言「未定」(和泉流)、舞囃子「竹生島」(金春流)、舞囃子 「巻絹」(観世流)、舞囃子「安宅」(観世流)、能「巴」(宝生 流) 指導者：宝生和英・野村萬ほか 出演者：第10期研修生、第8・9期修了者、 令和2年度研究生、研修講師ほか
能楽	令和2年度 第2回稽古会	国立能楽堂	7/13	一般非公開	狂言「文蔵」(和泉流)、舞囃子「放下僧」(観世流)、舞囃子 「富士太鼓」(宝生流)、舞囃子「船弁慶(前)」(喜多流)、能 「杜若」(金春流) 指導者：観世清和・金春安明ほか 出演者：第10期研修生、第3・8・9期修了者、令和2年 度研究生、研修講師ほか
能楽	令和2年度 第3回稽古会	国立能楽堂	1/18	一般非公開	狂言「棒縛」(和泉流)、舞囃子「半節」(宝生流)、舞囃子 「天鼓」(喜多流)、舞囃子「融」(金春流)、能「敦盛」(観世 流) 指導者：観世清和・金春安明ほか 出演者：第10期研修生、第8期修了者、令和2年度研 究生、研修講師ほか

#### ④次年度の検討、募集

- (a) 第26期歌舞伎俳優
- (b) 第30期文楽

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
歌舞伎俳優 第26期	2/24	9名	5名	5名	
文楽 第30期	3/1	3名	3名	3名	うち1名は辞退

- ・歌舞伎俳優研修については、隔年募集から毎年募集に変更して2年目となるが、応募者数は前年度(2名)に比べ増加した。海外からも1名の応募があったが、新型コロナウイルス感染症対策のため入国が困難となり、受験できなかった。

#### イ 既成者研修の実施

##### 《研修方針》

研修修了者の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

##### ①既成者研修発表会の実施

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数	入場率	入場料	内容
歌舞伎俳優 既成者	第26回稚魚の会・歌舞伎会合同公演	本館小劇場	8/15～19	5回	1,037人	91.8%	一般：4,200円 学生：2,900円	「修禅寺物語」、「茶壺」、「傾城反魂香」 土佐将監閑居の場
歌舞伎俳優 既成者	第30回上方歌舞伎会 ※公演中止	文楽劇場	8/7～8	-	-	-		公演中止
歌舞伎音楽 既成者	第21回音の会	本館小劇場	8/22～23	2回	372人	82.3%	一般：2,700円 学生：1,900円	鳴物・長唄「外記猿」、長唄「石橋」、歌舞伎「新版歌祭文」
能楽既成者	第30回能楽若手研究会	京都 観世会館	6/27	1回	-	-	前売：2,700円 当日：3,200円	舞囃子「歌占」(観世流)、能「巴」(金剛流)、舞囃子「松風」(観世流)、舞囃子



	京都公演 若手能 ※公演中止						学生:1,500円	「融」(金剛流)、狂言「清水」(大蔵流)、能「善界」(観世流) 指導者:片山九郎右衛門・金剛永謹・杉市和・河村大ほか 出演者:忽明貞助、樹下千慧、加藤洋輝(第6期修了者)、岡本はる奈(第8期修了者)ほか
能楽既成者	第30回 能楽若手研究会 大阪公演 若手能 ※公演中止	大槻能楽堂	1/31	1回	-	-	未定	-
能楽既成者	第30回 能楽若手研究会 東京公演 若手能 ※公演中止	国立能楽堂	2/6	1回	-	-	未定	-
文楽既成者	第20回 文楽若手会 ※公演中止	文楽劇場	6/20~ 21	-	-	-		公演中止
文楽既成者	第8回 文楽若手会 ※公演中止	本館小劇場	6/27~ 28	-	-	-		公演中止
文楽既成者	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	8/28	1回	65人	89.0%	一般:1,000円 学生:700円	「一谷嫩軍記」組討の段、「菅原伝授手習鑑」寺子屋の段
文楽既成者	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	2/25	1回	67人	84.8%	一般:1,000円 学生:700円	「絵本太功記」尼が崎の段、「艶容女舞衣」酒屋の段
組踊既成者 研修発表会	第10回若手伝承者公演	国立劇場 おきなわ 大劇場	11/28	1回	163人	55.0%	一般:2,100円 学生:1,000円	第1部:琉球舞踊「かぎやで風」「かせかけ」「前の浜」 第2部:組踊「孝行竹壽之巻」

- ・「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止が続いた国立劇場では当年度最初の歌舞伎公演となったが、事前に出演者等にPCR検査を実施し、音曲の出演者はマスクを着用するなど、感染症対策に努め、客席も定員を50%以下に制限した。有料入場率については91.8%とここ数年の中では若干下回ったが、観客に若い世代の日頃の修練の成果を十分に示すことができた。
- ・「音の会」も同様に事前にPCR検査を実施し、歌舞伎音楽演奏者はマスク着用にて演奏し、客席も定員を50%以下に制限し、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した公演を行った。プログラムは、長唄2曲に歌舞伎1演目というバランスの取れた構成とした。歌舞伎「新版歌祭文」は、充実した歌舞伎俳優の助演者を得て、来場者から好評を得た結果、82.3%という高い入場率となった。
- ・国立文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、歌舞伎俳優既成者研修発表会「第30回上方歌舞伎会」及び文楽既成者研修発表会のうち「文楽若手会」の公演を中止した。
- ・文楽既成者研修発表会のうち、開催できた「若手素浄瑠璃の会」は、いずれも若手芸員が今後勤めるであろう大曲に挑戦することで、芸芸向上に貢献するだけでなく、自覚を促す有意義な機会となった。
- ・組踊既成者発表会は、コロナ禍で公演が少なくなった中、第一部で琉球舞踊を披露し、第二部の組踊の劇中でも群舞のある華やかな演目を取り入れることによって演者自身への大きな成果となる公演となった。

## ②能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生34名が受講した(実施回数:267回)。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、稽古会や青翔会の出演機会においては、他役・他流儀との交流を通じて研鑽を積んだ。

## ③その他の既成者研修の取組

大衆芸能(太神楽)について、歌舞伎の基本動作や笛の実習等、研修修了者の芸芸向上を図るための研修を実施(実施回数38回、受講者延べ121名)。

## ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

### ①修了者の活動状況等、養成事業の周知

#### (a) 歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能

- ・ 振興会ホームページ〈養成事業ページ〉をリニューアル〈4/1 公開〉
- ・ 「音の会」の公演情報希望者 に DM を送付(6/29)
- ・ 「第 22 回音の会」「第 26 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の公演情報を Twitter で配信(8/13)
- ・ 「第 22 回音の会」「第 26 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の公演情報を「演劇界」8・9 月合併号(8/5)に掲載
- ・ 日本芸術振興会ニュース〈月刊〉において、令和 2 年 5 月より「研修便り」として養成事業の活動状況等の連載を行っている。
- ・ 伝承者養成事業 50 周年記念として伝統芸能情報館において「心と技を伝えた 50 年」と題して展示を行った(10/1～1/27)
- ・ 読売新聞 日本美を守り伝える「紡ぐ」プロジェクトの取材により、令和 2 年 11 月 1 日付朝刊三面にわたる特別紙面「未来へつなぐ 継承の心」を特集。今後も取材の継続が決まっている。
- ・ 月刊「文化財」の取材により養成事業を掲載〈11 月号〉
- ・ 養成事業の説明と実際の研修状況を見学してもらう個別相談を実施した。
- ・ 養成事業の説明と実際の研修状況を見学してもらう「研修見学会」を実施(参加者数 歌舞伎俳優 12/12 : 16 名、1/17 : 18 名)。
- ・ コロナ禍に配慮して対面での見学会、説明会、イベントなどの積極的な広報を控えざるを得ない状況に対応するため、振興会ホームページの「国立オンライン劇場」において研修事業紹介動画を公開した(5/28～、3/31 時点の再生回数 : 27, 839 回)。

#### (b) 文楽

- ・ 文楽研修事業を紹介するポスター・チラシ・パンフレットを劇場内に掲出・配架。
- ・ 文楽劇場外での各種公演やイベント等でポスター・チラシ・パンフレット等を配布。
- ・ 初春文楽公演、文楽既成者研修発表会の際に劇場ロビーで、文楽研修紹介映像の上映。
- ・ 振興会発行物等で養成事業を紹介。
- ・ 振興会ホームページの「国立オンライン劇場」にて研修事業紹介動画を公開(YouTube 国立劇場チャンネルにリンク)。コロナ禍の中で対面での見学会、説明会、イベントなどが低調となる状況の補完を図った(12/17～、3/31 時点の再生回数 : 2, 325 回)。

#### (c) 能楽

- ・ ワークショップ等は当初予定していた学校から、新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを鑑みて中止にしたいという希望があったため、実施を見合わせた。
- ・ 振興会発行物等で養成事業を紹介した。

#### (d) 組踊

- ・ 沖縄テレビ番組「RYUGIN GOOD NEWS」(7/25 放送)で、第 6 期組踊研修生の研修の様子やインタビューの様子が放送された。
- ・ 国立劇場おきなわホームページ、Facebook に、研修生発表会、既成者研修発表会や稽古の様態等を掲載して広く活動を周知した。
- ・ 「華風」次年度 4 月号掲載予定の第六期組踊研修生紹介記事のため、発表会の稽古風景や研修生へのインタビューが行われ、その様子をホームページや Facebook へ掲載した。

#### (e) 伝承者養成事業 50 周年記念「伝統芸能伝承者養成事業概要 令和 2 年度版」の刊行

- ・ 令和 2 年度は養成事業開始 50 周年に当たったことから、毎年作成している「伝統芸能伝承者養成事業概要」について、現役の修了者の顔写真や既成者研修発表会の上演記録を追加掲載して内容を充実させ、「伝承者養成事業 50 周年記念」として刊行し、関係者等に送付するとともに一般にも販売して、研修事業の意義と成果について幅広い周知を行った。

### ②全国の文化施設、学校等と協力した研修修了者によるワークショップ等

- ・ 研修修了者を講師に起用し、振興・普及活動を下表のとおり 11 件実施。

区分	イベント名	日程	会場	料金	出演者等	参加者数	満足回答率
組踊	組踊ワークショップ	7/18	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	玉城 匠、山城 峻称、大城 貴幸	11 人	100.0%

組踊	組踊ワークショップ	9/26	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原 崇弘、比嘉 大志、徳田 泰樹	11 人	100.0%
組踊	劇場バックステージツアー	8/1	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原崇弘、伊藝武士、高井賢太郎、比嘉克之、棚原健太、新垣勝裕	20 人	98.1%
組踊	劇場バックステージツアー	8/2	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原崇弘、伊藝武士、高井賢太郎、比嘉克之、棚原健太、新垣勝裕	38 人	98.1%
組踊	組踊ワークショップ	10/31	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	佐喜真一輝、伊藝武士、棚原健太	10 人	71.4%
組踊	おでかけワークショップ in 山田小学校	11/13	恩納村立山田小学校 校体育館	無料	仲村逸夫、喜納吏一、玉城匠	59 人	
組踊	外国人のための組踊ワークショップ	11/21	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	山城 峻称、高井 賢太郎、仲嶺 良盛	18 人	100.0%
組踊	組踊ワークショップ	12/12	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	玉城 匠、佐喜真 一輝、佐久田 朝太	18 人	88.9%
組踊	組踊ワークショップ	1/30	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	西門 悠雅、上原 崇弘、大城 貴幸	4 人	100.0%
組踊	国立劇場おきなわ友の会「実演家ザ談会」	1/30	国立劇場おきなわ 小劇場	無料	田口博章、新垣俊道、仲嶺良盛	66 名	83.6%
組踊	組踊ワークショップ	3/13	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	岸本隼人、比嘉大志、徳田泰樹	11 人	100.0%

- ・ 国立劇場おきなわでは、研修修了者を中心に起用して組踊ワークショップを県内で 11 回実施した。
- ・ 「子の会」では文化庁の補助事業として、県外小中学校(8 校)で組踊ワークショップ及び本公演を実施した。また、文化庁巡回公演 HP 掲載用に、公民館で実施した本公演を撮影した。沖縄県の補助事業として本島内の中学校(2 校)で、組踊公演を行った。

### ③応募者の確保

区分	イベント名	日程	会場	料金	内容	参加者数	当選者数	応募者数	満足回答率
歌舞伎	令和2年度第1回 歌舞伎俳優研修見学会	12/12	国立劇場 研修室・大稽古場	無料	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	16 人	22 人	168 人	100%
歌舞伎	令和2年度第2回 歌舞伎俳優研修見学会	1/17	国立劇場 研修室・大稽古場	無料	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	18 人	23 人	23 人	100%
歌舞伎	第26期歌舞伎俳優研修 応募検討者対象 個別相談	11/17 11/25 12/17	国立劇場 研修室	無料	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	5 人	-	5 人	100%
文楽	大阪府立東住吉高等学校 特別授業	10/7	大阪府立東住吉 高等学校	無料	独立行政法人日本芸術文化振興会の業務と意義	31 人	-	-	-
文楽	第30期文楽研修生募集 個別相談	12/9	国立劇場 研修室	無料	研修制度についての説明、質疑応答	2 人	-	-	-
文楽	第30期文楽研修生募集 個別相談	12/21	国立文楽劇場 研修室	無料	研修風景見学研修制度についての説明、質疑応答	2 人	-	-	-
文楽	第30期文楽研修生募集 個別相談	2/18	国立文楽劇場 研修室	無料	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	1 人	-	-	-

#### ■第26期歌舞伎俳優研修生募集

- ・ 公演プログラム等における募集案内
  - ◇ 8 月「第 22 回音の会」「第 26 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」
  - ◇ 10 月・11 月・12 月・初春歌舞伎公演
  - ◇ 振興会ニュース 5～2 月号(9～2 月号はホームページ掲載の講師・修了者インタビューを抜粋・転載)
  - ◇ あぜくら会報 10 月号
- ・ 公演チラシにおける募集案内
  - ◇ 8 月「第 22 回音の会」「第 26 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」
- ・ チラシ送付
  - ◇ 全国の高等学校、文化施設、図書館、マスコミ、楽器店等

- ◇ 全日本郷土芸能協会会報誌にチラシ同封
- ◇ 地歌舞伎保存会
- ◇ 歌舞伎座、明治座、御園座、博多座、松竹座等
- ◇ 文楽劇場鑑賞教室の学校を対象にした DM に同封
- ◇ 全国高校生伝統文化フェスティバル(12/13 京都コンサートホール)
- ・ ネットでの情報発信
  - ◇ 振興会 HP・メールマガジン・Twitter・YouTube・Instagram
  - ◇ 関係団体等の団体ホームページに掲載  
(「歌舞伎美人」「歌舞伎 on the Web」)
  - ◇ 研修生募集 HP の内容を充実。講師及び修了者インタビュー、説明会案内等を掲載。
- ・ テレビ、新聞等の露出
  - ◇ NHK 静岡放送(9/25)
  - ◇ スポーツ報知(6/14)
  - ◇ 茨城新聞(8/5)、上毛新聞(8/6)
  - ※ いずれも時事通信社配信記事
  - ◇ 読売新聞日本美を守り伝える TSUMUGU 紡ぐプロジェクト「養成事業 50 年」(11/1)
- ・ 研修生募集広告の掲載
  - ◇ インターネット広告(Google、Yahoo のリスティング広告・ディスプレイネットワーク広告)
  - ◇ 新聞広告(朝日、読売)
  - ◇ 雑誌広告(演劇界、日本舞踊)
  - ◇ 歌舞伎座初春大歌舞伎、新橋演舞場初春歌舞伎 筋書広告
  - ◇ 駅貼りポスター(11 月～1 月、新宿、渋谷、池袋、永田町他)
- ・ 文部科学省、文化庁の広報部門と連携し、省庁ホームページ、SNS、プレスリリース等で募集告知
- ・ 伝統芸能情報館企画展示「心と技を伝えた 50 年」(10/1～1/27)の提示室内にポスター・チラシを掲出・配架。

### ■ 第 30 期文楽研修生募集

- ・ 公演プログラム等における募集案内
  - ◇ 9 月・錦秋・12 月・初春文楽公演
  - ◇ 振興会ニュース 8・10・12・2 月号(10・12・2 月号はホームページ掲載の研修講師インタビューを抜粋・転載)
  - ◇ あぜくら会報 10 月号、国立文楽劇場友の会会報 213・214 号
- ・ 公演チラシにおける募集案内
  - ◇ 錦秋・初春文楽公演
- ・ 文楽研修案内ポスターとチラシを各劇場内に掲出・配架して研修事業を紹介
  - ◇ 初春文楽公演、2 月若手素浄瑠璃の会の公演期間中に、劇場ロビー内に研修事業紹介ブースを設け、チラシ・パンフレットを置き、文楽研修紹介 DVD を放映
- ・ ポスター・チラシ送付
  - ◇ 全国の文系大学・芸術系高等学校、近隣の中学校、首都圏・近畿圏の演劇系・音楽系専門学校、文化施設、図書館、マスコミ、楽器店等
  - ◇ 日本児童青少年演劇協会会員向けにチラシ送付
  - ◇ 民俗芸能団体(人形劇関係)へのチラシ送付
  - ◇ 全国高校生伝統文化フェスティバルー伝統芸能選抜公演(12/13 京都コンサートホール)
  - ◇ 文楽イベント(三谷文楽、ザ・グレイト文楽)
- ・ 文楽協会の地方巡業、イベント等でチラシ配布
- ・ ネットでの情報発信
  - ◇ 国立オンライン劇場・振興会ホームページ・メールマガジン・Twitter
  - ◇ 文楽協会のホームページに掲載
  - ◇ 研修生募集ホームページをリニューアル(本館と合同)。講師インタビュー、研修風景の動画、時間割等を掲載。
- ・ テレビ、ラジオ、新聞等の露出
  - ◇ NHK 大阪放送局「ぐるっと関西おひるまえ」(10/21)研修講師(吉田玉男)がリモート出演し、研修生募集告知

- ◇FM宝塚「笑福亭瓶吾と愉快的仲間たち」(1/8・22)で、文楽研修生募集を告知
- ◇YES-fm「maido@station」(1/13)に鶴澤清公(三味線)が出演し、文楽研修生募集を告知
- ◇産経新聞(10/3)、毎日新聞(1/9)、東京新聞 web(2/12)※共同通信社配信記事
- ◇読売新聞 web 紡ぐプロジェクト(1/22)「【養成事業 50年】歌舞伎や文楽 担い手育てて半世紀…国立劇場の挑戦」
- ・研修生募集広告の掲載
  - ◇インターネット広告(Google、Yahooのターゲティング広告)
  - ◇「能狂言ホームページ」バナー・Facebook広告
  - ◇駅貼りポスター(7月～12月、Osaka Metro各駅)
- ・文部科学省、文化庁の広報部門と連携し、省庁ホームページ、SNS、プレスリリース等で募集告知
- ・伝統芸能情報館及び国立文楽劇場資料展示室の企画展示「国立劇場の養成事業一心と技を伝えた50年一」に文楽研修生募集チラシを設置。文楽で使用する見台、三味線、人形等を展示して興味を喚起し、併せてチラシを配架した。
- ・4月文楽公演関連団体への宣伝・営業活動とのタイアップ
  - ◇徳島県9団体を訪問し、研修募集について職員が説明、協力依頼
- ・特別授業「独立行政法人日本芸術文化振興会の業務と意義」において、研修事業内容を紹介
  - ◇10/7、大阪府立東住吉高等学校
  - ◇講師：企画制作課養成係職員 参加者31名(同校芸能文化科3年)

#### ④伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・令和2年度の「五館合同特別講義」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止した。

#### ⑤公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、外部研修への協力等

- ・国立劇場本館において継承されてきた、伝統芸能の上演に係る舞台技術を紹介するための小冊子「国立劇場の舞台技術—伝統芸能の上演のために—」について、外部研修等での活用のみならず、より幅広い層への普及を進める目的から、劇場売店等での一般販売を開始した(12/3～)。



### 3 - (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

#### 《中期計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

##### (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師とし、実践的・体系的なカリキュラムにより、次の研修を実施

① オペラ研修(研修期間3年間)

② バレエ研修(研修期間2年間)

③ 演劇研修(研修期間3年間)

##### (3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

#### 《年度計画の概要》

#### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

##### (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

研修発表会等のうち、国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施

① オペラ研修(研修期間3年)

(a) 第21期生(5名)の3年目の研修(修了)

(b) 第22期生(5名)の2年目の研修

(c) 第23期生(4名)の1年目の研修

(d) 第24期生(5名程度)の募集

(e) 研修発表会等を別表10のとおり実施

(f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月～10月と3月に海外研修を行う

② バレエ研修(研修期間2年)

(a) 第16期生(7名)の2年目の研修(修了)

(b) 第17期生(6名)の1年目の研修

- (c) 第18期生(6名程度)の募集
  - (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
    - ・ 第11期生(1名)の2年目の研修
    - ・ 第12期生(5名)の1年目の研修
    - ・ 第13期生(若干名)の募集
  - (e) 研修発表会等を別表10のとおり実施
  - (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、海外研修を行う
- ③ 演劇研修(研修期間3年)
- (a) 第14期生(12名)の3年目の研修(修了)
  - (b) 第15期生(9名)の2年目の研修
  - (c) 第16期生(16名)の1年目の研修
  - (d) 第17期生(16名程度)の募集
  - (e) 研修発表会等を別表10のとおり実施
  - (f) 修了後の幅広い活躍を目標とし、11月に国内研修を行う

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ① 研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、ホームページ等で事業の周知に努める
- ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める

《中期目標の指標・関連指標》

3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	8公演 (H25-29 実績平均：9.8公演)
3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)	P. 179 に掲載
3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)	
3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)	P. 180 に掲載



## ア 安定的、継続的な実演家の育成

### 《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンをを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、修了公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を募集し、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を中心とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

### ①研修の概要

区分	研修期間	年度計画	研修実績	うち修了者	
オペラ	3年	21期(3年次)	5名	5名	5名
		22期(2年次)	5名	5名	—
		23期(1年次)	4名	4名	—
バレエ	2年	16期(2年次)	7名	7名	7名
		17期(1年次)	6名	6名	—
バレエ 予科	2年	11期(2年次)	1名	1名	1名
		12期(1年次)	5名	5名	—
演劇	3年	14期(3年次)	12名	12名	12名
		15期(2年次)	9名	9名	—
		16期(1年次)	16名	16名	—

### ②主な授業等の概要

区分	授業内容			
オペラ	実技	第21期	139回	オペラ実習、身体表現
		第22期	149回	
		第23期	146回	
	座学	第21期	199回	特別講義(サロン)、語学(英語、イタリア語、ドイツ語)
		第22期	199回	
		第23期	202回	
その他	第21期	22回	舞台実習、舞台鑑賞、見学	
	第22期	22回		
	第23期	19回		
バレエ	実技	第16期	389回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
		第17期	385回	
	座学	第16期	45回	講義、特別講義(サロン)、語学(英語)
		第17期	55回	
	その他	第16期	21回	舞台実習、舞台鑑賞、見学
		第17期	12回	
バレエ 予科	実技	第11期	351回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
		第12期	359回	
	座学	第11期	41回	講義、語学(英語)ほか
		第12期	46回	

	その他	第 11 期 第 12 期	18 回 21 回	舞台実習、舞台鑑賞
演劇	実技	第 14 期 第 15 期 第 16 期	189 回 285 回 258 回	演劇実習、演技/シーンスタディ、歌唱、ダンス、声とことば、所作、トレーニング、日本舞踊、三味線、狂言ほか
	座学	第 14 期 第 15 期 第 16 期	1 回 3 回 47 回	講義、特別講義(サロン)、戯曲をよむ、戯曲研究、日本演劇史、西洋演劇史ほか
	その他	第 14 期 第 15 期 第 16 期	14 回 53 回 52 回	国内研修、観劇、美術、見学、公演スタッフ研修ほか

- ・第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。

#### 《オペラ研修》

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため政府、東京都が発出した緊急事態宣言に伴う外出自粛措置を受け、講師と研修生の対面レッスンは7月下旬まで中止となったが、4月からの3か月間はリモートの活用による語学授業、作品研究、ディクショング講義及びストレッチなどを実施し、実質的に研修所としての活動を停止させることなく実施した。
- ・8月の試演会が中止となった代わりに、バレエ研修所との初の合同公演「ヤングアーティスト オペラ & バレエガラ」を実施し、オペラパレスの舞台上でオーケストラ伴奏によるアリア歌唱という、研修生にとって大変大きな機会を得た。
- ・秋以降は昨年から引き続いてレパートリーレッスンを取り入れ、その成果は12月の「Young Opera Singers of Tomorrow 2020」でシーン・リサイタルという形で披露した。
- ・修了公演については、感染症対策に取り組みながらほぼ通常どおりのレッスン、リハーサルを行い、無事に3回公演を実施した。

#### 《バレエ研修》

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため政府、東京都が発出した緊急事態宣言に伴う外出自粛措置を受け、各々自宅でできるトレーニング等を実施し、緊急事態宣言解除後の6月15日からスタジオでの本格的な研修を開始した。
- ・いわゆる感染症対策としての三密回避を重視し、昨年に引き続き、花伝舎のスタジオに加えて新宿村スタジオを可能な限り借用し、男性クラス・予科生クラスを分けるなど、二手に分かれて少人数のクラスレッスンを行った。
- ・演劇基礎研修にて、昨年に引き続き演劇研修生との合同授業を実施した。表現方法の異なる研修生同士が共同で一つの小作品を作る過程で、表現力の向上につながる強い刺激やヒントを感受する姿が見られた。
- ・中止となった「バレエ・アステラス・スペシャル 2020」に代わり、オペラ研修所との初の合同公演「ヤングアーティスト オペラ&バレエ ガラ」を開催し、オペラパレスの舞台上でのオーケストラ演奏による本格的な上演という研修生にとって大変貴重な機会を有効に活用した。

#### 《演劇研修》

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、6月中旬までは3学年ともリモートでの授業を行った。花伝舎では講義などの授業でもより広い稽古場を使用し、感染症対策に留意した。
- ・演劇研修所第14期生が令和元年度から開始された「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」にて、国内研修を実施した。(11/27～30、島根県松江市しいの実シアター)
- ・令和2年度における平和祈念展示資料館でのリーディング公演は、オンラインでの朗読動画を配信する形式で実施され、修了生が出演した。

#### 《海外研修》

- ・「ANA スカラシップ」制度により、オペラ研修所第22期生を対象に実施される予定であった海外研修については、新型コロナウイルス感染症拡大による出入国制限、対象国の感染状況を鑑み、実施が見送られた。(ミラノ・スカラ座アカデミー)
- ・「ANA スカラシップ」制度により、バレエ研修所第16期生を対象に実施される予定であった海外研修については、新型コロナウイルス感染症拡大による出入国制限、対象国の感染状況を鑑み、実施が見送られた。(A. Y. ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー)

- ・海外研修(3週間)が実施される予定であった期間について、研修所においてロシアのバレエ作品についてヴァリエーションを中心に集中的にリハーサルを行った。ロシアのバレエ作品の理解を深めることができ、年度末に開催した「エトワールへの道程 2021」の高い公演成果に繋げることができた。
- ・「ANA スカラシップ」制度により、オペラ研修所第 21 期生を対象に実施される予定であった海外研修については、新型コロナウイルス感染症拡大による出入国制限、対象国の感染状況を鑑み、実施が見送られた。(ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場附属オペラ研修所)

#### 《国際交流》

- ・令和元年に 10 回目を迎えた「バレエ・アステラス」は令和 2 年度においては「バレエ・アステラス・スペシャル 2020 世界バレエ学校フェスティバル&アステラス・ガラ(仮)」として実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため実施を見送った。

#### 《受賞等》

- ・第 89 回日本音楽コンクールの声楽部門において、オペラ研修所第 16 期修了生小林啓倫が第 1 位を、第 21 期研修生井上大聞が第 3 位を受賞した。

### ③研修発表会等の実施

#### (a) 研修公演(一部再掲)

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ研修	オペラ試演会「演目未定」※1 ※公演中止	新国立劇場 小劇場	8/9～8/10	2回 予定	-	-
オペラ研修	「NNTT Young Opera Singers of Tomorrow 2020」～歌曲とオペラアリアのタベ～	新国立劇場 オペラ劇場	12/23	1回	634人	48.9%
オペラ研修	修了公演「悩める劇場支配人」※3	新国立劇場 中劇場	3/5～3/7	3回	1,301人	95.7%
バレエ研修	バレエ・アステラス・スペシャル 2020 「世界バレエ学校フェスティバル&アステラス・ガラ」※2 ※公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	9/12～9/13	2回 予定	-	-
バレエ研修	「バレエ・オータムコンサート 2020」	新国立劇場 中劇場	11/7～8	2回	1,290人	71.2%
バレエ研修	修了公演「エトワールへの道程 2021」 新国立劇場バレエ研修所の成果※3	新国立劇場 中劇場	3/20～21	2回	777人	98.6%
オペラ研修 バレエ研修	新国立劇場研修所 ヤングアーティスト オペラ&バレエ ガラ※3 ※4	新国立劇場 オペラ劇場	9/12～13	2回	1,294人	100%
演劇研修	朗読劇+ダンス「オズマ隊長」※3	新国立劇場 小劇場	8/20～23	4回	646人	96.1%
演劇研修	試演会「尺には尺を」	新国立劇場 小劇場	10/27～ 11/1	6回	1,285人	65.7%
演劇研修	修了公演「マニラ瑞穂記」※3	新国立劇場 小劇場	2/19～2/24	6回	882人	100%

※1 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、公演準備が整わないため、開催を見送った。

※2 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う海外からの渡航制限解除の見通しが立たないことから、公演中止となった。

※3 客席収容率 50%制限下での販売である。

※4 年度計画外の公演である。

- ・オペラ研修所第 21 期生修了公演「悩める劇場支配人」では日本初演となる D. チマローザのバロック・オペラに取り組んだ。研修生はそれぞれ日頃の研修成果を大いに発揮してレベルの高い公演ができた。アンケート調査においても非常に高い満足度を得ることができた。
- ・バレエ研修公演「エトワールへの道程 2021」においては、ロシアのバレエ作品を中心に取り上げ、基本を忠実にかつ研修生がそれぞれの持ち味を活かした役を演じ、日々の研修の成果を発揮することができた。

- ・演劇研修所第14期生では、夏に朗読劇＋ダンスの新作「オズマ隊長」(手塚治虫原作)を上演。試演会「尺には尺を」、修了公演「マニラ瑞穂記」とも多くの観客に研修の成果を披露することができた。各公演の成果はマネジメント事務所からも高い評価を得て、修了後の進路選定に奏功した。

#### (b) その他出演

- ・2020/2021 シーズン主催公演オペラ「夏の夜の夢」において、新型コロナウイルス感染症のため、予定していたキャストの来日が困難になったため、オペラ研修所修了生が多数出演した。主役のオーベロン(5期修了：藤木大地)をはじめ、研修所を修了した若手歌手たちが今回本公演に出演する機会となったことは意義あることだった。

#### ④次年度の検討、募集

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
オペラ	12/21～26	47名	47名	5名	願書受付(10/26～11/16)
バレエ	12/6～21	54名	52名	6名	願書受付(10/1～21)
バレエ予科	12/5～21	34名	34名	3名	願書受付(10/1～21)
演劇	1/20～24	61名	51名	14名	願書受付(12/1～17)

#### ⑤外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・研修事業委員会を開催し、令和元年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った(9/15)。外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わした。
- ・研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。
- ・研修規定の見直しを行い、オペラ研修所について特に優秀と認められる者が2年次で修了できるよう改定した。(令和3年度に入所する研修生から適用される)

### イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

#### ①ホームページ等での事業の周知

- ・ホームページやSNS(Facebook, Twitter, tumblr)を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子等を随時発信した。各研修所が専用のSNSを開設していることで連続性のある効果的な発信が可能となり、きめ細かな情報発信に奏功した。
- ・バレエ研修所の活動の様子を幅広い層に周知するために公演の際に上映した映像をホームページにアップし3～4万の視聴数を得た。
- ・ANA国内線の機内にて、オペラ研修所の活動紹介映像が令和3年2月に放映された。(バレエ研修所の活動紹介映像は同年6月に放映予定)
- ・修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果をホームページに掲載するとともに研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。
- ・研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、演劇研修所では11月にオンラインオープンスクールを実施したほか、12月にオンライン説明会を開催した。

#### ②学校等との連携による研修成果の活用、様々な文化普及活動への参画

区分	イベント名	期間	会場	料金	出演者・内容・備考等	参加者数
演劇研修	戦後75年企画 秋のオンライン演劇公演 リーディング公演「和良村分村開拓団・苦渋の道」	10/17 ～ 1/31	平和祈念展示資料館 HP 視聴者専用ページ	無料	主催：平和祈念展示資料館 構成・演出：宮田慶子演劇研修所長 出演：岡崎さつき(第9期修了)、川澄透子(第11期修了)	※再生数 665回

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「オンライン演劇」として、インターネット配信のみの開催となった。

#### ③応募者の確保

区分	イベント名	日程	会場	料金	内容	参加者数	応募者数	満足回答率
演劇研修	演劇研修所「オンライン・オープンスクール」	11/15 11/22 11/23	オンライン	無料	体験授業、研修所及び入試についての説明、研修生との質疑応答	55人	78人	94.0%
演劇研修	演劇研修所「オンライン説明会」	12/5	オンライン	無料	研修所及び入試についての説明、研修生との質疑応答	57人	60人	95.0%

#### ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・令和2年度の五館合同特別講義は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止した。

#### ⑤ 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、外部研修への協力

- ・舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、公共劇場舞台芸術者連絡会、劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会、公共劇場技術者連絡会への職員の派遣、連携協定大学の学生に向けた講義等、新国立劇場の人材及び施設を活用した取組を行った。



## 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

### (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施

並びに資料の収集及び活用	p.188
└ ア 伝統芸能に関する調査研究	p.191
└ イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用	p.192
└ ウ 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、 普及活動の実施	p.199

### (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施

並びに資料の収集及び活用	p.204
└ ア 主催公演の上演作品等についての資料調査	p.206
└ イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用	p.206
└ ウ 資料等の展示公開	p.207
└ エ 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、 普及活動の実施	p.208





#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

自己評定	A
<p><b>自己評定の根拠</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎の上演資料集を、研究成果の幅広い活用を図るため、振興会ホームページにおいて公開したことにより、伝統芸能の理解促進や研究活動に大きく貢献していると外部専門家から高い評価を受けた。</li> <li>・振興会ホームページで展示や公演記録映像を活用した動画を配信。資料の活用を一挙に促進することができた。</li> <li>・公演記録映像等の動画配信に当たっては、配信に必要な著作権等の処理・契約や配信向けコンテンツ制作の企画・実施等の難易度の高い新たな業務に挑戦する必要があった。予算・人員等が不十分な中ではあったが、公演映像のデジタル配信等を通して、劇場に足を運べない方々や、これまで伝統芸能に親しみのなかった若い世代及び観劇環境のない地方在住の方や海外の外国人向けに情報発信を行った。これらの取組は、新たな鑑賞者層の獲得と将来的な収入基盤の強化につながるものであり、当初計画を大きく上回る成果を上げた。</li> <li>・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で各館の資料展示室・閲覧室を開室し、また、講座・公演記録鑑賞会を実施した。</li> <li>・歌舞伎俳優研修が開始されてから50年を記念した企画展示を伝統芸能情報館と国立文楽劇場で連携して実施し、養成事業に関する国民の理解促進に資するだけでなく、並行して行われた歌舞伎俳優及び文楽研修生の募集の宣伝広報の強化に繋がった。</li> <li>・約40年の年月をかけて振興会が収集してきた見世物関係の資料を体系的にまとめた図録は、大変意義があると外部専門家から高い評価を受けた。図録の刊行に合わせて展示・関連講座を開催したことで、調査研究の成果を多角的に提示することができた。</li> <li>・国立能楽堂の公演月間特集テーマにあわせて実施した特別展「勸進能」の図録には、美術館・博物館、シテ方各宗家等に所蔵される資料を掲載した。また監修の宮本圭造氏による論考「勸進能の歴史」や、網羅的な勸進能年表を掲載し、研究資料としても貴重な文献となり、外部専門家から高い評価を得た。</li> <li>・新国立劇場では主催公演の上演演目に関する調査研究の一環として、演劇部門で講座等を開催、オペラ部門でも新制作演目に関する講座を実施し、新しい切り口で作品内容への関心と理解を促した。</li> </ul>
<p><b>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</b></p>	<p>各ジャンル《公演実績》参照</p>
<p><b>主要な業務実績</b></p>	<p>〈1〉 伝統芸能分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究を計画どおり実施し、上演資料集、近代歌舞伎年表、演芸資料選書、未翻刻戯曲集、正本写合巻集を刊行した。</li> <li>・歌舞伎の上演資料集を振興会ホームページで公開した。</li> <li>・伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施した。</li> <li>・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で各館の資料展示室・閲覧室を開室し、また、講座・公演記録鑑賞会を実施した。</li> <li>・養成事業の歩みと伝統芸能の世界で果たしてきた役割について紹介する企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」を実施した。</li> <li>・振興会が約40年の年月をかけて収集してきた見世物関係の資料を「国立劇場所蔵 見世物資料図録」として刊行した。図録の刊行にちなんで、伝統芸能情報館及び演芸資料展示室において見世物資料を紹介する展示を実施し、関連講座も開催した。</li> <li>・国立能楽堂特別展「勸進能」は、展示期間中に行われる国立能楽堂の公演月間特集テーマ「所縁の能・狂言—勸進能—」にあわせ、室町時代の勸進猿楽にはじまり明治時代まで、京都・江戸・大坂等で行われた勸進能の歴史をひもとき、</li> </ul>

	<p>往時の興行の様子を、関連する絵画・古文書等の様々な資料をもとに具体的に展示した。また、特別展関連講座「勸進能」では松岡心平氏の基調講演と、監修者の宮本圭造氏による分かりやすく、なおかつ専門的な講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文楽劇場常設展示「文楽入門」では、錦秋文楽公演の「本朝廿四孝」にあわせて、東京国立博物館表慶館「体感！日本の伝統芸能」展で上映される予定であった「文楽人形×チームマネキン@東京国立博物館表慶館」を展示室内で上映し、八重垣姫を飾り付けるまでの様子を紹介した。</li> <li>・振興会ホームページで公演記録映像を活用した動画を配信した。</li> <li>・サポートが終了した Adobe Flash Player を使用している 18 コンテンツを非公開とし、改修を行った 8 コンテンツを再公開した。また、舞台芸術教材「文楽編 その1・2」の内容を集約し、PC、スマートフォン及びタブレットで視聴可能なリニューアル版を制作した。</li> </ul> <p>〈2〉 現代舞台芸術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・劇場内オープンスペース、情報センター及び各劇場にて相互に連動した展示・イベントを実施。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大による公演中止期間に「巣ごもりシアター」と題して過去の公演映像を期間限定で無料にて配信。多数の視聴者を得た。</li> <li>・台湾の台中国立歌劇院の舞台映像上映会にて、新国立劇場の舞台映像を上映。</li> </ul>
<p><b>課題と対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の活用・普及のため、歌舞伎・文楽上演資料集のうち、上演年表の Web 公開を開始した。今後演目を増やしていく予定。</li> <li>・サポートが終了した Adobe Flash Player を使用していたため非公開としたコンテンツについては、コンテンツの改修及びリニューアルを引き続き実施していく。また、今後のコンテンツの幅広い活用を図るため、伝統芸能の魅力を紹介するとともに教育現場におけるオンライン授業等で利用可能なコンテンツの製作を検討する。</li> <li>・舞台美術センター資料館については、施設の有効利用の観点から各フロアの機能の見直しに着手したところであり、今後、その在り方について引き続き検討を行い、現中期計画期間内に結論を出すこととしたい。</li> <li>・現代舞台芸術の公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、コロナ禍の期間に実施した有料・無料の配信企画の実績を踏まえ、権利処理や活用の方法について更なる検討を続けたい。</li> </ul>

## 〈1〉 伝統芸能分野

自己評定	A
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎の上演演目について初演から現在に至る上演記録や参考資料等の情報をまとめた上演資料集(上演年表等)を、研究成果の幅広い活用を図るため、刊行に替えてウェブ版として振興会ホームページにおいて公開したことにより、伝統芸能の理解促進や研究活動に大きく貢献しているとの高い評価を受けた。</li> <li>・公演記録映像等の動画配信に当たっては、配信に必要な著作権等の処理・契約や配信向けコンテンツ制作の企画・実施等の難易度の高い新たな業務に挑戦する必要があった。予算・人員等が不十分な中ではあったが、公演映像のデジタル配信等を通して、劇場に足を運べない方々や、これまで伝統芸能に親しみのなかった若い世代及び観劇環境のない地方在住の方や海外の外国人向けに情報発信を行った。これらの取組は、新たな鑑賞者層の獲得と将来的な収入基盤の強化につながるものであり、当初計画を大きく上回る成果を上げた。</li> <li>・伝統芸能情報館は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために6月4日まで閉館していたが、主催公演の再開に先駆けていち早く6月5日から定員を減らし、開館時間も午前11時から午後4時に限定するなどの感染症対策を講じた上で資料展示室及び図書閲覧室を開館した。</li> <li>・伝統芸能情報館企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」(10/1～1/27)では、歌舞伎俳優研修が開始されてから50年を記念し、事業開始から現在に至る養成事業の歩みと伝統芸能の世界で果たしてきた役割について紹介するとともに、国立文楽劇場とも連携して1/3～3/7の期間、事業データの紹介等、一部共通の資料を展示することにより、養成事業に関する国民の理解促進に資するだけでなく、並行して行われた歌舞伎俳優及び文楽研修生の募集の宣伝広報の強化に繋がった。</li> <li>・「国立劇場所蔵 見世物資料図録」は、約40年の年月をかけて振興会が収集してきた見世物関係の資料を図録として体系的にまとめて発表したことに大変意義があると高い評価を受けた。また、図録の刊行に合わせて、伝統芸能情報館及び演芸資料展示室において江戸時代から明治時代にわたり、娯楽の代表として人気を博した、奇術、軽業、曲芸などの見世物の魅力を紹介し、関連講座も開催したことで、調査研究の成果を多角的に提示することができた。</li> <li>・振興会ホームページ内の無料動画配信ポータルサイト「おうちでカンゲキ!!」、「国立オンライン劇場」において、展示や公演記録映像を活用した動画を配信することで、資料の活用を一挙に促進することができた。</li> <li>・Adobe Flash Playerのサポート終了に伴い公開中止としていた18コンテンツのうち8コンテンツを改修し再公開することができた。また、舞台芸術教材「文楽編 その1・2」の内容を集約し、若年層の利用にも配慮して内容の見直しを行うとともに、PC、スマートフォン及びタブレットで視聴可能なリニューアル版を制作した。</li> <li>・国立能楽堂のすべての展示で看板・バナー・キャプション・無料配布の出品目録を、日本語・英語・中国語(簡)・韓国語の多言語表記とした。</li> <li>・国立能楽堂企画展「日本人と自然 一能楽と日本美術一」(6/5～6/28)は、「日本博」参画プロジェクトとして、内容をその総合テーマ「日本人と自然」にあわせるとともに、国立能楽堂公演の月間特集(4月「春夏秋冬」、5月「草木成仏」、6月「花鳥風月」)やその上演曲目ともあわせて展示。また、能・狂言の装束・楽器と日本美術(絵画・工芸品)とを比較することで、能楽の理解を深めることのできる企画であったが、会期変更にともないダイジェスト版として展示を実施した。展示図録は、B5版として販売価格を抑え、内容も図版中心の一般の方が求めやすい図録として4月に刊行し、先行して通信販売を行った。</li> <li>・国立能楽堂特別展「勸進能」は、展示期間中に行われる国立能楽堂の公演月間特集テーマ「所縁の能・狂言一勸進能一」にあわせ、室町時代の勸進猿楽にはじまり明治時代まで、京都・江戸・大坂等で行われた勸進能の歴史をひもとき、往時の興行の様子を、関連する絵画・古文書等の様々な資料をもとに具体的に展示</li> </ul>

	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展「勸進能」図録には、美術館・博物館、シテ方各宗家等に所蔵される資料を掲載した。また監修の宮本圭造氏による論考「勸進能の歴史」や、網羅的な勸進能年表を掲載し、研究資料としても貴重な文献となった。調査事業委員からの意見も「解説のレベルや網羅的に掲載された資料のボリュームなどを高く評価したい。」「国立能楽堂の「勸進能」は研究者に注目されるもので、大変勉強になりました。」と高い評価を得た。</li> <li>・国立能楽堂では12月には当初7月に予定していた「伝承者養成事業50周年」にあわせた記念講座を延期して開催し、国立能楽堂養成事業開始以来携わってきた講師と研修修了者を講師に迎え、当時の研修の様子を彷彿させる話を聞くことができた。</li> <li>・特別展開連講座「勸進能」では松岡心平氏の基調講演と、監修者の宮本圭造氏による分かりやすく、なおかつ専門的な講座を実施した。調査事業委員からは「松岡心平、宮本圭造氏による関連講座も実施され、好企画だった。」と評価を得た。</li> <li>・1月には東京能楽囃子科協議会の協力を得て、第1回能楽囃子講座を開催し、囃子方能楽師4人の実演を交えて、囃子の構造を解説する講座を有料で初めて開催した。調査事業委員からは「単発のレクチャーを受けた受講者が公演にも足を運ぶようになり、サポーターのような存在になっていると聞いた。囃子に興味を持っている人は多いのではないかとと思われる。東京能楽囃子科協議会というプロ中のプロの協力を得た本講座の開催は、そのような人たちの受け皿としても、また能楽普及の面でも期待がもてる。」と高い評価を得た。</li> <li>・文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため主催公演等を中止している期間中に、文楽を見られない観客へのサービスの一環として振興会ホームページ内に開設した無料動画配信ポータルサイト「おうちでカンゲキ!!」で、過去に文楽劇場資料展示室で上映した展示用映像(5本=4/24~6/1)、「日本博」展示メイキング映像(4/28~6/1)、令和元年度に上演した仮名手本忠臣蔵全段のダイジェスト動画(3本=4/30~6/1)、過去の公演記録に字幕を付けた動画(8本=5/28~月2回の割合でそれぞれ約1か月)を無料配信した。「国立オンライン劇場」での有料動画配信としては、4公演(8月邦楽、錦秋文楽、初春文楽、2月大衆芸能)の公演記録映像の有料動画配信を行った。</li> <li>・伝統芸能伝承者養成事業50周年を記念し、調査養成部と共催した文楽劇場企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」では、昭和47年から実施している文楽の養成事業を中心に太夫・三味線・人形の三業を紹介した。</li> <li>・国立劇場おきなわでは、首里城復興祈念として、展示に加え公演記録鑑賞と講座(2回)を「首里城と芸能」と題して、実施した。第2回目の鑑賞会と講座では、野外で「からくり仕掛け花火」を前年度に引き続き実演した。</li> </ul>
<p><b>数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)</b></p>	<p><b>文化デジタルライブラリーアクセス件数：1,144,067件/530,000件 (215.9%)</b>  <b>展示公開の実施回数：16回/19回 (84.2%)</b> (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合の達成率は100.0%)  <b>展示公開の来場者数</b>  <b>43,898人/211,967人 (20.7%)</b>  <b>43,898人/177,577人 (24.7%)</b> (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合)  <b>講座等の実施回数：30回/57回 (52.6%)</b> (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合の達成率は100.0%)</p>
<p><b>主要な業務実績</b></p>	<p><b>(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究を計画どおり実施し、上演資料集、近代歌舞伎年表、演芸資料選書、未翻刻戯曲集、正本写合巻集を刊行した。</li> <li>・刊行した上演資料集のうち、歌舞伎の上演資料集を振興会ホームページにおいてウェブで公開した。</li> <li>・伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施</li> </ul>

した。

- ・伝統芸能情報館企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」(10/1～1/27)では、事業開始から現在に至る養成事業の歩みと伝統芸能の世界で果たしてきた役割について紹介した。
- ・振興会が約40年の年月をかけて収集してきた見世物関係の資料を「国立劇場所蔵 見世物資料図録」として刊行した。図録の刊行にちなんで、伝統芸能情報館及び演芸資料展示室において見世物資料を紹介する展示を実施し、関連講座も開催した。
- ・プロマイド255点ほかのデータベース化、文化デジタルライブラリーへの登録し公開した。
- ・サポートが終了した Adobe Flash Player を使用している 18 コンテンツを非公開とし、改修を行った 8 コンテンツを再公開した。また、舞台芸術教材「文楽編 その1・2」の内容を集約し、PC、スマートフォン及びタブレットで視聴可能なリニューアル版を制作した。
- ・国立能楽堂ではすべての展示で看板・バナー・キャプション・無料配布の出品目録を、日本語・英語・中国語(簡)・韓国語の多言語表記とした。
- ・国立能楽堂企画展「日本人と自然 ―能楽と日本美術―」は、「日本博」参画プロジェクトとして、内容をその総合テーマ「日本人と自然」にあわせるとともに、国立能楽堂公演の月間特集やその上演曲目とも関連させて展示。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、期間を6月5日から6月28日に変更して公開した。
- ・国立能楽堂特別展「勸進能」は、展示期間中に行われる国立能楽堂の公演月間特集テーマ「所縁の能・狂言―勸進能―」にあわせ、室町時代の勸進猿楽にはじまり明治時代まで、京都・江戸・大坂等で行われた勸進能の歴史をひもとき、往時の興行の様子を、関連する絵画・古文書等の様々な資料をもとに具体的に展示した。
- ・文楽劇場では新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため7月まで公演記録鑑賞会を中止したが、8月以降は感染症対策を講じた上で実施した。なお、8月からの実施にあたり、密を避けるために席数を減らした上で抽選による座席指定制を導入した。

## **(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施**

- ・各館で主催公演について、映像・写真等による記録を作成。
- ・各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供した。
- ・各館で公開講座等を実施した。
- ・振興会ホームページ内の無料動画配信ポータルサイト「おうちでカンゲキ!!」、「国立オンライン劇場」において、公演記録映像を活用した動画を配信した。
- ・国立能楽堂では新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4講座が開催中止・延期となった。9月再開後は定員半数以下の70人に制限して開催した。
- ・12月には当初7月に予定していた「伝承者養成事業50周年」にあわせた記念講座を延期して開催し、国立能楽堂養成事業開始以来携わってきた講師と研修修了者を講師に迎え、当時の研修の様子を彷彿させる話を聞くことができた。
- ・9、10、1、2月には翌月の主催公演の曲目に関連した公開講座を開催し、特に2月は「名取ノ老女」の公演記録をふんだんに使用した講座が行われた。
- ・特別展関連講座「勸進能」では松岡心平氏の基調講演と、監修者の宮本圭造氏による分かりやすく、なおかつ専門的な講座を実施した。
- ・1月には東京能楽囃子科協議会の協力を得て、第1回能楽囃子講座を開催し、囃子方能楽師4人の実演を交えて、囃子の構造を解説する講座を有料で初めて開催した。
- ・文楽劇場企画展示「文楽の四季」(6/5～9/13)では、四季にまつわる演目の公演記録映像を上映した。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文楽劇場常設展示「文楽入門」（10/10～12/3）では、錦秋文楽公演の「本朝廿四孝（奥庭狐火の段）」上演にあわせて、東京国立博物館表慶館「体感！日本の伝統芸能」展で上映される予定であった「文楽人形×チームマネキン@東京国立博物館表慶館」を展示室内で上映し、八重垣姫を飾り付けるまでの様子を紹介した。</li> <li>・文楽劇場企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」（1/3～3/7）では、文楽劇場開場後に作成した当時の文楽技芸員講師による研修生向けビデオ（一部抜粋）を上映した。</li> <li>・振興会ホームページ内の無料動画配信ポータルサイト「おうちでカンゲキ!!」で、文楽劇場では過去に展示室内で上映した映像コンテンツの他、公演記録に字幕（床本）を載せた映像コンテンツを公開した。</li> <li>・国立劇場おきなわでは、国立劇場で記録された琉球舞踊の過去の映像を公演記録鑑賞と講座「織物から見る琉球舞踊」において、上映した。また、企画展琉球舞踊を彩る織物」において、展示室TVで紹介した。</li> </ul>
<p><b>課題と対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の活用・普及のため、歌舞伎の上演資料集(上演年表等)をWebで公開した。今後は、歌舞伎・文楽ともにWeb版として製作し、文化デジタルライブラリーから公開していく予定。</li> <li>・サポートが終了したAdobe Flash Playerを使用していたため非公開としたコンテンツについては、コンテンツの改修及びリニューアルを引き続き実施していく。また、今後のコンテンツの幅広い活用を図るため、伝統芸能の魅力を紹介するとともに教育現場におけるオンライン授業等で利用可能なコンテンツの製作を検討する。</li> <li>・文楽劇場では記録映像の利用方式について、部内(VTR室)限定の視聴システムを構築し、サーバー内に保存した映像データを端末で視聴する方式に変更した。これにより貸出時の感染リスクを低減させるだけでなく、複数端末による同時視聴を可能とし、公演準備に関わる職員及び公演関係者の利便性を高めた。</li> </ul>

〈2〉 現代舞台芸術分野

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催公演の上演演目に関する調査研究の一環として、演劇部門でギャラリー・プロジェクトを実施、講座等を開催した。</li> <li>・オペラ部門でも新制作演目に関する講座を実施し、新しい切り口で作品内容への関心と理解を促した。</li> <li>・情報センターでは主催公演にあわせて関連書籍等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。劇場内ギャラリー等の展示と連動し訪れやすい環境を整えた。</li> <li>・「巣ごもりシアター」と題して過去に上演した公演の記録映像を無料で配信する企画を実施し、国内外から多数の視聴を得た。</li> <li>・バレエ公演においては「ドン・キホーテ」「くるみ割り人形」で有料配信を実施し、公演の新たな発信方法を開拓した。</li> <li>・劇場内オープンスペースに、舞台美術模型や衣裳、小道具などを展示する「初台アート・ロフト」を引き続き実施した。舞台美術家、衣裳デザイナーと協力して多彩な展示を行った。令和2年度においては新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の一環で劇場内の動線を制限しており、一部の公開にとどまった。</li> <li>・都内観光施設を利用した展示イベントを前年度に引き続き東京スカイツリーソラマチにて開催、舞台装置模型・衣裳を展示のほかにミニ・コンサートも行った。</li> <li>・舞台美術センター及び情報センターでの公演映像上映会については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため実施が見送られた。</li> <li>・台湾の台中国立歌劇院で開催された舞台映像上映会にて新国立劇場の公演映像が上映された。</li> </ul>
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>展示公開の来場者数：</p> <p>1,065人/50,500人（2.1%）</p> <p>1,065人/25,000人（4.3%）（新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合）</p> <p>講座等の実施回数：21回/105回（20.0%）（新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合の達成率は53.8%）</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p><b>(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催公演の演目内容を調査研究した成果を講座として開催。</li> <li>・海外の演劇都市及び国内劇場の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムに掲載。</li> <li>・情報センターの利用促進のため各劇場及び公開空地と連動した展示・イベントを実施。</li> <li>・劇場内のオープンスペースを有効活用して舞台装置模型や衣裳を展示する「初台アート・ロフト」を実施。</li> <li>・都内観光施設における展示イベントを引き続き開催。</li> <li>・舞台美術センター資料館の在り方について継続して検討。</li> </ul> <p><b>(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催公演の公演記録データベース作成を引き続き実施。</li> <li>・主催公演の実施に合わせた関連講座、展示等を実施。適宜ホームページに情報を掲出した。令和2年度においては講座のオンライン配信を推進するなどの取組も行った。</li> <li>・「巣ごもりシアター」での公演映像無料配信やバレエ公演の有料配信を実施し、公演記録映像の活用を推進した。</li> <li>・台湾の台中国立歌劇院の舞台映像上映会にて、新国立劇場の舞台映像を上映。</li> </ul>
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台美術センター資料館については、施設の有効利用の観点から各フロアの機能の見直しに着手したところであり、今後、その在り方について引き続き検討を行い、現中期計画期間内に結論を出すこととしたい。</li> </ul>

・現代舞台芸術の公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、コロナ禍の期間に実施した有料・無料の配信企画の実績を踏まえ、権利処理や活用の方法について更なる検討を続けたい。



## 4 - (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

### 《中期計画の概要》

#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能の公開の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う  
関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

##### (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

###### ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、日本各地に伝わる能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について、調査研究を実施
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究するとともに、復刻・刊行等を実施
- ④ 作成する刊行物の提供方法等については引き続き検討し、一層の効果的な活用を図る

###### イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
- ② 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、文化デジタルライブラリー等により公開

収集した資料等を活用した展示を企画し、各展示施設等において公開

公開に際しては、関係機関等と連携した取組、多言語化等利便性の向上及び広報活動の強化に努める

##### (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

###### ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

###### イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る

公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用を努める

### 《年度計画の概要》

#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

##### (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

###### ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、演技・演出の参考及び上演内容の理解促進等に活用
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について調査研究  
その成果については次のとおり刊行等を実施  
研究者及び研究機関等に広く頒布して、伝統芸能の保存及び振興のため活用
  - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十五巻
  - (b) 企画展「日本人と自然」図録(能楽堂)
  - (c) 特別展「勸進能」図録(能楽堂)
  - (d) 「琉球・沖縄芸能史年表」(戦後篇7・最終巻)
  - (e) 「義太夫年表」昭和篇第六巻(令和3年度刊行予定)の刊行準備
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施  
その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布
  - (a) 演芸資料選書・12「御屋舗番組控」第四冊・別冊

- (b) 未翻刻戯曲集第二十七巻
- (c) 正本写合巻集27・28
- (d) 絵入根本集1(仮称)
- ④ 調査研究の成果について、データによる提供や文化デジタルライブラリー等による公開を含め、効果的な活用方法を検討
  - (a) 歌舞伎・文楽公演の演目ごとの上演年表等をwebで公開
- イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施
  - ① 各館で公開する分野に関する図書・資料を中心に収集及び分類整理
    - 公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
    - 図書については開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮し利用促進に努める
    - 博物資料等については適切な保存管理に努めるとともに、関係機関等との連携等により、一層の活用に努める
    - (a) 「国立演芸場所蔵 見世物関係資料目録」(仮)の刊行
  - ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開を次のとおり実施
    - (a) 図書、錦絵、プロマイド、公演記録情報(上演情報、公演記録写真、扮装図鑑)のデータベース化
    - (b) デジタルコンテンツの充実
      - i. Adobe Flashのサポート終了に伴う文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツの非フラッシュ化
      - ii. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「文楽編その1・その2」のリニューアル版の製作
      - iii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数:530,000件
    - (c) 収集した資料等の展示公開(別表11)
      - 実施に当たっては、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化を図る
    - (d) 展示図録の刊行
      - i. 企画展「日本人と自然」図録(能楽堂・再掲)
      - ii. 特別展「勸進能」図録(能楽堂・再掲)
- (2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
  - ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに伝統芸能の研究等に活用
- イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施
  - ① 伝統芸能に関する公開講座等を別表12のとおり実施
    - 広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実に努める
  - ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開
  - ③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める
  - ④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実を図る

《中期目標の指標・関連指標》

4-1 展示公開の来場者数 (前中期目標期間実績以上)	43,898人 (H25-29実績平均:220,130.0人)
4-2 文化デジタルライブラリーアクセス件数 (前中期目標期間実績以上)	1,144,067件 (H25-29実績平均:820,713.0件)

4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	
4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)	P. 200 に掲載

## ア 伝統芸能に関する調査研究

### ①上演資料集

区分	演目名	刊行数
歌舞伎	国立劇場上演資料集<651>第319回歌舞伎公演「ひらかな盛衰記」「新皿屋舗月雨暈」「太刀盗人」 国立劇場上演資料集<652>第320回歌舞伎公演「平家女護島—俊寛—」「彦山権現誓助剣—毛谷村—」「文売り」「三社祭」 国立劇場上演資料集<654>第321回歌舞伎公演「三人吉三巴白浪」「天衣紛上野初花—河内山—」「鶴亀」「雪の石橋」 国立劇場上演資料集<655>第322回歌舞伎公演「四天王御江戸鎗」 国立劇場上演資料集<657>第323回歌舞伎公演「時今也桔梗旗揚」	5冊
文楽	国立劇場上演資料集<650>第213回文楽公演「寿二人三番叟」「姫山姥」「槍の権三重帷子」「絵本太功記」「壺阪観音霊験記」 「国立劇場上演資料集<653>第52回文楽鑑賞教室公演「二人禿」「芦屋道満大内鑑」 第214回文楽公演「仮名手本忠臣蔵」「桂川連理柵」 国立劇場上演資料集<656>第215回文楽公演「五条橋」「伽羅先代萩」「曲輪樟」「菅原伝授手習鑑」「冥途の飛脚」	3冊
組踊	国立劇場おきなわ上演資料集<No.46>「伊祖の子」 国立劇場おきなわ上演資料集<No.47>「北山敵討」	2冊
合計		10冊

- ・歌舞伎の上演資料集(上演年表等)<651><652><654><655><657>はWeb版として振興会ホームページにおいて公開した。

### 《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
<656>第215回文楽公演「五条橋」「伽羅先代萩」 「曲輪樟」「菅原伝授手習鑑」「冥途の飛脚」	104人	52人	—	50人	50.0%	94.3%

### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・歌舞伎の上演資料集をWeb版として公開した点は、伝統芸能の理解促進や研究活動に大きく貢献しており、評価に値する。
- ・歌舞伎の上演資料集をWeb版として公開することは、利用範囲の拡大からみても大変有意義である。

### ②興行、上演に関する記録の調査研究、刊行

区分	刊行物	刊行年月
刊行	「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十五巻	令和3年3月
	企画展「日本人と自然」図録	令和2年4月
	特別展「勸進能」図録	令和2年11月
	「琉球・沖縄芸能史年表 第12集(戦後篇7)」	令和3年3月
刊行準備	「義太夫年表 昭和篇」第六巻の調査他刊行準備	

- ・企画展「日本人と自然」図録は、B5版で販売価格を抑え、図版中心の一般の方が求めやすい図録とした。
- ・特別展「勸進能」図録には、美術館・博物館、シテ方各宗家等に所蔵される資料を掲載した。また監修の宮本圭造氏による論考「勸進能の歴史」や、網羅的な勸進能年表を掲載し、研究資料としても貴重な文献となった。

### 《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十五巻	116	56	51	50	48.3%	98.0%
国立劇場おきなわ上演資料集(No.46)「伊祖の子」	58	38	38	27	65.5%	71.1%

#### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・ 国立能楽堂の「勸進能」の図録は、解説のレベルや網羅的に掲載された資料のボリュームなどを高く評価したい。
- ・ 国立能楽堂の「勸進能」は研究者に注目されるもので、大変勉強になりました。

### ③古文献等の調査研究、刊行

区分	刊行物	刊行年月
刊行	演芸資料選書 12「御屋舗番組控」第四冊・別冊	令和2年10月
	正本写合巻集 27「菖蒲」太刀対侠客」	令和2年11月
	未翻刻戯曲集 27「菖蒲」太刀対侠客」	令和3年2月
	正本写合巻集 28「曾我綉侠御所染」	令和3年3月
刊行準備	絵入根本集 1	—
	正本写合巻集 29・30	—

- ・ 下記のとおり、刊行告知を行った。

#### 演芸資料選書 12「御屋舗番組控」第四冊

- ◇ 振興会ホームページ・公演解説書(11月歌舞伎)
- ◇ 東洋音楽学会第71回大会プログラム(11月7・8日、オンライン開催)

#### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・ 「御屋舗番組控」は音曲研究にとって極めて重要な資料である。未翻刻戯曲集と正本写合巻集の刊行が継続していることも評価できる。
- ・ 学会での評価が高い「御屋敷番組控」等の資料を刊行し、さらに歌舞伎の上演資料集をウェブ版として公開した点は、伝統芸能の理解促進や研究活動に大きく貢献しており、評価に値する。
- ・ 継続的に刊行している出版物は資料的に価値があるし、上演資料集の Web 公開は多くの人に利用してもらうための新たな一歩である。

### ④調査研究の成果の活用

- ・ 研究成果の幅広い活用を図るため、歌舞伎の上演資料集(上演年表等)を Web 版として初演から現在に至る上演記録や参考資料等の情報を振興会ホームページにおいて公開した。
- ・ 平成30年度に寄贈され、開場35周年記念企画展「囃子科と楽器」で公開した「一噌家伝来笛伝書類」が、その後研究者によって調査され、成果の一部が、宮本圭造編「近世諸藩 能役者由緒書集成(中)」(令和3年3月 野上記念法政大学能楽研究所 共同利用・共同研究拠点「能楽の国際・学際的研究拠点」)に採録された。

## イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

### 《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・ブロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

能楽堂では主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、一般及び関係者の文楽に対する理解促進につながる文楽関連の芸能図書や博物資料等を中心に収集を行う。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

## ①図書・資料の収集整理、公開、活用

### (a) 収集・公開実績

区分	収集		公開				
	図書	資料	閲覧室 利用者数※	開室日	写真複製 使用	博物資料 閲覧	視聴利用
伝統芸能情報館	729 冊	509 点	615 人	121 日	130 件	0 件	137 件
能楽堂	616 冊	813 点	1,731 人	181 日	85 件	0 件	1,091 件
文楽劇場	273 冊	177 点	508 人	208 日	46 件	0 件	564 件
国立劇場おきなわ	382 冊	135 点	1,112 人	172 日	16 件	0 件	679 件

※国立劇場おきなわはレファレンスルームの利用者数。

- ・ 伝統芸能情報館図書閲覧室は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、6月4日まで閉館していたが、6月5日から定員を10名以内に減らし、開館時間も午前11時から午後4時に限定し、手指消毒・検温・ヘルスチェックシートの確認等の感染症対策を講じた上で開館した。
- ・ 国立能楽堂資料展示室は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月8日から6月4日までを休室した。すべての会期中受付を設け、手指消毒・検温・ヘルスチェックシートの確認を行い、3密をさけるために入室者数の上限(32名)を設けた。夜公演時には来場者の利用に配慮して、開場まで開室時間を延長した。
- ・ 国立能楽堂図書閲覧室にて、毎月の公演・展示等に関するコーナー「〇月のこの1冊」を設け、関連文献を展示配架。
- ・ 国立文楽劇場資料展示室は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、6月4日まで休室していたが、6月5日から定員設定や開館時間も午前11時から午後4時に限定するなどの感染症対策を講じた上で開室した。
- ・ 国立文楽劇場図書閲覧室は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、6月4日まで休室していたが、7月2日から、事前予約制とし入室人数及び時間の制限を設けるなどの感染症対策を講じた上で開室した。定員設定の関係上、閲覧・視聴どちらにも対応できるように試聴用機材を1台から2台に増やした。

区分	刊行物	刊行年月
刊行	「国立劇場蔵 見世物資料図録」	令和3年2月

- ・ 振興会が約40年の年月をかけて収集してきた「曲芸」「細工見世物」「動物見世物」などの江戸時代後期から明治期にかけての見世物に関する錦絵や絵番付等の資料の調査研究の成果を図録として刊行するとともに、伝統芸能情報館において、資料の一部を展示公開した。

### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・ 「見世物資料図録」は国立劇場所蔵資料が日本浮世絵博物館、東洋文庫、歴史民俗博物館と並ぶ重要な資料であることを明らかにした。
- ・ 見世物資料の展示は他に類を見ないもので魅力的であった。見世物資料を体系的に収集し、図録にして発表されたことは大変意義がある。

### 《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
国立劇場蔵 見世物資料図録	129 人	81 人	73 人	72 人	62.8%	98.6%
伝統芸能情報館図書閲覧室(2/6～3/30)						
能楽堂図書閲覧室(1/28～2/8)	63 人	63 人	53 人	50 人	100.0%	94.3%
国立劇場おきなわレファレンス室(4/1～3/31)	9 人	9 人	9 人	7 人	100%	77.8%

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・ 国立劇場・能楽堂・文楽劇場は立派な専門図書館を運営しているのだから、外部に向けて情報を発信してほしい。

(b) 活用実績

分野	活動名	会場	主催等	活用内容	期間
伝統芸能情報館					
能楽堂	特別展「狂言面・狂言装束の料と山科理絵が描く狂言画」	金沢能楽美術館	金沢能楽美術館	狂言面、狂言装束、絵画貸出	4/20～6/23
	能をめぐる美の世界 ～初公開！彌之助愛蔵から120年・新発田藩主溝口家旧蔵能面コレクション～	静嘉堂文庫美術館	公益財団法人静嘉堂	楽器・能舞台模型貸出、公演記録写真貸出、国立能楽堂自主公演での静嘉堂所蔵能面の使用	10/13～12/6
文楽劇場	みて きて ぶんらくのおはなし ～鬼の巻～公演	こども本の森 中之島	文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会	公演記録映像の貸出	令和3年 3/21

②資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実、展示公開

(a) データベース化

区分	実施点数	詳細
図書	2,000 件	「国立劇場蔵書検索」での検索を可能にするため、本館収蔵の演芸関係番組を中心に図書の書誌データを図書管理システムのデータベースに登録、公開した。
資料	255 点	プロマイド 255 点、上演資料集 Web 版 8 点。 新たに考証・整理が終了したプロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優)255 点を、文化デジタルライブラリーに登録。また、上演資料集 Web 版を公開。
上演情報	152 公演	歌舞伎 9 公演、文楽 16 公演、舞踊・邦楽 9 公演、雅楽・声明 5 公演、民俗芸能 1 公演、特別企画 2 公演、能・狂言 36 公演、大衆芸能 74 公演の公演情報を文化デジタルライブラリーに登録。
公演記録写真	26,194 点	国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で令和 2 年 11 月までに撮影した全ジャンルの公演記録写真を文化デジタルライブラリーに登録。
扮装図鑑	13 公演	国立劇場で平成 30 年 12 月から令和 2 年 1 月に上演された歌舞伎公演(鑑賞教室含む)・文楽公演の「扮装図鑑」を文化デジタルライブラリーに登録。

(b) デジタルコンテンツの充実

- i. Adobe Flash のサポート終了に伴う文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツの非フラッシュ化
  - ・ サポートが終了した Adobe Flash Player を使用している 18 コンテンツを非公開とし、改修を行った 8 コンテンツを再公開した。
- ii. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「文楽編その 1・2」のリニューアル版の製作
  - ・ サポートが終了した Adobe Flash Player を使用している舞台芸術教材「文楽編 その 1・2」の内容を集約し、PC、スマートフォン及びタブレットで視聴可能なリニューアル版「人形浄瑠璃文楽」を制作した。
- iii. 上演資料集 Web 版の公開
  - ・ 歌舞伎公演の上演資料集(上演年表等)を Web 版として文化デジタルライブラリーにおいて公開した。
- iv. 文化デジタルライブラリーアクセス件数  
1,144,067 件 (計画: 530,000 件/達成率: 215.9%)

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・ 文化デジタルライブラリーほど充実した伝統芸能のコンテンツは他にない。伝統芸能普及のためにも、ますますの充実を期待したい。
- ・ コロナ禍の大学のオンライン授業において文化デジタルライブラリーを利用する学生は増加した。今後も利用が増えることが予想されるので、更なる充実を期待したい。

## (c) 資料の展示公開

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数(実績)	来場者数(計画)
伝統芸能情報館 資料展示室	企画展示「歌舞伎の四季」 ※実施時期変更	6/5～9/22	93日	1,413人	7,441人
	企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」 ※実施時期変更	10/1～1/27	114日	4,252人	24,304人
	企画展示「見世物の精華」	2/6～3/31	53日	2,970人	10,422人
	合計		260日	8,635人	42,167人
演芸場 資料展示室	演芸資料展 榎本健一没後50年記念「エノケン」 ※実施時期変更	6/5～11/23	135日	5,000人	14,408人
	演芸資料展「見世物の『近代』—開国から明治の時代」	12/1～3/21	82日	4,088人	12,710人
	合計		217日	9,088人	27,118人
能楽堂 資料展示室	企画展【日本博】「日本人と自然—能楽と日本美術—」 ※実施時期変更	6/5～6/28	22日	255人	10,500人
	入門展【日本博】「能楽入門」	7/8～10/31	97日	4,856人	14,000人
	特別展「勸進能」	11/14～1/14	49日	3,428人	7,004人
	収蔵資料展	1/22～3/26	48日	1,999人	6,800人
	合計		216日	10,538人	38,304人
文楽劇場 資料展示室	企画展示「文楽の四季」 ※実施時期変更	6/5～9/13	88日	803人	13,400人
	常設展示「文楽入門」 ※実施時期変更	10/10～12/3	55日	5,292人	20,200人
	企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」 ※実施時期変更	1/3～3/7	64日	5,022人	13,190人
	常設展示「文楽入門」	1/3～3/7	64日	5,022人	13,960人
	合計		271日	16,139人	60,750人
国立劇場 おきなわ 資料展示室	企画展「極める—人間国宝の横顔」 ※実施時期変更	7/11～9/20	38日	693人	3,065人
	企画展「首里城と芸能」 ※実施時期変更	10/3～12/20	79日	2,046人	3,065人
	企画展「琉球舞踊を彩る織物」 ※実施時期変更	1/16～3/21	65日	1,781人	3,108人
	合計		182日	4,520人	9,238人
伝統芸能分野 合計		16回	1,146日	48,920人	177,577人

## (年度当初の計画)

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数(実績)	来場者数(計画)
伝統芸能情報館 資料展示室	企画展示「歌舞伎の四季」 ※実施時期変更	6/5～9/22	93日	1,413人	7,441人
	企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」 ※実施時期変更	10/1～1/27	114日	4,252人	24,304人



	企画展示「舞台の花鳥風月—装いの美—」(仮) ※上記2企画の実施時期変更のため中止	10/1~1/27	-	-	18,468人
	企画展示「見世物の精華」	2/6~3/31	53日	2,970人	10,422人
	合計		260日	8,635人	60,635人
演芸場 資料展示室	演芸資料展 榎本健一没後50年記念「エノケン」 ※実施時期変更	6/5~11/23	135日	5,000人	14,408人
	演芸資料展「落語の風景」(仮) ※「エノケン」実施時期変更のため中止	8/1~11/23	-	-	13,160人
	演芸資料展「見世物の『近代』—開国から明治の時代」	12/1~3/21	82日	4,088人	12,710人
	合計		217日	9,088人	40,278人
能楽堂 資料展示室	企画展【日本博】「日本人と自然—能楽と日本美術—」 ※実施時期変更	6/5~6/28	22日	255人	10,500人
	入門展【日本博】「能楽入門」	7/8~10/31	97日	4,856人	14,000人
	特別展「勸進能」	11/14~1/14	49日	3,428人	7,004人
	収蔵資料展	1/22~3/26	48日	1,999人	6,800人
	合計		216日	10,538人	38,304人
文楽劇場 資料展示室	企画展示「文楽の四季」 ※実施時期変更	6/5~9/13	88日	803人	13,400人
	常設展示「文楽入門」 ※実施時期変更	10/10~12/3	55日	5,292人	20,200人
	企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」 ※実施時期変更	1/3~3/7	64日	5,022人	13,190人
	常設展示「文楽入門」	1/3~3/7	64日	5,022人	13,960人
	合計		271日	16,139人	60,750人
国立劇場 おきなわ 資料展示室	企画展「極める—人間国宝の横顔」 ※実施時期変更	7/11~9/20	38日	693人	3,065人
	企画展「首里城と芸能」 ※実施時期変更	10/3~12/20	79日	2,046人	3,065人
	企画展「琉球舞踊を彩る織物」 ※実施時期変更	1/16~3/21	65日	1,781人	3,108人
	企画展「沖縄芝居」 ※上記3企画の実施時期変更のため中止	1/16~3/21	-	-	2,762人
	合計		182日	4,520人	12,000人
伝統芸能分野 合計		16回	1,082日	43,898人	211,967人

### ○展示等に関する動画配信

動画コンテンツ名	配信期間	再生回数
国立文楽劇場 資料展示室オリジナル映像コンテンツ 「吉田玉助の系譜」 「舞台の上で生きる女方」 「開場三十周年から三十五周年へ～文楽の5年間～」 「竹本津太夫の至芸」 「五代目竹本綴太夫～SPレコードが伝える芸～」	4/24~6/1	21,500
国立能楽堂収蔵資料展(後期)「能面・能装束展」	4/24~6/1	4,531

「文楽人形×チームマネキン」@東京国立博物館表慶館	4/28～6/1	8,674
演芸資料展 榎本健一没後50年記念『エノケン』	6/5～11/23	4,759
企画展示「歌川豊国—歌川派の役者絵」	7/31～	2,536
伝統芸能講座「江戸の役者に会いにいこう—役者絵の見方」	7/31～	2,366
おうちで「体感！日本の伝統芸能」 歌舞伎篇/雅楽篇/組踊篇	8/17～	14,951
企画展示「歌舞伎の四季」	8/18～9/23	3,025

※再生回数は配信終了日時点又は3月31日時点の数値。

### i. 伝統芸能情報館

- ・ 伝統芸能情報館企画展示「歌舞伎の四季」(4/1～5/25)は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、期間を6月5日から9月22日に変更して公開した。歌舞伎の四季折々の美しさを季節の演目にあわせて、日本の自然美が描かれた錦絵や衣裳を中心に展示した。また、振興会ホームページ内の無料動画配信ポータルサイト「おうちでカンゲキ！！」において「歌舞伎の四季」の展示紹介動画を公開した。
- ・ 伝統芸能情報館企画展示「国立劇場の養成事業 心と技を伝えた50年」(10/1～1/27)では、歌舞伎俳優研修が開始されてから50年を記念し、事業開始から現在に至る養成事業の歩みと伝統芸能の世界で果たしてきた役割について、研修で使われる教材や楽器、研修風景・研修発表会の写真・プログラム等の所蔵資料を通して紹介した。なお、国立文楽劇場においても1/3～3/7の期間同じく養成事業を紹介する展示を実施し、事業データの紹介等、一部共通の資料を展示し両館で連携を行った。
- ・ 振興会が約40年の年月をかけて収集してきた見世物関係の資料を「国立劇場所蔵 見世物資料図録」として刊行した。「見世物の精華」(2/6～3/31)は、図録の刊行にちなんで、国立劇場が所蔵する見世物資料の中から、江戸時代、娯楽の代表として人気を博した、奇術、軽業、曲芸などの資料を中心に見世物の魅力を紹介した。

### ii. 演芸場

- ・ 演芸資料展 榎本健一没後50年記念「エノケン」(4/1～7/26)は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、期間を6月5日から11月23日に変更して公開した。舞台、映画、音楽と幅広く活躍した天才コメディアン・榎本健一の軌跡を、所蔵しているゆかりの資料により紹介した。また、振興会ホームページ内の無料動画配信ポータルサイト「おうちでカンゲキ！！」において「エノケン」の展示紹介動画を公開した。
- ・ 演芸資料展「見世物の『近代』—開国から明治の時代」(12/1～3/21)は、伝統芸能情報館企画展示「見世物の精華」と同じく「国立劇場所蔵 見世物資料図録」刊行にちなんで開催した。国立劇場が所蔵する見世物資料の中から、幕末から明治期のものを取り上げ、西洋化の波が押し寄せた時代に、見世物が映し出した日本の姿を紹介した。

### iii. 能楽堂

- ・ すべての展示で看板・バナー・キャプション・無料配布の出品目録を、日本語・英語・中国語(簡)・韓国語の多言語表記とした。
- ・ 企画展「日本人と自然—能楽と日本美術—」(4/8～6/28)は、「日本博」参画プロジェクトとして、内容をその総合テーマ「日本人と自然」にあわせるとともに、国立能楽堂公演の月間特集(4月「春夏秋冬」、5月「草木成仏」、6月「花鳥風月」)やその上演曲目とも関連させて展示。また、能・狂言の装束・楽器と日本美術(絵画・工芸品)とを比較することで、能楽の理解を深めることのできる展示となった。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、期間を6月5日から6月28日に変更して公開した。展示図録は4月に刊行し、先行して通信販売を行った。
- ・ 入門展「能楽入門」は能のいでたち(扮装)に注目し、能の五番立に従って主な登場人物を面、装束、小道具等によって展示し、初めて能楽堂を訪れる方でも楽しめる入門展とした。日本語、英語、中国語(簡)、韓国語による解説を付したパンフレットを作成して無料配布した。本展も「日本博」参画プロジェクトであり、装束には自然の中に意匠を見出したものを多く展示した。

- ・特別展「勸進能」は、展示期間中に行われる国立能楽堂の公演月間特集テーマ「所縁の能・狂言―勸進能―」にあわせ、室町時代の勸進猿楽にはじまり明治時代まで、京都・江戸・大坂等で行われた勸進能の歴史をひもとく、往時の興行の様子を、関連する絵画・古文書等の様々な資料をもとに具体的に展示した。
- ・収蔵資料展「狂言資料展」は優品を中心に展示しながら、式三番の中での狂言方や、間狂言などにも注目しつつ、継続的な調査・研究により判明した事実を紹介した。特に開場以来収蔵してきた狂言面は、新たに判明した伝来についての事実を解説パネルも併せて掲示し展示した。

#### iv. 文楽劇場

- ・企画展示「文楽の四季」(4/4～5/17)については、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受け開催期間を変更して公開した。開催日数を延長したため、前期(6/5～7/19)と後期(8/1～9/13)で、異なる大道具を設置するなど、一部資料を入れ替えた。展示室内では四季にまつわる演目の公演記録映像を上映した。開催にあたっては展示室への入場者数制限を実施した。
- ・常設展示「文楽入門」(10/10～12/3)では、より文楽を身近に感じ理解を深めていただけるよう文楽の歴史に関連した書籍や年表をはじめ、太夫・三味線・人形の三業に関する資料を中心に、錦秋文楽公演にちなんだ資料を紹介した。また、錦秋文楽公演の「本朝廿四孝(奥庭狐火の段)」上演にあわせて、東京国立博物館表慶館「体感！日本の伝統芸能」展で上映される予定であった「文楽人形×チームマネキン@東京国立博物館表慶館」を展示室内で上映し、八重垣姫を飾り付けるまでの様子を紹介した。
- ・企画展示「国立劇場の養成事業一心と技を伝えた50年―」(1/3～3/7)では、調査養成部と連携し、養成事業の歩みと伝統芸能継承の中で振興会が果たしてきた役割を紹介した。文楽劇場では昭和47年から実施している文楽の養成事業を中心に太夫・三味線・人形の三業の養成研修資料を中心に紹介し、また、文楽劇場開場後に作成した当時の文楽技芸員講師による研修生向けビデオ(一部抜粋)を展示室内で上映した。
- ・文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため主催公演等を中止している期間中に、文楽を見られない観客へのサービスの一環として振興会ホームページ内に開設した無料動画配信ポータルサイト「おうちでカンゲキ！！」で、次のとおり動画を配信した。
  - ◇ 過去に文楽劇場資料展示室で上映した展示用映像(5本=4/24～6/1)
  - ◇ 特別展「体感！日本の伝統芸能」の文楽コーナーでの「三人遣いの文楽人形」を仕上げるまでのメイキング映像(1本=4/28～6/1)

#### v. 国立劇場おきなわ

- ・第1回企画展「極める一人間国宝の横顔―」は当初4/11～6/21までで予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、7/11～9/20に時期をずらして実施した。人間国宝に認定された8人の方々の楽器・衣装・映像等を展示し、これまでの功績を振り返るとともに、普段、知ることのできない様々な一面を紹介した。(企画展の来場者数:693名)
- ・第2回企画展「首里城と芸能」(10/3～12/20)と関連して、首里城復興祈念、公演記録鑑賞と講座を2回実施した。10/13に「史実と史劇『首里城明け渡し』」を、10/20には「首里城のうとういむち」及び「からくり仕掛け花火」を実演し、好評を得た。(企画展の来場者数:2,046名、特別講座の参加者数:10/13 111名 10/20 115名)
- ・第3回企画展「琉球舞踊を彩る織物」(1/16～3/21)と関連して、2/10に公演記録鑑賞と講座「織物からみる琉球舞踊」を実施し、琉球舞踊に彩りを与える織物について理解を深めた。(企画展の来場者数1,781人、鑑賞と講座の参加者数 114人)
- ・京都公演公演(11/29)では、紅型衣装1点、緋2点、芭蕉布1点、小道具7点等11点を展示した。

#### 《アンケート結果》

	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
企画展示「歌舞伎の四季」(6/5～9/22)		25人		24人		96.0%
企画展示「国立劇場の養成事業一心と技を伝えた50年―」(10/1～1/27)		27人		27人		100.0%
演芸資料展「榎本健一没後50年「エノケン」」(6/5～11/23)		94人		90人		95.7%
演芸資料展「見世物の『近代』―開国から明治の時代」(12/1～3/21)		63人		61人		96.8%

国立劇場おきなわ全展示期間中		43人		41人		95.3%
----------------	--	-----	--	-----	--	-------

※国立能楽堂及び文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、アンケートは実施しなかった。

#### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・国立劇場の重要な事業である養成事業の展示は、表や年表を活用して解説され、事業の成果を示していた。
- ・国立劇場と演芸場では見世物の展示が行われ、関連講座も開催されている。加えて長期にわたって収集してきた資料を収録した図録の刊行もあり、充実した活動ぶりがうかがえる。
- ・国立劇場の展示のミッションは入門的なもの、研究、事業紹介などがありますが、本年度はバランスよく実施されています。中でも国立能楽堂の「勸進能」、国立劇場の「見世物の精華」は研究者に注目されるもので、大変勉強になりました。
- ・能楽堂の特別展「勸進能」の図録は、解説のレベルや網羅的に掲載された資料のボリュームなどを高く評価したい。松岡心平、宮本圭造氏による関連講座も実施され、好企画だったと言える。

#### (d) 展示図録の刊行

- i. 企画展「日本人と自然」図録(能楽堂・再掲)
- ii. 特別展「勸進能」図録(能楽堂・再掲)

- ・企画展「日本人と自然 ―能楽と日本美術―」(4/8～6/28)は、「日本博」参画プロジェクトとして、内容をその総合テーマ「日本人と自然」にあわせるとともに、国立能楽堂公演の月間特集(4月「春夏秋冬」、5月「草木成仏」、6月「花鳥風月」)やその上演曲目ともあわせて展示。能・狂言の装束・楽器と日本美術(絵画・工芸品)とを比較展示することで、能楽の理解を深めることのできる展示となった。新型コロナウイルス感染症対策に係る政府からの要請を受け、期間を6月5日から6月28日に変更して公開。なお、展示図録は4月に刊行し、先行して通信販売を行った。
- ・特別展「勸進能」は、中世から明治までの勸進能を、美術館・博物館、シテ方各宗家等の所蔵資料によって展覧した。展示図録には監修の宮本圭造氏による論考「勸進能の歴史」や、網羅的な勸進能年表を掲載し、資料的にも貴重な文献となった。

#### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・能楽堂の特別展「勸進能」の図録は、解説のレベルや網羅的に掲載された資料のボリュームなどを高く評価したい。(再掲)

## (2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

### ア 公演記録の作成・活用

#### ①作成実績

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 43 公演(中止 26 回)、扮装図鑑 5 公演(公演中止 2 公演)、文楽人形等 0 公演(公演中止 2 公演、撮影中止 4 公演)
能楽堂	映像・音声・写真 53 公演(中止 14 公演)
文楽劇場	映像・音声 5 公演(中止 6 公演)、写真 7 公演(中止 6 公演)、文楽人形等 2 公演(中止 3 公演)
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 15 公演、小道具写真 2 公演

- ・公演内容に応じて、扮装図鑑・下座の附帳・文楽人形・小道具等の写真による記録を作成した。

#### ②活用実績

##### (a) 視聴(映像資料及び音声資料)

	一般	関係者(出演者等)	合計
本館	106 件( 171 時間)	44 件( 56 時間)	150 件( 227 時間)
能楽堂	766 件(1,294 時間)	325 件(398 時間)	1,091 件(1,692 時間)
文楽劇場	129 件( 184 時間)	435 件(533 時間)	564 件( 716 時間)

国立劇場おきなわ	155 件( 223 時間)	607 件(713 時間)	762 件( 936 時間)
----------	----------------	---------------	----------------

(b) 複製(映像資料及び音声資料)

区 分	関係者(出演者等)
本館	39 件(125 時間)
能楽堂	145 件(129 時間)
文楽劇場	184 件(693 時間)
国立劇場おきなわ	19 件( 21 時間)

※時間は項目ごとに切上げ又は切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

- ・ 出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。
- ・ 伝統芸能情報館では企画展示の都度、シアタースペースにおいて展示内容に因んだ過去の公演記録映像や入門的な映像等 10 分～30 分程度のを数編用意し、来場者の選択により上映。
- ・ 文楽劇場では企画展示「文楽の四季」(6/5～9/13) で、四季にまつわる演目の過去の公演記録映像を 10 分～20 分程度に編集したものを展示室内において上映。
- ・ 国立劇場おきなわでは、企画展示の都度、展示室内において展示内容に因んだ過去の公演記録映像を 10 分程度に編集して上映した。

イ 普及活動

①伝統芸能に関する公開講座等

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

会場	名称	回数	目標回数	アンケート 有意義回答の割合
伝統芸能情報館	伝統芸能講座	1 回	1 回	92.7%
	公演記録鑑賞会	8 回	8 回	96.9%
能楽堂	能楽鑑賞講座	5 回	5 回	93.6%
	能楽特別講座	2 回	2 回	89.9%
文楽劇場	公演記録鑑賞会	8 回	8 回	-
	伝統芸能講座	0 回	0 回	-
	文楽特別講座	0 回	0 回	-
国立劇場おきなわ	公演記録鑑賞会	3 回	3 回	74.1%
	沖縄伝統芸能公開講座	3 回	3 回	74.1%
合計		30 回	30 回	85.4%

(年度当初の計画)

会場	名称	回数	目標回数	アンケート 有意義回答の割合
伝統芸能情報館	伝統芸能講座	1 回	7 回	92.7%
	公演記録鑑賞会	8 回	12 回	96.9%
能楽堂	能楽鑑賞講座	5 回	8 回	93.6%
	能楽特別講座	2 回	5 回	89.9%
文楽劇場	公演記録鑑賞会	8 回	12 回	-
	伝統芸能講座	0 回	1 回	-
	文楽特別講座	0 回	4 回	-
国立劇場おきなわ	公演記録鑑賞会	3 回	4 回	74.1%
	沖縄伝統芸能公開講座	3 回	4 回	74.1%
合計		30 回	57 回	85.4%

#### (a) 伝統芸能情報館

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、7月まで公演記録鑑賞会を中止していたが、8月から定員を120名から56名に減らし、席は自由席制から座席指定制に変更するなどの感染症対策を講じた上で開催。
- ・第479回公演記録鑑賞会(9/11)は、上映前に新井弘順氏(真言宗豊山派宝玉院住職)が解説を行う特別公演記録鑑賞会として開催。
- ・第78回伝統芸能講座「見世物の楽しみ」(3/13)は、演芸資料展「見世物の『近代』—開国から明治の時代」、企画展示「見世物の精華」、「国立劇場蔵 見世物資料図録」の監修者である川添裕氏を講師に迎えて見世物資料の魅力と国立劇場の資料収集の歴史と成果について講演を行った。

#### (b) 能楽堂

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4講座が開催中止・延期となった。9月再開後は定員半数以下の70人に制限して開催した。
- ・12月には当初7月に予定していた「伝承者養成事業50周年」にあわせた記念講座を延期して開催し、国立能楽堂養成事業開始以来携わってきた講師と研修修了者を講師に迎え、当時の研修の様子を彷彿させる話を聞くことができた。
- ・9、10、1、2月には翌月の主催公演の曲目に関連した公開講座を開催し、特に2月は「名取ノ老女」の公演記録をふんだんに使用した講座が行われた。
- ・特別展関連講座「勸進能」では松岡心平氏の基調講演と、監修者の宮本圭造氏による分かりやすく、なおかつ専門的な講座を実施した。
- ・1月には東京能楽囃子科協議会の協力を得て、第1回能楽囃子講座を開催し、囃子方能楽師4人の実演を交えて、囃子の構造を解説する講座を有料で初めて開催した。

#### (c) 文楽劇場

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、7月まで公演記録鑑賞会を中止したが、8月以降は感染症対策を講じた上で実施した。なお、8月からの実施にあたり、密を避けるために席数を減らした上で抽選による座席指定制とした。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、アンケートは実施しなかった。
- ・公開講座等については、新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを低減するため中止した。

#### (d) 国立劇場おきなわ

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月まで予定していた講座、鑑賞会を中止し、10月再開以降は、定員制限や、座席指定など、感染症対策を講じた上で実施した。
- ・首里城復興祈念として、10月に「首里城と芸能」と題した公演記録鑑賞と講座を2回実施した。1回目は、10/13に「史実と史劇『首里城明け渡し』」をテーマに映像鑑賞と講座を実施し、2回目は、10/20に「首里城のうとういむち」をテーマに講座とともに野外で「からくり仕掛け花火」を実演した。期間中、「首里城と芸能」と題した展示を開催することで、首里城を見つめ、復興への祈念とした。
- ・2/10には「織物からみる琉球舞踊」と題し、公演記録鑑賞と講座を実施した。柳悦州氏による織物についての講義を行った後、昭和初期に制作された短編映画、及び織物を題材にした琉球舞踊3作品を鑑賞した。期間中、「琉球舞踊を彩る織物」と題した展示を開催することで、沖縄の伝統工芸品である織物への理解を深めた。
- ・公演記録鑑賞会は、講座と同時開催し、10/13には「首里城明け渡し」を、10/20には令和元年の屋外における復元公演「執心鐘入」を鑑賞し、首里城への理解を深める機会となった。また、2/10には、昭和初期に制作された伝統工芸品の制作過程等を描いた短編映画「琉球の風物」「琉球の民芸」と、昭和50年代頃に国立劇場で上演された織物を題材にした琉球舞踊3作品の映像を鑑賞した。

#### 《調査事業委員会における外部専門家からの主な意見》

- ・松岡心平、宮本圭造氏による関連講座も実施され、好企画だったと言える。(再掲)
- ・令和2年度に第1回が開催された特別講座「能楽囃子講座」の第2回と第3回が開催されることに期待したい。関西の能楽囃子ユニットであるTTRは、公演活動だけでなくワークショップやレクチャーにも力を入れているが、単発のレクチャーを受けた受講者が公演にも足を運ぶようになり、サポーターのような存在になっていると聞いた。弟子入りするのを躊躇しても、囃子に興味を持っている人は多いのではないかと思われる。東京能楽囃子科協議会というプロ中のプロの協力を得た本講座の開催は、そのような人たちの受け皿としても、また能楽普及の面でも期待がもてる。

②公演の実施にあわせた関連講座・展示等

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	満足回答率
演芸レクチャーデモンストレーション 「楽しもう演芸の世界」	3/20・21	伝統芸場情報館 レクチャー室	無料	金原亭馬生、東家孝太郎、 ケン正木、田辺凌鶴ほか	66人	100.0%
組踊ワークショップ	7/18	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	玉城 匠、山城 峻称、大城 貴幸	11人	100.0%
劇場バックステージツアー	8/1	国立劇場おきなわ 大劇場	無料		20人	100.0%
劇場バックステージツアー	8/1	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原崇弘、伊藝武士、高井 賢太郎、比嘉克之、棚原健 太、新垣勝裕	20人	98.1%
劇場バックステージツアー	8/2	国立劇場おきなわ 大劇場	無料		38人	100.0%
劇場バックステージツアー	8/2	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原崇弘、伊藝武士、高井 賢太郎、比嘉克之、棚原健 太、新垣勝裕	38人	98.1%
組踊ワークショップ	9/26	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原 崇弘、比嘉 大志、徳 田 泰樹	11人	100.0%
組踊ワークショップ	10/31	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原 崇弘、比嘉 大志、徳 田 泰樹	10人	71.4%
外国人のための組踊ワークショップ	11/21	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原 崇弘、比嘉 大志、徳 田 泰樹	18人	100.0%
組踊ワークショップ	12/12	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原 崇弘、比嘉 大志、徳 田 泰樹	18人	88.9%
組踊ワークショップ	1/30	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	西門 悠雅、上原 崇弘、大 城 貴幸	4人	100.0%
組踊ワークショップ	3/13	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	岸本隼人、比嘉大志、徳田 泰樹	11人	100.0%

③公演記録映像の有効活用

○公演記録映像を活用した動画配信

動画コンテンツ名	配信期間	再生回数
国立劇場 令和2年3月歌舞伎公演 「義経千本桜」A～Cプロ	4/6～4/30	約 423,000
国立文楽劇場 平成31年4月文楽公演 「仮名手本忠臣蔵 第一部～第三部」	4/30～6/1	48,029
国立劇場 平成30年7月伝統芸能の魅力 「大人のための雅楽入門」「大人のための声明入門」	5/14～6/30	19,598
国立文楽劇場 平成31年1月公演 「壇浦兜軍記 阿古屋琴責の段」	5/28～6/30	24,024
国立文楽劇場 平成31年4月文楽公演 「祇園祭礼信仰記 金閣寺の段 爪先鼠の段」	6/15～7/15	10,222
国立文楽劇場 平成30年1月文楽公演 「良弁杉由来 東大寺の段・二月堂の段」	6/30～7/31	5,933
国立劇場 平成28年9月舞踊公演 「奴道成寺」	6/30～8/31	10,099
国立劇場 平成16年11月舞踊公演 「珠取海士」	7/7～8/31	4,657
国立劇場 令和元年8月舞踊公演 「連獅子」	7/14～8/31	8,165
国立文楽劇場 平成30年4月文楽公演 「本朝廿四孝 景勝下駄の段・勘助住家の段」	7/15～8/17	6,141
国立文楽劇場 令和元年7・8月文楽公演 「かみなり太鼓」	7/17～8/31	9,111
国立文楽劇場 平成30年11月文楽公演 「桂川連理柵 帯屋の段・道行隴の桂川」	7/31～8/31	6,557

国立文楽劇場 平成 29 年 11 月文楽公演 「八陣守護城 主計之介早討の段・正清本城の段」	8/17～9/17	4,507
国立文楽劇場 平成 26 年 11 月文楽公演 「双蝶々曲輪日記 八幡里引窓の段」	8/31～9/30	5,849
琉狂言「墨塗」 ※平成 30 年 2 月公演記録映像より	6/5～6/19	422

※再生回数は配信終了日時点又は 3 月 31 日時点の数値。

- ・公演記録鑑賞会(伝統芸能情報館、文楽劇場、国立劇場おきなわ)を定期的に開催し、国立劇場、演芸場、文楽劇場、国立劇場おきなわで過去に上演された公演記録映像を相互に活用した。(伝統芸能情報館及び文楽劇場では新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 7 月まで中止)
- ・伝統芸能情報館では企画展示の都度、シアタースペースにおいて展示内容に因んだ過去の公演記録映像や入門的な映像等 10 分～30 分程度のものを用意し、上映した。
- ・企画展示「文楽の四季」(6/5～9/13)では、四季にまつわる演目の公演記録映像を上映した。
- ・国立劇場おきなわでは、企画展示の都度、展示室内において展示内容に因んだ過去の公演記録映像を 10 分程度に編集して上映した。
- ・振興会ホームページ内の無料動画配信ポータルサイト「おうちでカンゲキ!!」(9 月まで)、「国立オンライン劇場」(10 月から)において、公演記録映像を活用した動画を配信した。また、英語版ホームページ内に「National Theatre Online」を開設し、J-LODlive 等にて作成された海外配信用動画(無料)の公開を開始した。
- ・文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため主催公演等を中止している期間中に、文楽を見られない観客へのサービスの 일환として振興会ホームページ内に開設した無料動画配信ポータルサイト「おうちでカンゲキ!!」で、次のとおり動画を配信した。
  - ◇ 令和元年度に上演の仮名手本忠臣蔵全段のダイジェスト動画(3 本=4/30～6/1)
  - ◇ 過去の公演記録に字幕を付けた動画(8 本=5/28～月 2 回の割合でそれぞれ約 1 か月)
- ・また、「おうちでカンゲキ!!」から移行した「国立オンライン劇場」では、公演記録映像を活用した有料動画配信を、公演を再開した直後の 8 月「文楽素浄瑠璃の会」から開始した。この動画配信は、公演終了後なるべく短期間で配信を開始することとし(錦秋文楽公演、初春文楽公演では千種楽の翌日から配信開始)、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により来場できない観客だけではなく、時間的・地理的・社会的制約により来場困難な観客層への新たな鑑賞機会を提供する場とするとともに振興会の収入増加を図った。配信した動画は次のとおり。
  - ◇ 文楽素浄瑠璃の会(8/29～9/11)(視聴券販売枚数: 135 枚)
  - ◇ 錦秋文楽公演(11/24～12/15)(視聴券販売枚数: 377 枚)
  - ◇ 初春文楽公演(1/25～2/15)(視聴券販売枚数: 438 枚)
  - ◇ 浪曲名人会(3/6～3/20)(視聴券販売枚数: 29 枚)
- ・国立劇場おきなわでは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演中止となった 9 月普及公演沖縄芝居鑑賞教室「泊阿嘉 ～泊高橋の場～」、「亀さんよ」について、記録映像を撮影し、期間限定で YouTube において公開した。

#### 《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

- ・コロナ禍における動画配信は意義のある企画であった。著作権その他の権利処理が難しいと思うが、継続してほしい。
- ・公演記録の配信事業については、学生が古典芸能を観劇できない状況の中、鑑賞機会を設けることができたので教育現場においても大変有益であった。

#### ④組踊等沖縄伝統芸能の普及活動の充実

- ・学校に実演家が赴いて、学生に琉球芸能の魅力を伝えるおでかけワークショップを引き続き実施した。



## 4 - (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

### 《中期計画の概要》

#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術の公演の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

##### (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術に関し、上演作品等についての資料調査を実施

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する

他の劇場施設等への貸与を実施

ウ 収集した資料等を新国立劇場その他の施設において展示し、インターネット等を有効利用して公開

エ 舞台美術センター資料館については、現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方を現行中期目標期間中に検討

##### (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る

公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

### 《年度計画の概要》

#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

##### (3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施

① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用、調査結果を活用して講演会等を実施

② 他劇場等の情報を収集して公演の充実等に活用、公演プログラム等において公開

③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存、他の劇場施設等への貸与

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供する他の劇場施設等への貸与を実施

① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮し利用促進に努める

② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化を実施

③ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を実施

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 11 のとおり実施

舞台美術センター資料館の現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方について、引き続き検討

ホームページで公開している「主催公演記録データベース」の充実に努める

##### (4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、現代舞台芸術の研究等に活用

イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施

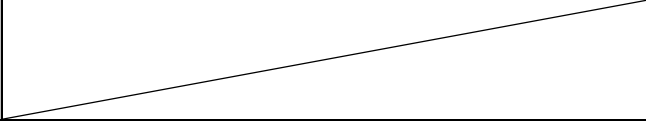
① 現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 12 のとおり実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実に努める

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開

③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

《中期目標の指標・関連指標》

<p>4-1 展示公開の来場者数 (前中期目標期間実績以上)</p>	<p>1,065 人 (H25-29 実績平均 : 801.4 人)</p>
<p>4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)</p>	
<p>4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)</p>	<p>P. 209 に掲載</p>

## ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

### ①現代舞台芸術に関する調査研究・調査結果の活用

- ・小川絵梨子演劇芸術監督及び3名の委員による「演劇研究会」を定期的で開催し、その成果として演劇制作の現場や舞台の周辺など様々な切り口で掘り下げる「ギャラリー・プロジェクト」を開催。令和2年度においては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「公演ガイドツアー」「トークセッション」「中高生のためのどっぶり演劇2Days オンライン」をオンラインにて実施した。
- ・演劇公演において、公演終了後に演出家・出演者が登壇し演出の狙いや制作過程等について語り合う「シアタートーク」を開催。(新型コロナウイルス感染症拡大の影響で公演中止となった「反応工程」「ガールズ&ボーイズ Girls & Boys」「ガラスの動物園」を除く4公演で実施)
- ・オペラ「アルマゲドンの夢」指揮の大野和士、作曲の藤倉大、演出のリディア・シュタイアー、台本のハリー・ロスをゲストにYouTubeライブ配信でのオペラトークを開催。世界初演となるこの作品のコンセプトや、コロナ禍における上演を敢行した意義などを対談形式で解説し、カバー歌手による歌唱も交えて、充実した内容で新作オペラへの期待感醸成を図った。また、後日アーカイブ映像を公開した(11/13、無料)
- ・現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として下記公演プログラムに掲載。
  - ◇ オペラ：6冊
  - ◇ 演劇：4冊
- ・平成26年に刊行した「バロック・オペラ―その時代と作品」をオンラインにて公開した(3/26～)。

### ②他劇場等の情報収集・活用

- ・「演劇研究会」により日本の劇場(鳥の劇場、せんだい演劇工房 10-BOX、まつもと市民芸術館)を調査研究し、成果を演劇公演プログラム(3冊)に掲載した。
- ・国内外の劇場について、劇場のホームページや年報等の情報を基に資料収集・調査を実施。

### ③公演記録の整理・保存・他劇場等への貸与

- ・主催公演のプログラム、上演台本、ポスター等の主催公演資料を管理システムに登録、公開。
- ・主催公演の出演者やスタッフ等の情報について、公演記録データベースの作成作業を進めた。
- ・公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した(9件)。

## イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用

### ①情報センターの利用促進

#### (a) 収集・公開実績

区分	収集		公開					
	図書	資料	利用者数	開室日	ビデオブース利用※	タブレット利用	ビデオシアター利用	図書貸出
情報センター閲覧室	504冊	25点	1,065人	182日	-	276人	-	308件
舞台美術センター資料館			-	-	-			

- ・上演される公演にあわせて、関連書籍、過去の公演のプログラム等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。
- ・「新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき、接触機会の低減や適切な換気など、感染症対策を取りながら開室した。
- ・閲覧室に「調査研究関連コーナー」を設置(年間15コーナー)、情報センターが収蔵する資料から舞台芸術に関する調査、研究報告書をピックアップして開架し、ホームページでも紹介した。
- ・バレエ「眠れる森の美女」などの上演に関連する、新国立劇場所蔵資料を展示。その一例として、レオン・バクストによる「眠れる森の美女」デザイン画を情報センター内で展示し、また情報センターホームページにてオンライン公開し、のべ約100人の来室があった。展示内容を劇場公開空地等の展示と連動させ案内ちらしを作成する等、情報センターへ訪れやすい環境を整えた。
- ・令和元年度に続き「初台アート・ロフト」第二弾として、10月8日より衣裳展示「ファンタジー展」や、衣裳修復・保存事業、また様々な手仕事を取材するシリーズなど、動画配信を用いて広く発信し、劇場に来たことのない方へのアプローチに努めた。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため劇場内の動線が制限されているため、展示内容の説明や、キュレーションについて解説する動画等を公開し、劇場に来館できない方への発信にも努めた。
- ・ホームページの情報センターページをリニューアルし、調べたい項目へのアクセスしやすく工夫した。
- ・情報センター閲覧室を、予定の休室日に加え以下を休室とした  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 4/1～7/15
- ・情報センター内ビデオシアター及びビデオブースについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため年度を通して閉鎖とし、公演記録映像の閲覧についてはタブレット機器の貸出によって実施した。
- ・舞台美術センター資料棟を、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館とした。

## (b) 活用実績

区分	活動名	会場	主催等	活用内容	期間
全ジャンル	「初台アート・ロフト」ファンタジー展	新国立劇場内 1～3階 オープンスペース	主催:新国立劇場 監修:桜井久美	舞台装置模型・衣裳 小道具等を使用	10/8～ ※4/1～7/8においては劇場施設が休館・以後も公開空地内への立ち入りが制限されている
オペラ・バレエ	「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界 ～ Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～」	東京スカイツリー ソラマチ	主催:新国立劇場	舞台装置模型・衣裳を使用	2/27～28

## ②図書等の情報のデータベース化(図書資料管理システム)

- ・単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収集情報をホームページで公開した。

## ③寄贈資料・公演関連資料のデータベース化(所蔵品管理システム)

- ・公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報をホームページで公開した。

## ウ 資料等の展示公開

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数	目標来場者数
新国立劇場内	公演関係展示(劇場ホワイエ)	随時	7日	11,905人	
	公演関連展示(情報センター)※2	随時	180日	1,065人	25,000人

(年度当初の計画)

展示室	企画内容	期間	日数	来場者数	目標来場者数
舞台美術センター 資料館※1	「オペラ・バレエ衣裳展示」 ※中止	通年	-	-	500人
	企画展(途中入替) ※中止	通年	-	-	
新国立劇場内	公演関係展示(劇場ホワイエ)	随時	7日	11,905人	
	公演関連展示(情報センター)※2	随時	180日	1,065人	25,000人
	公演関連展示(劇場内公開空地)	随時	175日	-	25,000人

※1 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、前年度2/28からの休館を継続中

※2 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、前年度2/28～7/8まで休室

- ・2019年7月にオープンした「初台アート・ロフト」は、新型コロナウイルス感染症拡大による劇場施設の休館(4/7～7/8)と、感染防止対策の一環としての動線の制限のため、十分な公開が叶わなかったが、10月8日からは「ファンタジー展」として舞台衣装の専門家である桜井久美氏による監修のもと、新

たな展示方式で、舞台装置や衣装等を公開している。また、展示の工夫や衣装の補修工程を解説する動画やウェブマガジン形式での発信を取り入れ、劇場内での展示に留まらない発信を展開している。

動画コンテンツ名	配信期間	再生回数
初台アートロフト『ファンタジー展』(2020年10月開設)	10/9～	916
2020年 初台アート・ロフト ～『ホフマン物語』ジュリエッタ衣装修復プロジェクト～	12/2～	598
初台アート・ロフト   シリーズ いま、こころ七彩マネキン工房 Day1	12/2～	293
初台アート・ロフト   シリーズ いま、こころ七彩マネキン工房 Day2	12/2～	306

再生回数は3月31日現在

- 令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症対策のため「初台アート・ロフト」該当エリアへの立ち入りができなくなったが、公演来場者の目に留まるエリアに展示の一部を移すなどして企画の維持に努めた。参考値として展示エリアの一部である劇場ロビーを通過した人数(=オペラ・中劇場の入場者数)を示す。なお、本展示は10/8から公開された。

10月：21,799人 11月：22,960人 12月：17,889人 第3四半期計：62,648人

1月：14,949人 2月：20,766人 3月11,953人 第4四半期計：47,668人

令和2年度計：110,316人

- バレエ「眠れる森の美女」などの上演に関連した、新国立劇場所蔵資料を展示。その一例としてレオン・バクストによる衣裳のデザイン原画を展示し、オンラインで公開した。そのほか情報センターでは、主催公演に合わせて関連図書を集め展示したほか、「初台アート・ロフト」に関連した資料も揃え来場者が自由に手に取って閲覧できるようにした。
- 多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリー ソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界 ～Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～」を開催し、舞台装置模型及び衣裳を展示した。あわせてミニ・コンサートも実施し、劇場の紹介と舞台芸術の普及に努めた。(2/27～28)

#### (4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

##### ア 公演記録の作成・活用

###### ① 作成実績

区分	記録件数・内容
新国立劇場	映像・音声・写真 14 公演

###### ② 活用実績

媒体	公開
記録写真	14 公演
記録映像	0 件

- 記録写真をHPの「舞台写真・公演記録」ページで、記録映像を情報センターで公開した。
- 公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出(9件)。
- 多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリー ソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界 ～Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～」を開催し、公演の舞台写真を舞台装置模型及び衣裳とともに展示した。(2/27～28)

##### イ 普及活動

###### ① 現代舞台芸術に関する公開講座等

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

会場	名称	回数	目標回数	アンケート 有意義回答の割合
新国立劇場内	現代舞台芸術講座 (ギャラリー・プロジェクト他) ※オンライン開催	9回	15回	-
	特別上映会	12回	24回	87.7%

合計	21回	39回	87.7%
----	-----	-----	-------

(年度当初の計画)

会場	名称	回数	目標回数	アンケート 有意義回答の割合
舞台美術センター 資料館	現代舞台芸術公開講座 ※中止	0回	2回	-
	DVD 現代舞台芸術鑑賞会 ※中止	0回	32回	-
新国立劇場内	現代舞台芸術講座 (ギャラリー・プロジェクト他) ※オンライン開催	9回	15回	-
	現代舞台芸術鑑賞会 (情報センター上映会) ※中止	0回	32回	-
	特別上映会	12回	24回	87.7%
合計		21回	105回	87.7%

(a) 舞台美術センター資料館

名称	会場	日程	開演時間	参加者数	アンケート 有意義回答の割合
舞台美術センター オペラコンサート 「銚子?のいい仲間たち」	舞台美術センター資料館 1F 展示ホール	10月	-	-	-

・令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため実施を見送った。

(b) 新国立劇場内

i. 現代舞台芸術講座(ギャラリー・プロジェクト他)

小川絵梨子演劇芸術監督及び3名の委員による「演劇研究会」を定期的で開催。その成果として、下表のとおり、演劇制作の現場や舞台の周辺など様々な切り口で掘り下げる「ギャラリー・プロジェクト」を開催。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全ての取組をオンラインにて配信した。

《ギャラリー・プロジェクト開催実績》 9講座(9回)

内容	会場	日程	参加者数	アンケート 有意義回答 割合
『反応工程』公演ガイドツアー(中止)	小劇場	4/15	-	
トークセッション「演劇のおしごと Vol.8～衣裳家とは?～ (ギャラリー・プロジェクト) (中止)※オンライン開催	小劇場	4/25	-	
トークセッション「演劇のおしごと Vol.9 ～「翻訳家」とは?～ (ギャラリー・プロジェクト) (中止)※オンライン開催	小劇場	5/20	-	
『ガールズ&ボーイズ』公演ガイドツアー(中止)	小劇場	5/30	-	
オンラインバックステージツアー『願いがかなうぐつぐつカクテル』	オンラインにて無料公開	7/17～31	1,849回※	
ギャラリー・プロジェクト「おうちで絵本読み聞かせ」	当日 Twitter と Instagram にて無料ライブ配信	7/19	240回※	
オンラインバックステージツアー『イヌビト～犬人～』	オンラインにて無料公開	8/14～31	1,805回※	
『中高生のためのどっぶり演劇 2Days オンライン』	オンラインに	8/9～10	20人	

	て(参加費 1,000 円/20 名まで可)			
トークセッション「演劇のおしごと Vol.8 ～「翻訳家」とは?～」	オンライン	9/25～ 10/31	1,282 回※	
トークセッション「演劇のおしごと Vol.9～「衣裳家」とは?～」	オンライン	10/23～ 11/30	2,738 回※	
オンラインバックステージツアー『リチャード二世』	オンラインに て無料公開	10/13～ 11/8	4,169 回※	
オンラインバックステージツアー『ピーター & ザ・スターキャッチャー』	オンラインに て無料公開	12/21～	9,690 回※	
ギャラリー・プロジェクト「おうちで絵本読み聞かせ」(ピーター & ザ・スターキャッチャー)	オンラインに て無料公開	12/24～ 1/31	2,187 回※	
<b>合計</b>				

新制作オペラの作品理解を深めるために、カバー歌手の歌唱を交えた音楽解説、演出家等のスタッフによる講座などを下表のとおり開催した。(1回)

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止されたオペラ公演「ホフマン物語」にちなんで大野和士芸術監督が国内の実力ある歌手とともにオペラのアリアを解説する「オペラ玉手箱」を YouTube にて配信した。(2回)

内容	会場	日程	参加者数
大野和士のオペラ玉手箱 with Singers「ホフマン物語」	YouTube にて配信	4/22～	-
特別映像企画 大野和士のオペラ玉手箱 with Singers 大野和士セレクト「オペラ名曲集」ウェルディ～サン＝サーンス～ブッチェーニ	YouTube にて配信	5/19～	-
オペラ「アルマゲドンの夢」オペラトーク	YouTube にてライブ配信	11/13	-
<b>合計</b>			

## ii. 公演記録映像上映会

- 例年月例で実施していた情報センターでの上映会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会場であるビデオシアターの使用を停止しているため、実施を見送った。
- 特別上映会として、10月演劇公演「リチャード二世」の上演にちなみ、過去に上演したシェイクスピアの歴史劇シリーズから「ヘンリー六世」「リチャード三世」の記録映像を中劇場で上映した。

名称	会場	日程	上映内容	参加者数	アンケート 有意義回答の割合
特別上映会 シェイクスピア歴史劇 シリーズ特別上映会	中劇場	10/27～11/3	2009年上演「ヘンリー六世」(A プログラム) 2012年上演「リチャード三世」(B プログラム)	2,575人	87.7%

## ②公演の実施にあわせた関連講座・展示等

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数
新国立劇場バレエ団 こどものためのバレエ劇場 2020「竜宮」長崎公演関連イベント アルカス SASEBO 文化茶話～新国立劇場バレエ団と初コラボ！振付家・森山開次に聞く～	8/30	アルカス SASEBO イベントホール	一般 1,200 円 こども 500 円 (チケット購入者、アルカスクラブ会員は無料)	森山開次、稲田奈緒美	75名
眠れる森の美女関連イベント「クラスレス見学会」	11/15	札幌文化芸術劇場 hitaru	500 円	新国立劇場バレエ団	180名

## ③公演記録映像等の有効活用

- 「タージマハルの衛兵」(2019年12月公演)がBSプレミアム「プレミアムステージ」にて放送された。(5/3)
- 「トロイ戦争は起こらない」(2017年10月公演)がBSプレミアム「プレミアムステージ」にて再放送

された(1/10)

- ・「ニューイヤー・バレエ」(2020年1月公演)がBSプレミアム「プレミアムステージ」にて再放送された。(1/24)
- ・「World Ballet Day 2020」に新国立劇場が参加し、Facebook 及びYouTube にて新国立劇場バレエ団のリハーサル風景等をライブ配信したほか、7月に上演した世界初演・新作バレエ作品「竜宮 りゅうぐう」の公演映像を発信した。(10/29)
- ・World Opera Day 2020 に新国立劇場が参加し、ベートーヴェン作曲第九交響曲より第4楽章の抜粋を新国立劇場合唱団と4人のソリストが歌唱する映像を配信したほか、2019年7月公演「トゥーランドット」の公演映像を配信した。(10/23～30)
- ・オペラ及び舞踊芸術監督による2019/2020シーズン紹介動画や各公演の宣伝動画等に公演記録映像を使用。インターネット配信や劇場ホワイエ等で上映し、周知に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大による公演中止期間にも、舞台芸術の魅力を幅広く発信すべく、新国立劇場で上演されたオペラ・バレエの公演映像をホームページ上で無料でストリーミング配信する「巣ごもりシアター」(英語名:NNTT at home)を企画・実施した。

動画コンテンツ名	公開期間	再生回数(回)
2018/2019 シーズン オペラ「魔笛」	4/10～4/17	32,475
2018/2019 シーズン オペラ「トゥーランドット」	4/17～4/24	38,590
2019/2020 シーズン オペラ「エウゲニ・オネーギン」	4/24～5/1	49,909
2019/2020 シーズン オペラ「ドン・パスクワレ」	5/15～5/22	8,072
2018/2019 シーズン オペラ「紫苑物語」	5/22～29	4,668
2018/2019 シーズン オペラ「紫苑物語(英語字幕版)」	5/22～5/29	500
2018/2019 シーズン オペラ「魔笛」(アンコール配信)	6/5～6/12	6,770
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019 オペラ「蝶々夫人」	6/12～6/19	8,673
2018/2019 シーズン オペラ「ウェルテル」	6/19～6/26	4,691
2019/2020 シーズン バレエ「マノン」	5/1～5/8	36,432
2015/2016 シーズン バレエ「ドン・キホーテ」	5/8～5/15	39,025
2016/2017 シーズン バレエ「ロメオとジュリエット」	5/29～6/5	19,853

- ・新型コロナウイルス感染症拡大による公演中止期間にも、舞台芸術の魅力を幅広く発信すべく、新国立劇場で上演された演劇の戯曲を期間限定で公開する「巣ごもりシアター おうちで戯曲」を企画・実施した。

作品名	公開期間	アクセス数(回)
蓬萊竜太『エネミイ』	4/23～5/7	2,155
早船 聡『鳥瞰図』	4/23～5/7	1,716
倉持 裕『イロアセル』	4/30～5/14	1,344
長塚圭史『音のいない世界で』	4/30～5/14	1,309
蓬萊竜太『まほろば』	5/7～5/21	1,693



鄭 義信『焼肉ドラゴン』	5/7～5/21	1,742
長塚圭史『かがみのかなたはたなかのなかに』	5/14～5/28	1,385
鄭 義信『赤道の下のマクベス』	5/14～5/28	1,012
蓬萊竜太『消えていくなら朝』	5/21～6/4	1,312
坂手洋二『現代能楽集 鶴』	5/21～6/4	612
別役実『月・こうこう , 風・そうそう』	5/28～6/11	589

- 台湾の台中国立歌劇院が 2 月中旬に開催した舞台映像上映会にて、新国立劇場の公演記録映像が上映された。(無料、途中入退場可)

上映会名	会場	期間	回数	参加者数
台中国立歌劇院 舞台映像上映会 バレエ「ドン・キホーテ」	台中国立歌劇院小劇場	2/12	1 回	138 人
台中国立歌劇院 舞台映像上映会 バレエ「竜宮 りゅうぐう」	台中国立歌劇院小劇場	2/13	1 回	107 人
台中国立歌劇院 舞台映像上映会 オペラ「エウゲニ・オネーギン」	台中国立歌劇院小劇場	2/14	1 回	111 人
台中国立歌劇院 舞台映像上映会 オペラ「魔笛」	台中国立歌劇院小劇場	2/14	1 回	165 人
台中国立歌劇院 舞台映像上映会 バレエ「くるみ割り人形」	台中国立歌劇院小劇場	2/15	1 回	163 人



## Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために とるべき措置

### 1 業務運営の効率化

1 業務運営の効率化	p.213
(1) 組織体制の整備・強化	p.216
(2) 給与水準の適正化	p.218
(3) 契約の適正化	p.218
(4) 共同調達等の取組の推進	p.218
(5) 情報システムの活用	p.220
(6) 予算執行の効率化	p.221



---

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 《中期計画の概要》

---

#### II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業の改善を図る

##### 1 業務運営の効率化に関する取組

平成29年度予算を基準として中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、事業費についても毎事業年度につき1%以上の効率化を図る。ただし、特殊要因経費はその対象としない

また、人件費については3項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない

##### 2 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、業務・組織体制について検討を行い、必要な措置を講ずる

##### 3 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

##### 4 契約の適正化

契約については、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づく取組を着実に実施することにより、契約の適正化を推進する。毎年度「調達等合理化計画」を策定し、点検、見直しを実施

##### 5 共同調達等の取組の推進

###### (1) 共同調達

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、他法人や周辺の機関と連携し、コピー用紙等の消耗品や役務について、共同して調達する取組を年度計画に具体的な対象品目を定めた上で進める

###### (2) 省エネルギー、リサイクルの推進

省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等を推進し、使用資源の縮減を図り、環境に配慮した業務運営に努める

##### 6 情報システムの活用

効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

##### 7 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

### 《年度計画の概要》

---

#### II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

##### 1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる

###### (1) 組織体制の整備・強化

2020年東京大会を契機とする文化プログラムの中核的事業として実施する「日本博」において、我が国の文化芸術の魅力国内外に戦略的に発信するため、日本博事務局を運営し、引き続き企画立案・広報機能の強化を図る諸外国への対応等を充実させるため、総務企画部内に国際渉外を担う部署の設置を検討

###### (2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

###### (3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする

また、その取組状況をホームページで公表

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施

###### (4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

法人間又は周辺の他機関と連携し、次の品目について共同調達を推進

この他の品目の共同調達の実施については費用対効果に配慮しつつ検討

- ① コピー用紙
- ② トイレtpペーパー及びペーパータオル

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO2)の削減を推進
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進

(5) 情報システムの活用

ア 業務システムの安定稼動を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う

イ 情報システムの更新に際し、情報セキュリティの確保を前提に、外部サービスの活用を推進し、システムの最適化を図るとともに業務効率の一層の向上を目指す

(6) 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

自己評定	<b>B</b>
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の進捗に合わせ、適切な事業名称及び組織名称に変更した。</li> <li>・国立劇場再整備本部職員等の増員を図ったことにより事業の進捗に応じた業務を滞りなく行うことができた。</li> <li>・各項目につき、計画どおり必要な措置を講じた。</li> <li>・セキュリティ強化やシステムの更改等、課題に適切に対応し、改善を図ることができた。</li> </ul>
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	「業務運営の効率化に関する取組」参照
主要な業務実績	<p><b>(1) 組織体制の整備・強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務企画部総務課に国際係を新設。</li> <li>・国立劇場調査養成部の2課を統合再編し、調査資料課を新設。</li> <li>・国立劇場再整備事業の検討体制強化のため、関係省庁等の協力を得て、国立劇場再整備本部職員等の増員を図った。</li> <li>・日本博事務局の拡充と再編。</li> <li>・基金部活動継続・技能向上等支援事業運営事務局を新設。</li> <li>・所管横断的な経営上の課題の解決に取り組む特命経営企画本部に専任の職員を配置し、体制を強化。</li> </ul> <p><b>(2) 給与水準の適正化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家公務員の給与改定に倣い、賞与支給率を引き下げた(△0.05月分)。</li> <li>・前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。</li> </ul> <p><b>(3) 契約の適正化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人日本芸術文化振興会会計規程実施細則の一部を改正し、併せて工事契約事務処理要項を定めた。</li> </ul> <p><b>(4) 共同調達等の取組の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コピー用紙の調達については、振興会と独立行政法人国立美術館及び独立行政法人日本スポーツ振興センターの3者から新たに独立行政法人日本学術振興会を加え、4者により共同調達を実施。</li> <li>トイレットペーパー及びペーパータオルについては公益財団法人新国立劇場運営財団と、共同調達を実施。</li> <li>・光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支障のない範囲で節電対策を実施</li> <li>・廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底。</li> <li>・ペーパーレス化促進のため、両面コピー、グループウェアの活用等を実施。</li> </ul> <p><b>(5) 情報システムの活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原議書及び各種申請の電子決裁の運用開始。</li> <li>・助成事業募集用電子申請システムの導入。</li> <li>・在宅勤務の拡大や再整備への対応のため、仮想デスクトップシステムの導入に向けた検討の実施。</li> <li>・オンライン会議の実施環境の整備。</li> </ul> <p><b>(6) 予算執行の効率化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。</li> </ul>
課題と対応	

# 1 業務運営の効率化

## 【業務運営の効率化に関する取組】

一般管理費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：平成 29 年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)  
※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

事業費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：前年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)  
※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

《一般管理費》(単位：百万円、%)

区分	金額
平成 29 年度予算(A)	444
令和 2 年度予算(B)	413
増減比率	△7%

令和 2 年度予算額は、消費税影響額 8 百万円を除けば 405 百万円で、△9%を達成している。

《事業費》(単位：百万円、%)

区分	金額
令和元年度予算(A)	6,708
令和 2 年度予算(B)	6,709
増減比率	0.02%

令和元年度予算額は、消費税影響額 54 百万円を除けば 6,654 百万円、令和 2 年度予算額は、消費税影響額 122 百万円を除けば 6,587 百万円で、△1%を達成している。

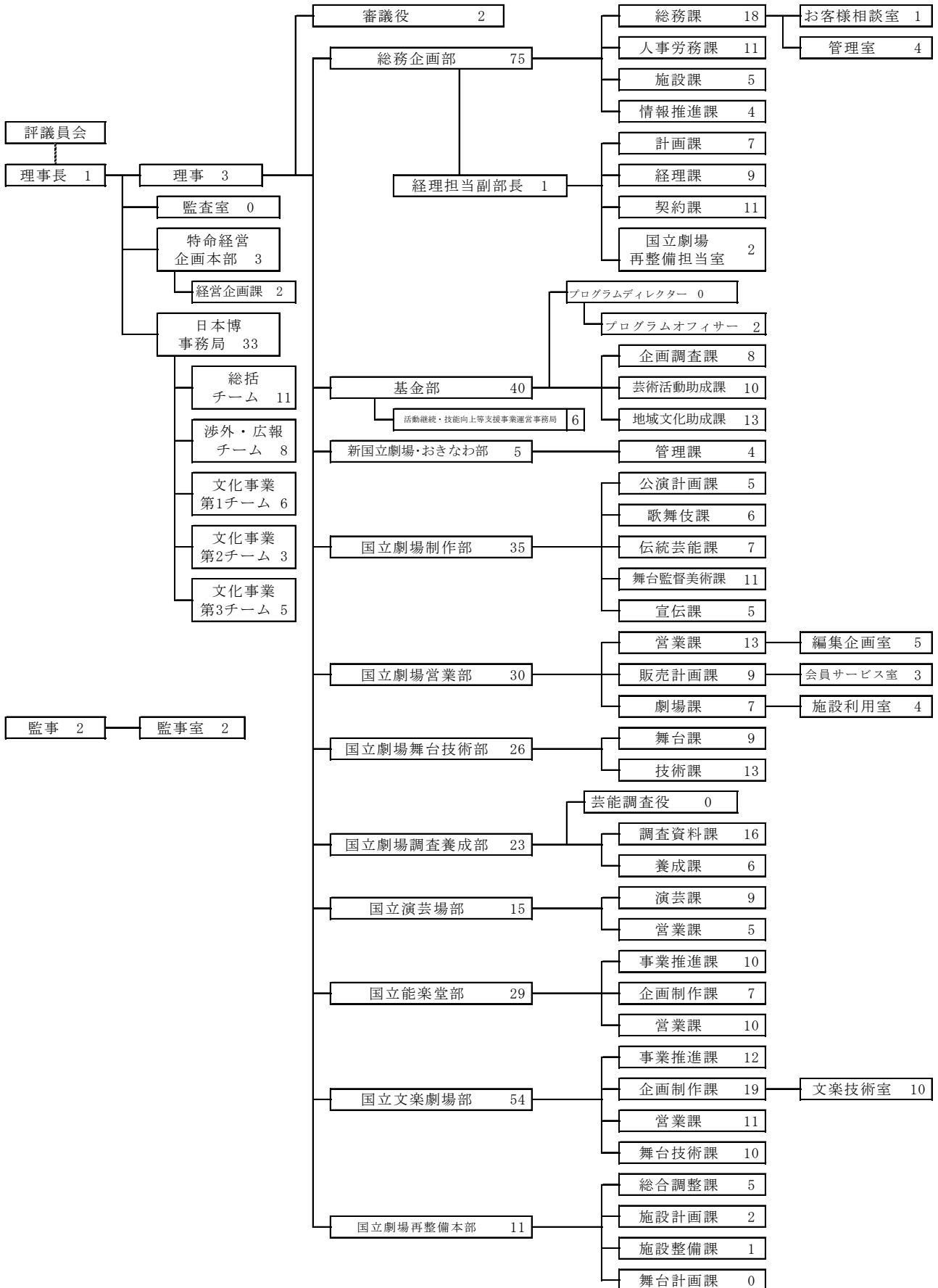
## (1) 組織体制の整備・強化

- ・インバウンド対応及び海外機関との連携強化のため、総務企画部総務課に国際係を新設した。(4/1)
- ・国立劇場伝統芸能情報館を運営する調査研究・資料収集活用部署の業務について、一体的な取組を推進するために、国立劇場調査養成部の 2 課を統合再編し、調査資料課を新設した。(4/1)
- ・国立劇場再整備事業の進捗に伴い、国立劇場再整備本部に施設整備課を、総務企画部契約課に国立劇場再整備担当室を新設した。(4/1)
- ・国立劇場再整備事業の検討体制強化のため、関係省庁等の協力を得て、国立劇場再整備本部に PFI 事業の手続きに係る建築・設備の計画等の知識と経験を持つ職員の増員を図った。(4/1)
- ・日本博事業の本格実施に伴う業務量の増加及び業務難易度の高度化に対応するため、前年度までの 4 チームから 5 チームに拡充及び再編した。(4/1 及び 9/1)
- ・国土交通省大臣官庁営繕部職員 4 名に対し国立劇場再整備事業に係る業務を兼ねて行うため文化庁併任発令があった。(6/1)
- ・令和 2 年度第 2 次補正予算で措置された「活動継続・技能向上等支援事業費補助金」を実施するため、基金部に、活動継続・技能向上等支援事業運営事務局を新設した。(6/25)
- ・所管横断的な経営上の課題の解決に取り組む特命経営企画本部に専任の職員を配置し、体制を強化した。(7/1)



《組織図》

※ 数字は役員及び常勤職員数(令和3年4月1日現在)



## (2) 給与水準の適正化

### ア 对国家公務員指数への適正な水準の維持

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い賞与の支給月数を引き下げた(年間支給月数：4.44 か月→4.39 か月)。
- ・ ラスパイレス指数<sup>※</sup>は、106.4 (地域・学歴勘案=93.1)であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。

また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.2 (地域・学歴勘案=100.7)であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

※ラスパイレス指数=国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 71.4%

(国からの財政支出額 17,559 百万円/支出予算の総額 24,607 百万円(令和元年度予算))

### イ 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・ 引き続き国家公務員との給与の比較を行い、HPに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(令和元年度ベース)。

## (3) 契約の適正化

### ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

- ・ 公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、令和2年度の「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、随意契約の検収に際し調達原課以外の職員による立会いを行うなど、相互牽制の体制を整備した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、調達に関するガバナンスの徹底のため、少額随意契約を除く随意契約を締結することとなる案件について、経理担当副部長及び契約担当部署が調達原課の報告に対し点検を行い、随意契約に関する内部統制の確立に努めた。

### イ 契約監視委員会における契約の点検

- ・ 第23回契約監視委員会 書面審議(9/11)  
議事：令和元年度調達等合理化計画の自己評価の実施、令和2年度調達等合理化計画の策定について
- ・ 第24回契約監視委員会(12/16)  
議事：令和元年度契約に関する点検・見直しについて、連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和2年度分)
- ・ 外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」(第24回)において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。
- ・ 第24回契約監視委員会を開催し、競争性のある契約(一般競争・企画競争)及び競争性のない随意契約について、契約変更の適正性や契約金額の妥当性等を点検審議した(12/16)。
- ・ 第24回契約監視委員会を開催し、連続一者応札・応募等事案について点検を行い、競争性の確保等を審議した(12/16)。

#### 《改善内容》

- ・ 「令和3~4年度国立劇場構内で使用する電気の調達」(仕様を見直し、1年間の契約から2年間の複数年契約として一般競争入札(政府調達)を実施することにより、業務の効率化を図った。)

### ウ 電子入札の実施

- ・ 入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。

### エ 国立劇場の再整備に向けた規則整備

- ・ 独立行政法人日本芸術文化振興会会計規程実施細則の一部を改正し、契約の一般的約定事項について文部科学省基準の準用を定めた。併せて、工事請負契約について、文部科学省が定めた通知等に準じて実施する工事契約事務処理要綱を定めた。

## (4) 共同調達等の取組の推進

## ア 共同調達等の取組の推進

### ①コピー用紙

- ・ 振興会と独立行政法人国立美術館及び独立行政法人日本スポーツ振興センターとの間の共同調達に関する協定について、独立行政法人日本学術振興会を加えて協定を改定し、4者によりコピー用紙の共同調達を実施。

### ②トイレトペーパー及びペーパータオル

- ・ 振興会と公益財団法人新国立劇場運営財団との間の共同調達に関する協定に基づき、トイレトペーパー及びペーパータオルの共同調達を実施。

## イ 省エネルギー、リサイクルの推進

### ①地球温暖化対策計画書等の作成、二酸化炭素(CO2)の削減推進

- ・ 令和3年1月に「地球温暖化対策計画書」を提出。  
地球温暖化対策を推進するために、自らの温室効果ガスの排出量の把握に努め、東京都の削減目標に従い、組織一体で排出量の計画的削減に努めた。

### ②光熱水量の節減

- ・ 引き続き各館において、観劇環境や業務に支障のない範囲で以下の節電対策を行った。
  - ◇ 執務室、会議室、通路等の照明を業務に支障のない範囲で間引き・減灯した。
  - ◇ 事務所部分を中心に夏季の軽装を奨励するとともに、冷暖房の抑制(夏季ピーク時の制限、設定温度の制限)を実施。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止や在宅勤務の実施のため、電気・水道の使用量が大幅に減少した。

事項	区分	使用量	対前年度増減
電 気	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	4,317,944kwh	△ 14.9%
	能楽堂	796,503kwh	△ 2.3%
	文楽劇場	1,014,120kwh	△ 16.8%
	合 計	6,128,567kwh	△ 13.8%
ガ ス	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	155,605 m <sup>3</sup>	△ 4.0%
	能楽堂	84,578 m <sup>3</sup>	7.6%
	文楽劇場	78,344 m <sup>3</sup>	△ 17.3%
	合 計	318,527 m <sup>3</sup>	△ 5.0%
水 道	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	23,770 m <sup>3</sup>	△ 34.8%
	能楽堂	5,882 m <sup>3</sup>	△ 27.1%
	文楽劇場	6,506 m <sup>3</sup>	△ 40.2%
	合 計	36,158 m <sup>3</sup>	△ 34.8%

### ③廃棄物の減量化

- ・ 引き続き廃棄物の減量化に努めた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止や在宅勤務の実施のため、廃棄物が大幅に減少した。
- ・ 令和元年度は、本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館での食堂業者撤退に伴う廃材の廃棄及び舞台技術関係の大道具及び照明器具の更新・解体に伴う釘や金具等廃材の廃棄により産業廃棄物が増加していたため、対前年度増減が大幅減となった。

事項	区分	処理量	対前年度増減
一般廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	25,177kg	△ 48.3%
	能楽堂	4,334kg	△ 7.2%
	文楽劇場	7,400kg	△ 38.5%
	合 計	36,911 kg	△ 43.6%

再利用廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	31,553kg	△ 22.8%
	能楽堂	7,567kg	△ 3.0%
	文楽劇場	15,970 kg	6.7%
	合計	55,090 kg	△ 13.4%
産業廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	2,419kg	△ 72.8%
	能楽堂	813kg	△ 26.4%
	文楽劇場	5,640kg	△ 28.9%
	合計	8,872kg	△ 50.5%

#### ④ペーパーレス化

- 引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等によりペーパーレス化促進に努める。
- 新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止や在宅勤務の実施のため、コピー用紙の使用量が大幅に減少した。それに伴い、コピー用紙の購入枚数も大幅に減少した。

事項	区分	使用量	対前年度増減	購入枚数	対前年度増減
コピー用紙	本館・演芸場	877,254 枚	△ 25.1%	2,602,000 枚	△ 25.7%
	事務棟	2,075,138 枚	△ 6.4%		
	伝統芸能情報館	757,758 枚	△ 35.5%		
	能楽堂	270,665 枚	△ 12.9%	334,500 枚	△ 4.7%
	文楽劇場	205,679 枚	△ 27.8%	306,000 枚	△ 28.3%
	合計	4,186,494 枚	△ 18.9%	3,242,500 枚	△ 24.2%
	うち管理部門	1,186,326 枚	△ 7.4%		

#### ⑤グリーン購入法に基づく調達

- 事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

### (5) 情報システムの活用

#### ア 業務システムの整備

- グループウェアのワークフロー機能を活用して原議書及び各種申請の電子決裁の運用を開始した(7/13)。
- 助成事業募集用電子申請システムを導入して助成事業のオンライン受付を開始(10/1)するとともに、基盤となる助成業務システムの更新に向けた作業を進めている。
- テレワーク勤務の拡大や再整備への対応のため、仮想デスクトップシステムの導入に向けたネットワーク基盤全体の更新に係る検討を行い、令和4年度の導入を予定として調達を開始した。
- 財務、予算、物品・資産、人事・給与、出演料、文書等の各管理業務に係る業務システムの更新に向けた検討を行い、令和3年度の導入を予定として調達を開始した。

#### イ クラウドサービスの活用

- ウェブ会議サービス(Teams 等)、ウェブ会議用通信回線及びタブレット端末を整備して、オンライン会議の実施環境を拡大した。

#### ウ 情報セキュリティへの対応

- 8月に発生した「振興会ホームページへの不正アクセスによるメールアドレス流出」への対策として新たにウェブアプリケーションファイアウォールを導入し、サイバー攻撃対策を強化した。更に第三者機関によるセキュリティ診断を実施し、発見された脆弱性への対応を講じた。
- ポリシーの理解増進及び意識向上を目的として、外部のeラーニングシステムを活用した情報セキュリティ教育を全役職員(常勤及び非常勤)を対象に実施。
- 標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的に、訓練用の標的型攻撃メールの受信体験を通じて同攻撃への適切な対処を職員に身につけさせることを意図した「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施。
- 各職員(常勤及び非常勤)が情報セキュリティ対策を適切に実施しているかを確認するために自己点検を実施。
- 内閣サイバーセキュリティセンター又は情報システム管理運用委託業者等から提供されるぜい弱性情報、ウイルス情報、不審メール情報等を振興会内電子掲示板に掲載し、重要性又は緊急性の高い情報については適

宜全職員向けにメールで注意喚起を行うとともに、公表された脆弱性情報に対して随時対策を行い、情報セキュリティを確保。

**(6) 予算執行の効率化**

- ・ 各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。



## Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画	p.222
1 予算	p.224
2 収支計画	p.226
3 資金計画	p.227
4 保有資産の処分	p.228





---

### Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

#### 《中期計画の概要》

---

##### Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

収入面に関しては実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で劇場入場料等自己収入の増加を図ることや税制措置を活用した寄附金の確保等により、計画的な収支計画による運営を図る

管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める

1 予算(中期計画の予算) 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」(平成26年9月2日付け総管査第263号総務省行政管理局通知)に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

##### Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、10億円。

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入の遅延が生じた場合である。

##### Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

すでに廃止を決定した目黒職員宿舎、船橋第三職員宿舎、習志野職員宿舎について、独立行政法人通則法第46条の2の規定に基づき、中期目標期間中に当該不要財産を国庫納付する。

##### Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない。

##### Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充てる。

1 助成事業の充実

2 公演事業の充実

3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実

4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実

5 研修器具、芸能資料等の購入・修理

6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

#### 《年度計画の概要》

---

##### Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

1 予算 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有資産については保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては不要財産として国庫納付等を行う

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定を行った。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による国からのイベント自粛要請を受け、年度当初から大幅な減収が見込まれたが、感染症拡大防止の観点から適切な対応を取りつつ、全体的に支出の執行抑制を行った。</li> <li>・公演事業において、新型コロナウイルス感染症の影響により公演が中止となったり客席数の制限を行ったりしたため、国立劇場公演の劇場入場料や劇場使用料が大幅に減少したことにより、年度計画予算に対し収入額が減少した。一方で、公演費等の節減により、年度計画予算に対し支出額が減少した。</li> <li>・運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。</li> <li>・各館の公演等事業に寄附を募ることで、我が国の伝統芸能に携わる者を支援し、次世代に継承するための諸活動を持続するため、「国立劇場基金(くろごちゃんファンド)」を創設した。</li> <li>・収入の減に対応するため、補助金等外部資金の積極的な獲得を行った。</li> <li>・令和2年度第2次補正予算において、活動継続・技能向上等支援事業費補助金が措置されたため、振興会が補助事業者となり事務局を設置し、助成金の交付事業を行った。</li> </ul>
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	数値目標なし
主要な業務実績	<p><b>1 予算</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動継続・技能向上等支援事業については、年度当初予算にない多額の予算を執行することとなったが、法人全体で的確に執行に取り組み、事業に一定の成果を出した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅な収入減となったが、積極的に外部資金を獲得することで、事業に対する影響を軽減することができた。</li> </ul> <p><b>2 収支計画</b></p> <p><b>3 資金計画</b></p> <p><b>4 保有資産の処分</b></p>
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入場料収入の安定や施設使用料収入のより一層の増収を図るとともに、引き続き外部資金の獲得に努める。</li> </ul>

## 《方針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。

※ 以下、計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

## 1 予算

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
収 入			
運営費交付金	11,502,619	11,502,619	0
雑収入	77,994	33,135	△ 44,859
文化芸術振興費補助金	7,497,209	6,580,289	△ 916,920
施設整備費補助金	421,190	236,892	△ 184,298
文化資源活用事業費補助金	600,000	650,247	50,247
活動継続・技能向上等支援事業費補助金	47,536,582	30,130,216	△ 17,406,366
コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金	-	379,109	379,109
基金運用収入	1,122,934	1,122,928	△ 6
寄附金収入	200,000	154,585	△ 45,415
その他の助成事業収入	12,361	19,640	7,279
公演事業収入	3,022,013	1,191,809	△ 1,830,204
公演受託事業収入	2,840,000	2,661,220	△ 178,780
計	74,832,902	54,662,689	△ 20,170,213
支 出			
一般管理費	1,515,712	1,431,409	84,303
うち人件費	1,137,546	1,104,864	32,682
うち物件費	378,166	326,545	51,621
事業費	10,064,901	9,721,210	343,691
うち人件費	2,222,120	2,202,883	19,237
うち助成情報提供等事業費	192,858	168,447	24,411
うち国立劇場事業費	2,661,009	2,359,689	301,320
うち国立劇場おきなわ事業費	698,771	700,044	△ 1,273
うち新国立劇場事業費	4,290,143	4,290,147	△ 4
文化芸術振興費	7,497,209	5,300,600	2,196,609
施設整備費	421,190	236,892	184,298
文化資源活用事業費	600,000	542,021	57,979
活動継続・技能向上等支援事業費	47,536,582	29,940,125	17,596,457
うち人件費	56,106	54,464	1,642
うち物件費	47,480,476	29,885,661	17,594,815
コンテンツグローバル需要創出促進事業費	-	379,109	△ 379,109
基金助成事業費	1,335,295	1,098,068	237,227
うち人件費	200,937	190,708	10,229
うち物件費	1,134,358	907,360	226,998
公演事業費	3,022,013	1,712,829	1,309,184
公演受託事業費	2,840,000	2,440,633	399,367
計	74,832,902	52,802,896	22,030,006

## 《主な増減理由》

### (1) 収入

- ・ 雑収入(運営費交付金見合いの自己収入)については、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修発表会の客席収容率を50%以下にしたことや中止したこと、有料公開講座を中止したこと等により、44,859千円の減となった。

- 文化芸術振興費補助金については、助成事業において令和3年度へ繰り越したため188,638千円の減となったこと、また公演事業において令和2年度補正予算事業の「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業イノベーション型プロジェクト」(740,000千円)を計画額に計上したことに対し、実績額には令和2年度中に獲得した「文化施設の感染防止対策事業」(11,718千円)についてのみ計上したことにより、全体として916,920千円の減となった。
- 施設整備費補助金については、計画額には令和2年度補正予算事業の「国立劇場再整備事業(421,190千円)」について計上したのに対し、実績額には、令和元年度補正予算事業の「国立文楽劇場外回り等改修工事(164,450千円)」「国立劇場おきなわ防災関連設備等更新工事(54,776千円)」「新国立劇場 電源制御部等更新工事(17,666千円)」の3つの事業について計上したことにより、結果として184,298千円の減となった。
- 文化資源活用事業費補助金については、当初予算にて措置された「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業イノベーション型プロジェクト」のほか、令和2年度中に「観光拠点整備事業」により30,952千円獲得したため、50,247千円の増となった。
- 活動継続・技能向上等支援事業費補助金については、新型コロナウイルス感染症の影響による事業期間の延長によって令和3年度へ繰り越したため、17,406,366千円の減となった。
- コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金については、令和2年度中に新たに獲得した補助金であるため、実績額に379,109千円を計上した。
- 寄附金収入については、寄附金を財源として支出した基金助成事業費及び令和2年度中に創設された「くろごちゃんファンド」を財源とした国立劇場公演事業費の支出額と同額を収入実績額として計上した。寄附金を財源とした支出の計画額は200,000千円計上したが、助成事業に関する調査研究委託事業の支出が計画額に対して少なかったため、45,415千円の減となった。
- その他の助成事業収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度助成金の減額や取下げに伴う精算金が見込みよりも多かったため、7,279千円の増となった。
- 公演事業収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により主催公演及び貸劇場公演を全部又は一部中止したことや、実施公演の客席収容率を制限したこと、それに伴う劇場使用料の減額措置等により、1,830,204千円の減となった。

## (2) 支出

- 一般管理費のうち物件費については、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修や出張を取りやめたこと、リモートによる研修や会議が増加したことで旅費や教育研修費が減少したこと等により、51,621千円の減となった。
- 事業費のうち助成情報提供等事業費については、新型コロナウイルス感染症の影響により助成事業の公演調査の一部が中止となったこと、国立劇場事業費については、施設を閉館したことで水道光熱費が減少したこと等により、全体で343,691千円の減となった。
- 文化芸術振興費については、助成事業において新型コロナウイルス感染症の影響により助成金の取下げや減額、繰越しが発生したこと、公演事業において令和2年度補正予算事業の「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業イノベーション型プロジェクト」(740,000千円)を計画額に計上したことに対し、実績額には令和2年度中に獲得した「文化施設の感染防止対策事業」(11,718千円)についてのみ計上したことにより、2,196,609千円の減となった。
- 施設整備費については、計画額には、令和2年度補正予算事業の「国立劇場再整備事業(421,190千円)」について計上したのに対し、実績額には、令和元年度補正予算事業の「国立文楽劇場外回り等改修工事(164,450千円)」「国立劇場おきなわ防災関連設備等更新工事(54,776千円)」「新国立劇場 電源制御部等更新工事(17,666千円)」の3つの事業について計上したことにより、結果として184,298千円の減となった。
- 文化資源活用事業費については、「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業イノベーション型プロジェクト」で新型コロナウイルス感染症の影響により補助金の辞退や減額が発生したことにより、57,979千円の減となった。
- 活動継続・技能向上等支援事業費については、新型コロナウイルス感染症の影響による事業期間の延長によって令和3年度へ繰り越したため、17,596,457千円の減となった。
- コンテンツグローバル需要創出促進事業費については、令和2年度中に新たに獲得した補助金であるため、実績額に379,109千円を計上した。

- ・基金助成事業費の物件費については、新型コロナウイルス感染症の影響により助成金の取下げや減額が発生したこと等により、226,998千円の減となった。
- ・公演事業費については、新型コロナウイルス感染症の影響により主催公演を全部又は一部中止したことにより公演費が減少したこと、また公演費の一部が令和2年度中に新たに獲得した「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金」にて執行されたこと等により、1,309,184千円の減となった。
- ・公演受託事業費については、新型コロナウイルス感染症の影響による日本博受託事業の規模縮小や中止等により、399,367千円の減となった。

## 2 収支計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
<b>費用の部</b>			
国立劇場公演等事業費	12,617,699	9,699,578	△ 2,918,121
新国立劇場公演等事業費	4,669,663	4,696,422	26,759
基金助成事業費	55,924,389	28,043,571	△ 27,880,818
一般管理費	1,352,698	1,242,854	△ 109,844
財務費用	10,977	8,106	△ 2,871
雑損失	-	4,672	4,672
臨時損失	-	185,611	185,611
計	74,575,426	43,880,814	△ 30,694,612
<b>収益の部</b>			
運営費交付金収益	10,395,243	10,680,687	285,444
事業収入	4,003,313	2,067,295	△ 1,936,018
受託事業収入	2,840,000	1,985,871	△ 854,129
財産利用収入	47,515	35,473	△ 12,042
資産見返負債戻入	753,111	674,582	△ 78,529
文化芸術振興費補助金収益	7,497,209	5,296,682	△ 2,200,527
活動継続・技能向上等支援事業費補助金収益	47,536,582	21,400,693	△ 26,135,889
文化資源活用事業費補助金収益	600,000	511,069	△ 88,931
コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金収益	-	379,109	379,109
施設整備費補助金収益	-	20,957	20,957
寄附金収益	200,000	154,453	△ 45,547
賞与引当金見返に係る収益	252,370	244,869	△ 7,501
退職給付引当金見返に係る収益	265,609	236,491	△ 29,118
財務収益	120,916	123,016	2,100
雑益	63,558	95,964	32,406
臨時利益	-	41,063	41,063
計	74,575,426	43,948,274	△ 30,627,152
純利益	0	67,460	67,460
積立金取崩額	0	-	-
総利益	0	67,460	67,460

### 《主な増減理由》

#### (1)費用の部

- ・国立劇場公演等事業費については、新型コロナウイルス感染症の影響により主催公演を全部又は一部中止したことにより出演費、舞台費等の公演費が減少したこと、日本博関連の経費を令和3年に繰り越したこと等により2,918,121千円の減となった。
- ・基金助成事業費については、新型コロナウイルス感染症の影響による助成金の取下げや減額、活動継続・技能向上等支援事業の令和3年度への繰越し等により27,880,818千円の減となった。
- ・一般管理費については、人件費及び保守修繕費の減少等により109,844千円の減となった。
- ・臨時損失については、出演料等の過年度分の支払いに備える引当金繰入のため185,611千円を計上した。

## (2)収益の部

- ・運営費交付金収益については、固定資産取得額が計画額よりも少なかったこと等から 285,444 千円の増となった。
- ・事業収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により劇場入場料、劇場使用料等が減少し、1,936,018 千円の減となった。
- ・受託事業収入については、日本博受託業務が令和 3 年度へ延長したこと等から、854,129 千円の減となった。
- ・文化芸術振興費補助金収益については、助成事業の取下げや減額により不用額が発生したこと、令和 3 年度への繰越しが発生したことから、2,200,527 千円の減となった。
- ・活動継続・技能向上等支援事業費補助金収益については、新型コロナウイルス感染症の影響により令和 3 年度への繰越しが発生したため、26,135,889 千円の減となった。
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金収益については、計画時には予定されていなかった補助金であり、379,109 千円を計上した。
- ・施設整備費補助金収益については、既存設備撤去費等、資産の取得とならない費用が発生したため、20,957 千円が計上された。
- ・寄附金収益については、助成事業に関する調査研究委託事業の支出が減少したため、45,547 千円の減となった。

## 3 資金計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	90,002,939	76,460,186	△ 13,542,753
業務活動による支出	76,516,657	54,084,609	△ 22,432,048
投資活動による支出	2,975,670	2,114,883	△ 860,787
財務活動による支出	240,575	231,438	△ 9,137
翌年度への繰越金	10,270,037	20,029,256	9,759,219
資金収入	90,002,939	76,460,186	△ 13,542,753
業務活動による収入	76,711,712	62,988,996	△ 13,722,716
運営費交付金による収入	11,502,619	11,502,619	-
補助金による収入	55,633,791	43,403,161	△ 12,230,630
公演事業による収入	3,022,013	1,105,026	△ 1,916,987
公演受託事業による収入	2,840,000	3,107,589	267,589
養成事業による収入	15,515	5,816	△ 9,699
基金運用による収入	1,122,934	1,122,928	△ 6
その他の収入	2,574,840	2,741,856	167,016
投資活動による収入	2,421,190	2,600,970	179,780
施設整備費補助金による収入	421,190	600,970	179,780
その他の収入	2,000,000	2,000,000	-
財務活動による収入	600,000	600,184	184
民間出えん金受入れによる収入	600,000	600,184	184
前年度よりの繰越金	10,270,037	10,270,037	-

《主な増減理由》

### (1)資金支出

- ・業務活動による支出については、活動継続・技能向上等支援事業の令和 3 年度への事業期間の延長が発生したこと、新型コロナウイルス感染症の影響により主催公演を全部又は一部中止したことにより出演費、舞台費等の公演費が減少したこと等により、22,432,048 千円の減となった。
- ・投資活動による支出については、資金繰りに備えて償還された債券を再運用しなかったこと等により、860,787 千円の減となった。

## (2) 資金収入

- ・補助金による収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により活動継続・技能向上等支援事業費補助金について令和3年度への繰越しが発生するなどしたため、12,230,630千円の減となった。
- ・公演事業による収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により劇場入場料、劇場使用料等が減少し、1,916,987千円の減となった。
- ・公演受託事業による収入については、前年度未収となっていた受託事業収入の入金があったこと等のため、267,589千円の増となった。
- ・施設整備費補助金による収入については、前年度未収となっていた施設整備費補助金の入金があったため、179,780千円の増となった。

## 4 保有資産の処分

### (1) 実物資産の保有状況等

施設名	数	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場(本館・演芸場)	1	東京都千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 令和2年度の稼働率の実績:P.148 参照
国立能楽堂	1	東京都渋谷区		
国立文楽劇場	1	大阪府大阪市中央区		
国立劇場おきなわ	1	沖縄県浦添市		
新国立劇場	1	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 令和2年度の稼働率の実績:P.148 参照
新国立劇場舞台美術センター	1	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパトリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎	6	東京地区(5) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要があり、研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。 保有宿舎全39戸(うち入居戸数24戸(入居予定含む)、廃止宿舎・廃止予定宿舎を除く)、入居率61.5%(R3年3月末現在)。

### (2) 金融資産の保有状況

#### ア 金融資産の名称と内容、規模

定期預金： 100,000千円

有価証券： 3,499,721千円

投資有価証券： 75,288,206千円

#### イ 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。(運用状況はI-1-(3) 基金の管理運用 を参照)

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

#### ウ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況

該当する金融資産無し。

## 《参 考》

### 1. 剰余金

損益計算の結果、令和2事業年度の当期総利益は67,460千円である。

#### 《利益が生じた主な理由》

##### [収入支出決算]

- (1) 雑収入について、運営費交付金見合い収入(研修発表会収入、文献販売収入など)が、年度計画予算に対し44,859千円減少した。
- (2) 公演事業収入が、年度計画予算に対し1,830,204千円減少した。その主な内容は次のとおり。
  - ・ 劇場入場料収入の減1,432,513千円
  - ・ 劇場使用料収入の減224,177千円
  - ・ 解説書収入の減62,073千円
- (3) 一般管理費が、年度計画予算に対し84,303千円減少した。その主な内容は次のとおり。
  - ・ 保守修繕費の減52,869千円
  - ・ 人件費の減32,682千円
- (4) 事業費が、年度計画予算に対し343,691千円減少した。その主な内容は次のとおり。
  - ・ 業務委託費の減152,382千円
  - ・ 保守修繕費の減151,309千円
- (5) 基金助成事業費が、年度計画予算に対し237,227千円減少した。その主な内容は次のとおり。
  - ・ 助成費の減151,232千円
  - ・ 業務委託費の減60,171千円
- (6) 公演事業費が、年度計画予算に対し1,309,184千円減少した。その主な内容は次のとおり。
  - ・ 大劇場公演費の減474,768千円
  - ・ 小劇場公演費の減311,285千円
  - ・ 文楽劇場公演費の減224,621千円

##### [損益計算]

- ・ 自己財源による資本的支出により、2,362千円の費用の減となった。
- ・ 有価証券の償却原価法による増価により、3,523千円の収益の増となった。

### 2. 運営費交付金債務

令和3年3月31日現在における運営費交付金債務残高は83,829千円である。

(単位：千円)

期首残高 /当期交付額	当期振替額				引当金見返との 相殺額	期末残高
	運営費交付金 収益	資産見返 運営費交付金	建設仮勘定見返 運営費交付金	資本剰余金		
11,607,112	10,680,687	263,553	—	270	578,774	83,829

### 3. 外部資金の獲得状況

1,110件 1,313,571千円

- ・ 文化庁芸術祭主催公演等における負担金による収入(7件、40,382千円)
- ・ 助成調査研究への寄附(1件、200,000千円)
- ・ 芸術文化振興基金に対する民間出せん金(8件、600,724千円)
- ・ 文化芸術復興創造基金(277件7,876千円)(再掲)
- ・ 文化芸術復興費補助金(文化施設の感染症防止対策事業：6件、11,718千円)  
補助金を獲得し、公演の再開に当たって必要な感染症予防対策(消毒液・パーテーション・フェイスシールド・非接触体温計・サーモグラフィ等の購入等)を行った。
- ・ 文化資源活用事業費補助金(観光拠点整備事業：1件、30,952千円)  
補助金を獲得し、新たな観客層及び外国人観光客の集客を目指すに当たって必要な観劇環境の整備(国立劇場おきなわ字幕表示システムの更新、国立能楽堂多目的トイレ改修工事、国立能楽堂ワイヤレスマイク設備の更新)を行った。
- ・ コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(11件、379,109千円)  
補助金を獲得し、公演の実施及び当該公演の海外向け動画のデジタル配信を行った。



- 文化庁令和2年度戦略的芸術文化創造事業「文化芸術収益力強化事業」(5件、14,675千円)  
凸版印刷株式会社と「デジタル技術を活用した映像配信等による新たな収益基盤の確保・強化事業に関する連携協定書」を締結し、公演舞台映像(錦秋文楽公演、12月歌舞伎公演、初春文楽公演)や最先端技術を活用した伝統芸能の映像(雅楽VR(360度視聴)動画、邦楽演奏(マルチアングル動画))を有料配信する事業を実施した。
- 各館の公演等事業に寄附を募ることで、我が国の伝統芸能に携わる者を支援し、次世代に継承するための諸活動を持続するため、「国立劇場基金(くろごちゃんファンド)」を創設した(令和2年度実績:794件 28,135千円)

#### 4. 目的積立金等の状況

(単位:百万円、%)

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
前期中期目標期間繰越積立金	570	570	570		
目的積立金	0	0	0		
積立金	0	0	0		
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0	0	0		
運営費交付金債務	5	104	84		
当期の運営費交付金交付額 (a)	10,089	10,449	11,503		
うち年度末残高 (b)	5	104	84		
当期運営費交付金残存率 (b÷a)	0.05%	1.00%	0.73%		



## IVその他業務運営に関する重要事項

IVその他業務運営に関する重要事項	p.231
— 1 その他業務の運営に関する取組	p.234
— 2 施設及び設備に関する計画	p.236
— 3 人事に関する計画	p.237
— 4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項	p.239



## IV その他業務運営に関する重要事項

### 《中期計画の概要》

#### Ⅷ その他業務運営に関する重要事項

##### 1 内部統制

(1) 外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、振興会の目標等を踏まえ、組織、運営、事業などについて評価

振興会が行う自己点検評価、事業の実施結果に対する当該分野の外部専門家からの意見聴取等を踏まえ実施  
評価結果の公表、評価結果の組織の改善・事業の見直し・事務の改善等への反映  
業務運営の効率化・国民に対するサービスの向上等に努める

(2) 運営費交付金等を有効に活用、理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実について検討、その結果を逐次  
運営管理に反映させるなど内部統制の充実・強化

(3) 国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底  
ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど、情報開示を推進

##### 2 情報セキュリティ対策

法令等に基づき適切に情報の開示を行う

政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進

##### 3 施設及び設備に関する計画

施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上、バリアフリー化等のため、各劇場等施設  
について長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の再整備について、「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づき、  
振興会が実施主体となってPFI事業実施に向けた手続きを推進

事業推進にあたっては関係省庁の協力を得て事業実施に必要な体制の強化を図る

##### 4 人事に関する計画

###### (1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、効果的な人事交流を実施

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る

① 職員に対する実務研修等の充実により、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行い、より効率的  
な業務運営を図る

② 適切な労務管理の実施

③ 多様な働き方の検討

ウ 人材確保・育成方針を策定し、ア及びイの取組の向上を図る

###### (2) 人員に係る指標

給与水準の適正化を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

(参考)

中期目標の期間中の人件費見込み 9,985百万円

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当及び超過勤務手当に相当する範囲の費用

##### 5 中期目標の期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、振興会の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、  
当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて実施

##### 6 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、  
その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次の必要な費用に充てる

(1) やむを得ない事由により前期中期目標期間中に完了しなかった業務

(2) 芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務

(3) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理

(4) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

##### 7 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を  
得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

新国立劇場の管理運営については、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るた

め、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

なお、委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る

## 《年度計画の概要》

### IV その他業務運営に関する重要事項

#### 1 その他業務の運営に関する取組

##### (1) 内部統制の充実・強化

ア 令和元年度の事業の実施結果について、担当各々が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を実施

自己点検評価をもとに、評議員会に置かれた外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を実施

評価結果は公表し、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映

イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)を充実するとともに、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化を図る

ウ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進  
情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底  
より効果的な情報発信に向けてホームページの体裁の検討を開始

##### (2) 情報セキュリティ対策

ア 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ、実施手順等関係文書の整備、役職員の研修、自己点検、システム監査を実施し、適切な情報セキュリティの確保を図る

イ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応

ウイルスや不正アクセス等の情報を収集、役職員に対して積極的に情報提供を行うとともに対応訓練を実施、組織的対応能力の強化に取り組む

#### 2 施設及び設備に関する計画

(1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

併せて平成28年度に策定した「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」に基づき「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」を策定、施設・設備及び舞台設備の機能維持に必要なメンテナンスを実施

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備(以下「国立劇場等」という。)の再整備については、国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム(以下「PT」という。)により策定された「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づき、実施方針概略を策定

なお、国立劇場再整備に向けた検討及び調査研究については、PT、評議員会及び国立劇場再整備懇談会等の意見を踏まえながら、国立劇場再整備推進委員会が中心となって実施

(2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施

その際、国立劇場等については、今後の再整備計画との関連に留意

#### 3 人事に関する計画

##### (1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る

① 各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施

② 国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る

③ 多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討

ウ ア及びイの取組の向上を図るため、人材確保・育成方針の策定を検討

##### (2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

#### 4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

自己評定	<b>B</b>
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PFI事業に係る「実施方針の概略」は、文部科学副大臣のもと、関係省庁により構成される国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム(以下、「再整備に関する副大臣PT」という。)において検討されている「国立劇場の再整備に係る整備計画」の改定に基づいて策定するため、その進捗に合わせて作業を進めることとした。</li> <li>・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営した。</li> <li>・両財団の運営状況の検証、振興会との連絡体制の強化に引き続き努めた。</li> </ul>
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	数値目標なし
主要な業務実績	<p><b>1 その他業務の運営に関する取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響下において、理事長のリーダーシップの下に着実に業務を執行するため、5月、10月、12月、1月に理事長から全役職員にメッセージを発信。基本姿勢に加え、10月には経費節減、財源の多様化、業務の合理化・効率化について具体的な取組方針に言及。</li> <li>・内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映。</li> </ul> <p><b>2 施設及び設備に関する計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再整備に関する副大臣 PT において「国立劇場の再整備に係る整備計画」が策定された(7/14)。</li> <li>・国立劇場の再整備に係る都市計画手続き、国立劇場の再整備に係る整備計画の改定及びPFI事業に係る実施方針の概略の策定に向け、関係省庁並びに千代田区、東京都、首都高速道路(株)等関係機関との協議を継続的に実施した。</li> <li>・令和3年秋頃のPFI事業の実施方針の公表を目的に施設整備、維持管理・運営などの業務要求水準書(案)の策定を進めた。</li> <li>・再整備に関する副大臣 PT において「国立劇場の再整備に係る整備計画」が改定された(3/26)。</li> </ul> <p><b>3 人事に関する計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施。</li> </ul> <p><b>4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営。</li> </ul>
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度に実施したストレスチェックの結果を、次年度以降の労務管理に活用するとともに、研修内容や産業医との面談、専門のカウンセラーとの面談について検討を行い、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。</li> </ul>

# 1 その他業務の運営に関する取組

## (1) 内部統制の充実・強化

### ア 自己点検評価、外部専門家等からの意見聴取

#### ①自己点検評価について

《元年度自己点検評価の経過》

2年2月～3月	各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施
2年3月	各部において自己点検評価を実施
2年3月末～5月	総務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ
2年5月21日	理事長により自己点検評価を決定
2年7月28日	評議員会において、元年度の業務の実績に関する評価を審議・決定

#### ②外部専門家等からの意見聴取

名称	区分	日程	議題等
評議員会	第53回	7/28	元年度評価及び元年度決算についての審議、元年度評価結果についての報告、令和2年度計画実施状況の報告、令和3年度計画についての審議、国立劇場再整備事業に係る審議等
	第54回	10/28	
	第55回	3/26	
評価委員会	令和元年度第2回	5/19*	令和元年度評価の実施 *令和元年度第2回は書面開催
	第3回	7/3	
	第4回	7/17	令和2年度評価についての審議等
	令和2年度第1回	10/13	
公演専門委員会	歌舞伎公演専門委員会	2月(書面) ・3/29(オンライン会議)	令和2年度公演計画の説明・意見聴取等、 令和2年度公演状況の報告、 令和3年度公演計画の説明・意見聴取等
	文楽公演専門委員会(本館)	9月(書面)・ 3月(書面)	
	舞踊公演専門委員会	9月(書面)・ 3月(書面)	
	邦楽公演専門委員会	9月(書面)・ 3月(書面)	
	雅楽・声明公演専門委員会	9月(書面)・ 3月(書面)	
	民俗芸能公演専門委員会	9月(書面)・ 3月(書面)	
	大衆芸能公演専門委員会	3月(書面)	
	能楽公演専門委員会	2/8	
	文楽公演専門委員会(文楽劇場)	3/29	
	短期公演等専門委員会(文楽劇場)	3/29	
事業委員会	養成事業委員会	3月(書面)	令和元年度評価結果の報告、令和2年度の事業実施状況、令和3年度事業計画についての意見聴取等
	調査事業委員会	3月(書面)	
	養成事業委員会(おきなわ)	3/18	
	調査事業委員会(おきなわ)	3/23	
	公演事業委員会(おきなわ)	8/14(書面) ・3/26	
芸術文化振興基金 運営委員会	第54回	9/11	令和元年度評価の決定、令和3年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、令和3年度助成金の分野別配分予算案の決定、令和3年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等 *第55回は書面開催
	第55回	1/29*	
	第56回	3/16	

### イ 内部統制システムの充実、内部監査・監事監査に係る機能の充実・強化



## ①内部統制システムの充実

### (a) 役員会の開催

- ・役員会を毎月2回開催し、業務に係る重要事項を審議(開催回数:23回)
- ・中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に理事長に報告
- ・状況把握に基づき、理事長より各部署に改善等を指示
- ・各部署は対策を案出し、措置状況を役員会で報告

### (b) 情報伝達

- ・新型コロナウイルス感染症の影響下において、理事長のリーダーシップの下に着実に業務を執行するため、5月、10月、12月、1月に理事長から全役職員にメッセージを発信。基本姿勢に加え、10月には経費節減、財源の多様化、業務の合理化・効率化について具体的な取組方針に言及。
- ・状況に応じた基本的な方針を理事長・理事による「理事懇」において随時協議し、①役員会、②担当役員から関係部署、③又は総務・人事労務担当課等からの連絡により、周知と意思疎通を図ってきた。
- ・全役員及び総務企画部長による会合を役員会の前に実施し、情報共有を行った。
- ・部長会を開催し、各部相互における情報共有を行った(開催回数:10回)。
- ・事故等発生時の際は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。

### (c) 内部統制委員会等の定期開催

- ・理事長、理事、内部統制推進総括責任者で構成する内部統制委員会を四半期ごとに開催し、内部統制の整備に係る取組等を審議。(第1回:7/16、第2回:9/17、第3回:12/24(書面開催)、第4回:3/18)
  - ◇ 業務方法書第5章の規定に係る内部統制システムの整備状況を確認。
  - ◇ 事業継続計画を策定。
  - ◇ 内部統制研修:全職員を対象に、書面による研修を実施(3/29~R3/5/31)。
- ・所管横断的な経営上の課題を審議する経営企画会議の実施(第1回:10/22)
- ・リスク管理委員会を開催(3/26~3/31(書面開催))
  - ◇ 中期目標の変更に伴うリスク管理表の見直し。

## ②監査

### (a) 監事監査

定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

#### 《定期監査(令和元事業年度決算監査及び令和2事業年度業務監査)の経過》

6/5	令和2事業年度監査計画 理事長へ提出
7/13	監事と会計監査人とのディスカッション(令和元事業年度決算監査報告)
7/14	令和元事業年度監査報告 理事長へ提出 ※指摘すべき重大な事項は認められなかった。
9/11、10/9	監事の意見 理事長へ提出
12/14	監事と会計監査人とのディスカッション(令和2事業年度監査計画説明)
3/18	監事の意見の措置状況 理事長が回答

### (b) 内部監査

内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

8/25	内部監査計画の作成(8/27 監事に通知)
9~3月	監査実施
3/16	監査報告書 理事長へ提出(3/25 監事にデータを送付) ※改善を要すると認められた点については、報告書に意見として記載した。 以下2点について、優先的に対応措置が必要と認めた。 1)法人の意思決定プロセス 2)振替休日不取得への対応及び適切な労務管理 ※次年度において所管の部長宛に必要な措置を講じるよう指示

## ウ 情報開示の推進

- ・公文書等の管理に関する法律(平成21年法律第66号)及び内規に基づいた適正な法人文書管理のため、各課における文書管理担当者の任命、標準文書保存期間基準の設定及び見直し、文書管理状況の点検を実施

した。また、文書の廃棄や文書の保存期間の延長について、法律及び内規に則した適切かつ慎重な実施がなされるよう周知徹底を行った。

## (2) 情報セキュリティ対策

### ア 脆弱性・ウイルス・不正アクセスへの対応・情報提供

- ・ 8月に発生した「振興会ホームページへの不正アクセスによるメールアドレス流出」への対策として新たにウェブアプリケーションファイアウォールを導入し、サイバー攻撃対策を強化した。更に第三者機関によるセキュリティ診断を実施し、発見された脆弱性への対応を講じた。
- ・ 内閣サイバーセキュリティセンターやJVNから公表されるソフトウェアの脆弱性情報を受け、振興会内の全情報システムを調査し、脆弱性対策を随時行った。
- ・ 全職員に対しウイルス情報、不審メール情報等を電子掲示板やメール等で随時周知した。
- ・ 年末年始等の長期休業期間における情報セキュリティ対策事項を周知した。

### イ 情報セキュリティ意識の高揚、自己点検、情報システム監査

- ・ 全職員(常勤及び非常勤)に対し自己点検、セキュリティ研修(eラーニング)、標的型メール攻撃訓練を実施し、情報セキュリティに関する普及啓発を行った。
- ・ 助成事業募集用電子申請システム(クラウドサービス)についてセキュリティ監査を行った。

## 2 施設及び設備に関する計画

### (1) 年度計画に沿った整備の推進、国立劇場等の再整備

#### ア 施設・設備に関する計画に沿った整備の推進、メンテナンスの実施

- ・ 本館等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、再整備までの期間、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行うこととしている。

#### 《施設整備費補助金による施設・設備の整備等》

国立文楽劇場外回り等改修工事	164,450 千円
国立劇場おきなわ防災関連設備等更新工事	54,776 千円
新国立劇場 電源制御部等更新工事	17,666 千円

#### 《運営費交付金による施設・設備の整備等》

国立劇場おきなわ字幕表示装置の更新	21,835 千円
令和2年度国立劇場大劇場舞台機構改修工事	18,920 千円
新国立劇場地下1階多機能トイレ設置工事	15,400 千円
令和2年度国立劇場小劇場舞台機構改修工事	11,220 千円
令和2年度国立演芸場吊物機構制御盤中板更新工事	10,791 千円

#### イ 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」の策定

1. 施設の長寿命化に向け「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)(以下「行動計画」という。)」に基づき、施設・設備及び舞台設備の機能維持に必要なメンテナンスを実施した。また、行動計画の見直しとともに、個別施設毎の具体的な対応方針を定めた「個別施設毎の長寿命化計画」と併せ、「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」を策定した。

#### ウ 国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の再整備について

- ・ 「国立劇場再整備基本計画」(R2.3 振興会策定)を振興会ホームページに掲載し、有識者及び実演家団体に説明した。
- ・ 第1回国立劇場再整備委員会を開催し、劇場施設等のスペックを検討するための作業部会構成、検討課題等について確認した(5/12～ 書面会議)。
- ・ 再整備に関する副大臣PTにおいて「国立劇場の再整備に係る整備計画」が策定された(7/14)。
- ・ 第2回国立劇場再整備委員会を開催し、作業部会の報告、今後の検討の進め方等について確認した(7/31)。
- ・ 国立劇場再整備について、PFI事業の推進にあたり必要な調査や検討など総合的なアドバイスを得るため、PwCアドバイザリー合同会社に業務委託を行った(6/24 契約、履行期間はR3.3/31まで)。また、PFI事業手続きに係る業務要求水準書の策定を進めるため、有限会社香山壽夫建築研究所に業務委託を行った(7/27 契

約、履行期間はR3.3/31まで)。

- ・第3回国立劇場再整備委員会を開催し、国立劇場再整備に伴う休館期間について確認した(12/7)。
- ・第4回国立劇場再整備委員会を開催し、近隣住民への配布資料、要求水準書作成に係る事務管理部門の面積について確認した(12/17)。
- ・国立劇場の再整備に係る都市計画手続き、国立劇場の再整備に係る整備計画の改定及びPFI事業に係る実施方針の概略の策定に向け、関係省庁並びに千代田区、東京都、首都高速道路(株)等関係機関との協議を継続的に実施した。
- ・民間収益事業の事業成立性等を把握する目的で「国立劇場再整備事業に係るサウンディング型市場調査」を実施した。
- ・第5回国立劇場再整備委員会を開催し、作業部会の報告、実施方針の概略(案)について確認した(3/26)。
- ・再整備に関する副大臣PTにおいて「国立劇場の再整備に係る整備計画」が改定された(3/26)。

### 3 人事に関する計画

#### (1) 方針

##### ア 職員の計画的・適正な配置、適切な人事交流の実施

- ・令和2年度は、新規採用の事務職員及び58歳以上を対象とした高齢者雇用制度による職員及び任期付きの職員を採用した。
- ・国の機関、国立大学法人及び地方自治体等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。
- ・国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

受入		派遣	
国の機関及び国立大学法人からの出向者	20人	国の機関への実務研修者	1人
千葉市からの出向者	1人	国の機関への職員の出向	2人
出雲市からの出向者	1人	国立劇場おきなわ運営財団への職員派遣	2人
独立行政法人国立文化財機構からの出向者	1人	新国立劇場運営財団への職員派遣	3人
公益財団法人千葉県文化振興財団からの出向者	1人		
公益財団法人さいたま市文化振興事業団からの出向者	1人		
公益財団法人札幌市芸術文化財団からの出向者	1人		
公益財団法人可児市文化芸術振興財団からの出向者	1人		
北九州市からの実務研修者	1人		
一般財団法人建築コスト管理システム研究所	1人		

##### イ 事務能率の維持、増進

###### ①各種研修の実施、適切な労務管理

###### (a) 各種研修の実施

令和2年度の研修の実施については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から参集型の研修は、eラーニングでの実施に変更又は延期とした。

- ・新入職員研修 4/3～4/7(参加者：15名)
- ・新入職員研修(役員・部長研修) 11/4・11/13・11/9・11/16・11/27(参加者：16名)
- ・新入職員研修(ビジネススキル等 eラーニング) 11/27～2/26(参加者：17名)  
※令和2年度事務職員採用試験合格による早期入職者1名を含む
- ・内部統制研修(書面研修) 3/29～R3/5/31(予定)(参加者：全職員)
- ・情報セキュリティ研修(eラーニング) (参加者：受講者477名)

###### (b) 適切な労務管理

###### (1) ハラスメント防止体制の整備

令和2年6月にパワハラ防止対策を事業主に義務付ける法改正に対応し、以下の対策を講じた。

- ・規程等の制定  
「日本芸術文化振興会におけるハラスメントの防止等に関する規程」

「日本芸術文化振興会ハラスメント防止等委員会規程」

「日本芸術文化振興会におけるハラスメントの防止等に関する指針」

- ・ハラスメント相談窓口を設置し、相談窓口となる職員に研修を実施(e ラーニング)。10/21～10/30(参加者：14名)
  - ・全役職員(常勤及び非常勤)に対し、ハラスメント防止等研修の実施(e ラーニング)2/19～3/8(参加者：335名)
- (2)メンタル不全対策の実施
- ・新卒採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した。メンターである職員は、メンター研修により、メンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。
  - ・引き続き、メンタルヘルスに関する相談窓口業務を外部専門業者に委託し、連携を密にとりながら電話・メール・面談等により、プライバシーの保護に配慮しつつ、職員が気軽に相談できる環境を整えた。
  - ・産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、長時間労働者と産業医との面談等の相談業務を実施した。
  - ・職員のストレスチェックを実施するとともに、入職1年目、5年目、10年目及び20年目の職員に対して専門のカウンセラーによる個別面談を実施し、若年層職員のメンタルヘルスの維持・向上を図った。
  - ・ストレスチェック 10/15～30(参加者：356名)
  - ・新入職員研修において、メンタルヘルスに関する内容の研修を実施した。
- (3)新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出及び事業活動の継続の状況に応じ、以下の期間において、勤務体制の特別措置として、在宅勤務の実施、時差出勤の奨励、平日が勤務日の職員を対象とした土日祝日への振替出勤の奨励、臨時休校の影響を受ける職員のための特例等を実施した。
- ・<期間①>緊急事態宣言の期間中(R2.4.8～R2.5.6)
  - ・<期間②>緊急事態宣言の期間中(R2.5.1～5.31)
  - ・<期間③>緊急事態宣言以後(R2.6.1～R2.12.3)
  - ・<期間④>緊急事態宣言以後(R2.12.4～R3.1.7)
  - ・<期間⑤>緊急事態宣言の期間中(R3.1.8～3.22)
  - ・<期間⑥>緊急事態宣言以後(R3.3.22～4.26)
- 上記①及び②の緊急事態宣言の期間中には、国の要請に応じ、出勤率の削減を図った。(期間中の出勤率35.3%)

## ②外部研修への職員の派遣

- ・令和2年度公文書管理研修I(独法等向け第1回)8/19(参加者：1名)
- ・Technical Theatre Training Program 2020 舞台技術講座42nd「舞台音響入門講座」8/25(参加者：2名)
- ・Technical Theatre Training Program 2020 舞台技術講座42nd「舞台照明入門講座」8/26(参加者：3名)
- ・Technical Theatre Training Program 2020 舞台技術講座42nd「舞台技術安全講座」8/27,8/28(参加者：1名)
- ・給与実務研修会(諸手当関係)9/8(参加者：1名)
- ・マイナンバー実務セミナー9/15(参加者：2名)
- ・令和2年度図書館等職員著作権実務講習会9/24,9/25(参加者：1名)
- ・令和2年度公文書管理研修I(独法等向け第2回)9/25(参加者：1名)
- ・第58回政府関係法人会計事務職員研修9/30-11/12(参加者：2名)
- ・非常勤職員雇用の人事実務研修会10/2(参加者：1名)
- ・職場のパワーハラスメント対策等に関する説明会10/8(参加者：1名)
- ・給与実務研修会(俸給関係及び給与の支給関係)10/15(参加者：1名)
- ・2020年度東京大学職員階層別研修(係長級(5年経験者))11/2-1/31(参加者：1名)
- ・足場の組立て等作業従事者特別教育11/16(参加者：5名)
- ・フルハーネス型墜落制止用器具特別教育11/17(参加者：8名)
- ・令和2年度知的財産権研修[初級]独立行政法人等向け11/25-11/26(参加者：1名)
- ・令和2年度文化庁委託事業「地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会(関東甲信越支部)」11/27(参加者：4名)
- ・防火・防災管理講習11/30-12/1(参加者：1名)

- ・令和2年度廃棄物管理士講習会 7/10(参加者：1名)
- ・令和2年度図書館等職員著作権実務講習会 9/24・25(参加者：1名)
- ・足場組み立て等業務・フルハーネス特別教育 12/8・9(参加者：2名)

### ③多様で柔軟な働き方を推進する制度導入の検討

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための特別措置として、在宅勤務の実施、時差出勤の奨励、平日が勤務日の職員を対象とした土日祝日への振替出勤の奨励、臨時休校の影響を受ける職員のための特例等を実施した。
- ・在宅勤務に関するアンケートを実施(7/27-8/6)
- ・役職員の出張・外出時及び在宅勤務時に利用する業務用電話回線番号の付与開始(10/1)
- ・業務の特殊性を十分考慮した多様な働き方の在り方について、引き続き検討を進めた。

## ウ 人材確保・育成方針の策定の検討

- ・以下の取組の向上を図るため、人材確保・育成方針の策定に着手した。
- ・職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成すること。
- ・各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理実施すること。
- ・国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図ること、多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討すること。

## (2) 人員に係る指標

- ・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(令和元年度ベース)。
- ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

## 4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

### (1) 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

#### ア 委託契約の状況

4月1日付けで、4月1日から3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について662,668,000円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、2月16日付けで679,753,000円に変更した。委託費の確定額は679,753,000円である。

#### イ 委託内容

- ①組踊等沖縄伝統芸能の公演
- ②組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③組踊等沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を組踊等沖縄伝統芸能の保存又は振興を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥前各号の業務に附帯する業務

#### ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託に係る規程の改正等を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

#### エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

## オ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

## カ 効率化状況等

### ①委託費の推移

(単位:千円)

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
金額	652,203	656,320	664,059	690,828	679,753
前年度比	109.0%	100.6%	101.2%	104.0%	98.4%

### ②自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

入場料収入については、公演回数や開演時間などを適切に設定し、計画に沿った収入の確保に努めている。また、劇場施設の利用について積極的な広報やサービス向上に努め、利用料の増収による収支構造の改善を図っている。

### ③効率化に関する取組

#### (a) 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

#### (b) 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー及び両面印刷を実施している。

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	1,858,830kwh	△ 13.8%
	ガス使用量	20,119 m <sup>3</sup>	△ 51.7%
	水道使用量	1,941 m <sup>3</sup>	△ 54.0%
廃棄物	一般廃棄物	1,230 kg	△ 77.7%
	産業廃棄物	300 kg	△ 76.6%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	542,090 枚	△ 14.7%
	用紙購入枚数	537,500 枚	16.8%

※新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止のため、電気・ガス・水道の使用、諸廃棄物の廃棄、コピー用紙の使用が大幅に減少したことによる前年度比減が見られる。

※廃棄物は、令和元年度に舞台大道具製作の廃材の増加や倉庫等の清掃による増加があったため大幅減が見られる。

#### (c) 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

## (2) 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

### ア 委託契約の状況

令和 2 年 3 月 27 日付けで令和 2 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について 4,002,026,000 円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、令和 3 年 3 月 3 日付けで 4,440,663,000 円に変更した。委託費の確定額は 4,440,663,000 円である。

### イ 委託内容

- ①現代舞台芸術の公演
- ②現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること

- ④劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥附帯する業務

## ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

## エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や、定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

## オ 給与水準の適正化等

- ・新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

## カ 情報開示の推進

- ・公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。  
定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

## キ 効率化状況等

### ① 委託費の推移

(単位:千円)

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
金額	3,996,273	4,228,851	4,107,897	4,061,155	4,440,663
前年度比	107.0%	105.8%	97.1%	98.9%	109.3%

### ②自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

公演事業にかかる支出は入場料収入、寄附金・協賛金収入等で賄っているところであり、それぞれ計画に沿った収入の確保に努めている。入場料収入については公演回数、曜日、開演時間などを適切に設定し、公演内容の充実と効果的な広報宣伝のもと増収を図っている。また賛助会員や協賛企業の獲得に努め、オンライン寄附など多角的な資金獲得に力を入れている。

### ③効率化に関する取組

#### (a) 随意契約の見直し及び外部委託の推進

令和 2 年度の外部委託契約 53 件のうち、委託業務 36 件(うち複数年契約 28 件)、物品の製造販売工事等 7 件の合計 43 件について一般競争入札等を行っている。このうち、業務の効率化を目的として日本芸術文化振興会と共同で入札を行った契約が 2 件ある。令和 2 年度に行った入札及び公募は 17 件(うち複数年契約 6 件)であり、このうち翌年度以降の契約のものが 15 件となっている。振興会との共同での入札は振興会が担当した 1 件が行われた。

#### (b) 省エネルギー、リサイクルの推進

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	5,537,210kwh	△ 10.9%

	ガス使用量	4,974 m <sup>3</sup>	△ 17.6%
	水道使用量	9,247 m <sup>3</sup>	△ 6.5%
廃棄物	一般廃棄物	18,093 kg	△ 38.5%
	再利用廃棄物	13,579 kg	△ 52.9%
	産業廃棄物	14,032 kg	△ 43.9%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	2,234,079 枚	△ 12.6%
	用紙購入枚数	1,938,500 枚	△ 23.2%

※すべての指標において、すべての公演が中止となった第一四半期に該当する4月～5月にかけて発出された緊急事態宣言期間における電気・ガス・水道の使用、諸廃棄物の廃棄、コピー用紙の使用が大幅に減少したことによる前年度比減が見られる。

※コピー用紙使用量は、複合機を導入したことにより、令和元年度からコピーした枚数に加え、プリントアウトした枚数を含めることとしている。

※地球温暖化対策においても、省エネルギー対策を実施し、光熱水量については、大きなウェイトを占める地域冷熱（冷水、蒸気）を含め、使用量の節減に努めている。

### (c) 情報システムの活用

- 導入済みのクラウドサービスの利用促進により、財団内部における同時編集、ファイル共有、意見収集等の効率化を図った。会議資料としても活用するなど利用が進み、業務の効率化・紙使用量の縮減にも繋がっている。
- 劇場外部でも出勤時と同様の業務ができるよう、持ち出しPCやWi-Fiルータを増やし、また、リモートデスクトップやネット会議システムの導入など、在宅勤務や遠隔会議に対応できる環境を整えた。
- 劇場関係者の体調管理や感染状況を迅速に把握するために、緊急時対応のメールツールの使用を、役職員だけでなく、出演者やスタッフに拡大した。



# 令和 2 事業年度評価報告書

第 18 期（令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで）

令和 3 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会



本報告書は、独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項第 1 条及び評議員会規則第 1 条第 2 項に基づき、令和 3 年 6 月 28 日に開催された第 56 回評議員会に報告され、審議の結果、適切であると認められ、承認されたものである。

独立行政法人日本芸術文化振興会



独立行政法人日本芸術文化振興会  
令和 2 事業年度評価報告書

令和 3 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会

## はじめに

本評価委員会は、独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則第 8 条の規定に基づき、振興会の業務の運営に関する評価を行うため設置されたものである。

このたび、理事長の諮問を受け、令和 2 事業年度の業務の実績に関して、厳正かつ客観的な評価を行った。

評価は、前年度に引き続き、振興会が実施した当該年度に係る自己点検評価報告書をもとに、まず各委員が評価意見書の提出を行い、次に振興会からの説明を聴取しながら、合議により最終的な評価を行った。

本評価委員会は、評価結果について、原則として年度計画に定められた項目ごとに取りまとめ、評価報告書として提出するものである。

評価においては、振興会の業務運営をより良いものとするための意見を付しており、次年度以降の各事業の充実及び発展に活用されることを期待する。

## 評価実施の経緯

第 1 回評価委員会	令和 2 年 10 月 13 日
第 2 回評価委員会	令和 3 年 5 月 12 日（書面開催）
第 3 回評価委員会	令和 3 年 6 月 11 日
第 4 回評価委員会	令和 3 年 6 月 21 日

# 令和 2 事業年度評価報告書 (日本芸術文化振興会評価委員会)

## I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成 するためにとるべき措置

### 1 文化芸術活動に対する援助

#### (1) 概観

○文化芸術活動に対する緊急支援の実施、文化芸術復興創造基金の創設、助成対象団体に対する概算払いの早期化、また、令和 2 年度助成対象活動を令和 3 年度へ延期実施のため繰越し支援を実現するなど、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の拡大の中で、柔軟かつ適切な対応策が講じられたことは評価できる。

○感染症の影響により、公演調査や会計調査について、実施数が減るのはやむを得ない。一方で、プログラムディレクター・プログラムオフィサーと芸術団体との意見交換会や応募相談会の実施に関しては、前中期目標期間中の実績平均に近い実施件数であり、評価できる。

○当年度から舞台芸術創造活動活性化事業において複数年計画支援及びステップアップ枠を開始したことに続き、令和 4 年度からの芸術文化振興基金の助成に係る新制度の検討と決定が行われたことは高く評価できる。

○助成金交付の応募書類の電子データ受付により、事務手続きが効率化でき、利用者の申込の利便性も高めることができている。

#### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○感染症の拡大防止の措置として、オンラインによる評価伝達・意見交換などが実現しているが、こうした取組を感染症の収束後も継続、拡大することで、事業の効率化の向上が望まれる。

○地域のアーツカウンシルとの連携プラットフォームが運用されるようになったことは評価できる。令和 2 年度は、オンラインによる意見交換を実施できた点も評価できる。ただし、アーツカウンシル・ネットワークの構築のための方策を具体化していくスピードも必要である。

#### (3) 自己点検評価に対する意見

○文化芸術活動の継続支援事業では、総額約 422 億 7 千万円、約 8 万件の交付を決定（うち、令和 2 年度には約 183 億 6 千万円、約 4 万 6 千件の額の確定を

実施) するなど A 評価に値する部分もある。感染症の影響を受けながらも、文化芸術活動を継続的に援助することができた。全体の評定としては B が適切と判断できる。

## 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

### 2-〈1〉 伝統芸能の公開

#### (1) 概観

##### 《全般》

○感染症の拡大防止のため、複数の公演が中止となったことは誠に残念であるが、それ以外の公演については、万全の感染症対策を行った上で概ね計画通り実施できたことを評価したい。

○中止になった公演も含めて一部の公演では、国内外に向けた動画配信により、減少した鑑賞機会を提供できた点は評価できる。

##### 《歌舞伎》

○芝居と所作事を組み合わせた二部制や、コンパクトな通し狂言形式など工夫を凝らす中で、歌舞伎界の最高水準を示す舞台が揃ったのは大きな成果である。閉塞感に見舞われた中で歌舞伎ファンが満足する公演を実現できたことは、万全の感染症防止対策とともに評価できる。

○11 月歌舞伎公演において、片岡仁左衛門が『彦山権現誓助剣』の毛谷村六助の演技で第 28 回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞したのは特筆できる。

##### 《文楽》

○感染症の拡大防止対策という諸制限がある中で、四部制や三部制などの上演体制、それにふさわしい作品の選択などを行って公演が実現できている。

○時代物、世話物、景事を組み合わせ、観客の鑑賞の助けになる場を設けるなど、ベテラン、中堅、若手が総力戦で取り組んだ。それによって、幅広い技芸員に活躍の場を提供することにもなり、若手の成長の機会となった。

○文楽劇場初春公演、国立劇場 2 月公演を、ともに鶴澤清治文化功労者顕彰記念とし、質の高い上演となったことも評価したい。

##### 《舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか》

○雅楽は公演時期の変更に加えて内容の充実が図られ、舞踊と邦楽は公演時間



やプログラムの変更を行うなど細やかな対応を行ったことが評価できる。また、特別企画の「詩歌を詠い、奏でる－今様・連歌－」は、中世歌謡の復元と連歌の現代曲を組み合わせるといふ国立劇場ならではの高い企画力が表れた公演といえる。

### 《大衆芸能》

○公演再開後に特別企画公演として「林家彦いちの寄席入門」「彦六ばなし」など年度計画外の公演をいくつも組み込んだのは、国立劇場の対応の早さが表れている。また「日本博寄席 2020」「圓朝に挑む」などは、国立劇場の企画力の高さが表れた公演と評価できる。

### 《能楽》

○感染症の影響下においても、充実した企画内容と効果的な観客勧誘により、開催したほぼ全ての公演において90%以上の高い入場率を達成したことは、非常に評価できる。定例、普及、企画公演、鑑賞教室など、実施数や内容からみても、バランスの良さを感じた。

○東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、初めて「手話狂言」を招聘した企画は注目された。

### 《組踊等沖縄伝統芸能》

○国立劇場おきなわの特色である「アジア・太平洋地域の芸能」は国内の芸能に限定して公演を実現し、沖縄芝居鑑賞教室は少ない稽古日数で上演できる作品を無観客上演で映像収録して動画配信を行うなど、公演に当たっての工夫や新たな公開の方法がとられており、制約がある中で沖縄伝統芸能の振興が図られたと評価できる。

### 《演目の拡充》

○歌舞伎では『平家女護島』の「清盛館」、文楽では『新版歌祭文』のおみつの母の件の復活、能楽での復曲能「名取ノ老女」の再演など、各分野で復活や新作の試みがきめ細くなされていたのは、国立劇場の役割が発揮されており、高く評価する。

○「花鳥風月によせて」「月・雪・花－四季折々のこころ－」「祈りのかたち」は、伝統芸能の複数分野を組み合わせた公演で、現代的な古典世界の創造に寄与する企画といえる。

○大河ドラマに連動した歌舞伎『時今也桔梗旗揚』などタイムリーな企画や、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に関連した「国立能楽堂ショーケース」など、幅広い世代の関心を引く様々な公演が実現したことを評価する。

#### 《青少年等を対象とした公演》

○歴史ある「歌舞伎鑑賞教室」が公演できなかつたことは、誠に残念だった。しかし、歌舞伎入門動画を制作し配信する取組には、普段鑑賞できない遠隔地の学校も利用できる効果があり、苦境の中の努力を評価したい。

#### 《伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

○日本学生支援機構との連携により、東京日本語教育センターの留学生向けに歌舞伎入門動画を団体販売できたが、引き続き留学生の観劇につながる動画配信サービスにも注目していきたい。

○2月特別公演「月・雪・花―四季折々のこころ―」においては、各国駐日大使館関係者及び在日海外メディアなどを招待し、国際色豊かな雰囲気での公演となった。

#### 《快適な観劇環境の形成》

○感染症の拡大防止のため、専門家による実地検分と意見聴取、出演者や関係者の PCR 検査の実施、劇場内での防止対策の実施、更にはこうした対策周知の恒常化、出演者や関係者の感染判明時の対応が適切に行われたことが特筆される。感染症の拡大防止対策の恒常的な提示は、劇場としての対応のモデルケースともいえ、国立の劇場としてふさわしい取組であると評価できる。

○他の劇場では禁止されている飲食の場を、食堂の開放などにより安全に提供できていることも、利用者の立場に立った対応で評価したい。

○感染症の拡大防止対策として、着席不可の座席に配置した和柄の紙による座席装飾のさりげない工夫が評価された。

#### 《広報・営業活動の充実》

○メールや SNS などによる公演情報の配信が適切な頻度で実現され、劇場との距離が遠のくことのないよう努力しており、このようなきめ細かな活動は高く評価できる。

○感染症の状況が落ち着かない中、劇場や公演への集客率を高めようとするこ

とは矛盾を抱えることかもしれない。しかし、安全・安心な観劇環境の広報は大切であり、芸能各分野の魅力を伝えておくことが感染症収束後の動員につながる。当年度の数字には反映されないが、こうした取組が着実に実施されている。

#### 《劇場施設の使用効率の向上等》

○感染症の拡大の影響によって劇場稼働率、貸劇場使用日数は減じている。しかし、防止対策が的確に講じられていることで利用促進が図られている。

#### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○当年度は、デジタルコンテンツの配信が大きく進展した。これは劇場での観劇などとは異なる伝統芸能との有力な接点となる。今後に向けてその利点、諸問題を整理し、取組を確立していく必要がある。制作を外部委託するにしても、振興会内部に制作・配信、管理にかかる担当部門を設置し、その運用を求めたい。

○感染症の影響下においても歌舞伎公演は舞台水準を維持し、底力の強さをみせた。しかし、団体客など入場者数の減少もあり、今後、メディアとの連携も含め、集客方法の検討が必要ではないか。

○あぜくら会、国立文楽劇場友の会、国立劇場おきなわ友の会では、感染症の影響により会員数が減少しているのので、何らかの対策を望みたい。

#### (3) 自己点検評価に対する意見

○感染症の拡大防止のため、多くの制約が課される中で継続的に技芸の伝承と観客への観劇サポートに取り組んだ。評定としてはBが適切と判断できる。

### 2-〈2〉 現代舞台芸術の公演

---

#### (1) 概観

##### 《全般》

○感染を防ぐ取組を最大限しつつ、質の高い舞台を積極的に提供した点は評価できる。

○中止になった公演も含めて一部の公演では、国内外に向けて動画配信することで減少した鑑賞機会を提供できた点は注目できる。

##### 《オペラ》

○海外招聘歌手や指揮者の出演が困難な中、実力のある日本人歌手が重要な役で活躍し、水準の高い舞台となっていた。特に、「夏の夜の夢」では、オペラ研

修所を修了した歌手が多数出演し、研修所の成果を示す機会となったことを評価したい。

○創作オペラ「アルマゲドンの夢」は、作曲した英国在住の日本人作曲家藤倉大が第33回ミュージックペンクラブ音楽賞を受賞するなど、強烈な印象を残す世界初演となった。

#### 《バレエ》

○無観客だった「ニューイヤー・バレエ」のライブ配信が15万回を超える視聴結果になったことは、通常公演の高評価とともに努力が報われた成果だった。

○吉田都芸術監督の下、新国立劇場バレエ団の高い芸術性を示すことができた。

○現代舞踊公演「NINJA」で評価された森山開次による初のバレエ作品「竜宮 りゅうぐう」を世界初演したことは注目できる。

#### 《現代舞踊》

○「Shakespeare THE SONNETS」「舞姫と牧神たちの午後2021」では、新国立劇場バレエ団のダンサーを中心に、技術力の高い上質な現代舞踊公演を行った。

#### 《演劇》

○平成21年に始まったシェイクスピア歴史劇8作の最終公演となった「リチャード二世」は演出、演技ともに優れた成果を上げたのは、時間をかけて俳優やスタッフが成長してきた証しである。同作が第28回読売演劇大賞最優秀作品賞を、演出家鶴山仁が第62回毎日芸術賞を、リチャード二世役の岡本健一が第71回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞するなど、高く評価された。

#### 《青少年等を対象とした公演》

○感染症の拡大防止のため中止となった「高校生のためのオペラ鑑賞教室」に来場予定だった学校に、過去の上演作品「魔笛」のダイジェスト映像と特別パンフレットを配布したことは、生徒たちの期待に応え、営業的にも評価できる。

○京都での「高校生のためのオペラ鑑賞教室」の共催公演や佐世保、富山での全国公演「こどものためのバレエ劇場」など、青少年向けの鑑賞機会を広げ、振興会の役割を果たしている。

#### 《現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

○アジア太平洋舞台芸術文化施設協会をはじめとする海外の劇場関係者との交

流は、感染症の影響のためオンラインとなったが、現代舞台芸術の公演をめぐる相互理解を深めることができた。

#### 《快適な観劇環境の形成》

○感染症拡大防止のガイドラインに従って、ロビーの社会的距離を保った椅子の配置、プラカードでのマスク着用・会話禁止表示など、安全な観劇環境の整備ができています。

○演劇分野では視覚・聴覚障害者向けの観劇サポートがなされ、具体的な対応についてのノウハウの蓄積が進んだと評価できる。

#### 《広報・営業活動の充実》

○新国立劇場ホームページへのアクセス数が 680 万件と前年度より 100 万件以上の増加となっていることは、ウェブサイトのリニューアルや多様な媒体への発信など複合的な工夫の結果であり、評価できる。

○SNS や YouTube など積極的に活用した広報・営業活動は、劇場と外出を控えていた観客との距離を縮めるだけでなく、新たな観客の取り込みにもつながるであろう。

#### 《劇場施設の使用効率の向上等》

○例年 4 月～5 月に行っている貸劇場の募集について、令和 3 年度分の募集を 8 月に延期したことは、事態が不透明な現状で親切な取組である。中劇場、小劇場の貸劇場使用日も 100 日前後と、利用しやすく有効な劇場活用につながっている。

### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○感染症の拡大防止のため、ロビーでは飲食が禁止されていた。しかし、長時間のオペラ公演のときには、劇場外の周辺施設の紹介など、観客の立場に立った対策を講じるのが望ましい。

### (3) 自己点検評価に対する意見

○感染症の拡大防止に万全の対策をとり、安全・安心な劇場運営を継続した。評定としては B が適切と判断できる。

## 2-〈3〉 日本博の運営・実施

---

### (1) 概観

○日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する日本博の総合テーマ及びコンセプトの下、感染症によりいくつかの中止はあったものの、主催・共催型プロジェクト、イノベーション型プロジェクトとして、100件を超える採択を行い、本事業を成立させるに足る十分な件数を確保した。

○戦略的プロモーションとして、テレビ放送との積極的連携、YouTube 日本博チャンネルでの多言語配信など、目的にそった多元的な事業展開が実現できていると評価できる。

○日本博皇居外苑特別公演「祈りのかたち」は、皇居二重橋を背景に特設会場を設けて伝統芸能を上演する大プロジェクトであった。皇居やその周辺での能狂言の上演は約 100 年ぶりで、メディアも大きく取り上げた。沖縄の伝統芸能も併せて上演されたことは意義深く、高く評価できる。

### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会後に、この事業の成果をどのように引き継ぐのかが喫緊の課題といえよう。そのためには年度ごとの事業展開に関する評価だけでなく、事業目的がどのように実現でき、今後何が期待できるのかの検証と提言が必要となる。

○多様なメディアを活用し、動画コンテンツを積極的に利用して情報発信に努めたが、更に国民への浸透を図る方策を検討してもらいたい。

### (3) 自己点検評価に対する意見

○感染症拡大防止のため多くの制約があったが、十二分に取り組み、順調に成果を上げている。特に公募制のイノベーション型プロジェクトは、各種団体や国内への波及効果が大きい。評定としては A が適切と判断できる。

## 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

---

### 3-〈1〉 伝統芸能の伝承者の養成

---

#### (1) 概観

○感染症の影響により、研修や開講式、発表会の中止・延期・規模縮小などの対応をとらざるを得ない厳しい状況が続いた。研修生、研修修了者の真摯な姿勢とそれを支える関係者の尽力により国立劇場公演の再開第一号として開かれた歌

舞伎の既成者研修発表会は、研修の成果を十分発揮ができ、高く評価する。

○伝承者養成事業 50 周年記念として『伝統芸能伝承者養成事業概要 令和 2 年度版』が刊行され、これまでの養成事業の成果がまとめられた。これによれば現在、就業している研修修了者は 307 名を数え、この事業が果たしてきた役割の大きいことが分かる。この冊子の刊行は、養成事業の意義と課題を明確にするものとして高く評価できる。

## **(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言**

○応募者数を増やす工夫に取り組んでいるが、若者の職業観や価値観の多様化にわかに増加することは期待できない。地道に様々な広報活動を続け、これからも多彩な志願者の掘り起こしを進めてほしい。

○近年の応募者減少傾向を改善するためには、募集広報の強化とともに、研修生に対する経済的支援の更なる充実が必要であろう。

## **(3) 自己点検評価に対する意見**

○感染症の影響を受けながらも、50 年にわたる伝承者養成事業の実績に基づき、研修が着実に継続されたことは評価できる。評定としては B が適切と判断できる。

## **3-(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修**

---

### **(1) 概観**

○評価の定まった多様な芸術家や関係者を広く講師に迎え、数多くの講座を行って養成することは、振興会ならでのことで、評価できる。また、その成果として研修生のコンクール受賞も相次いだ。

○オペラ、バレエ、演劇の 3 分野での研修生は、年度によって増減はあるが、ほぼ予定通りの受入れができています。実技・座学とも感染症の拡大防止対策が講じられ、研修は着実に進められていると評価できる。オペラではレパートリーレッスンが取り入れられ、研修の充実度の向上がみられる。

○公演再開後は、研修発表会なども概ね順調に実施され、オペラ・バレエ研修所合同公演「ヤングアーティスト オペラ&バレエ ガラ」が実施されたほか、各研修所とも、研修公演で見事な成果を示した。日本の演劇、音楽シーンで活躍できる人材を輩出した実績をもとに、対面授業やレッスン、海外研修なども中止となる悪条件の中、発表会を行えるまでモチベーションの維持につなげた。

## **(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言**

○オペラ・バレエ研修所はともに航空会社の支援を得て海外研修制度を設け、研修所の魅力にもなっており、優れた人材(研修生)確保には必須のことといえよう。今後の課題としては、こうした民間や新国立劇場運営財団のスカラシップの充実に向けた取組を期待したい。

○既に実施している伝統芸能との連携研修や、区分横断の研修をより充実させてほしい。

## **(3) 自己点検評価に対する意見**

○安定的な研修生の受入と体系的な研修カリキュラムの運用、更に新たなレパートリーレッスンなどの研修制度が創設されており、評定としては B が適切と判断できる。

## **4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用**

### **4-(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用**

#### **(1) 概観**

○地道な調査や研究と資料収集、刊行、展示公開など幅広い業務の中で専門性の高い内容を維持し、活用を実践してきた。振興会らしい役割を果たしている。

○刊行物の数々は、規模、内容、質ともに素晴らしい。振興会の持てる資産の集大成ともなり、次代に残すことのできる資料となっている。中でも、『琉球・沖縄芸能史年表』がこれで完結し、琉球・沖縄の芸能史が明らかになったこと、図録『見世物資料図録』は見世物研究の進展に、『勸進能』は能楽史研究の進展に寄与するものと評価できる。また、継続中の近代歌舞伎年表、演芸資料選書、未翻刻戯曲集、正本写合巻集なども着々と進行していることは、振興会の仕事として高く評価できる。

○プロマイド資料やデータベースが追加されて充実化が図られた文化デジタルライブラリーの114万件を超えるアクセス件数は特筆できる。

○歌舞伎上演資料集のウェブ公開や公演記録映像の動画配信など、インターネット社会に呼応した重要な役目を果たした。

○国立劇場おきなわでは首里城復興祈念の展示や公演記録鑑賞、琉球のからくり花火の復元実演も前年度に続いて行われ、詳細が不明であった琉球花火の具体的理解を進めた。



## **(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言**

○刊行物は各劇場で販売されているほか、インターネット利用の通販でも購入できるが、国内の国際空港内の書店には日本の伝統文化に関するコーナーを設けているところもあり、こうした場への配架、販売は海外に向け伝統芸能への関心を高める一助となるであろう。

○デジタルコンテンツの充実には手間も費用もかかるが継続的な拡充を図ってほしい。

## **(3) 自己点検評価に対する意見**

○伝統芸能に関する研究成果、諸資料を年間にこれだけ刊行、公開している機関は国内にはほかになく、その実績は極めて高く評価できる。刊行物は従来からのシリーズものに加え、学術的に高度な内容と高い企画力に基づいた図録などがあり、更に広範囲への発信・配信が可能なインターネット上での情報提供も有益なものが多く、評定としてはAが適切と判断できる。

## **4-(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用**

---

### **(1) 概観**

○「巣ごもりシアター」と題した、過去の公演記録映像の無料配信など、公演記録の積極的な活用が進んだと評価できる。公演写真のホームページ上での公開、東京スカイツリータウン東京ソラマチでの展示活用、公演記録映像の上映会、BS放送での放映など、多様な利用が実現できている。

○演劇芸術監督及び3名の委員による「演劇研究会」を定期的で開催し、その成果がギャラリー・プロジェクトの開催につながっていることも評価できる。

○オペラ「アルマゲドンの夢」の上演に際して多彩なゲストを招いて行ったオペラトークの記録は、今後の貴重な資料となる。

### **(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言**

○無料配信とともに、有料のコンテンツも増やして、劇場に出向けない層も取り込んでほしい。

○「演劇研究会」の開催とその成果の公演プログラム(10冊)への掲載に加え、更なる充実のためには研究者などによる組織的な研究体制の構築が必要となる。

### **(3) 自己点検評価に対する意見**

○感染症の拡大の中で、動画配信などインターネットを活用して、公演資料の公

開を図った点も踏まえて、評定としてはBが適切と判断できる。

## Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### (1) 概観

○国立劇場の再整備や日本博については体制強化が行われるなど、業務内容と組織体制・人員配置の整合性が的確に図られていると評価できる。

○情報システムの整備として、助成事業での電子申請システムの導入、電子決裁の開始、オンライン会議の拡充、情報セキュリティ対策が行われたことは、業務運営の効率化と危機管理対応が進んだ証しと評価できる。

○調達等合理化計画を策定・公表し、契約の公正性・透明性を確保しつつ合理化に取り組むことができた点も評価できる。また、他法人との共同調達の実施など、経費削減に努めた。

### (2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○振興会で管理・運営するウェブ上の情報プラットフォームは多岐にわたり、その情報量は膨大である。インターネットでのチケット販売も含め、これら電子システムとその運用、セキュリティ対策などを包括的に行うセクションの設置が必要になっていると思われる。

○再整備や日本博の事業については、ますます業務量が増大することが予想される。そのための体制見直しが進んでいるが、職員の負担が過剰にならないよう配慮されたい。

### (3) 自己点検評価に対する意見

○業務運営に関する組織体制・人員配置の適正化、情報システム整備の進展、経費の削減が図られるなど、業務運営の効率化が着実に進んでおり、評定としてはBが適切と判断できる。

## Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

### (1) 概観

○収入・支出ともに、感染症の影響により、公演の中止や規模の縮小が図られ、展示施設も休室にするなど、それに伴い施設や設備に要する費用が減少した。コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金などの外部資金を獲得するとともに、計画的な収支計画によって運営を図ることができた点を評価する。

○支援者・支持者を国民から広く募る国立劇場基金(くろごちゃんファンド)は、財源にもなり、公共性の高い振興会の活動を周知するものとして評価できる。

### **(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言**

○今後も外部資金の獲得の努力を行うことが望ましい。

### **(3) 自己点検評価に対する意見**

○文化芸術復興創造基金及び国立劇場基金の創設による3千6百万円の収入増、一般管理費の削減による8千4百万円の支出減などに取り組んでおり、A評価に値する部分もあるが、全体の収支は補助金により措置されている側面が大きいことを考慮すると、評定としてはBが適切と判断できる。

## **IV その他業務運営に関する重要事項**

### **(1) 概観**

○理事長のリーダーシップの下に内部統制の充実・強化を実施したほか、業務運営に係る外部専門家からの意見聴取(委員会など)の実施、監査業務などが組織的に的確に遂行されていると判断できる。また、感染症の拡大防止のため、職員の在宅勤務、時差出勤、振替出勤など勤務体制が柔軟かつ適正に再編されたことを評価したい。

○施設・設備に関して、「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」を策定したことや、「国立劇場の再整備に係る整備計画」の策定などが具体的に進んだことを評価する。

○職員が支障なく定着して働けるための措置としてメンター制度や、メンタルヘルスなど職員のケアの充実は、安定した運営のために必要であり、評価できる。職員の適切な人事交流と労務管理を図り、多様な働き方を推進している点も評価できる。

○情報漏えいに対応し、振興会ホームページへの不正アクセスに対する防御の強化など脆弱性への対応を講じた。

### **(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言**

○当年度は新型コロナウイルス感染症に見舞われた特別の年ではあったが、地球温暖化や環境破壊などを考える時、決して特別な年ではないかも知れず、危機管理を学ぶ一つの教訓としてポジティブに生かしてほしい。

○今後の業務運営として最大規模といえるのは国立劇場の再整備で、関係省庁

や諸機関、実演者・有識者などからの意見聴取と調整が進められるであろうが、国立の劇場としてふさわしい理念と姿を振興会として主張して頂きたい。

○芸能各分野で、専門性が高く、継続してそのスキルを伸ばすことができるように、安定的な採用、研修、人事配置と交流で研究者も含めた将来の人材育成を堅実に行ってほしい。また長引く感染症の影響などにより心のバランスを崩す職員も出てくると思われるので、充実したメンタルケアを期待したい。

### **(3) 自己点検評価に対する意見**

○通常業務を点検しながら的確な業務遂行に加え、懸案事項である再整備計画の進展、感染症の拡大防止対策などが着実に行われている。評定としてはBが適切と判断できる。

令和2年度独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会 委員名簿  
(任期：令和2年8月1日～令和3年6月30日)

委員長 葛西 聖 司 (古典芸能解説者)

委員長代理 小川 直 之 (國學院大學教授)

委員 大久保 充 代 (八尾市文化会館 (プリズムホール) 館長)

委員 上村 以和於 (演劇評論家)

委員 古谷 伸太郎 (公認会計士)

委員 山田 和 人 (同志社大学教授)

委員 山田 美也子 (文化ジャーナリスト・エッセイスト)

# 独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則

平成15年10月31日

改正 平成21年 3月27日

評議員会決定

## 第1章 審議事項

第1条 評議員会は独立行政法人日本芸術文化振興会法第12条の規定に基づき理事長の諮問に応じ、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する重要事項を審議する。

2 前項の審議事項には、振興会の業務の運営に関する評価を含むものとする。

## 第2章 議事

第2条 評議員会に議長を置き、評議員の互選で定める。

第3条 議長は、会議の議事を整理する。

第4条 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した評議員が議長の職務を代理する。

第5条 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第6条 評議員会の議事は、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第7条 評議員会に出席することのできない評議員は、書面をもって票決をなし、又は他の評議員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

## 第3章 評価委員会

第8条 第1条第2項に定める評価を行うため、評議員会に評価委員会を置く。

2 評価委員会の人数及び任期等は理事長が定める。

## 第4章 規則の改正

第9条 この規則を改正等しようとするときは、評議員会において評議員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第10条 評議員会の事務は、総務企画部総務課において処理する。

## 附 則

この規則は、平成15年10月31日から施行する。

附 則（平成21年3月27日評議員会決定）

この規則は、平成21年3月27日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

## 独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項

平成15年10月31日

改正 平成16年 4月 1日

改正 平成17年 3月16日

改正 平成20年 6月19日

改正 平成21年 4月 1日

独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定

第1条 評議員会に置かれる評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する評価を行い、その結果を評議員会に報告する。

第2条 評価委員会は、9人以内の評価委員（以下「委員」という。）で組織する。

第3条 委員は、振興会の業務の運営に関する評価に必要な学識経験を有する者のうちから、理事長が任命する。

第4条 委員の任期は、1年とし、7月1日に委嘱することを常例とする。ただし、欠員の補充による委員の任期は、現任者の残任期間とする。

2 委員は再任を妨げない。

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選で定める。

第6条 委員長は、会議の議事を整理する。

第7条 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が委員長の職務を代理する。

第8条 評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第9条 評価委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第10条 評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって票決をなし、又は他の委員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第11条 評価委員会の事務は、総務企画部計画課において処理する。

附 則

1 この要項は、平成15年10月31日から施行する。

2 この要項の施行後最初に任命された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成17年9月30日までとする。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成17年3月31日から施行する。

附 則

1 この要項は、平成20年7月1日から施行する。

2 この要項による改正後最初に再任される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年6月30日までとする。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

---

独立行政法人日本芸術文化振興会

## 令和2事業年度 業務実績報告書

令和3年6月28日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：総務企画部 計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号

TEL：03-3265-7411（代表） / FAX：03-3265-8782

<https://www.ntj.jac.go.jp/>